

## はじめに

本報告書は、平成24年度～25年度の2か年にわたり、公益財団法人日本教材文化研究財団の支援を得て研究した成果の一部をまとめて刊行したものである。

### 1. 研究の目的

平成20（2008）年改訂の新学習指導要領において、思考力・判断力・表現力等の活用する力の育成が重視されたのは周知の通りである。これを受けて、平成22（2010）年度から2年間にわたり、当財団の研究支援の下、中学校社会科を対象に「社会科の『活用する力』の育成と評価に関する研究」を行ってきた（日本教材文化研究財団調査研究シリーズ53『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』平成24年9月）。そこでは、まず「活用する力」を思考力・判断力・表現力や資料活用技能からなる方法知と、汎用性・転移性のある概念的知識や一般的評価的知識（＝価値）からなる内容知の二側面で定義し、次いでそれぞれの育成と評価に関する理論モデルを構築した。その上で、地理的分野、歴史的分野、公民的分野のそれぞれにおいて理論モデルに基づく授業を開発するとともに、実践分析を通して理論モデルの妥当性を検討した。

しかし、時間的制約もあって研究の重点は育成モデルの方に置かれることになり、評価モデルの有効性について事例をもとに検証するまでには至らなかった。そこで、平成24（2012）年度から再び中学校社会科を対象に、「思考・判断・表現」の評価に関する研究に着手することにした。これまでの研究成果を踏まえつつ、できるだけ早期に社会科における「思考・判断・表現」の評価モデルを吟味・検討し、地理、歴史、公民の各分野での実践分析（評価モデルに基づく評価の実践と分析）を通して、2年間で評価モデルの有効性を検証する計画である。本研究を通して、思考・判断・表現の能力が実質的に評価可能な社会科の学力であることを明らかにしたい。それが本研究の主たる目的である。

### 2. 研究の方法

研究員各自が分担した領域毎に研究を進め、2か月に1回の会合において成果や課題を報告する。そして、相互の議論を通して研究の方法や方向性を修正しながら、課題解決に向けて研究を深めるというやり方で研究を遂行した。

- （1）平成22～23年度の研究会で提起された社会科における「活用する力の評価モデル」を再検討し、「思考・判断・表現」の評価モデルとしての現実的妥当性を吟味する。
- （2）並行して地理・歴史・公民各分野での「思考・判断・表現」の評価事例を収集して分析し、結果によっては評価モデルの修正と再構築を図る。
- （3）上記（1）（2）を踏まえ、三分野それぞれにおいて評価モデルに基づく「思考・判断・表現」の評価方法を複数開発して実践し、その結果を記録する。
- （4）上記（3）の記録を分析し、評価モデルと評価方法の有効性を検証する。
- （5）思考・判断・表現の評価に関する総論と、地理・歴史・公民三分野での実践・検証を踏まえた評価方法の各論に分けて、研究成果を報告書にまとめる。

### 3. 研究計画

<1年次>

- ①「思考・判断・表現」の評価モデルを検討し、認識の共有化を図るとともに、研究の全体像及び見通しについて議論する。
- ②地理・歴史・公民三分野の「思考・判断・表現」の評価事例を収集、分析するとともに、オブザーバーにも協力を求めて各分野の評価方法を開発し、実践にとりかかる。

<2年次>

- ③評価実践の記録を分析し、「思考・判断」「表現」毎に、到達目標との関連から評価の内容と方法を検証する。
- ④分野毎の評価実践の検証を踏まえ、評価モデルの有効性を検証する。
- ⑤報告書の内容構成を確定し、各自の分担毎に研究成果をまとめる。

### 4. 研究の組織

関西圏の教育系大学の教員4名と、神戸市およびその近辺に居住する中学校教員4名の計8名で、下記のような研究組織を編成した。ただし、木村教諭は校務の関係で初年度のみ参加となった。

氏名	所属	分担
原田 智仁	兵庫教育大学 教授	総括（研究会の運営） 歴史的分野の指導
峯 明秀	大阪教育大学 教授	外国の学力評価理論の分析 公民的分野の指導
中本 和彦	四天王寺大学教育学部 准教授	思考・判断・表現の評価理論の検討 地理的分野の指導
井上 奈穂	鳴門教育大学 准教授	国内の学力評価理論の分析 書記（研究会の記録）
石川 照子	神戸大学附属中等教育学校 主幹教諭	歴史的分野の評価の開発・実践
稲谷 徹	神戸市立本多聞中学校 教諭	地理的分野の評価の開発・実践
井上 昌善	神戸市立星陵台中学校 教諭	公民的分野の評価の開発・実践
木村 公則	津市立打出中学校 教諭	公民的分野の評価の開発・実践 （*校務都合により24年度のみ参加）

\*所属は、平成25年度のものを記載

## 5. 研究の成果と課題

予定通り、ほぼ2か月に1度のペースで会合を開催し(神戸三ノ宮)、持ち寄った研究情報や実践報告について議論することで、課題への認識を深めることができた。そこで、ここに2年間の研究成果をまとめ、公表することにした。

報告書は大きく3部構成になっている。第I部では、社会科の「思考・判断・表現」の評価に関する理論を考察している。大学に勤務する4名が、それぞれ「思考・判断・表現」の評価の基本原則(第1章)、評価理論の類型(第2章)、指導と評価の一体化(第3章)、総合的評価から見た学習評価の指導方略(第4章)について論じた。続く第II部では、中学校に勤務する3名が「思考・判断・表現」の評価に関する実践的考察を、それぞれ得意とする分野を中心にまとめている(1章:地理的分野、2章:歴史的分野、3章:公民的分野)。さらに、第III部では大学に勤務する者が、「思考・判断・表現」の評価問題の開発と論理を、それぞれの問題関心から(1章:高校入試問題、2章:学習評価方略との関連、3章:評価問題解決のための直接的指導、4章:米英の歴史的思考の評価問題)、具体的事例を挙げて論述している。

ただし、時間不足等の問題もあって、必ずしも体系的に論じるまでには至っていない。あくまでケーススタディにとらえていただければ幸いである。また、研究組織の起ち上げの段階では想定しなかった人事異動等も影響し、4名の中学校教員の内1名は第2年次の研究会参加を断念せざるをえなかったのは残念である。しかし、いずれの実践者も優れた教育研究能力と経験を有しており、本研究を通して開発・実践された「思考・判断・表現」の授業と評価問題は、各分野のモデルたり得るものと自負している。果たして、われわれの意図したとおりの提案内容になっているかどうか、皆様のご批判・ご叱正をお願いする次第である。

最後になったが、本研究をご支援いただいた公益財団法人日本教材文化研究財団に対し、心より感謝申し上げたい。特に、財団の専務理事新免利也氏と事務局長の菅原康夫氏には、研究会の運営に関して大変お世話になるとともに、研究面でも貴重なご助言をいただいた。ここに記して、お礼を申し上げたい。

平成26年3月

社会科評価研究会  
代表 原田智仁

# 目 次

## はじめに

### 第Ⅰ部 社会科の「思考・判断・表現」の評価に関する理論的考察

第1章 「思考・判断・表現」の評価の基本原則……………	6
第2章 「思考・判断・表現」の評価理論の類型……………	11
第3章 「指導と評価の一体化」と「思考・判断・表現」の評価 —単元「オーストラリア」の評価問題試案を事例として—……………	21
第4章 総括的評価から見た学習評価の指導方略 —高等学校日本史Aの実践を事例として—……………	35

### 第Ⅱ部 中学校社会科における「思考・判断・表現」の評価に関する実践的考察

第1章 地理的分野における「思考・判断・表現」の実践・評価と改善 —単元「日本の諸地域・九州地方」を事例として—……………	56
第2章 歴史的分野における「思考・判断・表現」の実践・評価と改善 —単元「日清・日露戦争と東アジアの動き」を事例として—……………	79
第3章 公民的分野における「思考・判断・表現」の実践・評価と改善 —小単元「ルミナリエ存続問題について考えよう」を事例として—……………	101

### 第Ⅲ部 社会科における「思考・判断・表現」の評価問題の開発と論理

第1章 高校入試問題に見る「思考・判断・表現」の評価の論理 —評価問題が授業改善に示唆するもの—……………	128
第2章 学習評価方略とテスト問題作成の論理 —社会問題を対象とした小論文を事例に—……………	147
第3章 評価問題の解法のための直接的指導……………	162
第4章 米英における歴史的思考の評価の論理と方法……………	174

## 第 I 部 社会科の「思考・判断・表現」の評価に関する理論的考察

## 第1章 「思考・判断・表現」の評価の基本原則

### 1. 「思考・判断・表現」の意味と相互の関係

「思考・判断・表現」の評価の基本原則を考察するに先立って、まずはそれぞれの概念を簡潔に定義し、類型化するとともに、相互の関係を整理しておきたい。「思考・判断・表現」はいずれも日常言語であり、しかも教育界では多用されるだけに、一定の共通理解を踏まえた上で議論することが必要だと考えるからである。

思考や判断は人間の頭の中の働きであり、いずれも広義の思考ととらえてよい。ただし、思考・判断と併記する場合の「思考」は狭義の思考であり、人間が何かについて考えている状態、ないしその過程を指す。考えるという行為はほんやりとした物思いとは異なり、一定の「問い」を追究する状態を意味することから、狭義の思考においては問いが決定的に重要な役割を果たす。また、「判断」は思考の結果として自らの考えを定めることであり、一定の結論に至った状態を指すといつてよい。これに対し、「表現」は身体的活動であり、思考し、判断したことを、身振りや言語（口頭・文章・図表等）を用いて外に向けて表すことである。つまり、他者に説明する状態を意味している。

次に、思考は大きく①事実的思考、②理論的思考、③価値的思考の三つに類型化することができる<sup>1)</sup>。そして、これらの三つの思考は、それぞれ固有の判断と関連してくる。まず、事実的思考とは社会的事象や人間の行為に対して「どうなっているかHow?」と問う思考であり、それへの回答として様々な事実に記述して判断する「事実判断」を導く。また、理論的思考とは社会的事象や人間の行為に対して「なぜかWhy?」と問う思考であり、それへの回答として諸事象を相互に関連づけて説明する「推論（推理）」という判断を導く。さらに、価値的思考とは社会事象や人間の行為に対して「どう評価すべきか、どれを選択すべきかWhich?」と問う思考であり、それへの回答として「～は良い（悪い）」、「～すべき（すべきでない）」といった価値判断や実践的判断（意思決定）を生み出す。以上を図にまとめてみよう。

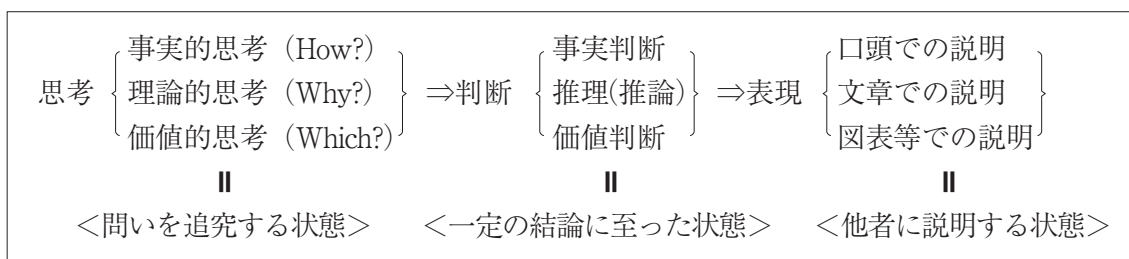


図1 思考・判断・表現の定義と類型

また、それゆえ三者の関係は基本的に「思考→判断→表現（→思考）」という時間の流れでとらえることができる。これを図示すると以下のようなようになろう。

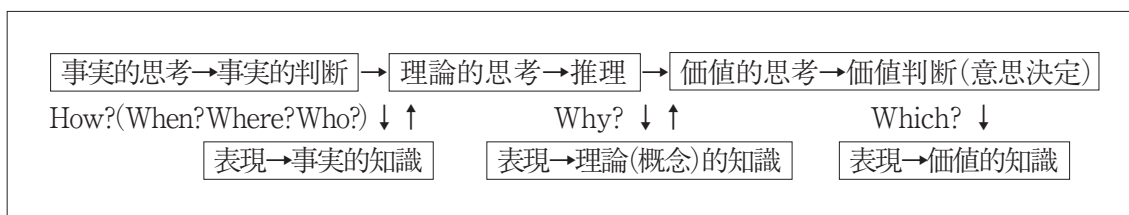


図2 思考・判断・表現の順序性

## 2. 「思考・判断・表現」の評価に関する基本的考え方

思考・判断・表現の評価について考える上で、以下の5点を確認しておきたい。

第一に、前項で指摘したとおり、「思考・判断」は人間の頭の中の働きであり、誰しも他人の頭の中を覗き見ることはできないとすれば、何らかの方法（身振り・口頭・文章・図表等）で「表現」させてみなければ評価はできない。

第二に、それゆえ評価の直接的な対象は何らかの「表現」であるが、表現を通して評価しているのは、実は「思考・判断」に他ならない。なぜなら思考の結果が判断であり、判断の結果が表現となる以上、思考・判断を欠く表現は基本的にあり得ないからである。

第三に、口頭の説明であれ文章による表現であれ、言語表現の巧拙や論理性のみに着目した評価は社会科の学力評価ではなく、国語の学力（言語力）評価になる。むしろ、社会科に限らず日本語でなされる教育において習得される学力は、日本語に強く規定されるのはいうまでもないが、例えば指導（授業）内容を活用して表現しているか、指定した語句（概念）を用いて表現しているか、データや資料を活用して根拠のある表現をしているか、といった観点から対象となる表現を分析・評価することが求められる。

第四に、社会科における「思考・判断」の結果としての「表現」の評価とは、つまるところ「知識・理解」の評価となる。つまり、前頁の図2に示したように、事実的思考・判断の結果として表現されるのは「事実的知識」であり、理論的思考・判断の結果として表現されるのは「理論（概念）的知識」となる。そして、価値的思考・判断の結果として表現されるのは「価値（規範・評価）的知識」となるのである。それゆえ、例えば理論的思考を問う「なぜ型」の問いに対する回答が、事実的知識の記述に留まっていたとすれば、いかに適切な事実を踏まえた表現であったとしても、それを正当に評価することはできないのである。

第五に、社会において活用性・汎用性・実践性に富む知識は、理論的知識と価値的知識である。それゆえ、社会科においてはこの二つの評価が最も重要になる。むしろ、事実的知識を欠いては的確な推論や価値判断はできないが、それらはあくまで推論や価値判断の手段であり、事実的知識自体に意味を求めべきではない。また、価値的知識も合理的根拠に裏付けられたものでないと、単なる先入見や偏見と変わらない。その意味で、理論的知識を中核にしつつ、理論的知識の習得の手段として事実的知識を、またその活用として価値的知識を位置づけることが社会科の指導と評価においては何より重要であろう。

以上の5点を簡潔に命題化しておこう。

- ①思考・判断は表現させてみなければ評価できない。
- ②評価の直接的対象は表現であるが、それは実質的に思考・判断の評価となる。
- ③言語表現の形式のみに着目した評価は、社会科ではなく国語の学力評価となる。
- ④思考・判断・表現の評価は、結局、思考・判断の結果としての知識の評価となる。
- ⑤活用力のある知識は理論的知識であり、その評価が社会科では最重要課題となる。  
(事実的知識は理論的知識習得の手段であり、価値的知識に合理的根拠を与えるのが理論的知識だからである。)

### 3. 評価（テスト）問題開発の原則

これまでに示した考え方を前提にして、以下、「思考・判断・表現」の評価問題開発に関する四つの基本原則を述べたい。なお、授業の評価については多様な方法があることは承知しているが、ここでは敢えてテスト問題に焦点化して開発の原則を明らかにする。

#### （1）問題構成の原則

○大問の構成は、単元（授業）構成と同一の論理とする。

授業もテスト問題、問いを探究する思考・判断活動であるという点で変わりはないからである。具体的な相関関係を示せば、以下のようになる。

<単元（授業）構成>	<テスト問題構成>
1 資料（データ）提示→事実的思考・判断	1 事実的知識を問う問題→正解は一つ
2 複数の事実中に問題発見→理論的思考・推理	2 理論的知識を問う問題→正解は仮説 (合理的根拠に基づく説明)
3 対立する価値・政策の提示→価値的思考・判断	3 価値的知識を問う問題→正解はなし (自らの価値を自覚した意思決定)

#### （2）事実的知識に関する評価の原則

①事実的知識を、記憶の成果として問うのではなく、資料読解（史料解釈）の成果として問う。

たとえ結果的に記憶によって答えることになったとしても、問題構成としては何らかの資料（史料）を提示して読解（解釈）を問うようにしたい。

②事実的知識を単発で問うのではなく、理論的知識・価値的知識を問う前提として位置づける。

社会を理論的に考えるツール（道具＝手段）として事実的知識が重要なことを生徒に伝えたい。つまり、テストには単に学習内容の理解度（＝学力）を測るという側面だけではなく、テスト問題の内容や方法を通して、一定の学力や評価に関する見方を伝えるという隠れた側面もあるのである。これも一種のヒドゥン・カリキュラムと言ってよいかもしれない。

#### （3）理論的知識に関する評価の原則

①理論の内容（定義・説明）を示してターム（用語＝概念）を答えさせるのではなく、タームを示して理論の内容（定義・説明）を問う。

タームそのものを解答とするようなテストをしている限り、たとえ記述式であったとしても、一問一答式の用語暗記主義から脱却するのは難しいからである。

②自由記述の解答を求める前に、一定の形式に則した解答を促す段階が必要である。

一般的に、知識・理解については用語穴埋め的な選択式テストで問えるけれども、思考力や判断力は記述式テストでないと問えないと考えられているが、必ずしもそうではない。筆者は、すでに米国のSAT IIの歴史テストを事例にして、多肢選択式の問題でも思考力を問う方法があることを論じたが（調査研究シリーズ44『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』日本教材文化研究財団、2008年）、理論的知識の評価についても同様である。ここでは二つの方法を例示してみよう。



<例1>

問 ……したのはなぜか。下記の説明の( )に適切な文を答えなさい。

答 「( )ので、……した。」

<例2>

問 下記の左右両群の文をつないで、歴史の説明文を完成させなさい。

<原因・目的>

<結 果>

人口増加と自然災害等により口分田が不足した・ 聖武天皇は仏教の力に頼ろうと寺院を建てた  
全国で病が流行し飢饉が続いた ・ 蘇我氏と聖徳太子は遣隋使を中国に派遣した  
中国の進んだ政治制度や文化の導入を図った ・ 豪族は百済と交わるヤマト王権と結びついた  
豪族は容易に鉄を入手することができなかった ・ 墾田永年私財法で新開墾地の私有を認めた

③問いと理論的知識の双方を示し、理論の妥当性の根拠となる資料(データ)を確定させる。

理論的知識は仮説に過ぎず、合理的な根拠があつてこそ説得力をもつことを生徒に伝えることが重要である。

④理論の理解力を問う場合は、授業とは異なる事例を出題して説明させる。

一例として、歴史の授業で、東アジアの冊封＝朝貢体制について奴国の金印を通して学習したと仮定しよう。その後のテストで、奴国の金印を事例にその意味を問い、期待する解答が得られたとしても、それは冊封＝朝貢体制の理論(説明的知識)を正確に理解したからだとも言えるし、ノートの説明的文章を正確に暗記し再生したからだとも受け取れるのである。

したがって、理論が一定の時と所を超えた普遍的説明力をもつことの認識を問おうとする場合、授業で扱った事例や資料とは別の事例や資料を提示して問わなければ、単なる暗記力の評価に留まるかもしれないということである。つまり、事実に知識は習得型学力であるのに対し、理論的知識は活用型学力であることの認識が必要なのである。なお、この二つの学力については、『児童・生徒の習得・活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』(調査研究シリーズ50, 日本教材文化研究財団, 2010年)で詳細に論じている。参照されたい。

(4) 価値的知識に関する評価の原則

①価値的知識は当該問題・政策に関する事実に知識、理論的知識を踏まえた上で問う。

社会科で価値的知識を常に問う必要はないが、社会科のねらいが主体的判断のできる市民の育成を目指す以上、自らの考え(意見・価値)をもつことの重要性に気づかせたい。

②価値的知識を問う問題で大切なのは、価値の内容ではなく価値判断の根拠である。

<例>

問 綱吉の生類憐れみの令は悪法だったか否か。また、そう考える理由を示しなさい。

答 生類憐れみの令は、 a 悪法だった b 悪法とはいえない

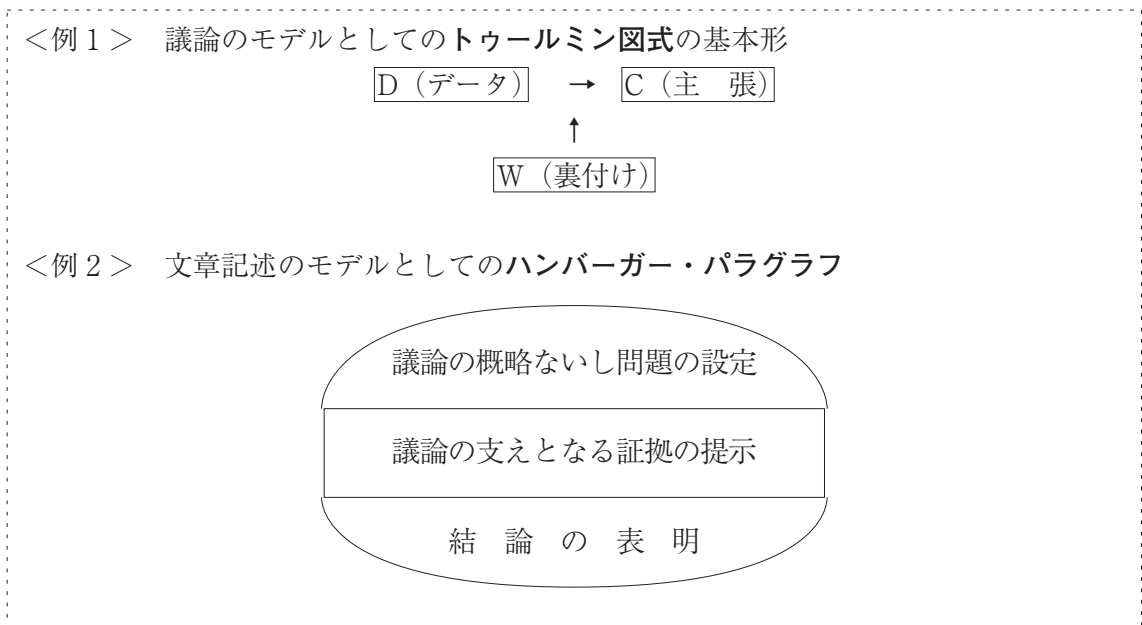
<理由> ( )

言わずもがなであろうが、歴史上の人物の行為（政策）に限らず、人間の行為は価値判断の結果であり、その評価もまた価値判断に他ならない。民主社会ではあらゆる価値判断は基本的に個人に委ねられるべきであり、とりわけ社会科教育においては開かれた価値判断を保障することが必要になる。上記の事例は歴史上の人物の政策であり、それを現在の生徒の価値で評価してもどうにもならないが、ここで敢えてそれを問うのは価値の内容を問題にするからではない。あくまで、その根拠（理由）を問うことで、歴史事象の理解の程度を測るとともに、社会的な価値判断や評価には合理的根拠が必要なことを生徒に伝えるためである。歴史学習を社会科という教科の中で行う意義もそこにある。

③実践的判断を問う場合は、解答形式を定めると論理的に記述しやすい。

社会科ではどんな社会事象を扱う場合にも価値が絡むことは前述したが、生徒がまだ一人前でないという理由だけで実践的判断を求めない理由にはならない。なぜなら、彼ら／彼女らもまた社会・国家の構成員であり、近い将来に社会・国家を担っていかなければならない存在である。したがって、単なる思考・判断の訓練としてのみならず、社会の一員としての責任ある実践的判断を求める必要がある。ただし、その評価においては、上記②の場合と同じく判断内容を評価するのではなく、その根拠や理由を評価せねばならない。ここでは、そのための枠組みを二つ例示しておきたい。

トゥールミン図式は、英国の分析哲学者トゥールミン（Stephen Toulmin）によって提起された議論のモデルであり（足立幸男『議論の論理－民主主義と議論』木鐸社、1984年に詳しい）、ハンバーガー・パラグラフは欧米諸国で広く用いられている文章の論理的記述のためのモデルである。別名エビデンス・ハンバーガーとも称されるように、何らかの証拠に基づいて論述することの重要性を学ばせるのに絶好の枠組みである。



註

- 1) 拙稿「思考力・判断力形成の論理」（『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』日本教材文化研究財団調査研究シリーズ44, 2008年）を参照。

（原田 智仁）

## 第2章 「思考・判断・表現」の評価理論の類型

### 1. 学習指導要領，児童生徒指導要録に反映される学力観

現在，昭和22年に学習指導要領が示されて以来，7回目の全面改訂となる平成20・21（2008・2009）年版の学習指導要領が実施されている。前回（平成10～13年）改訂において掲げられた「生きる力」の育成が引き継がれ，学力に関しては平成15（2003）年の一部改正により示された「確かな学力」が重視されている。それは，1 基礎的，基本的な知識や技能の習得，2 知識や技能を活用しての問題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成，3 学習意欲の向上を図るための言語活動の充実である。この国の教育課程の基準として目標や内容を示す学習指導要領に対し，評価については平成22（2010）年に児童生徒の学習評価及び指導要録の改善（以下，指導要録と記す）が通知されている。

本稿では，研究会において焦点を当ててきた「思考・判断・表現」の評価について，学習指導要領の変遷と特質から検討したい。そのうち，観点別学習状況が登場した昭和52（1977）年版とその評価に関する昭和55（1980）年の指導要録，「新しい学力観」が喧伝された平成元（1989）年版と平成3（1991）年指導要録を中心に上げたい。

#### （1）観点別学習状況に反映されるブルーム目標分類表

観点別学習状況の評価は，昭和55（1980）年版指導要録において，所見の記録を指導に生かす目的から「学習指導要領に示す目標の達成状況を観点ごとに評価すること」として示された。先立つ昭和52（1977）年版学習指導要領は，ゆとり教育のはじまりとされる一方，基礎的・基本的内容の重視，内容の精選が掲げられた。これに応じて，指導要録はこの時期に注目されつつあったブルームの目標分類表（タクソノミー）を反映する。それは，各教科の目標を達成目標（到達目標）として捉え，評価の観点を示すものとなっている。また，学び方・考え方が形成的な学力として取り上げられる。これにより理解・態度・能力の領域において，具体的な行動内容が目標として示された。そして，社会科においては，人間形成における理念や目標の違いによる学力論争が続く中，中野重人氏によって学力と観点によるモデルが表される（図1）。

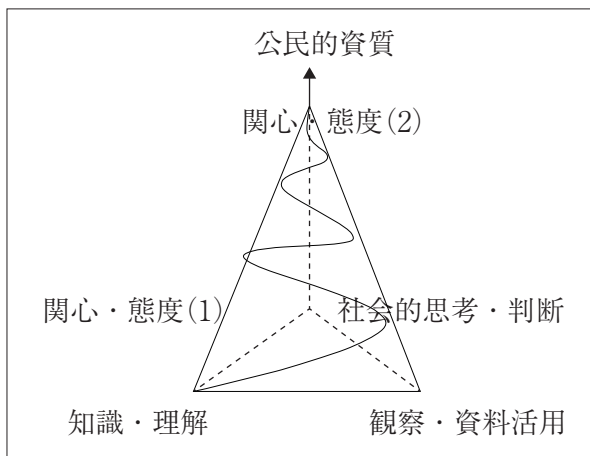


図1 中野重人氏の学力モデル

中野重人『社会科評価の理論と方法』明治図書，1985，p.58

中野氏は，「関心・態度」「知識・理解」「観察・資料活用」「社会的思考・判断」の4観点を構造化するモデルで社会科学力の構成を示した点に特色がある。

同時期，伊東亮三氏も目標分類表に依拠し，社会科の各観点の目標達成を思考過程に沿った授業過程にすることから授業を設計することを著している。

中野，伊東氏らの研究における学力形成と授業構成，評価を繋げる視点は，学力論を指導と評価を一体化する授業の具体次元で考えるべき方向性を示したものと言えよう。しかし，理論から導かれる実践は，関心・意欲や知識・理解や観察・資料活用，社会的思考・

判断などのそれぞれの観点がどのように関連し総合できるのか、また各観点と授業展開における各能力の達成段階、水準を説明することができない問題を残している。

## (2) 新しい学力観における「思考力・判断力・表現力」と他の観点との関係

平成元（1989）年に出された学習指導要領では、知識や技能を中心にしてきた旧来の学力観から「自ら学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力などを学力の基本とする」いわゆる新学力観が登場する。新学力観について、1993年『社会科教育研究』69号において特集が生まれ、臼井嘉一、宮本光雄、村井淳志、米地文夫氏らが言及している。また、続く70号では谷川彰英氏が、歴史的背景を中心に「観点」について検討している。各論者によって、学力や評価の「観」とされる理念や目標の捉え方は様々であり、知識と思考力の関係についても論点を異にする。しかし、いずれにしてもあるべき社会科観から学力について独自に規定し、授業や学習者の姿を論じているため、各々の理念や目標とする社会科がどのような評価要素によって、実際に行われる授業・学習の事実を見るのかは不明である。改善の方向性は示し得ても、何をどのように変えるのかについて、具体については今後の課題とされている。この点では、『社会科研究』47号における森分孝治氏の「社会科における思考力育成の基本原則」が示唆に富む。氏は、思考力育成において、内容（知識・理解）と形式（思考技能）は一体となったものであり、両者を切り離して捉えられないことを指摘する。そして、「①特定の事象の理解・説明をめざす事実的思考と、②特定の事象を手段として一般的理論を発見し、それをを用いて他の事象をも理解し説明していく理論的思考」とに分ける。その上で、思考力を「事実的思考・理論的思考を、より広く、より深く、より正確に、すなわち多面的に、より体系的に、より事実に一致する仕方で行っていく力」と定義する。この観点からすれば、指導要録に示される4観点における「思考・判断」は、どのような内容を獲得し、理解することによって、社会的事象について考え判断するのかを内容を指し示し説明する必要がある。国立教育政策研究所から平成14（2002）年に出された「評価規準・評価方法の工夫改善のための参考資料」（以下、「参考資料」）もまた単元内容や事例による具体が示されてはいるが、「多面的・多角的な考察」「公正な判断」の文言にとどまっており、社会的事象に関する原因・結果、影響、条件、目的や理由、本質等のどのようなことをどのレベルで思考し判断するのかが不明となっている。平成10～13（1999～2001）年、平成20～21（2008～2009）年に学習指導要領改訂及び指導要録が示され、確かな学力における「習得・活用・探究」が提起されるが、依然、知識・理解内容と切り離された知的技能としての「思考力・判断力・表現力」が教科横断的に周知されている。社会科における目標と指導と評価を繋ぐ評価のあり方、評価方法・手段、授業の改善に結びつく評価研究がなお緊迫の課題になっている。

## 2. 人間形成の一般的な「思考力・判断力・表現力」と社会科固有の能力の区別

前述の学習指導要領、指導要録に反映される学力観は、「関心・意欲を高める」「思考力を育成する」「資料活用力を身に付けさせる」といった人間形成の全般に関わる能力を分化させた授業や評価のあり方を模索するものとなる。事実、学校現場で掲げられる教科横断的な研究主題は「思考力・判断力を高める授業の創造」「自己表現力を育てる学習」が多い。しかし、人間形成において各教科で培われる個々の能力は、どのように総合されるのか、例えば思考力・判断力と、表現力や関心・意欲・態度はどのように総合されるのか

という問いが出される。そして、数学や科学における論理的思考力と、社会科の論理的思考は同じか違うのかなど、さらに、社会科に求める思考力としての論理的思考力、創造的思考力、批判的思考力、拡散的思考力など、〇〇的思考力の育成が際限のないものとなっていないだろうか。すなわち、人間形成の一般的な「思考力・判断力・表現力」と、社会科にこそ求める能力を区別することが必要であろう。

では、社会科に委ねられる思考力や判断力の育成はどのような方法論（内容・方法）によって実現できるのか。そして、目標と指導と評価をどのように繋げばよいのであろうか。それは、社会科の目的・目標とする最大公約数としての「社会認識形成と市民的資質育成」の観点に位置付けることにほかならない。すなわち、社会認識や市民的資質の「形成・育成過程」と「思考・判断過程」を明らかにすることである。そこで次の4つの研究アプローチに代表させて、これまで本研究会で追究してきた「思考・判断・表現」の評価研究を位置付けたい。

### 3. 社会科で求める評価方法の具体化

#### (1) 観点別評価要素からの評価方法の具体化

##### －澁澤文隆、北俊夫らの評価問題の集成による仮説生成アプローチ－

文部科学省による指導要録に代表される観点別評価は、人間形成における総体としての学力を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の要素に還元する。これを受け、学校現場では観点を意図した授業や評価を行っている。しかし、実際には思考・判断・表現をどのように評価すればよいか、技能をどのように見取るのかなどの問題に直面している。事実、各観点を見取る問題作成の論理や評価方法・手段の具体的方法論はいまだ確立していない。

文部科学省教科調査官を長らく務めた北俊夫氏は、思考力と知識に焦点をあてた評価問題づくりや問題を集成してきている<sup>1)</sup>。本研究でも「知識の応用力」「問題解決力」「分類・整理能力」「比較・関連能力」「演繹と帰納」など11分類からの問題作成を取り上げ、検討を加えた。そして、北氏による思考力と知識を見取るテスト問題の事例集成は現場教師にとって、作問の仕方や問題の解法に合わせた授業づくりが具体的にイメージしやすいものになっているものの、なぜどのような評価方法論からそれが導かれるのかが不明な点を課題として指摘した。

#### (2) 社会科固有の学力形成からの原理的な評価方法の具体化

##### ア. 棚橋健治「社会科学習評価システム開発の総合的研究」における仮説検証アプローチ

アメリカ社会科学習評価の歴史的分析から社会科学力論に応じた学習評価の実態とその特質・課題を明らかにした棚橋氏の研究は、社会認識と市民的資質の形成における社会科固有の学力・評価研究の在り方を体系的に示した先駆的研究である<sup>2)</sup>。棚橋氏は、学力の構造化に基づく学習成果の明示を打ち出しており、授業で形成される認識の構造と深化の過程に対応した評価が必要との見解を示す。例えば、学習成果を構造化することによって指導にフィードバックさせる事例を示している<sup>3)</sup>。また、1999（平成11）～2002（平成14）年度の『社会科学習評価システム開発の総合的研究』報告では、記述分析法を用いた社会科の学習評価の具体的なあり方を提示している<sup>4)</sup>。それは論述式問題の構造分析を行い、評価問題の開発の課題を抽出し、問題を構成する問題文・リード文・資料・指定語句など

の働きの解明から具体的な授業実践の学習成果を判定する論述式問題の試案例を示すものである（表1）。

**表1 棚橋氏が示す「社会科学習評価システム開発の総合的研究」の目次**

第1章 論述式問題の特徴と問題開発の課題	
I 問題の所在	II 論述式解答の多様性の実態
III 論述式解答の多様化の根拠	
IV 論述式問題の種類	V 論述式問題の開発の課題
第2章 論述対象の明確化	
I リード文によって論述対象を具体化する	II 資料によって論述対象を明確化する
III 指定語句によって論述に用いる知識群を示唆する	
第3章 論述視点の限定	} 各項…省略
第4章 論述に必要な知識の補完	
第5章 限定条件の設定	
第6章 論述式問題開発試案	
I 小单元「エスニック問題に揺れるドイツ」の概要	
II 期待される学習成果の確定	III 評価規準の作成
IV 評価問題の作成	

研究代表者：棚橋健治「社会科学習評価システム開発の総合的研究」『1999（平成11）～2002（平成14）年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究報告書』2003年

ここでは、論述式問題の特徴と課題の分析から出題者の出題意図を正確に解答させるために、論述対象の明確化・論述視点の限定・論述に必要な知識の補完と限定条件の設定を抽出している。そして、論述問題をどのように開発すればよいか、構成要素と論理を明示した上で開発試案を提出している。事例とする授業の学習指導案・実践記録をもとに学習者に期待される学習成果を確定し、評価規準を設定、評価問題を作成する手続きが示される。評価問題作成の論理と授業改善が結びつけられた先駆的な研究と言えよう<sup>5)</sup>。論述式問題開発試案は、別稿において具体事例を示し、次の説明がなされる（表2）。

**表2 棚橋氏が示す学力の構造化に基づく学習成果の明示（一部）**

授業を受けた子どもの頭の中には、この図（資料…ドイツ近現代史についての認識を構造化したもので表されるような構造化された知識のネットワークが形成されていることが期待される。学習評価は学習成果としてのこの知識のネットワークが、本当に形成されているかどうか、この図に示された知識を保持できているか、それらの知識の構造を認識し、同一の知識群の中に位置付けて概括・一般化したり個別化・具体化したりできるか、各々の知識を初期条件、結果、法則に位置付けて因果関係の説明ができるかなどを判定する。このような構造図づくりが、評価規準作りに直結する。しかし、それは授業づくりには不可欠の作業であり、決して、評価のためだけの作業ではない。評価規準作りは、今まで無意識のうちに行ない明示していなかった自分の授業の構造を明確にすることに他ならない。授業づくりと評価問題づくりも「一体化」していくのである。学習成果を構造化することによって、指導にフィードバックする学習単位を構成することが可能になる。学習評価は、学習のまとまりのとらえ方によって、実施時期も、得られた情報のフィードバックの仕方も異なってくる。（中略）全体的、構造的な問題点が見いだされれば、単元あるいはカリキュラム自体の再検討が求められる。（下線筆者）

棚橋健治「社会科教育実践の評価」溝上泰『社会科教育実践学の構築』明治図書、2004年、pp.219 - 229

社会科の授業で期待される学習成果は何か、評価基準の設定、評価問題の作成が、学習評価システムとして示され、それらを授業改善に生かす点で、社会科固有の評価研究がどのようにあるべきかを示す仮説的な検証アプローチを一貫して示した点で示唆に富む。しかし、ここでの問題は学習者に期待される学習成果、身に付けられた知識に焦点化され、学習過程をどのように評価するか、知識や知的技能に含まれない技能や態度をどのように評価するのかが不明である。

#### イ. 池野範男らの「認識変容に関する社会科評価研究」における仮説検証アプローチ

仮説検証アプローチをさらに推し進め、学習者の認識の変容（成長）から見方・考え方の変化を評価する実験実証研究を発表しているのが、池野範男氏の一連の研究である。池野氏は、ブルーム目標分類表に依拠した学力論の問題点を「要素への分解と階層段階化」として批判し、3つの問題点を指摘する<sup>6)</sup>。「第1は指導と評価が静的であること。第2は達成や評価が一時的なものであること。第3は学力の向上発展の視点を欠いていること。」である。そして、PISA調査や英国ナショナル・カリキュラムに見られる評価論の特質を明らかにし、学習者の認識変容を見取る向上主義学力論を提唱する。特徴を次のように示す（表3）。

表3 池野氏が示す学力

ア	学力とは、要素の集合ではなく、要素の構造とその向上・進展である。
イ	学力の向上・進展とは、量的増加ではなく、質的增加・変化である。
ウ	学力の質的增加・変化は、認識構造上の変容である。

池野範男「社会科の読解力を鍛えるテスト問題」『社会科教育』No.566, 明治図書, 2006年, p.120

ア～ウに対する具体的評価方略は、(内容の)まとまりをもった見方・考え方を議論の構造によって構成し、学習者の見方・考え方のレベル段階をより上位へ成長させるというものである。そして、仮説に沿った小学校、中学校のテスト問題事例を示している。また、池野氏は同時期に「認識変容に関する社会科評価研究」(1)～(4)及び見方・考え方を育てる授業開発を一連の研究として発表されている。一例を取り上げよう。

小単元「喧嘩両成敗について考える」は、子どもたちの歴史事象に対する見方・考え方を多様化・深化させる中学校社会科歴史単元として開発されたものである<sup>7)</sup>。広島大学附属三原中学校2年生選択B社会科(21名)を対象に実践を行い、評価分析がなされている。授業開発は、単元の全体を捉える見方・考え方の全体構造を「感覚認識」「功利的認識」「価値的認識」「社会的認識」の4段階のレベルで示している。計画における授業展開では、それらが認識し得るように教材内容が選択・配列されている。評価方略としては、学習者の認識変容を見取るためのプレテストを用意し、ポストテストを行っている。評価の実施と集計結果をもとに、学習集団の全体的な変容、個人の変容について考察がなされ、歴史事象に対する見方・考え方が日常レベルの事象の見方・考え方に及ぼす影響や見方・考え方を变化させた事例についての報告がなされている。今後の課題としては「認識変容を把握する方法」「テスト問題の作成」に改善の余地が残されることが示される。

このような池野範男らのグループによる「認識変容に関する社会科評価研究」は、学習結果としての静的な知識・理解に留まらない思考技能の使用を見取るための評価方略を確立するため、授業の実施とデータ分析による検証がなされる。評価規準として設定された4段階の認識レベル「感覚的認識」「功利的認識」「価値的認識」「社会的認識」の妥当

性、データを見取り評価した質的な信頼性の確保については課題が残されるものの、評価基準及び評価基準を仮説的に提出し、計画段階から実践、評価・改善するを取り入れた点は、社会科学習評価の研究方法における仮説検証のあり方を示すものと言えよう。

#### ウ. 原田智仁らの「社会科学習指導法と評価に関する研究」の仮説生成アプローチ

棚橋、池野氏らの社会科評価研究の仮説検証アプローチによる評価研究に対し、原田氏は現状の学校現場でなされる学習指導法や評価問題の工夫・開発からの研究を進めている。前者のような原理的な社会科評価の仮説こそ提出されていないが、学校現場で汎用できる部分的な理論仮説の生成途上にある。例えば、『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』『児童・生徒の習得・活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』など対象校種を変えつつ、7年間に渡り継続的な研究を行っている<sup>8)</sup>。研究目的は、ペーパーテストによる思考力・判断力評価のための問題開発や「習得・活用・探究」型の学力の育成と評価の手立てを学習指導・評価モデルとして構築し、モデルに基づく授業・評価の実践を目指すものとしている。この一連の研究設定の背景として、次の理由を示す(表4)。

表4 「思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究」の研究目的

教師の多くは、国立教育政策研究所の教育課程研究センター発行による『評価基準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』等を手がかりに、地域(都道府県・教育事務所)や学校単位で評価研究を進めてきたが、その成果は必ずしも十分とは言えない。特に内容教科の社会科では伝統的に知識・理解の側面が重視され、思考力・判断力については、その重要性は自覚されながらも、評価の手立てや指導方法が十分解明されていないまま現在に至ったと言ってよい。(中略)文部部科学省の言う「指導と評価の一体化」はほとんどかけ声倒れに終わっているのが実情である。

原田智仁ほか『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』日本教材文化研究財団, 2008年

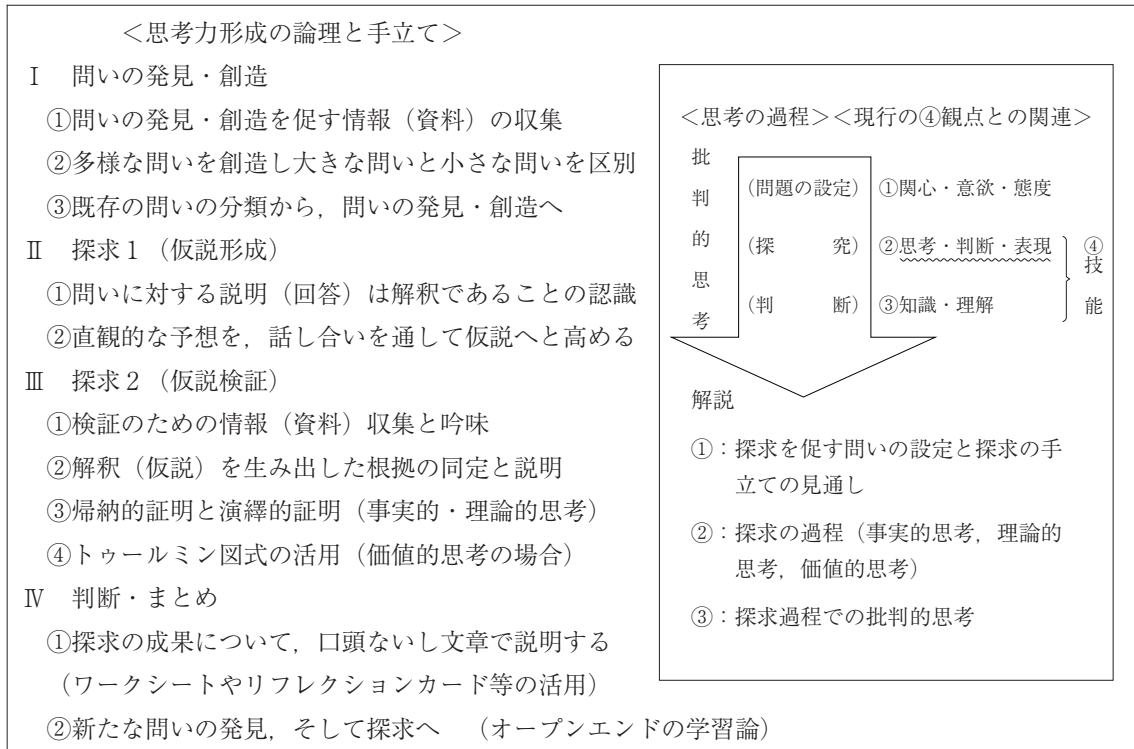


図2 現行(H10年版)指導要録にみられる社会科の学力像と思考力形成の論理と手立て(原田ほか, 同上書, pp.11-12)



そこで、原田氏は、例えば思考力・判断力の評価研究の手法として、先行研究の整理・分析、評価問題の収集、目標とする能力育成の学習指導の方略と具体的評価問題を提出する形をとっている。そして、思考を事実的思考と理論的思考、価値的思考、批判的思考の4類型に分け、思考過程に関する仮説モデルを次のように示している。モデルはあくまで理念型とした上で、指導の手立てが示される(図2)。これを受けて、草原和博氏は中学校地理的分野における授業開発の論理を示し、評価問題作成例を示している(表5)。

草原氏は、理論的思考力を定義付け、学習指導要領に沿った教科書の見開き2頁を活用した事例を示す。まず教材研究をどのように行うのか、教科書の内容構成を分析し、どのような知識が必要とされているかを明らかにしている。

**表5 草原氏の「事実的、理論的思考力・判断力を問う授業とテスト」の論文構成**

第3章 事実的、理論的思考力・判断力を問う授業とテスト
- 「エネルギー資源の分布と消費」を事例に-
1 事実的、理論的思考力・判断力を問うとは
2 授業構成の基本原則 (1) 授業構成の基本原則 (2) 教材研究の方法論 (3) 授業づくりの方法論
3 問題作成の論理
(1) 問題作成の基本原則 (2) 問題構成の手続き 資料「世界の鉱産資源の分布と消費」テスト問題例

草原和博「事実的、理論的思考力・判断力を問う授業とテスト」原田智仁ほか、同上書、2008年、pp.24-39

次に、レベルの異なる知識を発問(問いの構造)と資料によって導くのかを授業計画の中で示す。そして、「習得状況の評価」と「活用・応用力の評価」に分けた問題構成の手続きを示している。問題作成の3つの原則として、ア:解答にいたる論理的筋筋と必要な資料を示すリード文の作成、イ:理論的思考の段階とプロセスに沿った設問、ウ:設問に対する解答のさせ方の工夫を述べている。学校現場における教師の日常の指導と評価の実際を意図した具体的な事例を示している。

一連の最近の研究からは、中本和彦氏が習得・活用される知識と獲得のされ方によってア個別的・事実的知識伝達授業、イ個別的事実的知識追究授業、ウ一般的・理論的知識伝達授業、エ一般的・理論的知識追究授業の4つの型の授業分類を行い、それぞれの特質と限界を明らかにしながら習得・活用型学力育成の理論仮説を述べている。さらには、授業構成と単元設計に結びつけ、段階性と方向性を示している(表6)。

**表6 活用力を育成する授業構成・単元設計の段階性と方向性**

授業構成・単元設計 分野	(事実的知識を習得させる社会科授業)	理論的知識を習得・活用させる社会科授業	
		分析的理論を習得・活用させる社会科授業	総合的理論を習得・活用させる社会科授業
地理的分野	(地理的事象を記述させる地理授業)	地理的事象を分析・解釈させる地理授業	地域を解釈させる地理授業
歴史的分野	(歴史的事象を記述させる歴史授業)	歴史的事象を分析・解釈させる歴史授業	時代を解釈させる歴史授業
公民的分野	(社会的事象を記述させる公民授業)	社会的事象を分析・解釈させる公民授業	社会を解釈させる公民授業

中本和彦「社会科の『活用する力』の育成に関する理論モデル」『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』日本教材文化研究財団調査研究シリーズ53、2012、p.15

筆者(峯)は、それぞれの学力に対応する思考技能に着目し、探究過程における推論による論証と価値判断の正当化に焦点を当てた具体的な評価問題の作成を解説している(図3)。

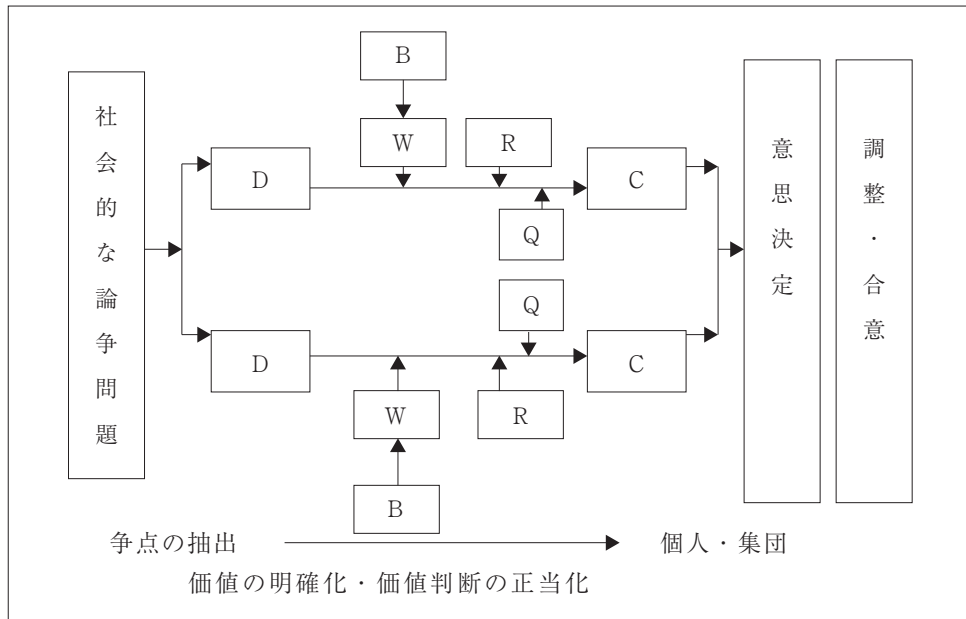


図3 意思決定モデルを利用したワークシート問題

峯明秀「習得・活用型学力の評価の論理」『児童・生徒の習得・活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』日本教材文化研究財団調査研究シリーズ50, 2010, p.50

また、研究に参加している小・中学校の実践者は、指導と評価の計画や授業実践の具体的な事例を提出することによって、学校現場での実行可能性を担保しようとしている。

例えば、井上昌善氏(神戸市立星陵台中学校)は、中学校公民的分野において小単元「ルミナリエ存続問題について考えよう」の授業改善例を提出している<sup>9)</sup>。2012年10月24日(火)・26日(金)の実践を踏まえ、限りある資源をどのように配分していくのかという「効率」の視点から神戸のルミナリエの存続問題について考察させることをねらいとして授業改善を図っている。

改善前の単元構成	改善後の単元構成
第1次 市民の要求を実現するためには、どのような方法があるのだろうか?【2時間】 第1時 身近で行われている政治 第2時 市民の要求を叶えるためには? -地方公共団体の政治の仕組み- 第2次 ルミナリエ存続問題について考えよう【2時間】 第1時 地方分権って何? 第2時 ルミナリエは存続すべき?廃止すべき?	第1次 市民の要求を実現するためには、どのような方法があるのだろうか?【4時間】 第1時 身近で行われている政治 第2時 市民の要求を叶えるためには? -地方公共団体の政治の仕組み- 第2次 税金が利用されているものについて考えよう【4時間】 第1時 なぜ、一部の人しかいかないのにルミナリエに多額の税金が使われているのだろうか? 第2時 ルミナリエを存続するためにはどうすればいいのだろうか? 第3時 街づくりを通して、税金が使われているものについて考えよう

井上氏が実践を通しての振り返りから授業者が課題としたことは、①ルミナリエを税金が利用されている「公共事業・公共サービス」として捉え直し、この概念についての探究させる学習過程、到達目標を設定すること、②ルミナリエ問題に関する意思決定をさせること自体を目的にするのではなく、意思決定を手段として、他の事象について考えるための見方・考え方を育むこと、③評価のあり方（表現のさせ方）を改善することである。そして、思考・判断・表現に関わる観点の判定基準として、公共性の概念を他事例の具体的な記述から評価できるように工夫している。

以上、現状の社会科における学習評価をどのようにするべきか、その研究方法論と具体を示したものとして、4つの研究を取り上げた。それらは評価方法の原理と現実・状況のいずれに軸をおくものか、明示された仮説の検証を行うものか、仮説生成の途上にあるのかによって整理すると図4になる。

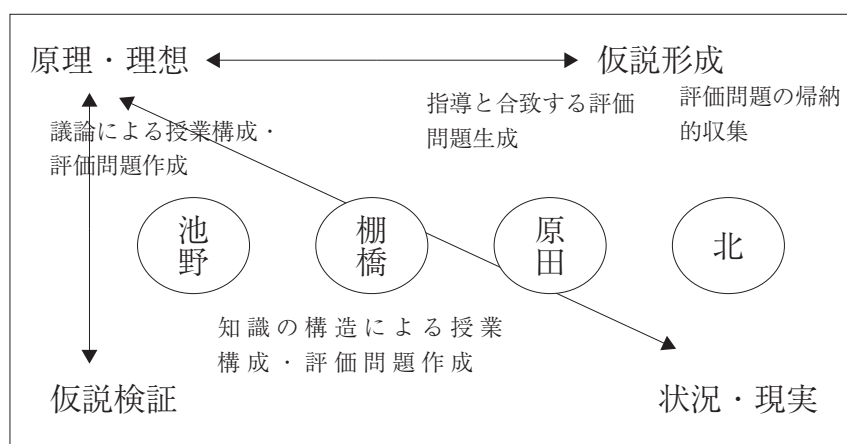


図4 評価方法論のアプローチ（筆者作成）

諸氏の評価研究の特質は、北氏の研究は、社会科の学力を他教科の評価観点と区別しない「思考・判断・表現」や「技能」などから見て取り、それらの能力の使用を測る直観的な問題作成や作成された評価問題の集成によるアプローチをとっている。帰納的な評価方法による仮説生成アプローチをとっているものと言えよう。この立場は、現実に即し評価の具体に迫れるものの、なぜどのような評価方法論からそれが導かれるのかを示す必要がある。それに対し、棚橋・池野氏らの研究は社会科固有の学力形成を社会認識形成や市民的資質育成の原理から規定し、評価要素として、知識の構造や議論の質・内容による構造を仮説として、授業構成から導かれる計画・実践・評価を知識の質や内容から検証しようとする仮説検証のアプローチになっている<sup>10</sup>。この場合、理論・モデルから授業構成・評価問題を作成する首尾一貫した仮説検証の立場は、原理的かつ理想であるが、学校の状況や教員が授業を実施し評価問題を作成する現実をどの程度、考慮しているのか、具体的実行可能性を示す必要がある。他方、原田氏らの研究は、社会科固有の学力形成を原理的には示していないが、社会の見方・考え方に対する思考を定義し、その形成過程と評価の在り方について、具体的な指導と評価を合わせて示していく中で、共通項を見出そうとする仮説生成のアプローチになっている。社会科固有の学力を規定し、実行可能な評価方法・手段を提出する研究への途上にあると言えよう。学習指導の実態において、単元レベルで目標とする程度・範囲と学習指導とを合致する評価問題の作成を意図する原田氏の立場が現実的であり、グラウンデッドな仮説が生成されることを期待したい。

## 註

- 1) 北俊夫『新学力観に立つ社会科授業の理論と方法』明治図書, 1995年, 北俊夫『学校新時代の学力と評価』文溪堂, 2003年, 北俊夫『社会科の思考を鍛える新テスト』明治図書, 2004年等。なお, 北氏の問題づくりについて筆者は『児童・生徒の習得・活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』日本教材文化研究財団調査研究シリーズ50, 2010年, pp.36 - 38で言及した。
- 2) 棚橋健治『アメリカ社会科学習評価研究の史的展開』風間書房, 2002年。
- 3) 棚橋健治『社会科授業の授業診断』明治図書, 2007年。棚橋氏による社会科固有の学力形成モデルから学習指導案において到達される学力の構成要素を明らかにしている。
- 4) 研究代表者: 棚橋健治「社会科学習評価システム開発の総合的研究」『1999(平成11)~2002(平成14)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究報告書』2003年。記述分析法とは子どもの自己の認識を何らかの命題によって間主観化したものを分析することを指す。
- 5) 目標とする授業と合致させる評価問題の開発の論理及びモデルを示した先駆的・体系的な研究として, 伊東亮三・池野範男「社会科テストの教授学的研究(Ⅰ) - テスト問題作成の基本モデル -」『日本教科教育学会誌』第11巻第3号, 1986年, pp.9 - 14を始めとして, (Ⅱ)・(Ⅲ)『日本教科教育学会誌』, (Ⅳ)~(Ⅶ)『広島大学教育学部・附属協同研究体制研究紀要』所収の一連の研究がある。また, 研究代表: 伊東亮三『平成5年度科学研究費補助金研究成果報告書 歴史テストのデータバンク化とテスト問題作成方略の開発研究』1994年がある。
- 6) 池野範男「社会科の読解力を鍛えるテスト問題」『社会科教育』No.563, 明治図書, 2006年, pp.120 - 123において, 現在のブルーム的学力構造の批判を行い, 向上主義社会学力論への転換を提起している。池野氏は, 同誌2006年4月~2007年3月の連載において, 社会を読み解くことに焦点化して, その学力の達成度を評価するし方, テスト問題事例を明らかにしている。
- 7) 田口紘子・竹中伸夫・田中伸・丹生英治「見方・考え方を育てる中学校歴史授業の開発 - 小単元『喧嘩両成敗について考える』の場合 -」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第2部, 第55号, 2006年, pp.115 - 123。
- 8) 日本教材文化研究財団編集の調査研究シリーズ44 研究代表: 原田智仁ほか『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』2008年, 調査研究シリーズ50『児童・生徒の習得・活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』2010年, 『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』2012年。校種を変えながら学習指導と評価のあり方について, 研究を進めてきている。
- 9) 日本教材文化研究財団編集の調査研究シリーズ58 研究代表: 原田智仁ほか『社会科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究』2014年, pp.101 - 126。
- 10) 棚橋氏の学習者に身に付けられた成果の検証による静的な評価に対し, 授業実践に応じてプレ・ポストテストや観察等の評価方法・手段やデータを質的・量的に分析する動的な評価の違いはある。

(峯 明秀)

### 第3章 「指導と評価の一体化」と「思考・判断・表現」の評価

#### 一単元「オーストラリア」の評価問題試案を事例として一

##### 1. はじめに一問題の所在一

「指導と評価の一体化」という言葉は、決して新しい言葉ではない。特に、関心・意欲・態度の評価や相対評価から絶対評価への転換が図られた平成元年版学習指導要領のころさかんに語られた。しかし、その「指導と評価の一体化」をめぐる評価問題の現状と課題は、思考力・判断力・表現力の育成が一層求められる今日においても、当時とあまり変わっていないのではないだろうか。それは、同じように大きく二つの課題として述べることができよう。一つは「指導と評価の一体化」における指導にかかわる課題であり、もう一つは評価にかかわる課題である。これら二つの課題について澁澤文隆は次のように述べている。

入試を意識した知識詰め込みの社会科授業は、“指導と評価の一体化”の観点からみると、実は見事にそれが一体化している。なぜならば、指導では様々な社会的事象を羅列・列挙して知識を詰め込む学習指導を展開し、その学習成果を問う中間、期末テストではそれを知識としてどのくらい身に付けているかを問うているからである。その結果、知識をたくさん身に付けた生徒が好成績をおさめている。

(澁澤文隆「連載講座：中学校社会科のテスト問題の改革点」『社会科教育』明治図書、1995年、4月号、p.128より)

テスト問題改革は、入試問題だけでなく、中間・期末といった定期テストでも必要になっている。それは新しい学力観に立った社会科授業で適切な課題を設けて行う学習や作業的、体験的な学習などを展開すると、いっそう痛感する。なぜならば、そうした授業でこれまでのような知識偏重のテスト問題を出題すると、たとえ授業で一所懸命がんばってもそれが中間・期末テストでは正當に評価されないことから、テストのたびごとに授業への不信感がつり、授業離れする生徒がめだってきたりするからである。授業を工夫すればするほど、テストとのずれが生じるという状態は、学習指導上きわめて由々しき問題であると考えられる。それだけに、社会科教育が今日的要請に応えるためには定期テストレベルでも作問技術の工夫改善が必要不可欠になっている。

(澁澤文隆「連載講座：中学校社会科のテスト問題の改革点」『社会科教育』明治図書、1995年、5月号、p.127より)

このように、思考力・判断力・表現力の育成が一層求められる今日においても、「指導と評価の一体化」に関わって、授業が知識伝達型であるがゆえに指導と評価が一体化するという指導にかかわる前者の課題と授業を工夫するがゆえに指導と評価が不一致になるという評価にかかわる後者の課題がみられるのではないだろうか。

そこで、本稿では、改善に向けた研究・検討の蓄積が前者に比べて少ない後者について検討していく。その際、どのような評価問題が「思考・判断・表現」を評価する問題であるのか、という思考・判断・表現の評価の論理と、それを検討するための授業をあらかじめ確定させておくこととする。そしてその確定させた授業において「指導と評価の一体化」

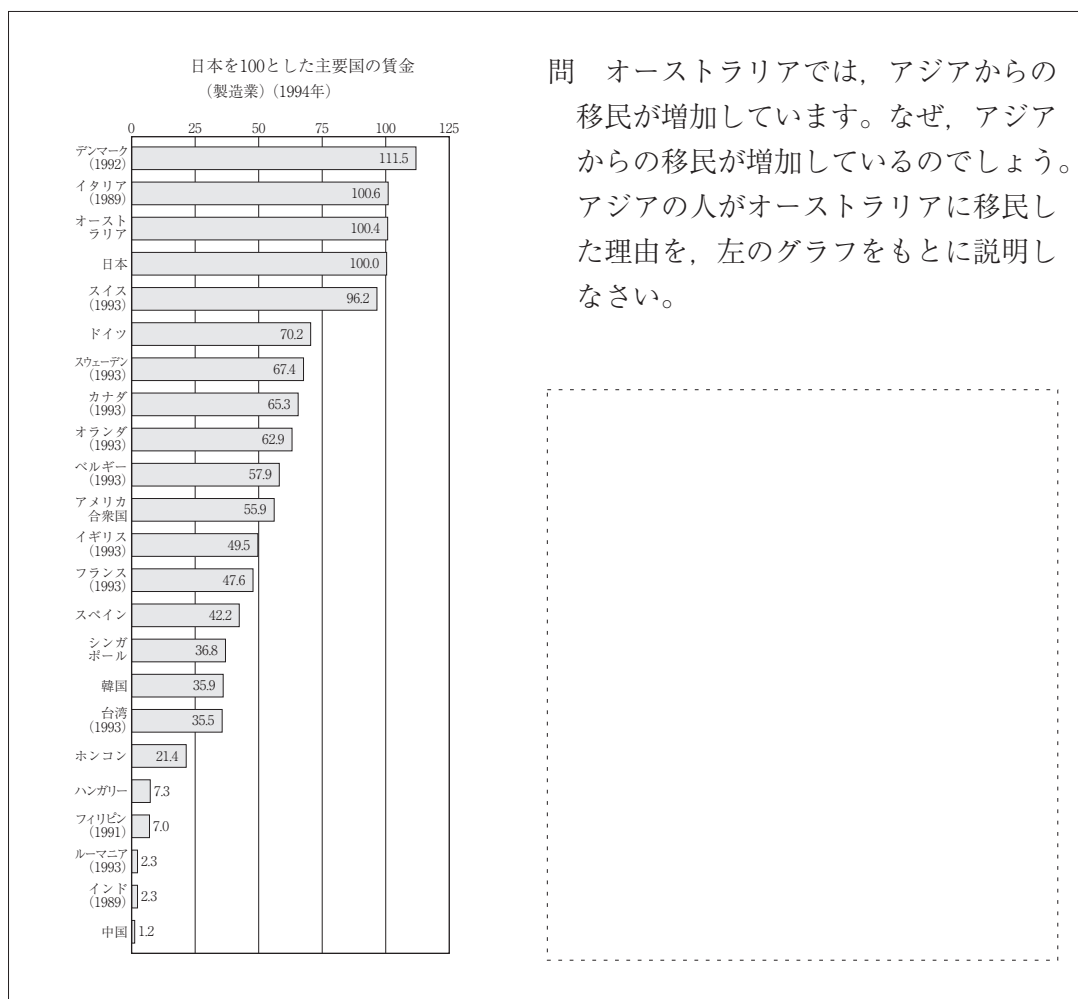
の観点からどのような問題が作成可能か、具体的にいくつかの試案を提示することによって、指導と評価を一体化させた「思考・判断・表現」の評価問題作成の課題と改善の方向性を探っていくこととする。

## 2. 「思考・判断・表現」を評価する問題の実際とその論理

まず、どのような問題が「思考・判断・表現」を評価する問題と言えるのか、具体的に事例を取り上げてみていくこととする。

### (1) 評価問題例の実際

次の評価問題例は地理の問題である。思考・判断・表現を評価する問題であろうか。



(中本和彦「高等学校地理・単元『オーストラリア』の授業設計—社会問題を中核にした地誌学習—」  
広島県立湯来南高等学校研究授業資料，2000年1月13日をもとに，筆者が評価問題作成)

以下、解答の過程と解答において獲得・期待される知識をもとにみていこう。

## (2) 評価問題例の解答展開

この問題の解答までの流れを、解答過程と、獲得されるあるいは解答が期待される知識に分けて整理してみると、次のようになる（以下、このように解答までの流れを、授業展開に倣って「解答展開」と呼ぶこととする）。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
導入 (問題の把握)	①「オーストラリアでは、アジアからの移民が増加しています。」 ②「なぜ、アジアからの移民が増加しているのでしょうか。アジアの人がオーストラリアに移民した理由を、」 ③「左のグラフをもとに説明してください。」	①オーストラリアでは、アジアからの移民が増加している。 ②なぜ、アジアからの移民が増加しているのか、を考える問題。 (問い(題意)の理解) ③グラフをもとに、説明すれば(書けば)よい。(解答の指示の理解)
展開Ⅰ	④グラフを見る。 ⑤オーストラリアを見つけて数値を読み取る。 ⑥アジアの国々を見つけて数値を読み取る。	④日本を100とした主要国の賃金のグラフである。 (グラフが表現している意味の理解) ⑤オーストラリアは賃金が高い(日本よりも賃金が高い)。 ⑥アジアの国々の賃金はとても低い。
展開Ⅱ	⑦(なぜ、アジアからの移民が増加しているのか。)推測する。	⑦オーストラリアは賃金が高く、それと比べてアジアの国々は賃金が低いので、アジアからオーストラリアの豊かさを求めてオーストラリアに移民しているのではないか。
終結	⑧簡潔に解答(推測)を書く。	⑧オーストラリアは賃金が高く、それと比べてアジアの国々は賃金が低いので、アジアからオーストラリアの豊かさを求めてオーストラリアに移民している。

(筆者が解答過程を想定して作成。)

### (3) 解答に必要とされる知識

先に示した解答展開をもとに、解答のためにどのような知識が必要とされるかをみていこう。解答展開に示した①～⑧を事実的知識と理論的知識に分けたものが、以下のものである。※印は、問題そのものからは読み取れない、解答者があらかじめ学習の成果として習得している知識として求められているものである。そして◎印が、最終的に解答として求められる知識である。

- ①事実的知識（オーストラリアではアジアからの移民が増加している。）
- ②—（問い（題意）についての国語的理解）→「なぜ」
- ③—（解答方法の指示についての国語的理解）
- ④—（グラフの意味の理解…算数的理解）
- ⑤事実的知識（オーストラリアは賃金が高い。）
- ⑥事実的知識（アジアの国々は賃金が低い。）
- ⑦理論的知識（賃金が低い地域の人々は、賃金の高い地域へ豊かさを求めて移動する【概念的知識】。（※）
- ⑧—（⑦の表現…国語的表現力）→オーストラリアはアジアの国々に比べて賃金が高いので、賃金が低いアジアの国々から人々が移民している【説明的知識】。（◎）

これらを見ると、この評価問題例は、問題のリード文から社会的事象の結果にかかわる事実的知識(①)が与えられ、グラフから読み取れる原因にかかわる事実的知識(⑤、⑥)と習得されていると期待される転移可能な理論的な知識(⑦)を活用して、社会的事象の結果の説明、すなわち求める解答(⑧)を導き出させようとした問題であると言える。

つまり、この評価問題例は、「賃金が低い地域の人々は、賃金の高い地域へ豊かさを求めて移動する。」という一般的な【概念的知識】を習得しており、原因となる「オーストラリアは賃金が高い」「アジアは賃金が低い」という読み取った事実的知識をもとにその【概念的知識】を活用して、オーストラリアにおけるアジア系移民の増加について考察、説明させようとした、思考・判断・表現を問う評価問題であると言える。

### (4) 評価問題例が示唆する思考・判断・表現の評価の論理

以上のことから、この評価問題例が示唆する思考・判断・表現の評価の論理として、どのようなことが言えるだろうか。

それは、社会的事象の因果関係を問い、理論的知識を中心とした知識の活用によって説明を求めることで、思考・判断・表現は問うことができるということである。先の問題では、与えられた結果としての事実的知識と読み取れる原因としての事実的知識をもとに、隠されている理論的知識の習得・活用が問われていた。思考・判断・表現の評価問題の中心は、理論的知識の習得・活用を問うことであり、同時にそれは、授業においても理論的知識の習得・活用が求められることを示唆していよう。



### 3. 単元「オーストラリア」の授業の実際

「指導と評価の一体化」を検討するにあたって、授業を確定するため、中本和彦実践・単元「オーストラリア」を取り上げる。この実践を取り上げるのは、「なぜ」と問い、科学的理論を探求させる授業として一定の評価を得て、他にも取り上げられているからである<sup>1)</sup>。

以下、単元「オーストラリア」の授業の実際について、授業計画段階と授業実践段階に分けて示す<sup>2)</sup>。

#### (1) 単元「オーストラリア」の授業構成

##### ア 単元の目的

オーストラリアの社会問題の分析を通して、オーストラリアの社会構造を批判的に吟味しながら探求する。

##### イ 単元構成

【1】多様な民族がすむオーストラリア (1時間)

【2】多文化社会をめざすオーストラリアーその要因と問題― (2時間)

##### ウ 到達目標 (知識の構造)

- ◎ オーストラリアは多文化社会をめざしている。
- オーストラリアは、マイノリティの文化を尊重する多文化政策を行っている。
  - I オーストラリアは、自国の利益確保のために多文化政策を行っている。
    - I-A オーストラリアは、人口が少ないことから人口を増やすために移民を受け入れを行った。その結果、非白人が増えたため、多文化政策をとっている。
      - A-1 オーストラリアは、移民者などのマイノリティの文化を尊重するため、多文化政策をとっている。
      - A-2 オーストラリアは、賃金が高く、アジアなどの国々は賃金が低いため、オーストラリアに移民してきている。
      - A-3 オーストラリアは、人口が少ないため、人口を増やして労働力を確保しようとしている。
      - A-4 オーストラリアは、人口が少ないため、人口を増やして内需の拡大を図ろうとしている。
    - I-B オーストラリアは、主要輸出品が一次産品に偏っており、輸出国の影響を受けやすいため、難民の受け入れも認め、多文化政策をとり、友好関係を築こうとしている。
      - B-1 オーストラリアは、主要輸出品が一次産品に偏っているため、諸外国の影響を受けやすい。
      - B-2 オーストラリアは、輸出の安定確保のため、輸出国との友好関係を築くさまざまな方策をとっている
- オーストラリアは、非白人などのマイノリティに対する“いじめ” (排斥運動・事件) が起こっている。

- II オーストラリアでは、経済的苦境に立たされたとき、新移民に責任転嫁するため、“いじめ”（排斥運動・事件）が起こっている。
- II-C オーストラリアでは、就職や昇進など競争関係となったり、新移民との比較による経済的不満から、“いじめ”が起こっている。
  - C-1 新移民と競争関係にあるブルーカラーや下層ホワイトカラーが、就職や昇進で競争関係となるため、“いじめ”が起こっている。
  - C-2 中流以上の生活を行っている移民者に対するねたみや羨望から“いじめ”が起こっている。
- II-D オーストラリアでは、主要貿易品が一次産品に偏っているため、海外の景気の影響を受けやすく、不況になると、経済的不満が増すため、“いじめ”が起こりやすくなる。
  - D-1 オーストラリアでは、1990年代に貿易相手である日本やアジアの国々が不況となったため、オーストラリアも不況となり、“いじめ”が顕在化した。

## エ 問いの構造

- ◎◎ オーストラリアは、いったいどんなところ？
  - I なぜ、オーストラリアは、多文化政策を行っているのでしょうか？
    - I-A・B なぜ、オーストラリアは、移民を受け入れて、多文化政策を行っているのでしょうか？
      - A-1 なぜ、オーストラリアは、マイノリティの文化を尊重しているのでしょうか？
      - A-2 なぜ、オーストラリアは、アジアの国々からたくさんの移民がやってきているのでしょうか？
      - A-3 なぜ、オーストラリアは、移民を受け入れているのでしょうか？①
      - A-4 なぜ、オーストラリアは、移民を受け入れているのでしょうか？②
      - B-1 なぜ、オーストラリアの貿易は、諸外国の影響を受けやすいのでしょうか？
      - B-2 なぜ、オーストラリアは、諸外国との友好関係を築くさまざまな方策をとっているのでしょうか？
  - II なぜ、オーストラリアでは、“いじめ”（排斥運動・事件）が起こっているのでしょうか？
    - II-C なぜ、オーストラリアでは、新移民に対する“いじめ”が起こっているのでしょうか？
      - C-1 なぜ、ブルーカラーや下層ホワイトカラーが、新移民を“いじめ”るのでしょうか？
      - C-2 なぜ、中流以上の生活を行っている移民者に対する“いじめ”が起こるのでしょうか？
    - II-D なぜ、オーストラリアでは、不況になると“いじめ”が起こりやすくなるのでしょうか？
      - D-1 なぜ、オーストラリアでは、1990年代に“いじめ”が顕在化したのでしょうか？

## オ 授業展開

### 第1限

	発 問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい知識
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このマークは何のマークでしょう？</li> <li>・このマークは、オーストラリアの何をもとにつくったマークでしょう？</li> </ul>	T：発問する。 P：答える。 T：発問する。 P：答える。 T：説明する	ロゴマーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シドニーオリンピックのマーク</li> <li>・オペラハウス</li> <li>・ブーメラン…アボリジニーの道具</li> <li>・オーストラリアというと白人をイメージしがちだが、アボリジニーをはじめ、様々な民族がいる。</li> </ul>
展 開 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の資料は、「オーストラリアへの移民数」です。1947～74年と1975～92年では、それぞれどんなところから移民がやってきていますか？</li> <li>・白人と非白人のどちらが増えてきていますか？</li> <li>・オーストラリアの家庭で話される言語はどうなっていますか？</li> <li>・オーストラリアでは、このように異なる言語や文化を持った人々に、どのような接し方や対応をしていると思いますか？</li> <li>・資料を読ませる。</li> </ul> <p>○オーストラリアでは、多様化している移民の人々に対して、どのような対応をしているのでしょうか？</p>	T：発問する。 P：答える。  T：発問する。 P：答える。  T：発問する。 P：推測する。  T：資料を読ませる。 T：発問する。 P：答える。 T：説明する。	オーストラリアへの移民数  出身国別移民数  家庭における使用言語  「多文化社会をめざして」日本語を学ぶ中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1947-74年…イギリス・アイルランド、その他のヨーロッパ諸国から多くの移民がやってきている。</li> <li>・1975-92年…東アジア・東南アジアから多くの移民が渡ってきている。</li> <li>・非白人の割合が増えてきている。</li> <li>・家庭で、英語以外の言語を話す人が7～8人に1人くらいである。また、言語の種類も多様である。</li> <li>・英語を母国語としない移民への英語教育、外国語によるラジオ・テレビ放送、異文化理解のための学習 etc.</li> <li>○オーストラリアは、多様な異文化を理解し尊重しようとしている =多文化社会</li> </ul>
展 開 II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読ませる。</li> </ul> <p>○アジア系の人々やアボリジニーなどの少数派となる人々に対して、どのようなことが行われていますか？</p>	T：資料を読ませる。 T：発問する。 P：答える。	「いじめられる非白人①」 「いじめられる非白人②」 「ハンソン女史の発言①」 「ハンソン女史の発言②」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非白人の人たちに対する“いじめ”，アジア系移民受け入れ反対，アボリジニーに対する社会福祉への反対</li> <li>○アジア系移民やアボリジニーに対する“いじめ”が行われている。</li> </ul>
終 結	<p>○いったいオーストラリアはどうなっているといえるでしょう？</p>	T：発問する。 P：答える。		<p>○一方では、アジアから移民してくる人々やアボリジニーなど少数は（マイノリティ）となる人々の文化を尊重し、理解につとめている。しかし、一方では、アジア系の人々やアボリジニーが“いじめ”られたりしている。</p>

終 結 (続き)	◎なぜ、アジア系の人々やアボリジニーの人々は、大切にされる一方で、いじめにあうのでしょうか？	T：発問する。 P：推測する。	(・・・わからない、いろいろ)
	◎なぜ、少数派であるアジア系移民やアボリジニーの人々の文化などを大切にし、尊重しようとするのでしょうか？	T：発問する。 P：推測する。	(・・・わからない、いろいろ)

第2・3限

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい知識
導 入	・オーストラリアはどのようなようになっていましたか？ (前時の復習)	T：発問する。 P：答える。		・一方では、アジアから移民してくる人々やアボリジニーなど少数は(マイノリティ)となる人々の文化を尊重し、理解につとめている。 しかし、一方では、アジア系の人々やアボリジニーが“いじめ”られたりしている。
展 開 I	◎なぜ、オーストラリアは、少数派であるアジア系やアボリジニーの人々の文化を尊重しようとするのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。	日本を100とした主要国の賃金 移民・難民受け入れに占めるアジア系出身者の比率 おもな国の人口変遷	・いろいろな民族がオーストラリアに移民してきたから。 ・わからない。
	○なぜ、アジアの人々は、オーストラリアに移民してきたのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。		・オーストラリアで仕事に就き、経済的に豊かになるため。 ・難民を、オーストラリアが受け入れたため。
	・(日本では、移民を受け入れることに消極的ですが、)なぜ、オーストラリアは、移民を受け入れているのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。		・人口が少ないから、移民によって増やそうとしている。
	・なぜ、オーストラリアは、移民を受け入れて、人口を増やそうとしているのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。		○人口が少ないため、労働力不足であるから。 ○人口が少ないため、国内市場が狭いから。
	○なぜ、オーストラリアは、アジア系難民をたくさん受け入れているのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。		・わからない。かわいそうだから。
	・オーストラリアの輸出先は近年、どのように変化していますか？	T：発問する。 P：答える。	オーストラリアの輸出相手国	・東アジア諸国、ASEAN諸国への輸出割合が急増している。 (・EU・アメリカ合衆国への輸出割合が減っている。)
	・なぜ、1970年に比べて、東アジア諸国やASEAN諸国との貿易が増えているのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。	ASEAN諸国の1人あたりのGNPの変化	・ASEAN諸国などの経済発展にもなって増えている。
	・1970年以前はどこが貿易相手1位だったのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。		・イギリス
	・なぜ、イギリスよりも日本との貿易量が大きくなったのでしょうか？	T：発問する。 P：答える。		・日本は、高度経済成長であったから。 ・イギリスは、1967年ECに加盟し、かつての植民地地域よりもヨーロッパ諸国との結びつきを強めていったから。

展 開 I (続 き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、オーストラリアは、イギリスや日本、アジアやASEANなど、外国の動向に左右されるのでしょうか？</li> <li>外国の影響を受けやすいオーストラリアは、輸出量の増えているアジアやASEAN諸国との関係や難民、移民でやってくる人々との関係をどうした方がよいでしょう？</li> <li>◎なぜ、オーストラリアは、少数派であるアジア系やアボリジニーの人々の文化を尊重しようとするのでしょうか？</li> </ul>	<p>T：発問する。 P：答える。</p> <p>T：発問する。 P：答える。</p> <p>T：発問する。 P：答える。</p>	(オーストラリアの輸出品目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリアは、石炭や鉄鉱石など一次産品を輸出しているため輸出相手国の影響を受けやすい。</li> <li>○国益のため、友好関係を深めた方がよい。→難民受け入れ、異文化の尊重</li> <li>◎オーストラリアは人口が少なく、労働力不足や国内市場が狭いため移民によって人口を増やそうとしているから。</li> <li>◎輸出産業が一次産品に偏っているため、近年特に増えているアジア系移民の国との友好関係を損なうことは、国益に不利となるため、異文化の尊重につとめている。</li> </ul>
展 開 II	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読ませる。</li> <li>◎なぜ、アジア系の人々やアボリジニーの人々は、いじめにあうのでしょうか？</li> <li>なぜ、1990年代に入って不況が深刻化し、失業率が高水準になったのでしょうか？</li> <li>◎なぜ、アジア系の人々やアボリジニーの人々は、いじめにあうのでしょうか？</li> </ul>	<p>T：資料を読ませる。 T：発問する。 P：答える。</p> <p>T：発問する。 P：答える。</p> <p>T：発問する。 P：答える。</p>	新移民者に対する反発の原因 各国・地域の実質GDP成長率の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>新移民層と競争関係となる。</li> <li>ねたみや羨望からくる反発。</li> <li>不況や失業率が高いとき、特に起こる。</li> <li>1990年代日本やアジア諸国の経済が停滞し、その影響を受けたから。(日本…バブルの崩壊、アジア…アジア危機)</li> <li>◎産業が一次産品に偏っているオーストラリアでは、日本やASEAN諸国の経済不況の影響を受けやすく、オーストラリアが不況となると、移民と競争関係になる人々の不満が大きくなり、移民に対する“いじめ”が発生する。</li> </ul>
終 結	◎これまでの学習を通して、オーストラリアとはいったいどんなところなのか(どういう社会なのか)、それぞれが解釈してみよう。	T：発問する。 P：解釈し、まとめる。		オーストラリアは、人口が少なく、産業が一次産品に偏っている国である。そのため、国益を優先させた結果、多文化社会をめざしている。しかし、異民族への反発も起こっている。

<主な参考文献>

- ・「いじめられる非白人①」, 「いじめられる非白人②」, 「ハンソン女史の発言②」 (『地理』43-11, 古今書院, p.54, pp.58-59, p.54)
- ・「ハンソン女史の発言①」, 「新移民者に対する反発の原因」 (西川長夫・渡辺公三・ガバン・マーコック編『多文化主義・多言語主義の現在』, 人文書院, 1997年, p.232)
- ・「日本を100とした主要国の賃金」 (矢野恒太郎記念会編『世界国勢図会1996/97版』, 1997年, p.128)
- ・「移民・難民受け入れに占めるアジア系出身者の比率」 (初瀬龍平編著『エスニシティと多文化主義』, 同文館, 1996年, p.108)
- ・「おもな国の人口変遷」 (『データブック オブ・ザ・ワールド1999年版』二宮書店, 1999年)

## (2) 単元「オーストラリア」の授業実践の実際

ここでは、紙数の関係上、2時間目展開Ⅰの前半部分の授業者と学習者との教授学習過程のやりとりを、VTRからおこしたものを提示する。

先生／それじゃあ、まずQの1、なぜアジアの人々はオーストラリアに移民してきたんでしょうね?①

生徒／えーっとね、安全で食べるものがある。②

先生／おお、オーストラリアは安全で食べるものがある、ということかね。

生徒／いいとこついた?

先生／おお、ちょっとカスつとる。安全で食べるものがあるってね、豊かなんかね。

生徒／えー、オーストラリアって豊かなん?③

先生／うん、豊かかもしれんよ?

生徒／ってか、Oさんあの席、いけんのんじゃない?

先生／カメラがあるから。

生徒／くっそー。

先生／はい、ここ、じゃあね、そこらへんを探るためにね、作業1をやってみましょう。④ 作業1はね、これ、ここを見てください。この大きいほうをやってもらいます。この大きいやつを見て、この中で、オーストラリアと日本、それからアジアの国々だね、これ、アジアだと思うやつがあったら赤い線をちょっとピュッって印付けてみて。日本、オーストラリア、それからアジアの国だろうと思うやつだね。この中でアジアの国って言ったらね、シンガポールがあるよ。下から8番目くらいかな。オーストラリアは上から3番目くらいだね。印して見て。で、日本とオーストラリアがあるでしょ?

生徒／トルコは?

先生／トルコもね、アジアよ、アジア。台湾もあるでしょ?

生徒／シンガポールってアジアなん?

先生／アジアよ、アジア。思いっきりアジアよ、東南アジア。

生徒／大きい意味でアジア? 東南アジア?

先生／シンガポールって言ったら地図描くと、こういう風になつとって、ここにある。インドネシアがここにあつて、ここ。

生徒／先生! 全部塗るん? グラフは?

先生／グラフはええよ。名前んところ。国名のとこだけ印し付けて。国名のとこだけ印し付けて。見つけた? 他にもあるよ。シンガポール、台湾、韓国でしょ。フィリピンも付けた? フィリピンも印した?

生徒／フィリピンもアジア?

先生／フィリピンもアジア。

生徒／8?

先生／8箇所? インドも中国もだね。インドも中国もアジアよ。

生徒／9ヵ国?

先生／1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9じゃ。9個印し付けてよ。

生徒／1, 2, 3, 4, 5, 6個しかない。

先生／上から言うぞ。オーストラリアがあるじゃろ。日本もあるじゃろ。

生徒／シンガポール・韓国・台湾・香港・フィリピン・インド・中国。

(略)

先生／いい? オーストラリア、日本、いい? オーストラリア、日本、シンガポール、韓国、台湾、香港、フィリピン、インド、中国。

生徒／1, 2, 3, 4, 5, 6, 7…

先生／よし、いいかな?

生徒／一個やってない。

先生／印しできた?

生徒／一個やってないって。

生徒／え、だって8個でしょ?

先生／はい、じゃあそれじゃあね…

生徒／先生、9個よね?

先生／9個、9個。…はい、じゃあね、この黒いほうは何を表したのかということ、一番上に書いてあるよ。日本を、100としたときの主な国々の賃金。⑤ お金だね、給料。

生徒／アジア少ないじゃん。⑥

先生／日本を100としたときの給料です。オーストラリアは? わかる?

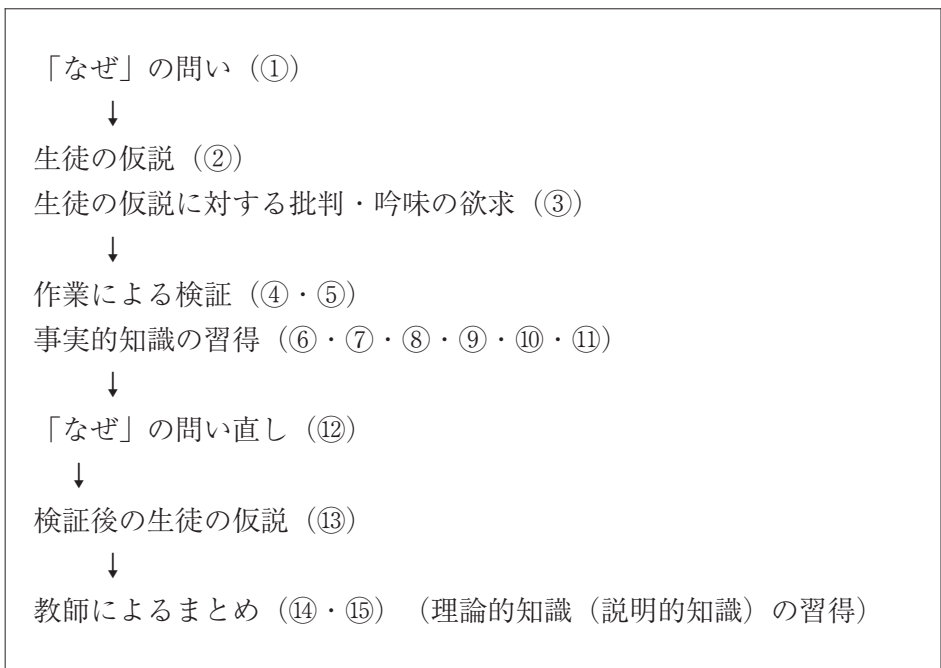
生徒／100.4。

先生／と言うことは日本よりオーストラリアは? 給料が?⑦

生徒／いい。⑧

生徒／高い。<sup>⑨</sup>  
 先生／いいんだね。オーストラリアは給料ええんよ，日本より。  
 生徒／オーストラリアいいな。  
 先生／ええじゃろ。それで，他は？ アジアはどうか？ シンガポールは？<sup>⑩</sup>  
 生徒／少ない。<sup>⑪</sup>  
 先生／アジアすごい少ないね。むちゃくちゃ少ないんだね。いいですか？ じゃあわかること書こうか。  
 作業1のどこ。  
 はい，みんなプリントの作業1のどこあるね？ どんなことがわかりますか，って。いいかな？ どん  
 なことがわかりますかってところ書いていこう。オーストラリアは？  
 生徒／給料が高い。  
 先生／給料が高い。日本よりも給料が高い。  
 生徒／ざわざわ…  
 先生／しゃべらない。いいかな？ もう一つ。アジアはどうですか？  
 生徒／アジアは少ない。  
 先生／ねえ。  
 生徒／何で？ 中国とか儲けとるんじゃないの？  
 生徒／人がたくさんいるからじゃねーの？  
 先生／んー，国全体としてはたくさん持つてるかも知れないけどね。人口が多いけんね。一人当たり  
 したら給料が少ないんよ。  
 (略)  
 先生／はい，いい？ いくよ？ それじゃあ，いくよ。こういうことがわかったね。今作業してね。オー  
 ストラリアは給料が高くて，アジアは給料が少ないよね。じゃあなんでアジアの人は，たくさんオ  
 ーストラリアに渡るの？ 移民するの？<sup>⑫</sup>  
 生徒／稼ぐため。<sup>⑬</sup>  
 先生／そうそう。稼ぐんだね。要はここ一番と二番あるね，ここに書こう。いいですか？ まずここ  
 1番。ね，いいですか？ オーストラリアで，いいですか？ 職を得るんですね。<sup>⑭</sup>  
 生徒／どこに書くん？  
 先生／右下の1番，①ってところに書いてください。職業を得るんですね，得て，豊かさを…こうです  
 ね。オーストラリアのほうが日本より給料が高い。そこへめがけて安い，給料の安いアジアの人た  
 ちが流入する，移民するんですね。何で行くんですか？ 職を求めて，豊かになるために行くん  
 ですね。<sup>⑮</sup>これが一つ理由ですね。

この授業者と学習者との対話から授業展開をみると次のように，「なぜ」の問い→仮説→  
 検証，と科学的探求過程による授業展開が実現されていることが言えよう。



#### 4. 「指導と評価の一体化」による単元「オーストラリア」の評価問題試案

以上のような単元「オーストラリア」の授業を踏まえて、指導と評価を一体化させた場合、どのような評価問題を作成することができるだろうか。以下、四つの試案を示す。

##### (1) 事実的知識確認問題

問い 次の国名のうち、アジアの国には○、アジア以外の国には×をつけなさい。  
(略)

まず、この問題は、先に示した展開Ⅰの前半部分にみられたように、作業1を踏まえた基本的な個別の事実的知識の定着を問う、知識・理解の問題である。

##### (2) 授業展開再現問題

問い オーストラリアでは、アジアからの移民が増加しています。なぜ、アジアからの移民が増加しているのでしょうか。アジアの人がオーストラリアに移民した理由を、下のグラフ1をもとに説明しなさい(①)。また、オーストラリア政府が、移民を積極的に受け入れた理由を、表1をもとに説明しなさい(②)。

グラフ1 日本を100とした主要国の賃金  
(略)

表1 おもな国の人口変遷  
(略)

解答① オーストラリアは賃金が高く、それに比べてアジアは賃金が低いので、アジアからオーストラリアの豊かさを求めてオーストラリアに移民するため。

解答② オーストラリアは人口が少ないので、移民により人口を増やして、労働力を確保し、合わせて内需の拡大も行いたいため。

この問題は、先に示した展開Ⅰの授業展開を再現した問題である。ここで特に注意したのは、①の問題である。これは第2節で示したものと同一評価問題である。第2節で示した際は、直接の授業を想定せず、評価問題そのものを検討した結果、「思考・判断・表現」の評価問題とした。しかし、今回は、直接授業で行った問い、資料そのものを直接使用して評価問題としている。その場合、理論的知識の活用よりも、いかに授業をまじめに受け、忠実に再現できるかという記憶を問うものになってしまうであろう。ゆえに、この問題は、理論的知識、事実的知識を含んだ授業展開を再現する評価問題と言えよう。

##### (3) 理論的知識活用問題

問1 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。

第二次世界大戦後、旧西ドイツは労働力確保のために、8カ国と政府間協定を結び、1973年までの間に230万人の外国人労働者を受け入れた。経済不況のため、1973年にこの外国人労働者の募集を停止したが、既に入国していた外国人労働者の多くは本国へ帰国しようとはせず、逆に長期滞在して家族を呼び寄せ、子どもも産まれたりして、



外国人労働者とその家族の人数は増加の一途をたどった。

東西ドイツは1989年に統一された。この統一によって、旧西ドイツの200万人の失業者に加え、旧東ドイツで新たに300万人が失業することが予想された。このような状況にも関わらず、統一ドイツには、旧ソ連や東欧から安全と豊かさを求めて多くの難民が流入してきた。

問い 近年、ドイツで外国人襲撃事件が頻発するようになっているのはなぜか。

「ホスト社会」「エスニック・マイノリティ」「希少資源」の語句を用いて、100字以内で説明しなさい。解答文中で用いたそれらの語句には下線を附しなさい。

解答1 統一ドイツは失業問題が深刻で、外国人労働者や難民の流入によって、仕事という希少資源の確保が危うくなったホスト社会の労働者層が、競合相手の排除を目的としてエスニック・マイノリティである外国人を襲撃している。(100字)

(「近現代史学習の授業開発研究(V)―小单元『エスニック問題に揺れるドイツ』の学習評価問題―」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』, 第29号, 2001, pp.183-184による。)

この問題は、授業展開の展開Ⅱを踏まえた問題である(もちろん、そのまま評価問題として使用するのではなく、いくらか教育的加工を施す必要がある)。この問題にみられるドイツの事例は、オーストラリアの授業で扱っていない。しかし、オーストラリアの授業の展開Ⅱにおいて「オーストラリアが不況となると、移民と競争関係になる人々の不満が大きくなり、移民に対する“いじめ”が発生する。」という説明的知識を学習させている。このことから、「経済的に不遇な状況になったとき、移民に対する排斥運動が起こりやすい。」という理論的知識(「概念的知識」)の活用を期待して、これをドイツの事例に引用・検証させ、解答を求める問題となっている。理論的知識の他の事例への活用によって、思考・判断・表現の評価を図ろうとする問題と言える。

#### (4) 関心・意欲探究課題

問い オーストラリアの学習で、移民に対する“いじめ”(排斥運動)について学習しましたが、同じようなことがおこっている国や地域を見つけ出しなさい。

問い オーストラリアの学習で、移民に対する“いじめ”(排斥運動)について学習しましたが、あなたが知っている、同じようなことがおこっている国や地域を1つあげ、具体的にどのような様子がみられるか述べなさい。

これらの問題は、関心・意欲をレポート課題として提出させ、評価しようとする問題である。前者が関心を、後者が意欲について評価を試みようとするものである。それは、次のような、関心・意欲に関する考え方をもとにしている。

「関心・意欲・態度」は、4観点の最初に挙げられた資質・能力である。観点の表記を見ると、「関心」、「意欲」、「態度」の3要素が並記されており、要素同士の違いが明確には分からない。しかし、「趣旨」を見ると、3要素は相互に密接に関連しつつも、すべて異なったものであることが分かる。

「関心」は、ある特定の事象との関連で用いられる概念である。社会科でいえば、社会的事象、歴史的事象というものが、その「事象」に当たることになる。そこで、観点別評価でも「社会的事象に関心をもち」となっている。本論では、この社会的事象への関心には、事象を知るための方法についての関心も含まれると考える。「意欲」は、「～しよう」というように、何らかの「行為」との関連で用いられる概念である。社会科の学習は、ある社会的事象の存在を知り、その事象の存在の背景や他の事象との関連等を考えたりする中で、社会の本質的なしくみや特質を発見していくことにある。したがって、積極的に社会的事象の意味や特徴や因果関係などを追究しようとする気持ちが、社会科における意欲の意味するところであると考える。また、そこには、社会的事象を知り理解するためのよりよい方法を追究するということが含まれると考える。

(光保博文・田場康己・石井孝司・出木栄子・宗本祥子・梶岡敬子・河田敦之「新しい学力観に立つ指導と評価に関する研究—社会科における関心・意欲・態度の評価を中心に—」広島県立教育センター『研究紀要』第23号、1996年、p.6より)

このように、「関心」は事象に向けられるものと捉えれば、前者の問題のように問うことで関心について評価をすることが可能となろう。ここでは、習得した理論的知識を活用して他の事象に応用・検証し、応用可能であると判断した他の事象を出来るだけ数多く集めて提示することが求められる。すなわち、応用できる他の事象の量で、学習したことから育った事象に対する関心を経験することが出来る評価問題となっていると言えよう。

一方、「意欲」は行為との関連で用いられるものとする。後者のように問うことで意欲について評価をすることが可能となろう。ここでは、習得した理論的知識を活用して他の事象に応用・検証し、できるだけ精緻に応用可能であることを論証することが求められる。すなわち、他の事象への応用可能性の説明の質で、学習したことから育った事象に対する意欲を経験することが出来る評価問題となっていると言えよう。

## 5 おわりに—「指導と評価の一体化」と「思考・判断・表現」の評価に示唆するもの—

以上の考察から、単元「オーストラリア」は、指導と評価を一体化させた「思考・判断・表現」の評価問題作成の課題と改善の方向性として、以下の二つのことを示唆していると言えよう。

一つは、理論的知識の活用を中心とすることが、思考・判断・表現の評価を実現することになること。そしてもう一つは、たとえ評価問題そのものが思考・判断・表現の評価を実現するものであったとしても、授業で取り上げた事例と同様では「指導と評価の一体化」において授業展開の再現にしかならないということである。すなわち、思考力・判断力・表現力の育成というねらいを踏まえた「指導と評価の一体化」としての思考・判断・表現の評価の実現を図るには、異なる他の事例に理論的知識を活用することが必要であるということである。

### 註

- 1) 社会認識教育学会編『地理歴史科教育』学術図書出版社、2010年、pp.49 - 55、峯明秀『社会科授業改善の方法論改革研究』風間書房、2011年、pp.79 - 110参照。
- 2) 中本和彦「高等学校地理・単元『オーストラリア』の授業設計—社会問題を中核にした地誌学習—」広島県立湯来南高等学校研究授業資料、2000年1月13日をもとに抜粋、整理。

(中本 和彦)

## 第4章 総括的評価から見た学習評価の指導方略

### —高等学校日本史Aの実践を事例として—

#### 1. 問題の所在

授業実践者は、社会科授業において、どのような学習評価を、どのような意図によって行っているのか。本章では、この問いに答えることを目的としている。

これまでの社会科教育研究では、あるべき社会科の理念に対応する具体的な授業及び評価方略を開発することが主流であった。結果、多くの授業及び評価方略<sup>1)</sup>が教育現場に提供されることとなった。これらを学校現場での活用につなげていくことが、今後の社会科教育の研究上の課題である。しかしながら、社会科教育の研究とは関係なく、教育現場では、授業及び評価方略が実践され、学力保障の試みがなされている。それらは理論こそ明示されていないものの、経験的に導き出された実践的な授業や評価方略である。このような授業及び評価方略と研究上で開発され、説明されているものとの相違点が明らかとなれば、研究と教育現場の乖離を埋め、先の課題の解決につながるのではないかと。

本章では、社会科教育における「学習評価」の先行研究に基づき、授業実践者<sup>2)</sup>による総括的評価からみた学習評価の方略を明らかにする。これまでに分析された内外の学習評価の方略、もしくは演繹的に開発された学習評価の方略と経験に基づき帰納的に開発され、実践された学習評価の方略の相違点を明らかにすることにより、教育現場と研究をつなげる1つの視点が提示できるといえよう。

#### 2. 研究の方法

##### (1) 学習評価を捉える枠組み

「学習評価」とは、指導のための資料として、生徒の学習状況を判断する行為である<sup>3)</sup>。本章では、「授業実践者は、授業場面に応じて、“学習評価”のための方略を選択している」という前提に立ち、その方略と構成とその意図を明らかにする。

なお、「学習評価」の方略は、通常、授業実践者の授業中の声掛け、見取り等も含まれるが、本章では、「客観テスト」を用いたものに限定する。「客観テスト」は、「問い」と「答え」で構成されており、学習評価の行為の具体が明確である<sup>4)</sup>。そのため、追試可能性が高く、想定される到達点のぶれが少ない。また、授業実践者の使用した「客観テスト」を捉える枠組みとして、「問い」と「答え」の先行研究を踏まえ<sup>5)</sup>、大きく3つのパターンを設定した。

- A. 記述的知識を問う客観テスト：情報を求める問い
- B. 説明的知識を問う客観テスト：情報間の関係を求める問い
- C. 規範的知識を問う客観テスト：価値判断を求める問い

A, Bは、事実に関係した問いで構成された客観テストである。このうち、Aは、社会に存在する情報の内で、事象の存在について述べた知識を問う「客観テスト」である。Bは、社会事象についての分析を述べた知識を問う「客観テスト」である。また、Cは、どちらを選ぶべきかといった価値に関係した知識を問う「客観テスト」である。

この枠組みを前提とし、授業実践者の学習評価のための方略とその構成を示す。

## (2) 研究の対象と方法

本章で取り上げるのは、2011年9月から10月に高等学校で行われた「日本史A」の授業及び中間テストである。分析にあたり、高等学校に勤務する地理歴史科の教員A氏<sup>6)</sup>に、対象となる授業に関するプリント、テスト及び板書、課題、中間テスト及びその解答を提供いただいた<sup>7)</sup>。

ここでは、まず、授業と学習評価、総括的評価の全体像を示し、学習評価方略の構成とその特質を示す。次に、授業実践者に作成・実施の意図に関するインタビューをする。最後に、総括的評価から見た学習評価のための方略とその構成の関係を明らかにする。

## 3. 学習評価の実際

### (1) 総括的評価の位置づけ

A氏の作成する総括的評価は、実教出版『新訂版 高校日本史A』2011年の「第1章 大日本帝国の誕生」の72ページから87ページまでの範囲を前提とした中間テストである。A氏は、中間テストまでを含め9時間の一連の授業を行っている。表1では、この授業における授業と学習評価の関係を示すために、時間、授業でのMQ (Main Question)、学習評価の実施のタイミングをまとめた。

表1 授業と学習評価の関係—単元「大日本帝国の誕生」の場合—

時間	授業でのMQ	学習評価	
		授業前	授業後
1時間	なぜ日本は朝鮮を開国させたのか	—	テスト1
2時間	自由民権運動はどうひろまったのか	テスト1	テスト2
3時間	国民はどのような憲法を求めたのか	テスト2	テスト3
4時間	民衆はなぜたちあがったのか	テスト3	テスト4
5時間	憲法をなぜドイツに学んだのか	テスト4	テスト5
6時間	日本は朝鮮・台湾をどのように侵略したのか	テスト5	テスト6
7時間	条約改正が実現した背景はなにか	テスト6	テスト7
8時間	まとめプリントの実施	テスト7	—
9時間	中間テスト		

授業全体の流れとの関係を踏まえると、総括的評価である中間テストに対し、テスト1～7やまとめプリントが形成的評価に位置づいているといえる<sup>8)</sup>。個々の授業では、最初に「問い」を提示し、その問いに答える形の授業となっている。次に、授業と学習評価の実施のタイミングに着目すると、テスト1～7は、授業後に学習内容の確認を行い、授業前に前回の学習内容の復習を行う形になっていることが指摘できる。また、中間テストの前に「まとめプリント」が実施され、これまでの学習内容の復習が行われている。このことから、テスト1～7は形成的評価、中間テストは総括的評価の役割を果たしていることが指摘できる。以下、テスト1～7、まとめプリント、中間テストについて問いと答えの分析から、それらの客観テストの特質を見ていこう。

## (2) 学習評価の分析

### ア. 形成的機能を持つ学習評価の場合

#### ①テスト1～7の特質

テスト1～7はいずれも5問で構成されており、35問で構成されている。以下はそのうち「テスト1」を抜き出したものである。テスト1にあるように、答えを記述させる内容となっている。これらの問いに着目すると、「～何というか」「何か」「誰たちか」「何と呼ばれるか」のようになっており、いずれも情報を求める問いで構成されている。よって、記述的知識を問う問題といえる。また、ここで問われている言葉は、教科書では太字で示されている言葉もしくは、授業の中で強調されていた言葉である。

テスト1～7を通して行われる学習評価は、授業で扱った記述的知識の定着の有無が確認されている。

#### <テスト1>

- ① 1879年、政府は軍隊を琉球に送って藩と王府を廃し、沖縄県をおいたがこれを何というか。
- ② 江華島事件をきっかけとして、1876年日本が朝鮮政府に迫って結ばせた条約は何か。
- ③ 1882年、朝鮮で日本に対する不満から反乱がおり、守旧派の大院君が権力をにぎった事件を何というか。
- ④ 1884年、朝鮮で金玉均らが近代化を図ろうとシクーデターをおこしたが、清国軍にやぶれ、日本に亡命した事件を何というか。
- ⑤ この事件後、派兵時には事前通告するなどの内容で、日本と清国が結んだ条約を何というか。

(下線部は井上による)

#### ②まとめプリントの特質

8時間目のまとめプリントは教科書、ノートを見ながら行われた。また、このまとめプリントは、大問が17題で構成され、3つの異なる形式で構成されている<sup>9)</sup>。

まず、1つ目は、小テスト1～7がそのまま示されている。35の記述的知識が問われている。つまり①の分析で明らかとなったように、記述的知識の定着を確認する問題である。

2つ目は、隠された教科書の太字を答える形式のものが7題示されている。それぞれ10～12程度の文字が隠され、記述を完成されるために必要な記述的知識の確認が行われている。

3つ目は、リード文と問いで構成される問題であり、小問9題が示されている。それぞれを構成している2～3問の問いの答えがどのような種類の知識であるかに着目すると、以下の2種類に分けられる。それぞれの特質について見ていこう。

#### ○個別的知識を問う問題だけで構成 (小問4題, 12の記述的知識が問われている)

「～何か」のように、記述的知識を問う問題だけで構成されているものである。

#### ○個別的知識を問う問題と説明的知識を問う問題で構成 (小問5題)

小問の最後の問題を解く上での前提となる記述的知識を最初に問い、最後にこれらを前提として説明的知識を問う構成となっている。

例えば、「この本はあるイギリスの思想家の著作を翻訳したものです」というリード文と、中村正直が翻訳した『自由之理』の写真が示されている小問がある。ここでは、まず、問1「イギリスの思想家とは誰のことか、また、その著作の題名は何か」（正解：J.S.ミル“On Liberty”）、問2「翻訳したのは誰か」（正解：中村正直）と2つが出されている。いずれも、「誰か」「何か」という問いを発していることから、記述的知識を問うている。そして、問3では「この本は当時の社会にどのような役割を果たしたか」のように、当時の社会におけるJ.S.ミルの「On Liberty」の位置づけの記述を求め、説明的知識を問うている。

以上の分析から、8時間目のまとめプリントでは、テスト1～7、教科書記述の穴埋めのように、授業で扱った記述的知識の定着の有無の確認を行う問題と、記述的知識の想起とそれを踏まえた説明的知識の記述を求める1～3の問いからなる小問形式の問題で構成されている。

#### イ. 総括的機能を持つ学習評価の場合

中間テストは、2012年10月12日(水)2限目に行われ、授業者により作成されたものである。中間テストは、大問6つで構成されている。また、解答用紙には、61の解答欄で構成されており、「\*漢字で書くところは漢字で、語群があるところは語群の通りに書くこと！」と記載されている。(中間テストの実際はp.51～54に掲載。)以下、大問ごとに見ていこう。

1)は、「明治における国境の確定と近隣外交について、以下の問題に答えなさい。」というリード文が示され、6つの問いで構成されている。問1～問4、問6は、「～どこか」「～何というか」「～何か」のように記述的知識を問うものとなっている。一方、問5は、「①伊藤博文が全権大使として天津に赴き、清国の李鴻章との間に天津条約を結んだ」「②急進改革派の金玉均らは駐留日本軍の支援により、クーデターを起こし失敗した」「③日本と閔氏に不満を持つ兵士や民衆が一斉蜂起し、閔氏一族や日本大使館を襲撃し、保守派の大院君を政権に就けた」といった3つの歴史上の出来事が示され、「年代の古い順に配列」することが求められている。情報間の関係を問うていることから、説明的知識を問う問題である。

2)は、「自由民権運動と政党について、以下の問題に答えなさい。」というリード文が示され、3つの小問が示されている。そのうち、問1は、自由民権運動と政党についての文章の埋めるものとして適切な言葉を選択する問題である。12の適切な語句の選択が求められている。いずれも、教科書、授業で強調された言葉であるため、記述的知識の想起を求める問題である。また、問2、3は、「何か」「何といわれるか」という問いで構成されており、記述的知識の想起が求められている。

3)は、「大日本帝国憲法に関する以下の問題に答えなさい」というリード文が示され、9つの小問が示されている。問1は「大日本国憲法」の条文の穴埋めが求められ、問2～5、8、9は、「～何か」という問いがなされており、記述的知識を問う問題となっている。問6は、風刺画が示され、「①この店の看板に書かれている文字を読みなさい」「②漫画の客はイギリス風、フランス風、アメリカ風ではなく、ドイツ風にしてくれと頼んでいるが、それはこの時期の政府のどのような政治路線を風刺しているか説明しなさい」の2つの問

いが示されている。①は読み取りであることから、記述的知識を問う問題、②は、説明的知識を問う問題といえる。問7は、『ベルツの日記』を提示し、当時の人々の受け止め方を説明することを求めており、問6の②と同様、説明的知識を問う問題といえる。

4)は、「次の文章は、条約改正へのあゆみについて述べたものである」というリード文が示され、3つの小問が示されている。問1は、空欄にあてはまる語句としての適語の選択を求めており、記述的知識を問う問題である。問2は、「～何か」という問いであり、記述的知識を問うている。問3は、問1の穴埋めで完成した(1)～(6)の歴史的出来事を条約改正へのあゆみにそった並び替えを求めているため、説明的知識を問う問題といえる。

5)は「日清戦争について答えなさい」というリード文と、3つの空欄が含まれた1894年と1895年の出来事の一覧が示され、5つの問いが示されている。問1は提示されている出来事一覧の空欄を埋める問題、問2～4はいずれも、「どんな人たちか」「どこか」「何と云うか」と問われており、いずれも記述的知識が問われている。

6)は「次の問題に答えなさい」というリード文のあとに、10の小問が示されている。いずれも、「何と呼ばれるか」「誰か」という問いが発せられており、記述的知識が問われている。

以上の分析から、中間テストでは、まず、記述的知識を問うた上で、説明的知識を問う問題(大問1)～5))と記述的知識のみを問う問題(大問6))で構成されている。

## ウ. 学習評価方略の対応関係

### ①知識の質と問題の重なり

次ページの表2は、3つの学習評価のために実施された客観テストの分析を踏まえ、問われている知識の質及び問題の重なりを示したものである。縦軸に、「規範的知識」「説明的知識」「記述的知識」を位置づけ、それぞれで問われている知識の種類を分類した。横軸は、テスト1～7、まとめプリント、中間テストそれぞれの問題に見られる重なりを示した。問われている知識の質に着目すると全体として、記述的知識を問う問題が多く、規範的知識を問うものは見られない。テスト1～7では、35の解答のすべてが記述的知識であった。まとめプリントでは、記述的知識が142、説明的知識が5つ問われていた。中間テストでは、記述的知識が52、説明的知識が4つ問われていた。問題の重なりという点では、中間テストを基準とすると、61の問題のうち、37がテスト1～7、まとめプリントで出されていた問題と重なった。これは、中間テストで出された問題の61.6%にあたる。これ以外の問題は、24題出されており、そのうち、説明的知識を問うているものが、4)問3のみであり、その他は記述的知識を問うものであった。

### ②問題の形式

次ページの表3は、テスト1～7とまとめプリント、中間テストの学習評価方略に見られる形式の違いをまとめたものである。記述的知識のみの問題は、テスト1～7、まとめプリント、中間テストと進むにつれて出題頻度が減っていくのに対し、記述的知識と説明的知識から構成される問題は、まとめプリント、中間テストと進むにつれて、出題頻度が増えていることが指摘できる。

表2 3つの学習評価のための方略に見られる知識の質と問題の重なり

	テスト 1～7	まとめプリント	中間テスト
規範的知識	－	－	－
説明的知識	－	2) 9のQ3, 2) 10のQ3	－
		2) 12のQ2	3) 問6②
		3) 問2	3) 問7
		3) 問3	1) 問5
		－	4) 問3
記述的知識	テスト 1～7	1) 35問全問	1) 問3, 問4, 2) 問2, 3) 問2, 問3, 問5①, 3) 問2, 問3, 問5①, 3) 問2, 問3, 問5①, 4) 問2, 5) 問4, 6) 1～10
		2) 9のQ1, 2, ①～⑫	2) 問1①～⑧
		2) 10のQ1, 2, ①～⑨	2) 問1⑨～⑫
		2) 12のQ1, ①～⑮	3) 問6①
		3) 問1①②③	3) 問1①～③
		－	1) 問1, 問2, 問6 2) 問3 3) 問4, 問5②, 問8, 問9 4) 問1①～⑨ 5) 問1①～③, 問2, 問3, 問5
		2) 8①～⑭ 2) 11のQ1, 2, 3, ①～⑬ 2) 13のQ1, 2, 3, ①～⑭ 2) 14のQ1, 2, 3, ①～⑫	－

表3 学習評価方略に見られる問題の形式

形式 ＼学習評価のための客観テスト	形成的評価		総括的評価
	テスト1～7	まとめプリント	中間テスト
説明的知識のみ	0	2	0
記述的知識と説明的知識	0	3	5
記述的知識のみ	7	12	1

以上, ①②より, 学習評価方略は以下のような特質があるといえる。

- (ア) 形成的機能を持つ学習評価, 総括的機能を持つ学習評価のいずれについても, 説明的知識より記述的知識がより多く問うている。
- (イ) 総括的機能を持つ学習評価では, テスト1～7やまとめプリントで問われていた問題との重なる問題が61.6%を占めている。また, 重複しない問題は, 1つをのぞき全て記述的知識である。



(ウ) 授業が進むにつれて、記述的知識を問う問題の出題頻度が減少し、記述的知識と説明的知識を問う問題が増えている。

#### 4. 授業実践者の意図

(ア)～(ウ)の特質に関して、実践した授業実践者に対してインタビューを2012年3月24日に授業実践者の勤務高校で、1時間半程度行った。その際、(ア)～(ウ)の点が、生徒の学力を保障する上でどのような意味を持つものと考えているのかについて話をしていた。その中から、いくらか抜粋し、授業実践者の意図を分析する<sup>10)</sup>。

(ア) 形成的機能を持つ学習評価，総括的機能を持つ学習評価のいずれについても、記述的知識が問われることが多いのはなぜか？

〔回答〕

○記述的知識をしっかりと覚えておかなければ、説明的知識を問う問題は解けない。また、通常の授業前後に行うテストでは、説明的知識を問う問題を解かせるだけの十分な時間が取れない。

○説明的知識を問うような問題は、長期休み明けの課題として出したい。その場では、関連する知識をあまり知らないような生徒であっても、調べる時間があるので、しっかり、考えることができる。

○高校を卒業すると、そのまま社会に出る生徒も多い(注:勤務校は工業科である)。そのため、就職試験に出るような知識は、「漢字」でしっかり書けるようになってほしい。解釈をさせる授業も必要とは思いますが、まずは、解釈の材料となる知識を生徒がもっていない状況では、その段階まで至らないというのが実状である。

○中間テストは、学籍簿に残る「評定」につながる。その意味では、評価する側の解釈が揺れるような問題が多い説明的知識を問う問題は作りにくい。もし、説明的知識を記述させるような形で問うのであれば、是非の判断基準がしっかりしている形で・・・例えば、7行目まで書いている、文章になっているような形式なもの・・・で判断するしかない。そのため、中間テストでは、採点の基準を説明しやすいものを出すことにしている。

(イ) 総括的機能を持つ学習評価では、テスト1～7やまとめプリントで問われていた問題との重なる問題が61.6%を占めている。また、重複しない問題については、記述的知識が多く問われているのはなぜか？

〔回答〕

○生徒は、問いの形式を変えると問題が解けなくなる傾向がある。また、以前問いた問題は正答率が高い。まとめプリントは、問題を解く練習が必要であるという判断から行っている。そのため、結果として、重複する部分が増えてくる。

○重複しない問題は、授業で扱った。まとめプリントでは出していないが、ノートに書かせ、教科書で確認した知識である。授業をしっかり受け、ノートや教科書をしっかり読めば、解ける問題である。

(ウ) 授業が進むにつれて、記述的知識を問う問題の出題頻度が減少し、記述的知識と説明的知識から構成される問題が増えてくるのはなぜか？

〔回答〕

○通常の授業で行うテスト1～7は、授業で扱った内容を理解するのに必要な知識の確認が中心である。ただ、中間テストでは、そのような問題は適切ではない。そのため、まとめプリントでは、問題の形式に慣れさせることを意図している。そのことが結果として記述的知識と一般的知識から構成される問題が増えていくことにつながっているのではないか。

以上のインタビューの結果は以下のようにまとめられる。

1. 就職試験に出るような最低限の知識は、獲得・確定する必要がある。
2. 解釈を問うような問題は、そのために必要な知識を調べ、考える時間がたくさんある中で行われるのがよい。(だから中間テストにはあまり適さない)
3. 問題の形式に慣れさせる必要がある。
4. 評価の基準が確定しにくい問題は、評定につながる中間テストには適さない。

授業実践者は、学習評価方略を構成する際、社会科として身につけるべき学力は何かという観点よりはむしろ、最低限身につけて欲しい知識(記述的知識)や力(漢字で書けなければならぬ)を意識した問題作りと、生徒の学習を想定した形成的評価と総括的評価の問題作りをしていることが分かった。そのため、授業で取り扱っていない知識を問うことや問題の形式の変化した問題による総括的評価の実施は、生徒の学力を示す基礎資料として(評定につながる資料として)、不適切であると考えていることも分かった。

授業実践者の選択意図を踏まえると、今後は、学習評価の指導方略の分析・開発とともに、開発された問題の評価資料の使い方の分析が必要であることが示唆できる。

## 5. 社会科授業における学習評価の指導方略

本章では、高等学校で実施された学習評価の指導方略の特質を明らかにしてきた。その結果、ある意味、「暗記」中心であるという状況を裏付けるものとなっていた。しかし、授業実践者の意図に着目すると、高等学校の社会的位置づけを踏まえた上での選択であり、合理性のある学習評価の指導方略であった。この合理性を踏まえなければ、研究上の成果を現場に活かすというのは難しいのではないか。

これまでの社会科教育の研究の中では、「暗記」中心につながる学習評価をいかに克服するかの議論が中心であった。しかし、それは「社会科として身につけるべき学力とは何か」という問いから見た批判であり、学校における学習評価の文脈を踏まえない議論ではなかったか。今回の分析から、今後は、授業実践者の位置づけを踏まえた学習評価及び指導方略についての選択肢の提供とその選択の論理の解明が求められているといえよう。

## <謝辞>

本章の作成に当たり、甲斐恵先生に多大なご協力をいただいた。感謝申し上げます。

### 【註および参考文献】

- 1) 社会科の評価に着目すると、棚橋、峯、井上を挙げることができる。棚橋はアメリカ社会科学習評価、峯は社会科授業評価におけるPDCAについて、井上は授業観に対応した客観テストの開発を行った。  
棚橋健治『アメリカ社会科学習評価研究の史的展開』風間書房、2002年。  
峯明秀『社会科授業改善の方法論改革研究』風間書房、2011年。  
井上奈穂「社会科教育における目標に対応した評価法－科学的探求にもとづく理論学習の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』・第65号・2006年・pp.11 - 20  
井上奈穂「社会系教科における評価法開発の論理－「科学的知識の形成」を目標とする授業の場合－」日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』・第32巻・第2号・2009年・pp.49 - 58  
井上奈穂「社会系教科における評価のためのツール設計の論理－社会的事象に関する知識の獲得を目的とする授業の場合－」鳴門社会科研究学会『社会認識教育学研究』・第25号・2010年・pp.31 - 40
- 2) 研究的な視点との区別を明らかにするために、教職経験が、10年以上で、大学での専門が教科教育でなく、学会に所属していない授業実践者を任意に選択した。
- 3) 鹿毛雅治「教育評価の目的」森敏昭、秋田喜代美編『重要用語300の基礎知識<sup>①9</sup> 教育評価』明治図書、2000年、p.16を参考に発表者が定義づけた。
- 4) 「客観テスト」の特質については、以下の文献を参考にした。  
長澤俊幸「客観テスト」辰野千尋・石田恒好・北尾倫彦監修『教育評価事典』図書文化、2006年、pp.157 - 158。  
松井仁「論文体テストと客観テスト」森敏昭・秋田喜代美編集『重要用語300の基礎知識<sup>①9</sup> 教育評価重要用語300の基礎知識』明治図書、2000年、p.246。
- 5) 岩田一彦「問い・知識の分析と授業設計」岩田一彦編『小学校 社会科の授業設計』明治図書、1991年、pp.33 - 45。  
この枠組みを用いたセンター試験の問題を分析した論文として以下が挙げられる。  
峯明秀「学習指導要領「公民科」目標と学力形成指導の実際：大学入試センター試験評価基準を手がかりにして」大阪教育大学教科教育学会『教科教育学論集』第4巻、2005年、pp.15 - 24。
- 6) A氏は、10年以上の教職経験がある。また、大学の専門は歴史学で、これまでの経験科目は、日本史A、世界史Aである。
- 7) 使用に当たっては、生徒の個人情報保護という観点に十分考慮して、使用した。
- 8) 総括的評価、形成的評価については以下の文献を参考とした。  
撫尾知信「診断的評価・形成的評価・総括的評価」辰野千尋・石田恒好・北尾倫彦監修『教育評価事典』図書文化、2006年、pp.62 - 63。
- 9) まとめプリントは、実教出版『新訂版 高校日本史A』2011年の教科書準拠CDの内容をA氏が再構成したものである。(p.45～50に掲載)

10) 表4では、「中間テストの正答率と知識の質」を示した。表4にあるように説明的知識より記述的知識を問う問題の正答率が高い。また、重複のない問題が多く問われている4)は最も正答率が低く、逆に、重複が多い6)の正答率が高い。このことから、授業での学習評価が一定の効果を挙げていたといえる。また、この数値を、授業実践者に見ていただいたところ、ほぼ予想通りの結果とのことであった。(p.51～54に掲載)

表4 中間テストの正答率と知識の質

	1)	2)	3)	4)	5)	6)	正答率
説明的知識	問5 (59.74)		問6 <u>② (46.75)</u> 問7 (57.14)	問3 (20.78)			46.10
記述的知識	問1 (15.58) 問2 (32.47) 問3 (95.45) 問4 (81.17) 問6 (21.43)	問1 <u>① (83.12)</u> <u>② (98.70)</u> <u>③ (92.21)</u> <u>④ (79.22)</u> <u>⑤ (80.52)</u> <u>⑥ (97.40)</u> <u>⑦ (90.91)</u> <u>⑧ (87.01)</u> <u>⑨ (94.81)</u> <u>⑩ (97.40)</u> <u>⑪ (87.01)</u> <u>⑫ (97.40)</u> 問2 (47.19) 問3 (12.99)	問1 <u>① (89.61)</u> <u>② (46.75)</u> <u>③ (84.42)</u> 問2 (79.22) 問3 (69.48) 問4 (23.38) 問5 <u>① (70.13)</u> <u>② (26.62)</u> 問6 <u>① (44.16)</u> 問8 (45.45) 問9 (40.26)	問1 <u>① (61.04)</u> <u>② (72.73)</u> <u>③ (58.44)</u> <u>④ (92.21)</u> <u>⑤ (98.70)</u> <u>⑥ (88.31)</u> <u>⑦ (42.86)</u> <u>⑧ (70.13)</u> <u>⑨ (93.51)</u> 問2 (97.40)	問1 <u>① (24.03)</u> <u>② (29.22)</u> <u>③ (73.38)</u> 問2 (24.68) 問3 (51.95) 問4 (94.16) 問5 (36.61)	1 (64.94) 2 (93.51) 3 (98.70) 4 (58.44) 5 (81.17) 6 (91.56) 7 (89.61) 8 (85.71) 9 (75.97) 10 (97.40)	69.73
正答率	50.97	81.85	55.64	72.37	48.14	87.30	65.14

\*重複なしの問題は網掛け、まとめプリントのみの重複問題は下線、残りは、テスト1～7とまとめプリントでの重複問題である。なお、カッコ内は各問の正答率である。

(井上 奈穂)

## 日本史 A 2 学期中間テスト対策プリント ①

- 1) 次の問題に答えなさい。
- 1879年、政府は軍隊を琉球に送って藩と王府を廃し、沖縄県をおいたが、これを何と  
いうか。
  - 江華島事件をきっかけとして、1876年日本が朝鮮政府に迫って結ばせた条約は何か。
  - 1882年、朝鮮で日本に対する不満から反乱がおこり、守旧派の大韓君が権力をにぎ  
った事件を何と  
いうか。
  - 1884年、朝鮮で金玉均らが近代化を望もうとしてクーデターをおこなったが、清国軍にやぶ  
れ、日本に亡命した事件を何と  
いうか。
  - 4の事件後、派兵時には事前通告するなどの内容で、日本と清国が結んだ条約を何と  
いうか。
  - 1874年1月に板垣退助が政府に提出したのは何か。
  - 6には何が要求されていたか。
  - 三権分立をめぐって、大審院（裁判所）と地方官会議と何が設置されたか。
  - 1880年3月に国会開設をめざす組織として愛国社が結成したのは何か。
  10. 民権運動の取り締まりを強化するために、政府が定めた条例は何か。
  11. 国会を開設してイギリス流の政党内閣制を実現するという案を提出したのは誰か。
  12. プロイセン流の君主（天皇）の権限が強い憲法をつくらうとしたのは、誰たちか。
  13. 国会開設の勸諭を出して国会開設を約束するとともに、官有物の払い下げを中止して、  
大隈を政府から追放した事件は何と呼ばれるか。
  14. 1881年結成された、日本最初の政党である自由党の初代党首は誰か。
  15. イギリス流の政治体制を実現することを目標とし、大隈重信を党首とした政党は何か。
  16. はげしいデモレーション（松方デフレ）をまねく政策を行った大隈重信は誰か。
  17. 明治政府は政党の活動を取り締まるために、どのような条例を定めたか。
  18. 福島事件・群馬事件・加波山事件などが起こった後、自由党はどうなったか。
  19. 1887年夏から、全国に広がった三大事件連白運動は、地租軽減、言論・集会の自由と  
何を要求する運動だったか。
  20. 1890年に旧自由党員が中心となって結成された政党は何か。
  21. 1885年、太政官制度を廃止して何制度が創設されたか。
  22. 大日本帝国憲法のように、天皇が定めた憲法を何と  
いうか。
  23. 帝国議会は二院制となったが、何院と何院か。
  24. 1882年、天皇が軍人に対して与えた勅諭は何か。
  25. 1890年に出された教育に関する天皇の言葉は何か。
  26. 立憲自由党や立憲改進黨などの民党に対して、政府支持党は何と呼ばれたか。
  27. 1894年朝鮮において宗教結社の東学などが指導する大規模な反乱を何と  
いうか。
  28. 1895年に閣内閣で結ばれた、日清戦争の講和条約は何か。
  29. ロシアが、ドイツ・フランスとともに遼東半島を清国に返還するよう要求したことを、  
何と  
いうか。
  30. 親ロシア政策を主導した朝鮮王配を誰とした事件を何と  
いうか。

31. 甲午条約（不平等条約）反対運動が広がったきっかけとなった、1886年の遷都騒ぎは  
何か。
- 1894年、治外法権を撤廃する日英通商航海条約が締結されたときの外相は誰か。
- 1911年、関税自主権の完全回復が実現した時の外相は誰か。
- 1900年、「扶清滅洋」を唱える義和団が北京の列国大使館を包囲し、清国政府もこれ  
に同調して列国に宣戦布告したが敗北した。これを何と  
いうか。
- 1902年ロシアの南下に対抗するため、日本とイギリスの間で結ばれた同盟は何か。

## 2) 教科書を参照しながら、以下の問題に答えなさい。

### 8 新政府の近隣外交 - なぜ日本は朝鮮を開国させたのか - 教科書 p. 72-73

#### 用語記入欄

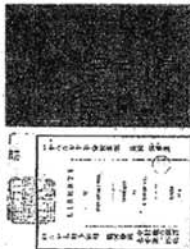
- 【国境の画定と琉球処分】(①) 諸島が日本領であるこ  
とを、政府は1876年に再宣言した。また、政府は1875年に  
全千島列島を日本領、樺太をロシア領とする(②) 交換条約をむす  
んだ。1871年に相互に平等な(③) 条約がむすばれたが、琉球の領  
土問題は解決しなかった。政府は1872年に琉球藩をおき、琉球の藩  
流民が台湾先住民に殺された1871年の事件を理由に、1874年に清国  
領の(④) に出兵し、琉球が日本領であることを清国に示した。  
1879年、政府は軍隊を琉球に送って藩と王府を廃し、沖縄県をおいた。  
このことを「(⑤)」という。

【征韓論と日朝修好条約】政府は、朝鮮の地位を一段低くした国交に改  
めようとした。朝鮮政府は、日本を「無法の国」と非難した。いっぽう、  
日本国内では不平士族らが(⑥) をとなえはじめた。岩倉らが外遊  
中に西郷隆盛らの留守政府は征韓論を決定したが、帰国した岩倉・大久  
保・木戸らが内閣優先を主張してこれに反対し、征韓派は辞職した。

1875年、江華島付近の領海に許可なく接近した日本軍艦沈没は、(⑦)  
砲台から砲撃を受け、これに反撃した。大久保はこの事件を理由  
に艦隊を派遣し、朝鮮政府にせまって(⑧) をむすばせ、朝鮮を開  
港させた。(⑧) は朝鮮を「自主の国」として清国との宗属関係を  
否定し、日本の(⑨) を認め、付属文書で(⑩) を定めた。  
【壬午軍乱・甲申事変】1882年、旧軍兵士が反乱をおこし、日本公使  
館をおそい、守旧派の(⑪) が権力をにぎった。この事件を(⑫)  
という。1884年、金玉均ら急進改革派が、清国にたよる憲法改  
革派権力を打倒したが、強大な清国軍にやぶれ、金玉均らは日本に亡命  
した。この事件を(⑬) という。日清両国は、両国軍を撤退させ、  
派兵時には相互に事前通告をするという(⑭) 条約をむすんだ。

# 9 民権思想と国会開設運動 - 自由民権運動はどうひろまったのか - 教科書 p. 74-75

Let's Begin 啓蒙思想



この本はあるイギリスの思想家の著作を翻訳したものである。  
 [Q1] イギリスの思想家とは誰のことか。その著作の題名はなにか。

[Q2] 翻訳したのは誰か。

[Q3] この本は当時の社会にどのような役割を果たしたか。

【自由民権のめばえ】1873年になると、福沢諭吉、森有礼らは( ① )をつくり、欧米の近代思想や政治制度を紹介した。1874年、前年に征論論を主張して参議を辞職した板垣退助らが、( ② )を政府に提出した。これに対し政府は、1875年に( ③ )と議院律を定めた。

1874年、板垣らは土佐に( ④ )を創立し、翌年に板垣らは全国の同志の連絡組織として、( ⑤ )を創立した。  
 大久保利通は( ⑥ )・板垣と大政会議を開き、二人の復讐を条件に立憲政体をめざすことを約束した。これを受けて、( ⑦ )の語が出された。また、三権分立をめざして、最高の裁判所である大審院、立法の諮詢機関としての( ⑧ )、府知事・県令からなる地方官會議が設置された。

【国会開設の請願へ】1877年、( ⑨ )は建白書を提出して政府に国会の開設、立憲政体の樹立を迫り、翌年、各地に呼びかけて愛国社を再組織した。参加者は、最初、ほとんど士族であったが、その後、( ⑩ )がふえていった。( ⑪ )たちは各地で結社をつくり、学習活動をするなながら、演説会の開催、署名集めなどの政治活動に取り組んだ。新聞は民権の主張をかかげて政府を批判し、各地の運動のようすを全国に伝えた。1880年、愛国社は国会開設をめざす全国組織として、( ⑬ )を結成し、国会の開設を求める請願書を政府に提出したが受理されなかった。政府は、かえって( ⑭ )を定めて取締りを強めた。こうしたなかで、( ⑮ )は第2回大会を開き、翌年の大会までに各政社が憲法草案を起草してもちよることなどを決定した。また、運動の力を強めるために、政党を結成しようとする動きもおこってきた。

用語記入欄

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- ⑥ \_\_\_\_\_
- ⑦ \_\_\_\_\_
- ⑧ \_\_\_\_\_
- ⑨ \_\_\_\_\_
- ⑩ \_\_\_\_\_
- ⑪ \_\_\_\_\_
- ⑬ \_\_\_\_\_
- ⑭ \_\_\_\_\_
- ⑮ \_\_\_\_\_

# 10 私擬憲法と政党的結成 - 国民はどのような憲法を求めたのか - 教科書 p. 76-77

Let's Begin 日本国憲案



[Q1] 国民の手で憲法をつくりたいという要求として作成された憲法草案をなんとよぶか。

[Q2] この『日本国憲案』をつくった人はだれか。

[Q3] この第70条には「政府国憲二進督スルトキハ日本人民ハ之ニ從ハザルコトヲ得」(政府が定められている憲法に背いた場合には、日本の人民はその政府に従わないことができる)と記されている。これは国民の権利としてどのようなことを認めているのか。

【明治14年の政変】1881年、参議( ① )は同年中に憲法を制定し、83年初めには国会を開設してイギリス流の政党内閣制を案出するとしてこの案を提出した。右大臣岩倉具視や参議( ② )らは、急進的であるとしてこの案に反対を強めた。彼らはプロイセンにならって君主(天皇)の権限が強い憲法をつくることを申し合わせた。1881年、折しも暴露された( ③ )事件をめぐって、世論は激しく政府を攻撃し、政府首脳部は窮地に立たされた。こうしたなかで岩倉・伊藤らを中心とする勢力は、( ④ )の動議によって1880年に国会を開くことを約束するとともに、官有物の払い下げを中止し、( ⑤ )を政府から追放した。これを( ⑥ )の政変という。

【自由党と改進黨】払い下げ事件で世論が沸き立つなか、政界結成の準備をすすめてきた各地の民権家は、( ⑦ )第3回大会に集まっていた。彼らは自由党の結成を決め、政変後、( ⑧ )を党首に選んで、日本最初の政党を結成し、政治の根本的な改革をめざした。組織の中心は、国会開設運動に取り組んできた愛国社系の政社や地方の豪農層であった。

いっぽう、大隈に同調して政府を去った官僚たちは、新聞記者などがつくっていた都市の結社を母体として、翌年、大隈を党首とする( ⑨ )を結成した。急進的な改革を否定し、穏健な改良によってイギリス流の政治体制を実現することが目標であった。結成後、各地に遊説をおこなうなどして党員をふやし、都市の商工業者や地方の有力者・資産家層に支持をひろげていった。

民権運動には、岸田俊子、( ⑩ )らの女性が加わり、男女同権などを訴えた。

- まとめ
- 用語記入欄
- ① \_\_\_\_\_
  - ② \_\_\_\_\_
  - ③ \_\_\_\_\_
  - ④ \_\_\_\_\_
  - ⑤ \_\_\_\_\_
  - ⑥ \_\_\_\_\_
  - ⑦ \_\_\_\_\_
  - ⑧ \_\_\_\_\_
  - ⑨ \_\_\_\_\_
  - ⑩ \_\_\_\_\_

## 日本史 A 2学期中間テスト対策プリント ②

### 11 松方財政と秩父事件 - 民衆はなぜたちあがったのか - 教科書 p. 78-79

Let's Begin 義経 1888年 秩父事件 民衆の立ちあがり

【Q1】左の図は秩父事件で農民軍が発行した軍用金の領収書である。領収書はどんな名称で発行されているのか。

【Q2】秩父事件にはどのくらいの農民が参加したのか。

【Q3】参加者は具体的になにを要求したのか。

用語記入欄

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13

【松方デフレ】政府は西南戦争の戦費調達のため不換紙幣を乱発した。これに対して、大蔵前となった(1)は、不換紙幣を整理し、正貨を蓄える政策をすすめた。1882年に(2)を創設して紙幣発行権を一本化した。こうした政策は激しいデフレ・ショックをまねき、各地を深刻な不況がおそった。

【自由党と国民党】1882年、(3)が福島県令となり、県議会の反対を無視して道路工事を強行した。自由党幹部の果会議長(4)らは、内乱をくわだてたとして検判で有罪とされた。この事件を(5)事件という。1884年5月、(6)県の自由党員は、農民たちを組織して政府を倒すことを計画したが、失敗におわった。9月、茨城県(7)で自由党員が拳銃し、鎮圧された。自由党本部は、党員のこのような動きを統制することができなくなり、解党を決定した。同月、立憲改進党も大蔵らの幹部が党を離れた。

自由党解党の3日後、埼玉(8)地方の国民党が武装蜂起した。国民党軍約1万人は各地で警察・軍隊と衝突したが、最後に長野県佐久地方で軍隊によって鎮圧された。

【三大事件連白から大同団結へ】民権運動はいったん衰退したが、国会開設が4年後に近付いた1886年、旧自由党員らの(9)の呼びかけで、ふたたび盛り上がる気配をみせた。政府に対して、(10)、言論・集会の自由、外交の挽回(条約改正)を要求する(11)運動が全国にひろがった。これに対し政府は、(12)を定め、運動の中心人物を強制的に東京から追放した。しかし1888年には大同団結運動が高まり、1890年に旧自由党員を中心に(13)が結成された。

### 12 大日本帝国憲法の制定

憲法をなぜドイツに学んだのか - 教科書 p. 80-81

Let's Begin

1882年7月29日に「回函新聞」に掲載された風刺漫画である。

【Q1】この店の看板に書かれている文字を読みみなさい。

【Q2】漫画の客はイギリス風、フランス風、アメリカ風ではなく、ドイツ風にしてくれと頼んでいますが、それはこの時期の政府のどのような政治路線を風刺しているのか。

用語記入欄

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15

【政治制度の整備】1884年に、(1)は華族令を定め、翌年内閣制度を創設し、自分が初代の(2)大臣となった。憲法審議のために(3)を新設し、また、市制・町村制などの地方制度を整備していった。

【帝国憲法の発布】1886年秋、伊藤らは憲法の起草に着手し、機密のうちに検討をすすめた。そして、天皇が定めた憲法、つまり(4)憲法として、1889年2月11日、(5)を発布した。この憲法によつて、天皇は立法・行政・司法などのすべての権力を掌り、外交や陸海軍の(6)、緊急勅令の発布を独自におこなう権限をもつことが定められた。また、天皇の地位は(7)にして優すことができないうものとされた。他方、国民は天皇の(8)であると位置づけられ、兵役・納税の義務を負ったが、権利は法律などによって制限された。憲法によつて、帝国議会は(9)と衆議院の二院制となり、国民は衆議院の議員を選ぶことができるようになった。しかし、衆議院選挙法で選挙権を直接国税(10)円以上を納める25歳以上の男性に限ったため、有権者は人口の(11)%にすぎなかった。

【軍事・教育と諸法典】1882年、天皇は軍人に対して(12)を与え、軍事は大元帥である天皇に直属することを明らかにして、天皇への忠誠を求めた。また、1890年には天皇の言葉として(13)を発布し、忠孝の道徳を教育の基本にするように指示した。

条約改正を実現するため、政府は憲法とあわせて各種の法典の編纂も急いだ。1890年には、(14)民法を模範とする民法を公布した。これに対しては、日本の「忠孝の道」を減らすものだとの批判がおこった(民法論争)。そこで、結局1888年、(15)民法を模範とする新民法を公布し、家族制度を重視して、戸主に強い権限を与えた。

# 13 初期議会と日清戦争—日本は朝鮮・台湾をどのように侵略したのか— 教科書 p. 84-85.

Let's Begin 植民地台湾

- [Q1] 日本が植民地台湾を領有するきっかけとなった対外戦争をあげよ。
- [Q2] その戦争後、写真の<sup>1895</sup>方<sup>1895</sup>患<sup>1895</sup>がたてられた。清国政府がたてたこの患はどのような人々のための患か。
- [Q3] 植民地台湾で1910年に、輸出・移出総額の6割を占めるようになったのはなにか。



**まどめ** 【初期議会】1890(明治23)年に第1回総選挙がおこなわれ、( ① ) や立憲改進黨などの民党が議席の多数を占めた。民党は「( ② )・経費節減」を唱えて地租軽減と予算削減を主張し、軍備拡張をいそぐ政府と対立した。( ③ ) 内閣は衆議院を解散し、1892年、第2回総選挙で警察を使って選挙に干渉したが、民党の優位をくずせなかつた。

**と解説** 【日清戦争】1894年春に東学などが指導する大規模な( ④ )農民戦争がおこった。朝鮮政府が清国軍に応援を求めると、これに対抗して日本も出兵した。日清両軍は( ⑤ )の海戦をきっかけに開戦し、日本は清国に宣戦を布告した。小型ながら高速の日本艦隊は清国艦隊をぶり、近代装備の陸軍が( ⑥ )と威海衛の軍港を占領して清国艦隊を降伏させた。清国は講和を求め、1895年に全権の伊藤博文と( ⑦ )とが( ⑧ )条約をむすんだ。清国は朝鮮への宗主権を放棄して、日本に遼東半島と台湾・( ⑨ )諸島を譲渡し、償金2億両(約3億円)を支払うなどの条件を認めた。

遼東半島の譲渡は廣州への南下を察していたロシアを刺激し、ロシアは( ⑩ )・フランスとともに遼東半島を清国に返還するよう、武力を背景に日本にせよ。これを( ⑪ )という。軍軍干渉をさけるため、日本は返還に応じたが、「( ⑫ )」をあい言葉に、対ロシア戦争にそなえて軍備の大拡張をはじめた。

【植民地台湾】台湾の漢民族は( ⑬ )をつくり、日本に抵抗した。日本は陸軍を送り、多数の犠牲を出して約1年後に全島を占領し、その後も続く漢民族の分散的な武力抵抗を鎮圧した。

1898年に、( ⑭ )は土地調査事業を開始して土地の所有権を確定し、地租を確実に徴収できるようにした。また、三井など日本の大資本はあいついで製糖業に進出した。

## 用語記入欄

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- ⑥ \_\_\_\_\_
- ⑦ \_\_\_\_\_
- ⑧ \_\_\_\_\_
- ⑨ \_\_\_\_\_
- ⑩ \_\_\_\_\_
- ⑪ \_\_\_\_\_
- ⑫ \_\_\_\_\_

# 14 条約改正と日英同盟—条約改正が実現した背景はなにか— 教科書 p. 86-87

Let's Begin 欧化政策

- [Q1] この絵は、「貴顕舞踏の略図」の一部である。舞踏会をおこなっている建物の名をあげなさい。
- [Q2] このような舞踏会を催したのは、当時、政府が欧米諸国と交渉しようとしていたためであった。交渉しようとしていたのはなにか。
- [Q3] 租界 条約反対の運動が高まるきっかけとなった1886年の事件をあげなさい。



**まどめ** 【税権回復から法権回復へ】1876年、政府は税権回復をめざしたが、( ① ) が反対したので失敗した。その後、自由民権運動も経済的不利益のおもな原因も治外法権にあるといい、世論も法権回復を要求しはじめた。政府は列国の敵心をえるため( ② )政策をとった。この政策を背景に、1886年、外務大臣( ③ )は列国公使と条約改正会議をひらいた。改正案は、治外法権廃止の条件として( ④ )を任命し、国内の法律を事前に列国に通知するなどの案であった。これには( ⑤ )や農商務相の谷干城など、政府内からも反対の声があがった。

【シベリア鉄道建設の波紋】1887年、政府は自由民権論者らを( ⑥ )条例で弾圧し、外務大臣を大隈重信にかえて交渉を再開した。しかし( ⑦ )に外国人技師を任用するという大隈の改正案が、すでに発布された憲法に違反するという反対論がおこり、大隈は閣僚論者におそわれて重傷を負い、交渉は中止された。その後、外務大臣( ⑧ )が交渉を再開した。ロシアがシベリア鉄道の建設を開始すると、清国における経済的・軍事的優位がおびやかされるのを恐れたイギリスは、日本がロシアの南下政策に対抗することを期待し、日本の条約改正交渉に協力する方針に態度をかえた。

しかし1891年、訪日したロシア皇太子が警備の巡査に切りつけられて負傷するという( ⑨ )事件がおこり、( ⑩ )は辞職した。

【治外法権撤廃】( ⑪ )が外務大臣となり、青木が公使としてイギリスと交渉をつづけた結果、日本が領土主権の面で譲歩して合意が成立した。1894年7月、外国人居留地を廃止して国内居住の自由を認めるとともに、治外法権を撤廃する( ⑫ )条約が調印された。欧米諸国とも、同じ内容の条約がむすばれ、1899年に発効した。関税自主権の完全回復は外相( ⑬ )により1911年に実現された。

## 用語記入欄

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- ⑥ \_\_\_\_\_
- ⑦ \_\_\_\_\_
- ⑧ \_\_\_\_\_
- ⑨ \_\_\_\_\_
- ⑩ \_\_\_\_\_
- ⑪ \_\_\_\_\_
- ⑫ \_\_\_\_\_
- ⑬ \_\_\_\_\_



### 日本史 A 2学期中間テスト対策プリント ③

3) 以下の問題に答えなさい。

問1) 次の史料は「大日本帝国憲法」の条文の一部である。条文の①～③に  
適語を補充しなさい。

第一条 大日本帝国ハ万世一系ノ①之ヲ統治ス  
第三条 ①ハ神聖ニシテ侵スヘカラス  
第二八条 日本②ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ・(中略) 信教ノ自由ヲ  
有ス  
第三三条 帝国議會ハ③衆議院ノ両院ヲ以テ成立ス

問2) 大日本帝国憲法発布前々日の光景を記述した『ベルツの日記』を読み、この憲法発布につ  
いて多くの人はどのような受け止め方をしていたと考えられるか、説明しなさい。

二月九日 東京市は十一日の憲法発布をひかえてその準備のため、言語に  
絶した騒ぎを演じている。到るところ華祝門・照明・行列の計画。だが清稀  
なことに誰も憲法の内容をご存じないのだ。

問3) 松井さんは、日清戦争以前の朝鮮問題の経過について簡略にまとめてみました。これを  
年代の古い順に配列しなさい。

- ① 伊藤博文が全權大使として天津に赴き、清国の李鴻章との間に天津条約を結んだ。
- ② 急進改革派の金玉均らは駐留日本軍の支援によりクーデタを起こし失敗した。
- ③ 日本と閔氏に不満をもつ兵士や民衆が一斉蜂起し、閔氏一族や日本大使館を襲撃し、  
保守派の大院君を政權に就けた。

## 日本史 A 2学期中間テスト対策プリント解答

- 1) 1. 琉球処分 2. 日朝修好条約 3. 壬午軍乱 4. 甲申事変 5. 天津条約 6. 民権議院設立  
 建白書 7. 国会設立 8. 元老院 9. 国会期成同盟 10. 集会条例 11. 大隈重信 12. 伊藤  
 博文・岩倉具視 13. 明治14年の政変 14. 板垣退助 15. 立憲改進黨 16. 松方正義  
 17. 新聞紙条例や集会条例 18. 解党した 19. 条約改正 20. 立憲自由党 21. 内閣制度  
 22. 欽定憲法 23. 衆議院と貴族院 24. 軍人勅諭 25. 教育勅諭 26. 史学 27. 甲午農民  
 戦争 28. 下関条約 29. 三國干渉 30. 関記虐殺事件 31. ノルマントン号事件 32. 陸奥  
 宗光 33. 小村寿太郎 34. 北清事変 35. 日英同盟

### 8 新政府の近隣外交

- まともと確認 ①小笠原 ②樺太千島 ③日清修好 ④台湾 ⑤琉球処分 ⑥征韓論  
 ⑦江華島 ⑧日朝修好条約 ⑨治外法権 ⑩無関税 ⑪大院君 ⑫壬午軍乱  
 ⑬甲申事変 ⑭天津

### 9 民権思想と国会開設運動

- まともと確認 ①J・S・ミル 『On Liberty』 ②中村正直 ③民権思想に大きな影響を与えた  
 ④明六社 ⑤民権議院設立建白書 ⑥新聞紙条例 ⑦立憲社 ⑧愛国社  
 ⑨木戸孝允 ⑩漸次立憲政体樹立 ⑪元老院 ⑫立憲社 ⑬愛国社 ⑭国会期成  
 同盟 ⑮集会条例

### 10 私擬憲法と政党的結成

- まともと確認 ①私擬憲法 ②植木枝盛 ③庄政に対する人民の不服従権を認めている  
 ④大隈重信 ⑤伊藤博文 ⑥北海道開拓使官有物払い下げ ⑦国会開設  
 ⑧明治14年 ⑨国会期成同盟 ⑩板垣退助 ⑪立憲改進黨 ⑫景山英子

### 11 松方財政と秩父事件

- まともと確認 ①革命本部 ②約1万人 ③借金返済の長期延期、各種の引き下げなど  
 ④松方正義 ⑤日本銀行 ⑥三島通商 ⑦河野広中 ⑧福島 ⑨群馬  
 ⑩加波山 ⑪秩父 ⑫大同団結 ⑬地租軽減 ⑭三大事件建白 ⑮安永案列  
 ⑯立憲自由党

### 12 大日本帝国憲法の制定

- まともと確認 ①独逸風潮仕立物処 ②其外御好次第  
 ③憲法を制定するに君主権の強いドイツをモデルにしたこと  
 ④伊藤博文 ⑤内閣総理 ⑥枢密院 ⑦欽定 ⑧大日本帝国憲法 ⑨統帥権  
 (指揮・命令) ⑩仲聖 ⑪臣下(臣民) ⑫貴族院 ⑬15 ⑭1.1 ⑮軍人勅諭  
 ⑯教育勅諭 ⑰フランス ⑱ドイツ

### 13 初期議院と日清戦争

- まともと確認 ①日清戦争 ②旅順虐殺事件のための墓 ③砂漠  
 ④立憲自由党 ⑤民力休養 ⑥松方正義 ⑦甲午 ⑧豊島沖 ⑨旅順  
 ⑩孝鴻章 ⑪下関 ⑫澎湖 ⑬ドイツ ⑭三國干渉 ⑮乱薪蓄胆  
 ⑯台湾民主国 ⑰台湾総督府

### 14 条約改正と日英同盟

- まともと確認 ①条約改正 ②日英同盟 ③ノルマントン号事件  
 ④イギリス ⑤欧化 ⑥井上馨 ⑦外国人裁判官 ⑧ポアソナード  
 ⑨保安 ⑩大審院 ⑪青木周蔵 ⑫大津 ⑬陸奥宗光 ⑭日英通商航海  
 ⑮小村寿太郎

3)

問1) ①天皇 ②臣民 ③貴族院

問2) 例：多くの国民は、憲法の内容を知らないのにも関わらず、憲法発布はめでたいことだと  
 お祭り騒ぎをしている

問3) ③壬午軍乱→②甲申事変→①天津条約

日本史テスト範囲： 教科書P72～87 (P82～83は除く)  
 小テスト2-1～2-7まで

テストが終了した日に、ノート提出がありますので忘れずに！！  
 ノートは見開き2ページにテスト範囲のまともとめをしておきましょう。

日本史 A 二学期中間テスト

平成23年10月12日(水)2限目  
一年全科

1) 明治における国境の確定と近隣外交について、以下の問題に答えなさい。

●問1) 1875年の樺太千島交換条約で、ロシアとの国境はどのように立ったか。解答用紙にある地図に、国境線を書き込みなさい。

問2) アメリカ人が移住していたが、日本領であることを1876年に再宣言したところはどこか。

問3) 1879年、明治政府は軍艦を琉球に送って徳と王府を廃し、沖縄県をおいたが、これを何というか。

問4) 1875年の江華島事件をきっかけとして、1876年日本が朝鮮政府に迫って結ばせた条約は何か。

●問5) 松浦さらは、日清戦争以前の朝鮮問題の経緯について簡略にまとめてみました。

これを年代の古し順に並び直してください。

- ① 伊藤博文が全権大使として天津に赴き、清国の李鴻章との間に天津条約を結んだ。
- ② 急速改革派の金玉均らは駐留日本軍の支援によりクーデターを起こし失敗した。
- ③ 日本と閩式に不満をもつ兵士や民衆が一斉蜂起し、閩氏一族や日本大使館を襲撃し、保守派の大院君を政権に就けた。

問6) 日本国内では、朝鮮・清国と絶縁して東アジアでの覇権を争う立場を取るべきであるという主張が福沢諭吉によって発表されていたが、これを何というか。

2) 自由民権運動と政党について、以下の問題に答えなさい。

1873年になると、福沢諭吉、森有礼らは( ① )をつくり、欧米の近代思想や政治制度を紹介した。1874年、前年に征韓論を主張して参謀を辞職した板垣退助らが、( ② )を政府に提出した。これに対し政府は、1875年に( ③ )と護国律を定めた。

1874年、板垣らは土佐に( ④ )を創出し、翌年に板垣らは全国の結社の連絡組織として、( ⑤ )を創出した。

大久保利通は( ⑥ )、板垣と大隈会議を開き、二人の復讐を条件に立憲政体をめざすことを約束した。これを受けて、( ⑦ )の語が出された。また、三権分立をめざして、最高の裁判所である大審院、立法の諮問機関としての( ⑧ )、府知事・県令からなる地方官會議が設置された。

1881年10月、政友会結成の準備をすすめてきた各地の民権家は( ⑨ )の党の結成を決め、( ⑩ )を党首に選んで、日本最初の政党を結成し、政治の根本的な改革をめざした。組織の中心は、国会開設運動に取り組んできた愛国社系の政社や地方の豪農であった。

いっぽう、大隈に回調して政府を去った官僚たちは、新聞記者などがつづいていた都市の結社を母体として、翌年、大隈を党首とする( ⑪ )を結成した。急進的な改革を否定し、穏健な改良によってイギリス流の政治体制を実現することが目標であった。結成後、各地に遊説をおこなうなどして党員をふやし、都市の商工業者や地方の有力者・資産家層に支持をひろげていった。

民権運動には、岸田俊子、( ⑫ )らの女性加わり、男女同権などを訴えた。

問1) 空欄( ① )～( ⑫ )にあてはまる語句を下から選んで書きなさい。

- 元老院 愛国社 木戸孝允 自由 民権議院設立建白書 景山英子
- 立志社 新聞紙条例 明六社 漸次立憲政体樹立 立憲改進黨 板垣退助

問2) 自由民権運動の三大要求とは何か。3つとも書きなさい。

問3) 民権運動はいったん衰退したが、国会開設が近づいていって盛り返していった。その運動は何といわれるか。

3) 大日本帝国憲法に関する以下の問題に答えなさい。

●問1) 次の史料は「大日本帝国憲法」の条文の一部である。条文の①～③に通語を補充しなさい。

- 第一条 大日本帝国ハ万世一系ノ<sup>①</sup>之ヲ統治ス
- 第三条 <sup>②</sup>ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第二八条 日本 <sup>③</sup>ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ビ(中略)信教ノ自由ヲ有ス
- 第三三条 帝国議會ハ<sup>④</sup>庶民ヲ以テ成立ス

問2) 大日本帝国憲法の上に、天皇が定めた憲法を何というか。

問3) 君主(天皇)の権限が強い憲法をつくり出したのは、誰たちか。

問4) 大日本帝国憲法の発布以前に国民の手で憲法をつくり出したとして作成された憲法草案をなんとよぶか。

問5) 大日本帝国憲法を制定する前に、政治制度が整備されていた。

① 1885年、太政官制度を廃止して何制度が創設されたか。

② 1888年には憲法審議のために何が創設されたか。

問6) 下図は1882年7月29日に「団団珍聞」に掲載された風刺漫画である。



① この店の看板に書かれている文字を読みなさい。

② 漫画の客はイギリス風、フランス風、アメリカ風ではなく、ドイツ風にして(れど頼んで)いるが、それはこの時期の政府のどのような政治路線を風刺しているか説明しなさい。

●問7) 大日本帝国憲法発布前々日の光景を記述した『ベルツの日記』を読み、この憲法発布について多くの人々はどのような受け止め方をしていたと考えられるか、説明しなさい。

二月九日 東京市は十一日の憲法発布をひかえてその準備のため、言語に絶した騒ぎを演じている。到るころ奉祝門・照明・行列の計画。だが準備なことに誰も憲法の内容をご存じないのだ。

問8) 大日本帝国憲法が発布された翌年、第一回総選挙が実施されたが、有権者の資格はどのようなものであったか答えなさい。

問9) 総選挙の結果、議会の多数を占めたのはどんな党か。

4) 次の文章は、条約改正へのあゆみについて述べたものである。

- (1) 1894年、外務大臣( ① )の時に、治外法権撤廃・関税自主権の一部回復を定めた( ② )条約の調印に成功した。
- (2) 岩倉具視らの使節団が欧米を回覧して、予備交渉を試みたが成功しなかった。
- (3) 1882年から87年にかけて( ③ )が治外法権撤廃・関税率引き上げを主張したが、外国人裁判官任用問題や、( ④ )での舞踏会に象徴されるような欧化政策で国民の反感を浴びて失敗した。
- (4) ( ⑤ )自主権の完全回復は外務大臣( ⑥ )によって1911年に実現した。
- (5) ( ⑦ )が個別に交渉。しかし、外国人裁判官の( ⑧ )任用問題で挫折し( ⑨ )はテロで負傷した。
- (6) 外務大臣青木周蔵がイギリスと交渉し、イギリスは同意したが、ドイツの皇太子が来日中、日本の巡査に切りつけられるという( ⑩ )が起きて、青木は解任した。

問1)文中の空欄にあてはまる語句を下から選んで書きなさい。

大審院 元老院 小村清太郎 大隈重信 伊藤博文 陸奥宗光  
日米和親 日英通商航海 鹿鳴館 関税 大津事件 井上馨

問2) 屈辱条約(不平等条約)反対運動が広がったきっかけとなった、1886年の遺囑事故は何か。  
問3) (1)~(6)の文章を条約改正へのあゆみにそって並べると、どのような順番になるか。

5) 日清戦争について答えなさい。

1894年	春	( ① )戦争
	7月25日	( ② )海戦
	8月1日	宣戦布告
	11月21日	旅順占領
1895年	4月	( ③ )条約

- 問1) 年表の①~③にあてはまる語句を書きなさい。
- 問2) ( ① )戦争で中心となったのはどんな人たちか。
- 問3) ( ④ )の条約で、日本が清から譲渡してもらった領土はどこか。2つ以上答えなさい。
- 問4) ロシアがドイツ・フランスとともに清から割譲された領土について返還するよう求めてきたことを何というか。
- 問5) 問4の結果、返還に応じた日本ではどんな言葉が流行したが、漢字4題で答えなさい。

6) 次の問題に答えなさい。

1. 国会開設の勸諭を出して国会開設を約束するとともに、官有物の払い下げを中止して、大隈を政府から追放した事件は何と呼ばれるか。
2. はげしいデモレーション(松方正三)をまね(政策)を行った大隈派は誰か。
3. 福島事件・群馬事件・加波山事件などが起こった後、自由党はどうなったか。
4. 1887年夏から、全国に広がった三大事件建白運動は、地租軽減、言論・集会の自由と何を要求する運動だったか。
5. 1890年に旧自由党員が中心となって結成された政党は何か。
6. 1882年、天皇が軍人に対して与えた勸諭は何か。
7. 1890年に出された教育に関する天皇の言葉は何か。
8. 親ロシア政策を主導した朝鮮王妃を暗殺する義和団が北京の列国大使館を包囲し、清国政府もこれに同調して列国に宣戦布告したが敗北した。これを何というか。
10. 1902年ロシアの南下に対抗するため、日本とイギリスの間で結ばれた同盟は何か。

日本史 A 2 学期中間テスト 解答用紙

★赤字で書くところは赤字で、語群があるところは語群の邊に書くこと！



問1

問 2	問 3	問 5	問 6
問 4	問 5	問 6	問 6

問2

語群

問 1	②	③
問 1	④	⑥
問 1	⑦	⑨
問 1	⑩	⑫

多読

問 2

問 3

問3

語群

問 1	②	③
問 2	問 3	問 4
問 5	②	
問 6	①	
問 6	②	
問 7	(読)	
問 8	(読)	問 9

問1

語群

問 1	②	③
問 1	④	⑥
問 1	⑦	⑧

多読

問 2

問 3

問5

語群

問 1	②	③
問 2	問 3	
問 4	問 5	

多読

問 1	2.	3.
問 4	5.	6.
問 7	8.	9.
問 10		

日本史 A のテスト勉強は …… 頑張った！ …… まあまあ …… コメンナサイ  
 日本史 A のノートまとめは …… ばっちり(〜) …… まだです(〜)

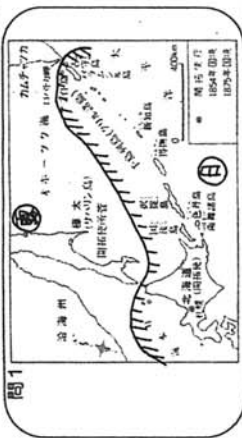
日本史 A の予想点数 → \_\_\_\_\_ 点

--

1 年 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_ 番 名 前 \_\_\_\_\_

日本史 A 2 学期中間テスト 解答用紙

\*漢字で書くところは漢字で、語群があるところは語群の通いに書くこと！



問 2	小笠原諸島	問 3	琉球処分
問 4	日朝修好条規	問 5	③ - ② - ①
問 6		問 6	脱亜論

問 1	① 明六社	② 民権議院設立建白書	③ 新聞紙条例
問 2	④ 立志社	⑤ 愛国社	⑥ 木戸孝允
問 3	⑦ 漸次黨政体樹立	⑧ 元老院	⑨ 自由
問 4	⑩ 板垣退助	⑪ 立憲改進党	⑫ 景山英子

問 2	国会開設, 地租軽減, 条約改正	問 3	大同団結運動
-----	------------------	-----	--------

問 1	① 天皇	② 臣民	③ 貴族院
問 2	欽定憲法	問 3	伊藤博文, 岩倉具視
問 4	① 内閣制度	② 枢密院	④ 私擬憲法
問 5	① 獨逸風御仕立物丸 (其外御好次第)	(1点)	(1点)

問 6	(例) 憲法を制定するのに君權の強さを示すために	(3点)	
問 7	(例) 多くの国民が憲法の内容を知り、憲法発布の旨を正しく理解して	(3点)	
問 8	25歳以上 直接国税と5巴以上の男性のみ	問 9	民党 (立憲改進党)

問 1	① 陸奥宗光	② 日英通商航海	③ 井上馨
問 2	④ 鹿鳴館	⑤ 関税	⑥ 小村青太郎
問 3	⑦ 大隈重信	⑧ 大審院	⑨ 大津事件
問 4	⑩ ハルマント号事件	問 5	(2)-(3)-(5)-(6)-(1)-(4)

問 1	① 甲午農民	② 豊島沖	③ 下関
問 2	東学(党), (農民)	問 3	台湾, 遼東半島, 澎湖諸島 (清国)
問 4	三国干渉	問 5	取新嘗胆

問 1	明治14年の政変	2. 松方正義	3. 解党
問 2	条約改正	5. 立憲自由党	6. 軍人勅諭
問 3	教育勅語	8. 関妃虐殺事件	9. 北清事変 (義和團)
問 4	日英同盟	10.	

日本史 A のテスト勉強は ... 頑張った! ... まあまあ ... コメントサイ  
 日本史 A のノートまとめは ... ばっちり(-) ... までです(-)  
 日本史 A の予想点数 - \_\_\_\_\_ 点

1 年 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_ 番 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

## 第Ⅱ部 中学校社会科における

「思考・判断・表現」の評価に関する実践的考察

## 第1章 地理的分野における「思考・判断・表現」の実践・評価と改善 — 単元「日本の諸地域・九州地方」を事例として —

### 1. はじめに

平成24年度より新学習指導要領に基づく教育課程が中学校において全面実施となった。今回の改訂ポイントのキーワードの中に、基礎基本となる知識・技能を活用させて課題を解決していくために必要な「思考力・判断力・表現力」を育成することが求められている。さらに地理分野では、改訂のポイントに「動態地誌的な学習による国土認識の充実」が掲げられ、「日本の諸地域」の学習が再び行われることになった。前回の改訂の際にも動態地誌的な学習が必要であることがいわれていたが、今回の改訂ではその語句がはっきりと明記されている。

そこで、「日本の諸地域」を学習するに当たり、その地域を学習するためには、その地域の歴史などの背景を交えながら学習を進めると、生徒たちによりわかりやすく実感を持たせることができるのではないかと、そんな思いのもと、授業案を考えてみた。

しかしながら、いざ実践してみると、改めていくつかの課題に直面することとなった。その中でも特に今回改訂の目玉とも言える「思考力・判断力・表現力の育成」が不十分であることについては致命的でもある。そこで、より「思考力・判断力・表現力の育成」が達成されるべく指導案を検討し直し、新たな案を作成することにした。

本報告は、この一次案作成からその実践、検討・反省を経て二次案の作成への、いわゆるP-D-C-Aについてまとめたものである。

### 2. 一次案の作成

#### (1) 一次案作成について

本試案は、指導要領改訂に関して、再び行われることになった「日本の諸地域」について取り上げたものである。

本試案では我が国の国土に対する認識を一層深めるため、日本の諸地域における特色ある事象を他の事象と有機的に関連付けて地域的特色をとらえる。基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、事象間の関連を追究したり説明したりするなどの学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を養うことを重視することとする。

その際の中核考察であるが、新指導要領には次のように述べられている。

#### ウ 日本の諸地域

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。

##### (ア) 自然環境を中核とした考察

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。



(イ) 歴史的背景を中核とした考察

地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える。

(ウ) 産業を中核とした考察

地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化するものであることなどについて考える。

(エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

(オ) 人口や都市・村落を中核とした考察

地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、過疎・過密問題の解決が地域の課題となっていることなどについて考える。

(カ) 生活・文化を中核とした考察

地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付け、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。

(キ) 他地域との結び付きを中核とした考察

地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える。

また、その取り扱いについては、次のように述べられている。

(ア) 地域区分については、指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること。

(イ) 指導に当たっては、地域の特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究するようにすること。

(ウ) (ア) から (キ) の考察の仕方については、学習する地域ごとに一つ選択すること。また、ウの学習全体を通してすべて取り扱うこと。

それに伴って、日本の諸地域における中核考察を下記の要領で7地域に分けて実施することにした。なお、生徒の混乱を避けるため、指導要領の(ア)～(キ)の順ではなく、日本の地域区分の南から順に整理させながら指導していくものとした。

九州地方 (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察

中部地方 (ウ) 産業を中核とした考察

- 近畿地方 (イ) 歴史的背景を中核とした考察
- 中国四国地方 (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察
- 関東地方 (キ) 他地域との結び付きを中核とした考察
- 東北地方 (カ) 生活・文化を中核とした考察
- 北海道地方 (ア) 自然環境を中核とした考察

## (2) 単元の目標設定について

まず、日本の諸地域を学習する上での取りかかりとして九州地方を扱う。ここでは九州地方の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考えさせる。

また、それを他の事象と有機的に関連付けて、九州地方の地域的特色を追究するようにする。

## (3) 指導計画について

多くの教科書では、単元の第1次や第2次に従前通りのいわゆる「窓方式」でその地方の外観をとらえさせるものが多くなっている。報告者の勤務する神戸市で採用する東京書籍の教科書でも、次の図1に示したように、従前からの「窓方式」で2時間かけて外観をとらえさせた後、第3次から第5次までの3時間で中核の考察をさせている。これは本単元である九州地方だけに限らず、どの地方でも同様の授業計画となっている。

図1 東京書籍の教科書「新しい社会 地理」配列

累計時間	おもな学習内容	学習目標	評価規準の例
68	1 九州地方をながめて① 九州地方の生活の舞台 (p.160～161) 火山活動にともなう地形 温暖で多雨の気候	●九州地方には火山が多く、 様々な災害を起こしている 一方、恵みももたらしている ことに関心を持つ。 ●雨温図を通して、九州地方 が温暖で多雨の気候である ことをとらえる。	●九州地方の自然災害や、災害 報道に関心を持っている。 (関心・意欲・態度) ●地図や雨温図を通して、九州 地方の自然環境の特徴をとら えている。 (知識・理解)
69	2 九州地方をながめて② 九州地方の人々の営み (p.162～163) 結びつきが強まる九州各県 気候と地形に応じた農業転換 を求められた鉱工業	●九州地方では、稲作や近代的 な工業が発達してきた北部に 人口がかたよっていることを 理解する。 ●これまでの学習を踏まえて、 追究テーマに対する仮説を立 てる。	●九州地方の人口と産業の地域 的な違いを、地図を使って読 み取っている。 (技能) ●九州地方の自然災害や公害に ついて意欲的に追究しようとし ている。 (関心・意欲・態度)
70	3 環境問題・環境保全に向 き合う人々の暮らし① 多様な環境問題と環境保 全の取り組み (p.164～165) 豪雨による土砂くずれと水 害 さんごしょうを守る取 組み	●豪雨による土砂くずれと水 害に対する取り組みについて、 自然環境の特色と関連付けて 考察する。 ●さんごしょうを守る取組みに ついて、地域開発の動向と関 連付けて考察する。	●自然災害や環境問題を、自然 環境の特色や地域開発の動向 と関連付けてとらえている。 (思考・判断・表現) ●環境保全のために、砂防ダム の建設や土壌流出を防ぐ工夫 がなされていることを理解し ている。 (知識・理解)
71	4 環境問題・環境保全に向 き合う人々の暮らし② 工業化・都市化にともな う地域への影響 (p.166～167) 工業化がもたらす地域の課 題 安全、快適な都市づくり	●工業化により深刻な公害が 発生した水俣市が、環境モデル 都市に選定されるまでの過程 をとらえる。 ●都市化がもたらした環境問 題と、その対策のための工夫 をとらえる。	●水俣市や福岡市の環境保全 の取り組みを通して、身近な 地域のそうした取り組みに関 心を持っている。 (関心・意欲・態度) ●水俣市と福岡市の環境問題 の原因と対策を多面的・多角 的に考察し、その共通点をと らえている。 (思考・判断・表現)
72	5 環境問題・環境保全に向 き合う人々の暮らし③ 持続可能な社会をつくる (p.168～169) 鉄鋼都市から環境都市へ 環境と開発の両立 九州地方の学習をふり返 って	●北九州市は持続可能な社会 をめざして、エコタウンを形 成していることをとらえる。 ●環境問題を、自然環境や人 々の生活と関連付けてとら え、九州地方の特色をまと める。	●古い写真と新しい写真を比 較して環境が大きく改善した ことをとらえている。 (技能) ●九州地方の地域的特色につ いて、環境問題や環境保全を 踏まえて、自分なりに工夫し て、図に適切に表している。 (思考・判断・表現)

東京書籍「地理的分野指導計画・評価基準」より抜粋

たしかに知識の習得なくしてはその活用やさらなる探求などあり得ないことである。しかしながら、その地方の地名・地形や気候、代表的な産業の大観とまでくると、従前のやり方をそのまま継承するに過ぎない。そこで、折衷案的ではあるものの、第1次において「九州地方の環境保全の取り組み」について学習することとし、その第1時で関連する地名や気候を大観する。さらに第2次において「九州地方の持続可能な社会への取り組み」について学習することとし、その第1時で関連する産業について大観することとした。教科書では5時間の設定になっているものを、学習内容の相互の関連性を考えて、本単元では4時間の計画を立てた。

	授業のテーマ	主な学習内容	教科書頁	準備する資料
第1次	第1時	九州の生活舞台	160,161	桜島火山灰、プロ野球キャンプ資料
	第2時	自然と環境保全の取り組み	162,164,165	土砂災害資料、
第2次	第1時	九州の工業の変遷	163,168	軍艦島関連資料、石炭、炭坑節、IC
	第2時	公害～持続可能な社会へ	166,167,168	チッソ関連資料

なお、学習する内容を相関図で表すと次の図2のようになる。また、この指導計画に基づいて作成し、実際に授業で使用した生徒用ワークシートが次の図3～6である。

図2 九州地方指導計画相関図

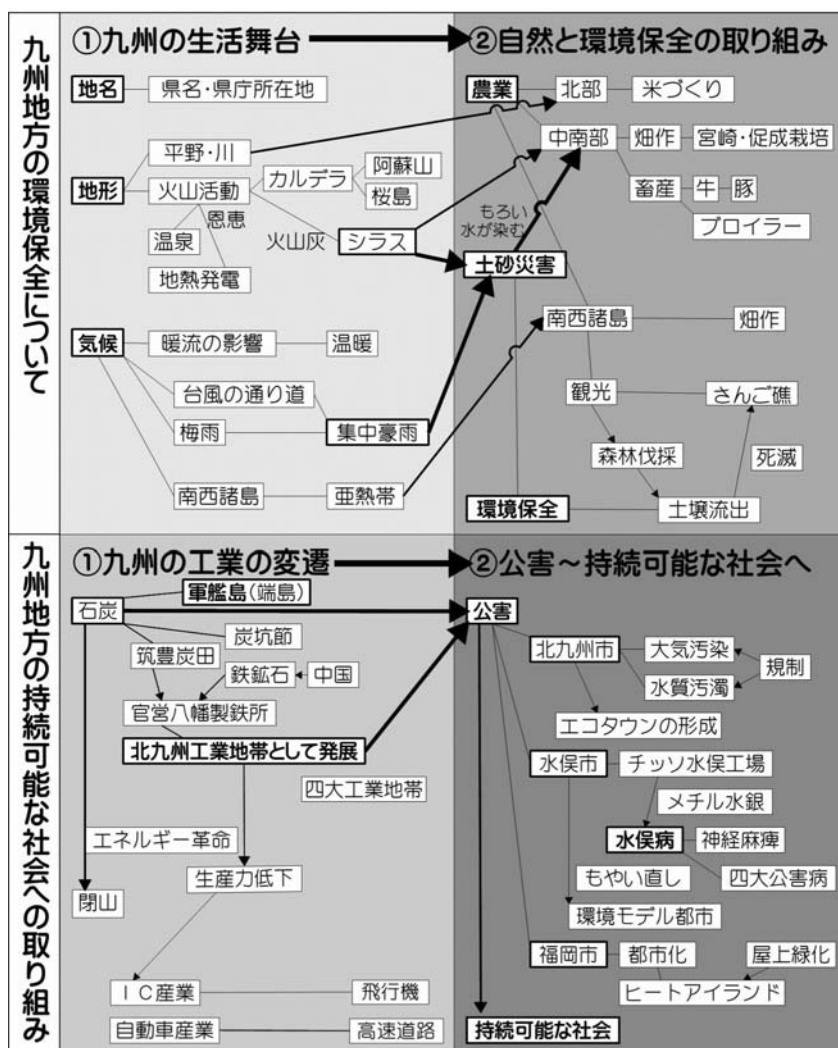


図3 第1次「九州地方の環境保全」第1時「九州地方の生活舞台」ワークシート

### 九州地方の生活舞台 p.160

#### 1. 九州の都道府県を調べよう

都道府県名	県庁所在地
① 福岡県	福岡市
② 大分県	大分市
③ 佐賀県	佐賀市
④ 長崎県	長崎市
⑤ 熊本県	熊本市
⑥ 宮崎県	宮崎市
⑦ 鹿児島県	鹿児島市
⑧ 沖縄県	那覇市

#### 2. 九州の主な地形を調べよう

九州……火山が多い  
溶岩などが吹き出した後がくぼんでできた火山地形

カルデラ

カルデラの成り立ち

恩恵 { 温泉, 地熱発電など }

阿蘇山 世界最大級のカルデラ 東西18km南北4km カルデラ内人口5万人

#### 3. 九州の気候を調べよう

シャリアン短剣キャンプ どうして夏納めですか？

- ・温暖な気候……暖流 日本海流(黒潮)、対馬海流の影響
- 特に南西諸島は亜熱帯性気候 ……さんごしょうが広がる
- ・夏の降水量が多い

梅雨 → 集中豪雨  
台風 → 台風の通り道

資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍，Googleマップ，「中学校地理探検ナビ」ベネッセコーポレーション，「アドバンス中学地理資料」帝国書院

図4 第1次「九州地方の環境保全」第2時「自然と環境保全の取り組み」ワークシート

**テーマ：自然と環境保全の取り組み** p.162,164 組 名前

**自然条件の中での農業**

**筑紫平野**  
 こんな所を といっ  
 筑紫川の豊かな水量 → 水持ちが 良い → 稲作

**ムツゴロウ**  
 こんな魚がいるよ

**千拓**

**宮崎平野**  
 促成栽培 ……出荷時期を早めて 近郊農業に 対抗!!  
 主な農作物 ・さゆり ・ピーマン

**⑧九州地方の産業**

**宮崎**  
 茶葉 (東京中央卸売市場資料) -2009年-

**ピーマン**  
 出荷時期を早めるとどんな利点があるのだろうか?  
 他の地域が出荷しないので、高い値段で売ることが出来るから

**シリラス台地**  
 火山灰が積もった土地  
 ・やさしい  
 ・水もち悪い  
 ( 肉牛 豚 プロイラー )  
 ・畜産が盛ん

**南西諸島**  
 亜熱帯性の気候を利用して  
 ・さとうきび  
 ・バナナ  
 ・花

**環境保全の取り組み**

九州の地形……火山が多い → 火山灰を多く含むだ火山性の地層  
 ・しみこみやすい  
 ・もちい

九州の気候……降水量が多い (梅雨・台風を通り道)

**集中豪雨**

**土砂災害**  
 対策  
 ・砂防ダム の建設  
 ・森の 堰水力 を高める

**集中豪雨**  
 九州の気候……降水量が多い

**土壌流出**  
 被害  
 ・観光産業の成長 開閉 加増で雨も多い 崖崩れは? 第 次産業  
 対策  
 ・流出しないよう 山の斜面 をなだらかにする  
 ・さとうきび の葉を固めたもので耕地を囲む

**世界遺産・屋久島のエコツアーリズム**  
 屋久島  
 エコツアーリズムとは、自然、歴史、文化などを体験して学ぶとともに、それを守ることに責任をもつ観光のこと。  
 ▲ウミガメへのくづかい、ライオンを当てない、浜で騒がない、植物を踏みつけない。

**世界遺産・屋久島のエコツアーリズム**  
 ▲屋久島の原生林 樹齢 2170 年といわれる縄文杉(屋久杉)などの巨木がユネスコの世界遺産に登録されている。  
 ▲ポロンティアによるカイト  
 ▲住居系を守る 景や里にエツを助けてほしい

**沖縄県**  
 亜熱帯性の気候  
 さんごしょうの海  
 観光学の成長 開閉 加増で雨も多い 崖崩れは? 第 次産業

**世界遺産・屋久島のエコツアーリズム**  
 屋久島  
 エコツアーリズムとは、自然、歴史、文化などを体験して学ぶとともに、それを守ることに責任をもつ観光のこと。  
 ▲ウミガメへのくづかい、ライオンを当てない、浜で騒がない、植物を踏みつけない。

資料典拠：「新しい社会 地理」東京書籍、「社会科 中学生の地理」帝国書院、Googleマップ、「地理の資料」正進社

図5 第2次「持続可能な社会への取り組み」第1時「九州の工業の変遷」ワークシート

### テーマ：九州の工業の変遷 p.163

この島の名前は？

本当の名前は？

通称名は？

なぜそう呼ぶの？

なぜ町名になっているの？

海産の石炭を採掘するために多数の労働者がここに住んだから

最大の人口密度 (83,600人/㎢) 東京都の9倍

なぜ、今は人が住まないの？

ここでの石炭採掘を一切行わなくなったから

どんな人が住んだの？

日本の労働者だけでなく中国や朝鮮から半ば強制的に連れてこられた人たちもいた

どこにあるの？

海からの眺めが当時の戦艦「土佐」に似ていたから

最大の人口密度 (83,600人/㎢) 東京都の9倍

なぜ、今は人が住まないの？

ここでの石炭採掘を一切行わなくなったから

【佐賀県】 月が出たヨイヨイ 三宅(み)や(い)波石の上に出たお母の産が、高いのでみぞやお母さん、せむたからサノヨイヨイ

【佐賀県】 月が出たヨイヨイ 三宅(み)や(い)波石の上に出たお母の産が、高いのでみぞやお母さん、せむたからサノヨイヨイ

九州は石炭産業が盛んだってところで、どうやって採掘するの？

日本では石炭を採掘すると……

コスト(費用) 高い

リスク(危険) 高い

高田(高田) 高い

低田(低田) 安い

コスト(費用) 安い

リスク(危険) 低い

1901年

福岡県八幡村(現北九州市)に 宣道 三菱製鉄所の建設

なぜこんな所に作ったの？

石炭が 荒瀬炭田 から産出される

鉄鉱石が 中国 から輸入しやすい

北九州工業地帯として発展

四大工業地帯の一つに

石炭生産の増量を要求される

中国・朝鮮の支配 → 強制労働

1960年～

エネルギー革命

石炭 → 石油 の転換

石炭産業の衰退

北九州工業地帯の低下

近年

自動車工場の進出

飛行場の近く

IC・自動車の近く

九州地方のおもな工業の分布

福岡県八幡村(現北九州市)に 宣道 三菱製鉄所の建設

なぜこんな所に作ったの？

石炭が 荒瀬炭田 から産出される

鉄鉱石が 中国 から輸入しやすい

北九州工業地帯として発展

四大工業地帯の一つに

石炭生産の増量を要求される

中国・朝鮮の支配 → 強制労働

1960年～

エネルギー革命

石炭 → 石油 の転換

石炭産業の衰退

北九州工業地帯の低下

近年

自動車工場の進出

飛行場の近く

IC・自動車の近く

九州地方のおもな工業の分布

自動車工場の進出

高速道路がそばを流すの近く

どうして高速道路の近くなのだろうか？

自動車の多数の部品が高速度道路を使って輸送されてくるので、高速道路の近くに工場が造られている。

どうして経費のかかる航空輸送なのだろうか？

ICが軽くて小さい割に高額なので、飛行機でも大量輸送が可能なので、経費がかかる飛行機でも十分にもとがとれるから

九州地方が中国や韓国に近いため、中国・韓国との輸出入において経費を少なくすることができるから

資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍、「新しい社会 歴史」東京書籍、「地理の資料」正進社

- 63 -

図6 第2次「持続可能な社会への取り組み」第2時「持続可能な社会へ」ワークシート

環境モデル都市とは

■水俣市の環境モデル都市宣言

【取り組み方針】

- A 自然と共生する環境体全型都市づくり
- B 環境にこだわった産業づくり
- C 環境学習都市づくり

四大公害病って他になにがあるの？ 他の3つを探し出して書こう

ヒタイタイ都市、四日市ぜんそく、第二水俣病

福岡市……九州の中心都市 都市化が進む

自動車が走ることで 大気汚染が増える

アスファルト舗装が増える 雨水が染み込まない

集中豪雨 → 洪水

ヒートアイランド現象

【対策】 地下に貯水施設を作る

【対策】 ビルの壁面や屋上の緑化

都市化が進むと他にどんな環境問題が生じるかな？

ゴミ問題 大気汚染 酸性雨 水質汚濁 など

**まとめ**

私たちは豊かさを求め、経済の発展を目指してきました。しかし、それは同時に、限りあるエネルギーを消費し、地球環境を悪化させてきたことになったのです。

この3つはお互いに矛盾する関係にあり、どれかを選べば残る2つが犠牲になってしまうのです。

そしてこのままではエネルギーは底つき、地球環境は人類が死滅するほど悪化するのをおぼえています。かと言って、豊かさが無くなるなんて会えら困ったものです。

環境の発展 Economy → 環境の保護 Environment

エネルギーの確保 Energy

遠い未来にあなただの子孫達が幸せに暮らせる社会(持続可能な社会)を作るにはどうすればいいですか。

経済発展・環境保全・エネルギー確保の3つをバランス良く進めるため、経済の発展に力を入れる分だけ環境保全やエネルギー確保に力を注ぐ必要がある。

テーマ:公害～持続可能な社会へ p.166～

戦後の経済成長ー工業生産の優先ー公害の発生

北九州市 北九州工業地帯で生産優先

原因 ( 大気汚染 ) ( 海洋汚染・水質汚濁 )

原因 ( 工場からの排煙・排気ガス ) 原因 ( 工場排水の垂れ流し )

1970年～法律による規制

現在

環境都市を目指す北九州市

エコタウンの形成

1000以上の企業が集まる工業地帯

●こみのリサイクル率 2007年(国調) 99.9%

北九州エコタウンのしくみ

北九州エコタウンのしくみ

北九州エコタウンのしくみ

北九州エコタウンのしくみ

水俣市……水俣病の発生

どんな病気？

神経がマヒし、劇に障害が出て、体の自由がきかなくなる

何が原因？

工場排水に含まれていたメチル水銀

その原因を作った会社は？

チッソ水俣工場

人々の努力 『ちやい直し』

2008年 環境モデル都市 に認定される

水俣病と水俣市の年表

年	できごと
1950年代	チッソ(現INIS(株))水俣工場が有機水銀化合物を未処理のまま北九州に廃棄
1956	水俣で初めて病気が報告される
1958	水俣湾沿岸内での漁獲を禁止
1966	政府が水俣病を公費と認定し、水俣工場排出の有機水銀化合物が原因であると発表
1969	水俣病患者・家族がチッソに損害賠償を求める裁判をおこなう。以降、訴訟がいくつも出る
1992	水俣市が日本で初めて環境モデル都市づくり宣言
1995	調停により、訴訟の大半が取り下げられる
1997	熊本県が水俣湾の安全宣言を出す
2008	水俣市が政府から環境モデル都市に認定される
2009	水俣市がゼロ・ウェイストのまちづくりを宣言
2010	水俣病特別措置法が制定される

資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍、「デジタル教科書 新しい社会 地理」東京書籍、「アクティブ地理」浜島書店、「地理の資料」正進社



### 3. 1次案の実践・・・・・・・・第2次第1時「九州の工業の変遷」を例に

#### (1) 授業をするに当たって



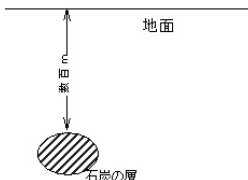

この小単元のメインとなる課題「持続可能な社会の実現」を考えさせるための伏線として、本授業では工業の立地条件を考える中で、その語句は用いないもののコストパフォーマンスや「効率」に着目させた。経済発展をさせる上で「効率」の概念は切り離すことができないものであるが、それを優先させた結果が、次時で学習する公害等の「環境問題」につなげている。

同時に、本授業では報告者ですら使用した経験のない「石炭」を取り上げ、この生徒たちにとって未知なる物体である「石炭」をめぐって、九州の人々の取り組みがあり、その石炭産業の繁栄こそが九州工業の生命線であったことを実感させる展開を考えた。そして石炭産業の衰退によって九州工業はその転換を余儀なくされ、現在のIC産業などの新しい取り組みへとつながっていくこと、すなわち「石炭島」から「シリコンアイランド」への転換を考えさせる上で「思考・判断・表現」の力を育成することにしたものである。

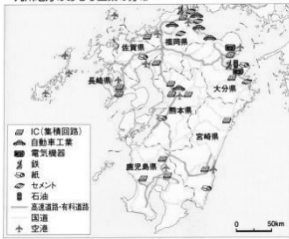

#### (2) 本授業の目標

九州地方の工業における立地に目を向けさせ、九州地方の工業が石炭産業と共に発展・衰退したことを理解させる。また、近年では中国や韓国を視野に入れたICや自動車の生産に転換してきたことを理解させる。合わせて工業地帯の立地条件や、生産における効率や費用対効果について考える力を養いたい。その際の生産優先・利益優先の考え方が次時に学習する公害につながるので、知識として定着させる。

(3) 本授業の展開 (先述のワークシート図5も参照のこと)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	提示資料
つかむ	軍艦島 (端島) について <b>班別学習</b>	<p>軍艦島の写真を見て、この島について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●軍艦島の写真などを見て疑問に思ったことを、配付資料から班で調べる。</li> </ul> <p><b>関心・意欲・態度</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在は廃墟となっているこの島に何があったのか、興味を持たせた上で調べさせる。</li> </ul> 	<p>プロジェクター投影による軍艦島スライドショー 班別学習用軍艦島資料 (各班4種)</p>
		<p>なぜ今はこの島が廃墟になっているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●軍艦島が石炭採掘のために栄え、その役目が終わったために廃墟になっていることを知る。</li> </ul> <p><b>知識・理解</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石炭へ目を向けさせ、関心を高めさせる。</li> </ul>	<p>石炭実物の配布</p>
広げる	九州の石炭産業について	<p>九州と石炭のかかわりについて調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「炭坑節」や炭田分布地図から、九州は石炭産業で栄えたことを理解する。</li> </ul> <p><b>知識・理解</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石炭は「黒いダイヤモンド」と称され、大変貴重だったことを理解させる。</li> </ul>	<p>「炭坑節」音源</p>
		<p>日本の石炭産業のデメリットについて考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一方で、石炭採掘は大変コストがかかり、危険や健康被害を伴うことに気付く。したがって、海外の低コスト石炭との競争に負け、日本の石炭需要が大幅に減ったであろうと予想する。</li> </ul> <p><b>思考・判断・表現</b></p>	<p>どうやって石炭を掘っていたのかを考えさせる。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>●資源の豊富なオーストラリアでは、露天掘りで、安全かつ低コストで採掘できることに触れ、比較させる。</li> </ul>	<p>教科書p.95 写真</p> 

資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	提示資料
深める	北九州工業地帯について <b>班別学習</b>	北九州工業地帯について調べよう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州工業地帯の繁栄について教科書の記述からまとめる。</li> <li>・官営八幡製鉄所について</li> <li>・その立地条件</li> </ul> <b>関心・意欲・態度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史分野につながる内容なので、その立地条件を簡単に整理するにとどめる。</li> </ul>	
現在の工業生産について	現在の九州で盛んな工業は何だろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石炭需要の低下と共に、北九州工業地帯の生産力も低下したことを理解する。</li> <li>・エネルギー革命とは</li> <li>・石炭の輸入依存</li> </ul> <b>知識・理解</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石炭需要だけでなく、鉄鋼の需要も大幅に減少していることも考えさせる。</li> </ul>	
		<p>九州地方のおもな工業の分布</p>  <p>IC産業はどうして飛行場の近くなのだろうか</p> <p>自動車産業はどうして高速道路の近くなのだろうか</p> <b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ICが極小部品の割に1つ1つが高額であること、自動車が数万点の部品を組み立てることから考えさせる。</li> </ul>	
まとめる	九州地方の工業における利点について	<p>現在の九州で盛んな工業は何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●IC工場や自動車工場の進出から、韓国や中国などアジア諸国への輸出に有利であるという、九州の立地の利点をあらためて考える。</li> </ul> <b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●九州のクローズアップした地図から、かなり広げた地図に目を向けさせて気付かせる。</li> </ul> 	プロジェクター投影による地図の縮尺変更

資料出典：「地理の資料」正進社

## 4. 授業改善の手順

### (1) 実践の反省

この授業では、生徒たちが興味を抱くような教材をいくつも使用しているため、生徒たちは普段以上の取り組みを見せた。しかしながら、それは単に教材という「道具」によって関心を高められただけであって、果たして知識が定着したと言えるのだろうか。さらに教材を欲張りすぎた結果、新指導要領の目玉とも言える「思考力・判断力・表現力の育成」についてはじっくりと時間をかけることができず、果たしてその力がついたのかと問われると眉唾ものである。この実践を振り返って感じたことは、大きくわけて4つである。以下に実践を通しての反省をあげてみる。

#### ア. 石炭産業が栄えた事実を力に懸けすぎたこと

この授業で習得させたい力は「産業立地の概念」である。それは官営八幡製鉄所をこの地に設立したことで十分に説明できる。ましてや次時への伏線ととらえるだけなら、石炭を使用していたという事実さえあれば、それで事足りうる。

プロジェクターに映し出される、廃墟となった端島(軍艦島)の写真は、導入として確かに効果があったのだが、生徒たちにとってはあまりにもセンセーショナル過ぎて、予想をはるかに超えて生徒たちの脳裏に飛び込み、単に端島(軍艦島)の「調べ学習」としての授業になってしまった感が否めない。さらにそこから広げた石炭産業の衰退についても、オーストラリア産との競争を例に出しているが、単に産出でなくなった事実だけでも十分だったであろう。

#### イ. 「思考力・判断力・表現力の育成」に時間をかけられなかったこと

肝心の「産業の立地の概念」を用いて「思考力・判断力・表現力の育成」をしたいところであるが、ロマンあふれる石炭産業の展開を求めたがために、本来ならば地図などの資料からの発見→立地条件の気づき→その説明と展開したいところであるが、既成事実として条件を提示し、その理由を説明させるだけになっている。しかも、北九州工業地帯の立地条件については、考えさせるところか、単に教科書から抜き出すという、お粗末な指導展開になっている。軍艦島をはじめ、生徒たちにとって魅力的な教材だったのかもしれないが、生徒たちの力を引き出す展開とはほど遠く、むしろ生徒たちには余分な知識だったのかもしれない。

#### ウ. 指導案展開での失敗があること

もう一度、先述の実施指導案に注目する。前半部分で九州地方の石炭産業の発展から、その斜陽まで学習を広げていく展開をしているにもかかわらず、その後で北九州工業地帯の立地を整理することにしている。つまり、生徒たちが知識を習得し、それを活用させていく展開になるべきところで振り出しに戻すという、指導展開の中での断絶が見られるということである。これではせっかく展開していったことが何も生かされない授業ではないか。

#### エ. 指導計画上の精選不足

従前の「窓方式」的な指導計画をある程度改善したつもりではあったが、結局はそれを捨てきれず、第1次の2時間では、九州地方全体を大観することがほとんどであり、従前と何ら変わりはない。そこまで捨てきれなかった地形や気候、産業などの大観であるが、わざわざ項立てする必要があるものとは決して言い切れない。何かを活用させるために、新

しい知識が必要になった時、その際に改めて取り上げれば済むことであり、わざわざ次時への伏線として、時間を費やす必要はなく、むしろその方が生徒たちにとってはいたずらに時間をかけてお茶を濁すより、本当に必要とする力だけを身に付けていくことができよう。

## (2) 改善に向けて

上記の課題を鑑みて、その改善を試みた。

### ア. 余分を捨て「産業の立地」に特化させる

軍艦島の栄華などロマンあふれるストーリーとした石炭産業であったが、授業として「産業の立地」に関する本筋だけをとらえれば、八幡製鉄所近くに筑豊炭田があったことだけで十分である。そこで後ろ髪を引かれる思いはしたが、思い切ってその部分を削除し、旧北九州工業地帯、IC産業、自動車産業の3種類だけに限定して考えさせ、それぞれ「原料や材料をもとにした立地」、「輸送することをもとにした立地」、「消費地近隣をもとにした立地」を考えさせることにより、「思考力・判断力・表現力の育成」を試みたい。当然ではあるが、一次案で見られた前半と後半の断絶は、前半部分が大きく精選されることによって解消させることができる。

### イ. 農業でも立地を

「産業の立地」は工業に限ったことではない。一次案の第2時で単に大観するだけだった農業においても、立地を考えさせることができるのではないか。農業立地の例として、宮崎平野での農業を取り上げ、盛んな農業が如何なる立地によるものなのかを考えさせていきたい。併せて、同じく一次案では大観した気候や地形上の特徴も、立地条件として考えさせる教材として用いることができる。そうすることにより、余分と感じられていた大観する授業が形を大きく変えることができ、まさに一石二鳥ではないだろうか。

### ウ. 指導計画の再構築

一次案で用いた第1次での「九州地方の環境保全の取り組み」から、第2次において「九州地方の持続可能な社会への取り組み」について学習する流れは継承した上で、それぞれの第1時で「農業とその立地」、「工業とその立地」について扱うことにする。この小単元での中核考察である、環境保全と持続可能な社会への取り組みの伏線ではあるが、「思考力・判断力・表現力の育成」を担う重要なポイントとして位置付けたい。

なお、その流れを示すと以下ようになる。

#### 第1次の流れ

九州の農業とその立地 → 九州の自然 → 九州の火山活動 → 九州の環境保全

#### 第2次の流れ

九州の工業とその立地 → 今の北九州 → 持続可能な社会 → 水俣市の取り組み

## 5. 改善後の二次案

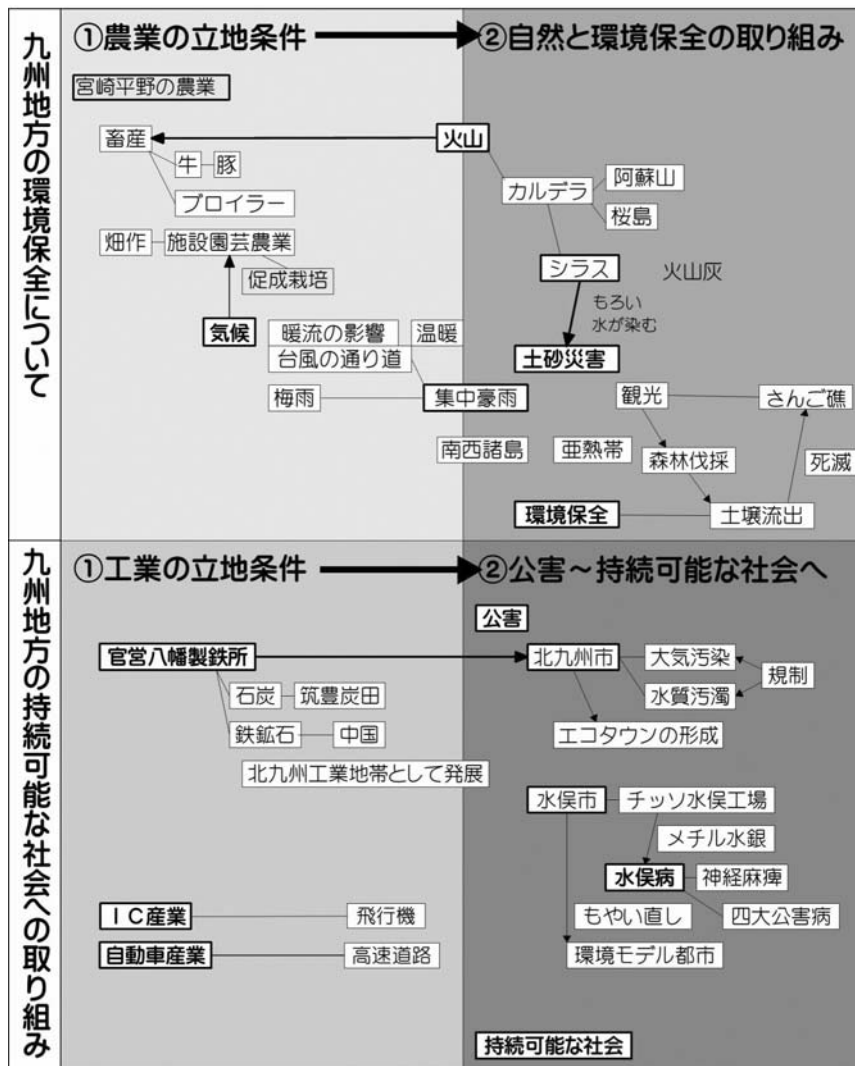
以上で検討してきた結果を修正した上で二次案を作ってみた。

### (1) 指導計画について

	授業のテーマ	主な学習内容	教科書頁	
第1次	九州の環境保全について	第1時	九州地方の農業の特色とその立地について	161,162,163
		第2時	九州地方の自然環境と自然災害、環境保全について	160,161,164,165
第2次	公害～持続可能な社会へ	第1時	九州地方の工業の特色とその立地について	163
		第2時	公害発生の失敗から学んだ持続可能な社会への取り組みについて	166,167,168

1次案で残さざるを得なかった地形や気候・産業などの大観をすることなく、環境問題や環境保全を中核とした考察をしていく。これを相関図で表すと次の図7のようになる。


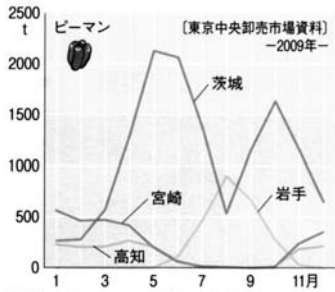
図7 新九州地方指導計画相関図



## (2) 授業指導案について

中でも大きく変更した「九州地方の農業」と「九州地方の工業」の2つを例に挙げてみる。

### ア. 第1次第1時「九州地方の農業（農業の立地）」における指導案

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
第一時 九州地方の農業について	九州地方の産業を学習するねらいについて	<p>キーワード「立地」とは何か？</p> <p>●立地という考え方が、本時の授業の中心であることを理解する。</p>	●九州地方の産業について、本時の中心である立地から考えていくことを説明する。
		<p>宮崎平野で行われている農業はどんなものか？ また、なぜその農業をしているのか？</p>	
	宮崎平野の農業の特徴	<p>写真より、宮崎平野で盛んな農業は？</p>  <p>●宮崎平野では、ビニルハウスを使った施設園芸農業が盛んであることを知る。</p>	●写真資料より気づかせる。 <b>知識・理解</b>
	宮崎平野の気候について	<p>宮崎平野の気候は？</p> <p>●暖流の影響を受けてかなり暖かいことを理解する。</p>	●プロ野球のキャンプ地として選ばれていることから考えさせる。 <b>知識・理解</b>
宮崎平野の農業での工夫	<p>宮崎は暖かい気候にもかかわらずなぜビニルハウスを使うのか？</p> <p>●暖かい地方でビニルハウスを使う利点を考える。</p> <p>●宮崎平野での農業の短所について考える。</p> <p>●暖かい気候を利用して出荷時期を早め、他の地域が栽培していない時期に出荷していることに気がつく。</p>  <p>宮崎のピーマンが東京に出荷される時期</p>	<p>●ビニルハウスがなくても十分に育つ環境であることを理解させる。</p> <p>●野菜が日持ちしないことや、出荷するのに輸送費がかかることを助言する。</p> <p>●促成栽培という語句も確認させる。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p>	




資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍、「社会科 中学生の地理」帝国書院

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
第一時 九州地方の農業について	宮崎平野での畜産について	<p>宮崎県で他に盛んな農業とは？</p> <p>●グラフから家畜の飼育が盛んであることを理解する。</p> <p>●鹿児島県も盛んであることに注目させる。</p> <p style="text-align: right;"><b>技能</b></p>	
	宮崎平野で米作りよりも野菜の栽培や家畜の飼育が盛んな理由について	<p>どうして宮崎では米作りよりも野菜の栽培や家畜の飼育が中心なのか？</p> <p>●火山灰が積もってできた土地なので水持ちが悪く、水田に向いていないところが多いことに気付く。</p> <p>●周辺に火山が多いことから、火山灰が積もってできた土地が多いことに気付かせる。</p> <p style="text-align: right;"><b>思考・判断・表現</b></p>	
		九州の他の地方で盛んな農業の立地について	<p>●九州の他の地方で盛んな農業について、その立地を考え、話し合う。</p> <p>●鹿児島の畜産、福岡筑紫平野の稲作、沖縄の熱帯植物栽培など、数点に絞る。</p> <p style="text-align: right;"><b>関心・意欲・態度</b></p>

資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍



イ. 第2次第1時「九州地方の工業（工業の立地）」における指導案

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
第一時 九州の工業について		九州で盛んな、盛んだった工業にどんなものがあるか？ また、なぜ盛んになったのか？	
	北九州に八幡製鉄所を建設した理由について	かつての工業の中心だった八幡製鉄所を大都市東京から遠い九州につくった理由は？  ●製鉄に必要な石炭がすぐ近くの炭田で産出されることを理解する。    ●鉄鉱石については、中国から輸入してきていた事実から、どんな利点があったかを考えさせる。    思考・判断・表現	
	近年、IC工場が九州に進出している理由について	IC工場が、どうして経費のかかる航空機輸送をするのだろうか？  ●ICが軽くて小さい割に高額なため、大量輸送が可能なので、経費がかかる飛行機でも十分に採算がとれることを考える。  ●ICが極小部品の割に1つ1つが高額であることから考えさせる。  思考・判断・表現	
		飛行機を使ってどこに輸送するのだろうか？  ●九州が東アジアや東南アジアに近いことから、輸送する上での長所に気付く。  ●東アジアが見通せる地図を使って、九州が東アジアや東南アジアに近いことに気付かせる。  	
	近年、自動車工場が九州に進出している理由について	自動車工場が、どうして高速道路インターチェンジの近くにつくられるのか？  ●自動車の多数の部品が高速道路を使って輸送されてくるので、高速道路の近くに工場が造られていることを考える。  ●自動車が数万点の部品を組み立てることから考えさせる。  思考・判断・表現	
	九州地方の産業のまとめ	●九州の工業例の立地を分類し、整理する。  立地という考え方が習得できたか	

資料出典：「デジタル教科書 新しい社会 地理」東京書籍

図8 第1次「九州地方の環境保全」 第1時「九州地方の農業」ワークシート

### 九州地方の農業……農業の立地

宮崎県・宮崎平野

写真からわかる特徴：ピニルハスを使っている

宮崎平野の気候は？

温かくて降水量も多い

**施設園芸 農業**

### 九州の気候について

ジャマイカ宮崎キャンパス  
どうして宮崎ですか？

温暖な気候……暖流 日本海流(黒潮)、対馬海流の影響  
特に南西諸島は亜熱帯性気候 ……さんごしょうが広がる

夏に南西諸島は亜熱帯性気候 ……さんごしょうが広がる

夏に降水量が多い

梅雨  
台風

集中豪雨

リゾート 開港

なぜピニルハスを使うのだろうか？

①この気候で、さらにピニルハスを使うとどんなことが可能か？

冬など、気温の低めの時期でも栽培が可能

②宮崎平野の短所って何だろう？

東京などの大都市から遠いため、輸送費が高い上、痛みやすいので、競争に負ける

予備知識  
野菜は日持ちしない上に痛みやすい  
出荷するには輸送費もかかる  
→出荷の際に距離が短い方が有利

③なぜ、ピニルハスを使うなどの工夫が必要なのか、説明①②の結果や右のグラフから総合的に考えてみよう

大消費地から遠いという短所を補うため、温かい気候を利用して栽培・収穫を早め、他の地域が栽培していない時期に出荷している。

……

・ちなみにこのように時期を早めて出荷することを、**促成栽培** という

さらに、隣の鹿児島県と共に……

右のグラフからわかることは？

肉牛・豚・ブロイラーなどの家畜の飼育が盛ん

なぜ、ここでは米作りが中心ではないのだろうか？

火山灰が積もってできた土地なので、水持ちが悪く、水田には向いていないから

鹿兒島 10.5 宮崎 7.8 熊本 6.0 栃木 4.8

肉牛 [2006年] 計86.9万頭

豚 [2006年] 計1619.2万頭

鶏 計1619.2万頭

その他 54.1

鹿兒島 11.4% 茨城 7.1 群馬 6.8 千葉 6.3

その他 59.7

青森 6.1 北海道 4.9

プロイラー [2006年] 計6.3億羽

鹿兒島 19.1% 宮崎 18.2 岩手 15.7 熊本 14.8 鹿児島 14.7 福岡 14.6 佐賀 14.5 大分 14.4 宮崎 14.3 熊本 14.2 鹿児島 14.1 北海道 14.0

計36.0

同様に、他の地域で盛んな農業についても考えてみよう

- ・鹿児島で家畜の飼育が盛ん
- ・九州北部の筑紫平野で米作りが盛ん
- ・南西諸島でさとうきびやパイナップルの生産が盛ん

資料典：「新しい社会 地理」東京書籍、「デジタル教科書 新しい社会 地理」東京書籍、「社会科 中学生の地理」帝国書院

図9 第1次「九州地方の環境保全」 第2時「環境保全の取り組み」

### 九州での環境保全の取り組みについて

#### 1. 九州の地形を考えよう

地形の特徴……火山が多い  
溶岩などが吹き出した後が  
くぼんでできた火山地形

カルデラでできろ  
阿蘇山 世界最大のカルデラ 東西19km南北24km カルデラ内109万㎡

カルデラはどんな性質があるのだろうか？

- ・しみにみやすい
- ・もろい

ということ  
火山脈を多く含む火山性の地層

#### 2. 九州の気候を考えよう

降水量が多い  
梅雨  
台風の通り道  
集中豪雨

#### 3. 九州の自然災害を考えよう

地形・気候考えられる、九州で多い自然災害は？

対策 土砂災害  
・砂防ダム の建設  
・森の 保水力 を高める

沖縄県の取り組みをまとめてみよう

被害  
沿岸部  
土壌流出

観光産業の成長  
沖縄で最も多い産業は？  
第3次産業

山崩れ  
流出しないよう 山の斜面 をなだらかにする  
土を盛り  
土を固めたもので耕地を囲む

資料出典：「新しい社会 地理」東京書籍、「中学校地理探検ナビ」ベネッセコーポレーション、Googleマップ、「デジタル教科書 新しい社会 地理」東京書籍

図10 第2次「九州地方の持続可能な社会を目指した取り組み」第1時「九州の工業」ワークシート

### ① I.C.工場の進出

IC 1個  
約1gで300円程度。

1cm × 1cm

ダンボール 1箱  
約5,000個のICが入る。

航空コンテナ  
1つ  
60個のダンボール箱が入る。  
(IC約30万個)

福岡ー東京間の航空貨物運賃 約20万円  
IC 1個あたり

ICの空輸にかかる費用

前ページの地図で、IC工場があるところ共通していることはどんなことか？  
飛行場のすぐ近くにある

どうしてなのだろうか？  
ICは高価な割に1つ1つが小さく軽いため、輸送費の高い飛行機でも十分に採算がとれるから

IC1個あたりの価格は？  
0.66円

どうして九州に作るのだろうか？  
東アジアや東南アジア向けに輸出しやすいから

福岡ー東京間の航空貨物運賃 約20万円  
IC 1個あたり

### ② 自動車工場の進出

自動車工場が建設される

前ページの地図で、IC工場があるところ共通していることはどんなことか？  
高速道路沿いにある

どうしてなのだろうか？  
各地でつくられた自動車の部品を、全国から高速道路を利用して集め、高速道路近くの工場を組み立てているから

出来上がった部品の輸送を中心とせずにいるのではない

### 九州の工業の立地をまとめてみよう

原料や材料をもとにしたもの…… 製鉄  
輸送することをもとにしたもの…… IC  
消費地の近くをもとにしたもの…… 自動車

**立地とはどんな考え方のだろうか。**  
自分の言葉でまとめよう

なぜその場所が、その産業に対する要求・条件を満たしているのかを尋ねること

九州の工業は、かつての製鉄からIC産業や自動車産業へと変化しています。「鉄」に対する依存度が減ったことはもちろんですが、それ以外に何かあったのでしょうか？

### 九州地方の工業……工業の立地

かつての工業 1901年、菅八幡製鉄所の建設

日清戦争の賠償金で

どうして大都市東京から遠い九州につくったのだろうか？

予備 製鉄に必要な原料 知識 鉄鉱石、石炭

九州計 79,479t

熊本県 4,875t

福岡県 4,875t

佐賀県 4,875t

大分県 4,875t

宮崎県 4,875t

鹿児島県 4,875t

熊本県 4,875t

福岡県 4,875t

佐賀県 4,875t

大分県 4,875t

宮崎県 4,875t

鹿児島県 4,875t

世界の石炭生産

世界の主な鉄鉱石の産地

製鉄に必要な原料である石炭がすぐ近くで産出されること、鉄鉱石を輸入しやすかった(中国より)から

### 九州地方のおもな工業の分布

近年、九州でさかんな工業にどんなものがあるか、右の図から読み取ろう。

**近年でさかんな工業**

IC(集積回路)  
自動車工業  
電気機器  
鉄  
紙  
セメント  
石油  
高速道路・有料道路  
国道  
空港

資料出典：「新しい社会 歴史」東京書籍、「デジタル教科書 新しい社会 地理」東京書籍、「地理の資料」正進社、「アドバンス中学地理資料」帝国書院、本田技研工業ホームページ

図11 第2次「九州地方の持続可能な社会を目指した取り組み」第2時「持続可能な社会へ」ワークシート

### 水俣市でも 2008年 環境モデル都市に認定される

■水俣市の環境モデル都市宣言

取り組み方針

環境に配慮した生活の実践

環境にこだわった産業づくり

自然と共生する環境保全型都市づくり

環境学習都市づくり

#### 水俣市と水俣市の年表

年	できごと
1950年代	チソン(現JNS(株))水俣工場が有機水銀化合物を未処理のまま八代湾に廃棄
1956	水俣で初めて病状が報告される
1958	水俣湾海域内での漁獲を禁止
1968	政府が水俣病を公認と認定し、水俣工場排出の有機水銀化合物が原因であると発表
1969	水俣病患者・家族がチソンに損害賠償を求めると宣言。以降、訴訟が続く
1992	水俣市が日本で初めて環境モデル都市づくり宣言
1995	調停により、訴訟の大半が取り下げられる
1997	熊本県が水俣湾の安全宣言を出す
2008	水俣市が政府から環境モデル都市に認定される
2009	水俣市がゼロ・ウェイストのまちづくりを宣言
2010	水俣特別措置法が制定される

どうしてこのような取り組みをしているのだろうか?

水俣市って何があったの? …… 水俣病の発生

どんな病気? 神経がマヒし、劇に障害が出て、体の自由がきかなくなる

何が原因? 工場排水に含まれていたメチル水銀

その原因を作った会社は? チソン水俣工場

『もやい直し』

そのくらしい過去を洗い直す 人々の努力

水俣市でのキャッチフレーズ

### 公害～持続可能な社会へ 現在の北九州市の取り組み エコタウンの形成

北九州市資料 1:240,000 4km

産業物産分庫、風力発電、総合環境コンベンツ、リサイクル団地、リサイクルセンター、エコタウン、ひびき、かんびん資源化センター、リサイクルプラザ、わかまっぴん、かみびん資源化センター、リサイクルプラザ、北九州学術研究都市、北九州テクノパーク、北九州テクノセンター、北九州テクノセンター、北九州テクノセンター

#### ごみのリサイクル率 (2007年(人口150万以上) 福岡県)

市	リサイクル率 (%)
北九州市 (福岡県)	30
八王子市 (東京都)	25
横浜市 (神奈川県)	20
千葉市 (千葉県)	15

-環境省資料-

この結果、ゴミのリサイクル率はどうなったのかな?

他の都市よりもリサイクル率が高い

結局、エコタウンってどういうことなのだろうか?

ある産業から出る廃棄物を他の分野の原料として活用し、廃棄物を減らすこと

過去の経済成長→工業生産の優先 北九州工業地帯でも生産優先

1960年代

1960年代

1960年代

過去に何かあったのだろうか?

どんなことが起きたの?

原因 (工場からの排煙・排気ガス) (大気汚染)

原因 (工場からの排煙・排気ガス) (大気汚染)

原因 (海洋汚染・水質汚濁)

原因 (工場排水の垂れ流し)

1970年～法律による規制

資料典: 「デジタル教科書 新しい社会 地理」東京書籍, 「新しい社会 地理」東京書籍, 「地理の資料」正進社

## 6. おわりに

世の中の技術革新はめざましく、今後ますます情報機器の複合化・小型化が進むのは容易に予想される。生徒たちが社会人として活躍する頃には、必要な時に必要な情報がそれらの機器によって簡単に提供されるようになるのは言うまでもない。したがって、かつてのような膨大な地理情報を習得するという学習形態は、さほど重要なことではなくなることになる。大事なことは、その容易に得られるであろう膨大な地理情報をもとに、地理的特色をつかみ、適切な思考・判断をしていくことである。すなわち「思考力・判断力・表現力」を育成することがこれからの社会を生きていく力となっていくこととなるであろう。本研究を通して改めて感じたことは、地理授業において「思考力・判断力・表現力」を育成するということは、地理的な本質を解明させていくことであり、そこに地理を学ぶ本質的なおもしろさがあるということである。極端な言い方をすれば、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業とは、地理を学ぶおもしろさを感じられる授業だということであろう。

(稲谷 徹)

## 第2章 歴史的分野における「思考・判断・表現」の実践・評価と改善

### －单元「日清・日露戦争と東アジアの動き」を事例として－

#### 1. はじめに

全日本中学校長会の2012年度「調査研究報告書」によると、公立中学校の約8割が基礎的・基本的な知識・技能の習得について「順調に実施できている」と回答する一方、新学習指導要領のもう一つの大きな柱である思考力・判断力・表現力等の育成に関しては約7割の学校が「課題がある」と認識しているという<sup>1)</sup>。すでに「思考力・表現力・判断力」の学習指導と評価の研究が取り組まれているものの<sup>2)</sup>、何をどう評価すればよいのかという現場の困惑はなお深いといえよう。

学校現場で「思考・判断・表現」の研究や実践が困難をきたしている原因は、授業で教師が評価すべき「思考・判断・表現」の内実が不明確で曖昧であるためであると考えられる。

小原は思考力が判断力や表現力の基盤になるとし、思考は問いに導かれ、問いは求める歴史認識のレベルに応じて、以下の4種類に分けられるという<sup>3)</sup>。

- ① 歴史事象の具体的な有り様に関する知識を求める問い
- ② 特定の歴史事象の原因や意味に関する問い
- ③ 多くの歴史事象の関連性や展開に関する知識を求める問い
- ④ 歴史事象に関して、主体的な価値付けを求める問い

そして、上の4つの問いを中心として生徒の思考力を働かせようとする歴史づくりを対応させたものとして、以下の4つの授業デザインをあげている。

- ① 歴史資料から必要な情報を集めて読み取る
- ② 歴史事象の意味・意義を解釈する
- ③ 歴史事象の特色や事象間の関連を理論的に説明する
- ④ 歴史に対する自分の考えを表明する

そこで本研究では、小原のいう「思考力・判断力・表現力」をつける4つの歴史授業のうち、②の授業づくりをめざした。单元「日清・日露戦争と東アジアの動き」の第4時にあたる「国民と戦争」の授業実践を例に評価方法の具体例を示し、生徒はどのような知識内容をもとに考察し、判断したのかを明らかにすることで、社会科における思考・判断・表現とは何か、それをどのように育成するのかという問いに応えたい。

#### 2. 授業計画と実践の概要

##### (1) 「国民意識」の形成過程を探究する单元構成

本節では、2012年11月に、勤務校の3クラスの2年生の生徒を対象として実践した小単元の「日清・日露戦争と東アジアの動き」の概要を示す。本小単元は、戦争を通して「国民意識」が形成されていった過程を探究することを中核においた单元構成である。また、本単元は、「国民意識」の形成を軸にした近現代史カリキュラムのなかに位置付けられるもので、次ページの表1はその全体計画を、表2は「国民意識」を研究するための主題学習における主な問いを示したものである。

表1 「国民」意識の形成を軸にした近現代史カリキュラム

<p><b>第1単元 日本の近代化</b></p> <p>小単元1 欧米の発展とアジアの植民地化</p> <p>小単元2 近世から近代へ</p> <p>小単元3 近代国家へのあゆみ  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主題学習</span>近代日本の天皇像</p> <p>小単元4 自由民権運動と国会開設</p> <p>小単元5 日清・日露戦争と東アジアの動き  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主題学習</span>「国民」と戦争</p> <p>小単元6 近代日本の社会と文化</p>	<p><b>第2単元 二度の世界大戦と日本</b></p> <p>小単元1 第一次世界大戦と戦後の世界</p> <p>小単元2 大正デモクラシーの時代</p> <p>小単元3 世界恐慌と日本</p> <p>小単元4 中国との全面戦争  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主題学習</span>よりよい「国民」をめざして</p> <p>小単元5 第二次世界大戦と日本</p> <p><b>第3単元 新しい日本と世界</b></p> <p>小単元1 平和と民主化への動き</p> <p>小単元2 日本の独立  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主題学習</span>日本は本当に独立したのか</p> <p>小単元3 国際化する世界と日本</p>
--	--

表2 各小単元における主題学習—「国民意識」の研究—

単元名	(小単元) 主題学習	主な問い	「国民」意識のありよう
第1単元 日本の近代化	(小単元3) 近代日本の天皇像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇の描かれ方にはどのような変化が見られるか？</li> <li>・軍服姿の明治天皇の絵や写真は、人々にどのようなイメージを与えたか？</li> </ul>	欠如 創出
	(小単元5) 「国民」と戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福沢諭吉はなぜ「政府はあっても国民がない」と言ったのか？</li> <li>・なぜ新聞は戦争報道に力を入れたのか？</li> <li>・なぜ戦争に行った人々の顕彰碑が各地に建てられたのか？</li> </ul>	自覚 高揚
第2単元 二度の世界大戦と日本	(小単元4) よりよい「国民」をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ台湾の少年が、死ぬ間際に「君が代」を歌ったのか？</li> <li>・なぜ「君が代少年」の話は教科書に載ったのか？</li> <li>・なぜ女性たちは戦争に進んで協力したのか？</li> </ul>	内面化
第3単元 新しい日本と世界	(小単元2) 日本は本当に独立したのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ講和条約が発効で「独立した」と考える国民は41%しかいなかったのか？</li> <li>・なぜ沖縄の教師たちは方言はやめて共通語を話すよう指導したのか？</li> <li>・なぜ本土の人は「沖縄人は日本語もしゃべれるのですね」と言ったのか？</li> </ul>	覚醒 包摂 排除

歴史学習の目的は過去の出来事を知ることではなく、歴史を手段として「社会がわかる」ようになることである。自分が生活する社会を対象化し、その本質や構造、メカニズムを知ることによって、社会観、価値観は徹底的に揺すぶられ、社会認識は飛躍的に成長する<sup>4)</sup>。



2014年の冬、ソチ・オリンピックのテレビ中継を見ながら、つい日本人選手や日本チームを応援してしまったのはだれもが経験したことだろう。また、近隣諸国との領土問題をめぐる国民感情の対立は、双方の国民による過激な行動をしばしば誘発している。

このように私たちが当たり前のように持つ「国民」という意識とは何なのか——そもそもそのような問いは歴史学習のなかでは生じてこない。戦前の教科書とは異なり、今は客観的に記述されている（かのような）教科書を使い、事実(?)としての歴史事象の連続として展開する通史の授業のなかで、「国民としての自覚」はことさら強調されることはないからである。しかし、自国史を小・中・高校と繰り返し学ぶことが「国民」としてのナショナル・アイデンティティの醸成に寄与していることは、学校教育における歴史教育が学習指導要領とそれに基づく検定教科書によってなされているという形式的な面と、国民史を教育するという内容的な面の2つの意味から明らかである<sup>5)</sup>。ところが、教える側にはその自覚は希薄であり、まして学ぶ側はまったくない。なぜなら、そのことはカリキュラムのなかで通常、隠されているからである。

グローバル化する現代社会では国家の境界が揺らぐゆえに、かえって国民としてのナショナル・アイデンティティが求められるようになるが、国民意識の強化は国民統合を促進すると同時に、国家間の対立を煽動するものにもなりうる。であるとしたら、このような国民意識は、「いつ」「いかにして」生成したのか。その意味は時代とともにどのように変化してきたのか。なぜ今私たちの気持ちを揺さぶるのかを探究することには大きな意義があるのではないか。

## (2) 小单元「日清・日露戦争と東アジアの動き」の目標

関心・意欲・態度	資料活用の技能	知識・理解	思考・判断・表現
二度の対外戦争前後の国際関係に関心を持ち、戦争を通して近代の特色をとらえようとしている。	さまざまな資料から、戦争前後の国内・国外の情勢を読み取ることができる。	日清・日露戦争の原因と戦後の国際関係を東アジアの動きから説明できる。	戦争を契機に「国民」としての自覚が生まれたことを考察し、その過程や結果を表現できる。

## (3) 小单元計画 (全5時間)

- 第1時 朝鮮をめぐる日本と清の対立
- 第2時 東アジアでの日本とロシアの対立
- 第3時 ポーツマス条約と戦後の国際関係
- 第4時 国民と戦争
- 第5時 日本の朝鮮支配と中国の近代化

## (4) 小单元の概要

第1時と第2時では、日清・日露戦争それぞれの原因を、東アジアの情勢から説明できることを授業のねらいとした。当時の風刺画から擬人化された国がそれぞれどこかを読み取り、国際関係を生徒たちに文章でまとめさせた。その際、日本を表す人物の服装や表情、年齢などに注目するよう指示し、そこから当時の日本が置かれていた国際的な立場を想定

させた。また第2時については、反戦・非戦を唱えた人々が少数派ではあったもののいたことにも触れ、特に与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」は全部を読み、なぜ与謝野晶子が批判されたのかを考えさせた。

第3時はポーツマス条約締結の国内外への影響を説明することをねらいとし、「なぜポーツマス条約に対して国民が反対したのか」をさまざまな資料に基づいて考察させた。まず、条文の要約やグラフ、統計のそれぞれからわかることについて書いた後、それらを総合して国民がポーツマス条約に反対した理由を根拠を示して説明することを求めた。

第4時では、戦争が国民の意識をどう変えたのかを探究した。これまで学習した日清・日露戦争をふり返りながら、新たに「伝えられた戦争」「記憶に残される戦争」という2系統の資料を与え、初めての大規模な対外戦争を人々がどのように受け止め、人々の意識をどのように変えたかを考察させた。

第5時では韓国併合の過程と朝鮮における植民地政策、中国の辛亥革命について扱う。孫文については神戸との関係にも触れる。

## (5) 授業「国民と戦争」

### ア 本時の目標

- ・メディアが伝えた戦争の詳細や戦争の記念碑や記念植樹を考察することを通して、「国民意識」の形成に戦争が果たした役割について、判断し表現することができる(思考・判断・表現)。

### イ 本時の学習過程

	発問・指示	学習過程	教材	発見・習得させたい知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文明開化で学習した福沢諭吉を覚えていますね。諭吉の書いた『文明の概略』の一部を読みます。諭吉が一番言いたかったところに線を引きなさい。</li> <li>・どこに線を引きましたか。</li> </ul> <p>○諭吉は明治のはじめのころの日本人には「国民」の意識がないことを嘆いていますね。</p>	<p>T：指示する S：資料を読む 資料に線を引く</p> <p>T：発問する S：答える T：確認する</p>	①	○「日本には政府はあっても国民がない」と言っている。
展開 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日清戦争や日露戦争はさまざまなメディアによって伝えられました。</li> <li>・資料2を読みなさい。どんなことがわかりますか。</li> </ul> <p>・大手の新聞以外にも、様々な新聞が戦争を伝えました。資料3の新聞にはどんな特徴がありますか。</p>	<p>T：説明する</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>	②  ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞は号外を出して戦争の様子を伝えた。</li> <li>○人々は争って新聞を読み、戦場の様子を知ろうとしていた。</li> <li>・カラーである。</li> <li>・さし絵が大きい。</li> <li>○わかりやすい新聞だ。</li> </ul>

	発問・指示	学習過程	教材	発見・習得させたい知識
展開 I (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3を見なさい。浅井忠は有名な画家ですが、従軍し戦場の様子を絵に描きました。</li> <li>資料4を見なさい。兵士が書いた日露戦争の体験記です。</li> <li>多くの人が新聞を読んだり、兵士が日記や手紙に体験を書き残したりした背景には、教育の普及があります。教科書で就学率のグラフをもう一度確認しましょう。</li> </ul> <p>○様々なメディアが伝えた戦争を人々はどのように受け止めたでしょう。</p>	<p>T：指示する 説明する</p> <p>T：指示する 説明する</p> <p>T：指示する S：確認する</p> <p>T：発問する S：WSに記入する</p>	<p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨場感あふれる絵が多く描かれ、戦争が視角に訴えられることになった。</li> <li>体験記や手紙、日記は新聞とは異なる、生々しい個人的な戦争体験を伝えた。</li> <li>○日露戦争の頃には、小学校の就学率は男女とも95%を超えている。多くの人が読み書きできた。</li> <li>○家族や友人が戦う戦場の様子を必死に知ろうとした。</li> <li>○戦争を身近に感じた。</li> <li>○勝ち負けが気になった。など</li> </ul>
展開 II	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後、戦争の記念碑が全国各地に造られました。</li> <li>これは和歌山市にある征清記念標碑です。日清戦争の翌年に建てられました。</li> <li>これは広島市のものです。日清戦争の凱旋碑として1896年に建てられましたが、戦後「平和の塔」と名前を変えています。</li> <li>これは仙台市の昭忠碑です。1902年に建てられました。上のとびは東日本大震災で落下してしまいました。</li> <li>これらの記念碑の共通点は何ですか。</li> <li>実は地元にも「明治三十七、八年之役凱旋記念樹」という碑があります。</li> </ul> <p>○戦争の記念碑や植樹は、見る人の気持ちや考え方にどのような影響を与えたでしょう。</p>	<p>T：説明する</p> <p>T：説明する</p> <p>T：説明する</p> <p>T：説明する</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：説明する</p> <p>T：発問する S：WSに記入する</p>	<p>⑦</p> <p>⑧</p> <p>⑨</p> <p>⑩</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きい。目立つ。見上げる。</li> <li>それぞれの戦後に建てられている。</li> <li>○日本は強いんだと思った。</li> <li>○戦争で亡くなった人のことを忘れてほしくない／平和を願った、など</li> </ul>
終結	<p>○日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人びとの意識をどのように変えただろう。</p>	<p>T：発問する S：WSに記入する</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争の勝敗を気にするようになった。</li> <li>戦争は国民全員に関係あるという意識が変わった。</li> <li>国民が一丸となる意識を高めた、など</li> </ul>

- 教材 ①福沢諭吉『文明の概略』の現代語訳（WS資料1）  
 ②日清戦争のころの銀座（WS資料2 岡本綺堂「四十年前」, PPスライド）  
 ③新聞報道（WS資料4 「日清戦争絵報」, PPスライド）  
 ④有名な画家も従軍した（WS資料3 浅井忠「清国・金州城の戦い」, PPスライド）  
 ⑤日露戦争の体験記（WS資料5, PPスライド）  
 ⑥小学校の就学率の変化（教科書p.164）  
 ⑦和歌山市征清記念標碑（WS資料6, PPスライド）  
 ⑧広島市平和の塔（日清戦争凱旋碑）（WS資料7, PPスライド）  
 ⑨仙台市昭忠碑（WS資料8, PPスライド）  
 ⑩日露戦争凱旋記念植樹の石碑（神戸市東灘区大日靈女神社境内<sup>おおひるめ</sup>, PPスライド）

### 3. 評価の概要と分析結果

#### (1) 小單元における評価の場面

毎授業で提出させた授業のワークシートの記述内容及び定期考査においておこなった（表3）。ワークシートにおける評価は「毎時提出」→「点検」→「次の時間に返却・解説」というサイクルでおこなった。また、「関心・意欲・態度」はワークシート全体の取り組みを、「知識・理解」はプリントの空所の記述を、「資料活用の技能」「思考・判断・表現」の2観点については、ワークシートの特定の問いについてA・B・Cで評価し、評価B, Cの生徒に対しては何が不足しているのかのコメントをプリントに書き添えた。

	関心・意欲・態度	資料活用の技能	知識・理解	思考・判断・表現
	二度の対外戦争前後の国際関係に関心を持ち、戦争を通して近代の特色をとらえようとしている。	さまざまな資料から戦争前後の国内・国外の情勢を読み取ることができる。	日清・日露戦争の原因と戦後の国際関係を東アジアの動きから説明できる。	戦争を契機に「国民」としての自覚が生まれたことを考察し、その過程や結果を表現できる。
ワークシート (毎時提出)	No.51, No.52, No.53, No.54	No.51, No.52, No.53, No.54	No.51, No.52, No.53, No.54	No.54
定期考査 (後期中間考査)	—	大問6	大問5 問7～問11	—

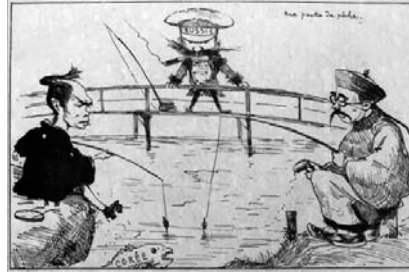
表3 評価の場面

#### (2) 評価の概要

##### ア ワークシートにおける評価例（資料活用の技能の場合）

ワークシートNo.51「朝鮮をめぐる日本と清の対立」では、風刺画から日清戦争直前の国際関係を読み取る問いへの記述内容を評価した。

「魚釣り遊び」 (ビゴー, 1887.2.15)



この絵は当時のどのような国際関係を表しているだろう？

評価基準例

A	B	C
日本, 清, 朝鮮, ロシアの4カ国の関係が書かれている	4カ国の立場が不正確。または3カ国の関係しか書かれていない。	登場する国の相互の関係が不正確。または記述していない。
「朝鮮に対する主導権をめぐって日本と清が対立し、その様子をロシアがうかがい朝鮮の主導権の横取りをねらっている」	「日本と清とロシアが朝鮮の主導権をねらっている」 「朝鮮に対する主導権をめぐって日本と清が対立している」	「日本と清の対立」「日本はとても必死で、そこをロシア人は見えてなにかたくらんでいる」

実際の生徒のワークシートの記述例

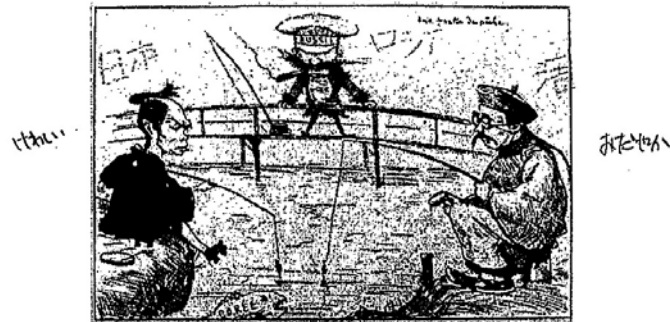
<生徒1>

2 日清戦争

(1) 日清戦争前の国際情勢

ながひる

「魚釣り遊び」 (ビゴー, 1887. 2. 15)



この絵は当時のどのような国際関係を表しているだろう？ (エ)

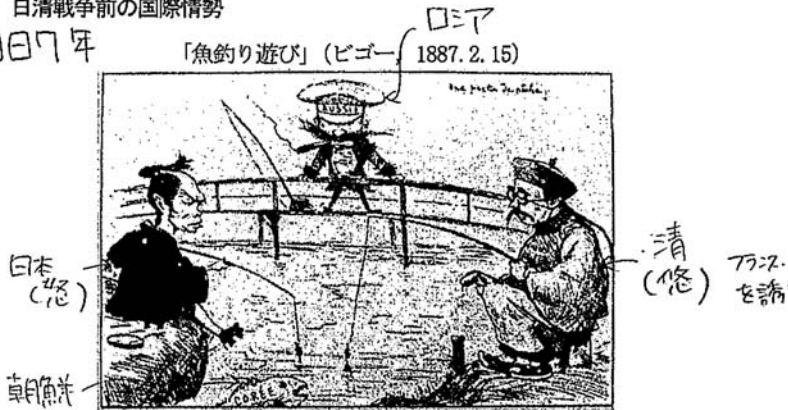
A) 昔から朝鮮との関わりがある清(ロシア)は、おたやかな表情で余裕そうにしているが、清と朝鮮をめぐって対立している日本(左)はけわしい表情をしていて、ヒソヒソとしている。ロシアはブリザードを待たずに、魚(朝鮮)をたたく方からそれを横取りしようとしている。

日本, 清, 朝鮮, ロシアの4カ国について, 朝鮮をめぐる関係を説明できているうえに, 清は「穏やかな表情(余裕)」, 日本は「けわしい表情(ピリピリしている)」と, 各国が置かれている状況を擬人化された国の表情から読み取っているため評価Aとした。

資料出典: 「ビゴーが見た明治ニッポン」 講談社学術文庫

<生徒2>

2 日清戦争  
(1) 日清戦争前の国際情勢  
1887年



この絵は当時のどのような国際関係を表しているだろう?

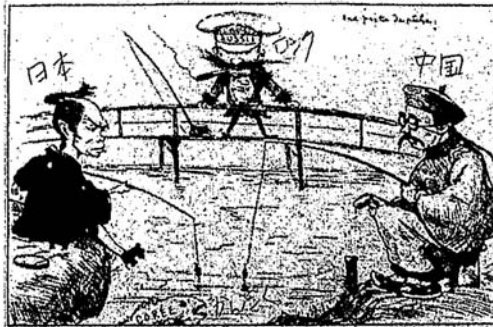
A 日本と清が互いに朝鮮魚をねらっている。その上にはロシアが上から見ていて、横取りしようとしている。つまり、日本と清は対等である。その上にはロシアがいる。朝鮮魚はどの国にも不安定である。

日本、清、朝鮮、ロシアの4カ国について、朝鮮をめぐる関係を説明できおり、「対等な日本と清」「それより上位のロシア」「もっとも不安定な朝鮮」と各国の力関係について説明できているため評価Aとした。

<生徒3>

2 日清戦争  
(1) 日清戦争前の国際情勢

「魚釣り遊び」(ビゴー, 1887. 2. 15)



この絵は当時のどのような国際関係を表しているだろう?

B 日本と中国とロシアが朝鮮魚をねらっている。日本・中国とロシアのあかっている状況のちがいは?

4カ国の立場を対等にとらえているため評価Bとし、各国の状況の違いに言及するように助言した(○の部分)。

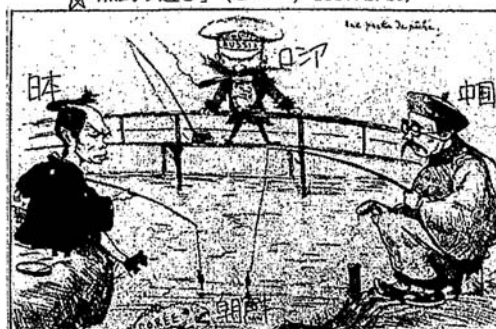
資料出典：「ビゴーが見た明治ニッポン」講談社学術文庫

<生徒4>

2 日清戦争

(1) 日清戦争前の国際情勢

☆「魚釣り遊び」(ピゴア, 1887.2.15)



この絵は当時のどのような国際関係を表しているだろう？

ロシアが一番えらくて、日本と中国が同じような感じでお互い対立している。朝鮮羊が一番下。  
その理由は？

4カ国の力関係については書けているが、対立の原因について言及していないために評価Cとし、対立の原因について考えるよう助言した(その部分)。

イ ワークシートにおける評価例(思考・判断・表現の場合)

ワークシートNo.54「国民と戦争」では、これまで学習した日清戦争(ワークシートNo.51「朝鮮をめぐる日本と清の対立」)、日露戦争(ワークシートNo.52「東アジアでの日本とロシアの対立」)、日露戦争後(ワークシートNo.53「ポーツマス条約と戦後の国際関係」)を振り返りながら、新たに「伝えられた戦争」「記憶に残される戦争」という2系統の資料を与え、初めての大規模な対外戦争を人々がどのように受け止め、戦争が人々の意識をどのように変えたかを授業の最後に考察させた。

評価基準例

A	B	C
「人々の意識」の変化について、国民意識が形成されたことについて述べている	「人々の意識」の変化について、戦争に対する意識の変化のみについて述べている。	「人々の意識」の変化について、国民意識や戦争に対する意識以外について述べている。または、「平和を願うようになった」など変化したかどうかかわからないことについて述べている。
「自分が日本の国民であるということが改めてわかった。」 「日本人全体が団結するようになった。」	「国民が戦争の勝敗を気にするようになった。」 「身内が戦争に行くことになって、戦争を身近に感じるようになった。」	「たくさんの情報を知りたくなかった。」 「戦争は悲しいことであり、やっちはいけないと思うようになった。」

資料出典：「ピゴアが見た明治ニッポン」講談社学術文庫

実際の生徒のワークシートの記述例

<生徒5>

2年後

3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう？  
今までは、戦争は武士まかせで他人事だったのが、  
日清戦争、日露戦争後は、家族が徴集されたりなど  
他人事ではなくなり、記念碑などをつくることで  
「自分は国民の1人だ」という意識にかわった。

<生徒6>

3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう？  
諭吉の時代は他人事で、傍観している人々が多かった。ただし、日清戦争、  
日露戦争を迎えると、新聞や手紙を通して、戦地の様子を知ると、家族  
の安全を気にかける中で、「自分たちも同じ日本国民なんだ」という一体感  
をもつようになり、日本の出陣を気にかけるきっかけとなった。

生徒5、6とも「自分は国民の1人だ」「自分たちは同じ日本国民なんだという一体感をもつ」というように、国民意識の形成に言及できているため評価Aとした。

<生徒7>

3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう？  
「戦争は自分には関係ない」と思っている人が多かった  
が、身内の出兵やメディアから得た情報により、  
「他人事」ではなくなった。

<生徒8>

3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう？  
諭吉の時代は、日本の国民は戦争にあまり興味を持たなかったけれど、  
戦争が起こると、戦争に対して興味を持って新聞を読み始めた。

生徒7、8ともに戦争に対する意識の変化にとどまった記述のため評価Bとした。



<生徒9>

3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう？  
人々はこの2つの戦争を通して、多くの人々を失って、平和を望んでいるという意識に変化した

<生徒10>

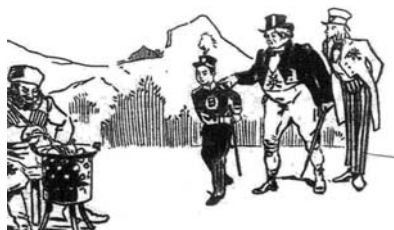
3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう？  
多くの人々やものを失って、平和が大切だとばかりの気持ちがわいた。戦争中は、みんながホノノシを知らなかった。

生徒9、10ともに平和を願う意識が変わったと書いているが、事実とはいええないため評価Cとした。

#### ウ 定期考査における評価例（知識・理解の場合）

##### 大問5

問7 次の風刺画は、日清戦争と日露戦争が始まる以前の国際関係を描いたものである。



A「火中の栗」



B「魚釣り遊び」

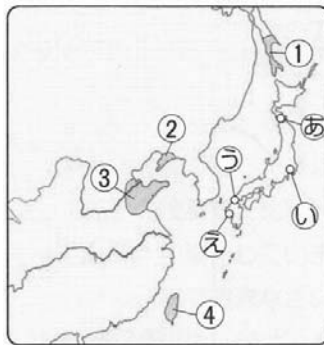
- (1) A, Bの風刺画で、それぞれ栗と魚で表現されている国はどこか。  
(2) A, Bの風刺画のうち、日清戦争前の国際関係を表したのはどちらか。記号で答えなさい。

問8 次の文は下関条約とポーツマス条約のどちらかの一部である。それぞれの条約の内容を選び、記号で答えなさい。

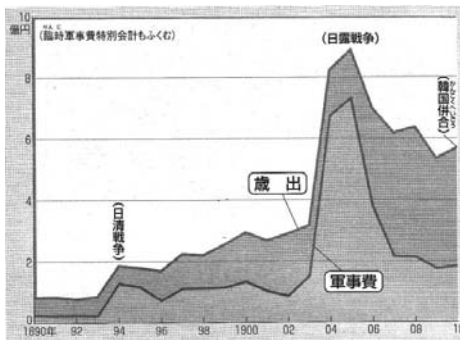
- ア 条約の相手国は、賠償金として2億両を日本に支払う。  
イ 条約の相手国は、南満州の鉄道ふせつけんの敷設権と鉱山の採掘権を日本に譲る。  
ウ 条約の相手国は、樺太の南半分を日本に譲る。

- エ 条約の相手国は、台湾を日本に譲る。
- オ 条約の相手国は、朝鮮の独立を認める。

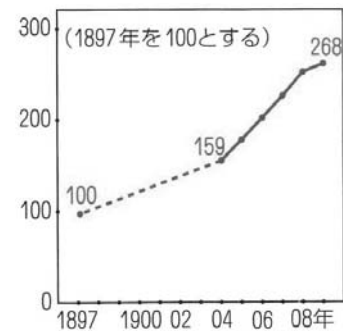
- 問9 フランス、ドイツとともに三国干渉をおこなった国はどこか。
- 問10 人々はポーツマス条約の内容のどの点に不満を持ったのか。簡単に説明しなさい。
- 問11 右の地図について、
- (1) 下関条約はどこで結ばれたか。地図中の㉠～㉥から選び、記号で答えなさい
  - (2) 三国干渉で清に返還した( 8 )の場所を地図中の①～④から選び、番号で答えなさい。



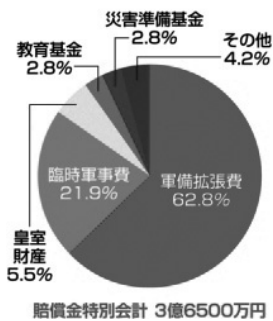
大問6 日露戦争について、次の資料を使ってあとの問いに答えなさい。



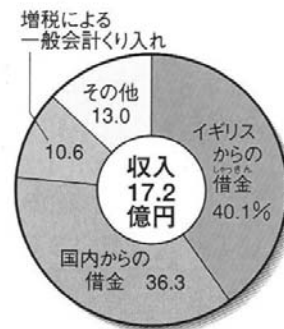
資料Ⅰ 国の歳出と軍事費



資料Ⅱ 国民1人当たりの租税負担



資料Ⅲ 賠償金と還付金の使いみち



資料Ⅳ 戦費とその調達先

資料出典：「中学校社会 歴史的分野」日本文教出版、読谷バーチャル平和資料館ホームページ、「社会科 中学生の歴史」帝国書院

問1 資料Ⅰで、国の歳出が最も多かった年と、軍事費が最も多かった年はそれぞれ何年か。

問2 資料Ⅱで、国民が最も多額の税金を負担していたのは何年か。

問3 資料Ⅰ、Ⅱからわかることを次のようにまとめた。文中の空欄に適する語句を答えなさい。

日露戦争が終わると、( 1 )の割合は年々減っているが、( 2 )はしだいに増えている。

問4 問3のような状態になった理由を、資料ⅢまたはⅣのどちらかを使って説明しなさい。

### (3) 評価の分析

本小単元は、戦争を通して「国民意識」が形成された過程を探究することを中核においたものであった。そこで、第4時の「戦争と国民」(ワークシートNo.54)における「思考・判断・表現」の観点に対する生徒の記述について分析する。

提出させたワークシートの「日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人びとの意識をどのように変えただろう」という問いに対する答えは、「戦争の勝敗に関心を持たず、見ているだけ」だった人々が「戦争の勝敗に関心を持つようになった」という「戦争」に対する意識の変化に言及したにとどまる記述(評価B)がほとんどであった。

ついで、多かった生徒の記述は、評価Cとした「平和を願う」というものである。「平和を願った」という国民意識の変化は、資料からは読み取れない。にもかかわらず、多くの生徒が日清・日露戦争後に人々が「戦争がない平和な社会を望んでいた」と記述したのは、現代の自分たちの考えに依拠した類推と考えられ、資料にもとづいて当時の人々の意識の変化を考察できていない。

本授業のはじめに確認した「日本には政府はあっても国民がない」という福沢諭吉の時代と比較して、「国民」としての自覚が生まれたことに言及した記述(評価A)は少数で、本時の目標であった「戦争を通して「国民」意識が生まれたことがわかる」については達成できたとはいえない結果となった。

多くの生徒が、人々の意識の変化として「国民意識の形成」をあげることができなかった理由として、以下の3点が考えられる。

- ① 「国民意識」という概念が、中学2年生には抽象的すぎた。
- ② 「国民」という概念が、生徒らにとっては余りにも自明のことであり、それが形成されるものであるということを認識できなかった。
- ③ ワークシートの問い(「日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろう?」)が的確でなかった。

①②の課題は、③の「問い」の修正、あるいは最後の問いにいたるまでの授業の構成

を修正することで解決できると考えられる。

第4時を最初におこなったクラス（2013年11月8日実施）で、評価Aにあたる記述が少なかったため、その後のクラスでは、ワークシート中の資料を一部差し替え、問いも増やした。

No.15 ver.1のプリントの資料と設問	No.15 ver.2のプリントの資料と設問 (修正点を網かけにしてある)
<p>0 政府はあっても国民がない日本  <b>資料</b> 福沢諭吉『文明之概略』（1875年）</p> <p>1 伝えられた戦争  <b>資料1</b> 日清戦争のころの銀座            （岡本綺堂「四十年前」）  <b>資料2</b> 有名な画家も従軍した            （浅井忠「清国・金州城の戦い」）  <b>資料3</b> 絵入りの新聞が流行            （「日清戦争絵報」）  <b>資料4</b> 日露戦争の体験記            （兵士の葉書）</p> <p>2 記憶に残された戦争  <b>資料5</b> 宮城県青葉城公園「昭忠碑」            （写真）  <b>資料6</b> 長野県諏訪大社「征清記念」            （写真）  <b>資料7</b> 広島市「平和の塔（鷹の記念碑）」            （写真）</p> <p>3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろうか？</p>	<p>0 政府はあっても国民がない日本  <b>資料1</b> 福沢諭吉『文明之概略』（1875年）  <b>諭吉が言いたかったことは何だろうか？</b></p> <p>1 伝えられる戦争  <b>資料2</b> 日清戦争のころの銀座            （岡本綺堂「四十年前」）  <b>資料3</b> 有名な画家も従軍した            （浅井忠「清国・金州城の戦い」）  <b>資料4</b> 絵入りの新聞が流行            （「日清戦争絵報」）  <b>資料5</b> 日露戦争の体験記            （兵士の葉書）  <b>問1</b> <b>さまざまなメディアが伝えた戦争を、人々はどのように受け止めたのだろうか？</b></p> <p>2 記憶に残された戦争  <b>資料6</b> 和歌山市「<sup>せいしん</sup>征清記念<sup>ひょうひ</sup>標碑            （1895年）」（写真）  <b>資料7</b> 宮城県青葉城公園「昭忠碑            （1896年）」（写真）  <b>資料8</b> 広島市「平和の塔（鷹の記念碑）            （1902年）」（写真）  <b>問2</b> <b>戦争の記念碑は、見る人の気持ちや考え方にどのような影響を与えただろうか？</b></p> <p>3 日清戦争や日露戦争は、諭吉の時代の人々の意識をどのように変えただろうか？</p>

ワークシートの修正点は以下の4点であった。

- ① 福沢諭吉の『文明之概略』から、読み取る視点「諭吉が言いたかったことは何だろうか？」を追加
- ② 「記憶に残された戦争」の資料はすべて巨大なモニュメントになるように、「長野県諏訪大社「征清記念」」を「和歌山市「征清記念標碑」」に差し替え

- ③ 「記憶に残された戦争」のすべての資料に建立年を追加
- ④ 最後の問いにいたるまでに「さまざまなメディアが伝えた戦争を、人々はどのように受け止めたのだろうか?」「戦争の記念碑は、見る人の気持ちや考え方にどのような影響を与えただろう?」という、資料に即した問いを追加

資料の差し替え及び建立年の追加は、国民意識の変化に影響を与えた、あるいは国民意識の変化の結果生じた具体的な事象をさらに焦点化させるための修正である。また、最後の問いにいたるまでの問いを増やしたことで、生徒の思考が段階を踏んで深まるための修正であった。

しかしながら、問1、問2の記述はできていたが、「人々の意識の変化」の記述内容は大きく改善することはなかった。この点を改善するためには、本単元以前の学習において、外国とのつながりがなかった江戸時代の人々にとって「(お)国」といえば、長州藩や薩摩藩という藩単位であったり、「越後」や「播磨」といった旧国の単位であったことを学んでいれば、人々が「日本人」という「国民意識」を持つようになる過程には何らかのきっかけが必要であったことが理解しやすくなると思われる。

#### 4. 授業改善の方向性

ワークシートの記述内容から明らかになったことは、戦争と「国民意識」の形成過程とのかかわりについて十分に説明できていない点である。そこで、本小単元で十分に探究が深まらなかった戦争と「国民意識」の形成過程について、太平洋戦争までの学習を終えたのち再度取り上げることにする。

本時でも扱った石碑を事例としながらも、戦争直後の記念碑の建立ではなく、古代の伝説についての顕彰碑のもつ意味を解釈させることで、再び戦争と国民意識の形成の関係について問うことにしたい。

問 右は大阪市にある人柱碑の写真です。「<sup>ひとはしらひ</sup>長柄<sup>ながえ</sup>人柱<sup>いろうじ</sup>巖氏碑」と刻まれています。

その昔、摂津国長柄江付近は沼地や湿地などが多く、大雨が降れば川がはんらんする交通の難所で、淀川に橋を架けることが歴代の為政者の最大の課題でした。時代は嵯峨天皇の時代とも推古天皇の時代とも言われ、はっきりしませんが、架橋工事が完成寸前で風水害に見舞われ橋杭などが流されてしまいました。この時に垂水（現吹田市垂水町）の長者巖氏が「架橋を成功させるには人柱が必要。袴につぎの当たった者を人柱に」と役人に進言した。ところが自分の袴につぎがあり、巖氏は心ならずも自らの失言により人柱になったという伝説があります。



さて、この碑が建立されたのは1936（昭和11）年です。古代の伝説上の人物がなぜこの時代に大きな碑を建立して顕彰されたのでしょうか。建立された年に注目して、あなたの考えを述べなさい。

資料出典：「大阪市の名所旧跡史跡」ブログ

解答例 1931年にはじまった満州事変以来、日本は戦時下にあった。そこで、自ら申し出て人柱となり、橋の工事を成功させた巖氏的美談を顕彰することで、当時の国民に対して、国に対する自己犠牲の尊さを示そうとして建立されたと考えられる。

## 5 おわりに

本授業実践における「思考・判断・表現」の評価方法についての特色は2つある。1つは、授業中の学習活動における「思考・判断・表現」の評価はワークシートにおける生徒個人の記述に対しておこなうものの、その評価場面にいたるまでに、班で意見を述べあったり、クラスで意見を共有したりする段階を踏まえ、またワークシートの返却時にも、代表的な生徒記述を例に挙げて、評価の基準について説明したという点である。生徒の読解力や理解力には大きな個人差がある。「思考力・判断力・表現力」を育成するための4つの活動「資料から必要な情報を集めて読み取る」「社会的事象の意味・意義を解釈する」「社会的事象の特色や事象間の関連を理論的に説明する」「自分の考えを論述する」を教師の指導・支援があったとしても、個人で段階を踏んで学習を進めることが十分にできない生徒も存在する。だれもが同じスタートラインに立ち、主体的に思考・判断できるためには、事前、事後の生徒間の意見交流が効果的であろう。

もう1つは、上記のように小集団活動やクラス全体での意見の共有の過程を経たのちであったとしても、授業中のワークシートの記述がクラス全体として教師の目標にあきらかに達しない場合がある。資料の選択がよくなかったり、発問が練られていなかったり、授業計画の不備が原因である。そこで、後日の授業で、他の事例をあげて解釈させる評価問題案を提示した。

以上のように「思考・判断・表現」の評価活動に際しては、授業中、評価場面にいたるまでの授業構成を段階的にすること、授業中に行った評価の分析を行い、目標の達成状況に応じて授業後に再度、評価の場面を設定するという2段階モデルを提案した。

## 註

- 1) 時事通信社『内外教育』, 2013年5月17日付, pp.10 - 11
- 2) 例えば、長野県総合教育センターによる平成24・25年度のプロジェクト研究「思考力・判断力・表現力等の評価にかかわる調査研究」がHPで公開されている  
(<http://www.edu-ctr.pref.nagano.jp> 2014年7月18日確認)  
また、小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』明治図書, 2009  
小原友行・児玉康弘編著『思考力・判断力・表現力をつける中学歴史授業モデル』明治図書, 2011 などがある。
- 3) 小原友行・児玉康弘 前掲書, pp.14 - 15
- 4) 森分孝治「市民的資質育成における社会科教育—合理的意思決定—」社会系教科教育

- 学会『社会系教科教育学研究』第13号, 2001, p.48  
5) 岡本智周『国民史の変貌』日本評論社, 2001, p.19

### 【参考文献】

#### <ナショナル・アイデンティティと歴史教育に関すること>

- ・岡本智周『国民史の変貌 日米歴史教科書とグローバル時代のナショナリズム』日本評論社, 2001
- ・ましこひでのり『イデオロギーとしての「日本」「国語」「日本史」の知識社会学』三元社, 2003
- ・原田智仁編著『“国民的アイデンティティ”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書, 2006

#### <国民形成に関すること>

- ・鳥海靖『日本の近代 国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会, 1996
- ・西川長夫『国民国家の射程 あるいは<国民>という怪物について』柏書房, 1998
- ・牧原憲夫『客分と国民のあいだ 近代民衆の政治意識』吉川弘文館, 1998
- ・谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社, 1999
- ・歴史学研究会編『戦後歴史学再考「国民史」を超えて』青木書店, 2000
- ・塩川伸明『民族とネーション-ナショナリズムという難問』岩波書店, 2008
- ・岩波書店編集部編『日本の近現代史をどう見るか』岩波書店, 2010

#### <授業の内容開発に関すること>

- ・小森陽一・成田隆一編著『日露戦争スタディーズ』紀伊國屋書店, 2004
- ・牧原憲夫『民権と憲法』岩波書店, 2006
- ・佐谷眞木人『日清戦争「国民」の誕生』講談社, 2009
- ・片山慶隆『日露戦争と新聞「世界の中の日本」をどう論じたか』講談社, 2009

(石川 照子)

42年王!!

2年生社会科ワークシート No.51

11月2日

2年2組26番 名前

朝鮮をめぐる日本と清の対立

(教科書 p.156-157 資料集 p.157)

ねらい ○日清戦争の原因を東アジアの情勢から説明できる。

1 帝国主義

列強  
工業化が進み産業が発展  
イギリス フランス  
ドイツ アメリカ ロシア

海外進出  
原料(労働力)を得る  
安い(労働力)を得る  
製品(製品)を売る

アジア アフリカ  
の植民地化。  
鉄道・鉱山・工場を  
経営  
軍事力で利益を守る。

2 日清戦争

日清戦争前の国際情勢 「ロシヤ」

「魚釣り遊び」(ピゴー) 1887.2.15



日本

朝鮮

この絵は当時のどのような国際関係を表しているだろうか?

日本と清は、けんあくな関係。仲がわるい。でも、それをみてロシヤがめしめしている。清は日本を見下している(エサをまいておいて)朝鮮魚はどっちでもいいけど、いいエサをくれるほう(自分たちにとり有利ほう)に行く。

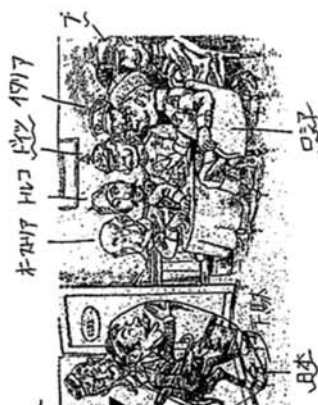
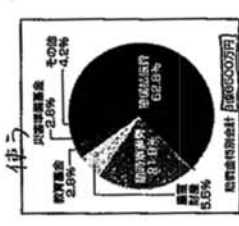
(2) 朝鮮国内の情勢  
1876(甲) 日朝修好条規 ⇒ 開化政策  
しかし国内では対立も...、日本と清が朝鮮の政治に干渉、朝鮮政府は増税

(3) 日清戦争の始まり  
1894(甲午) 農民戦争 ⇒ 内乱の規模がたいへん戦争  
外国勢力の追放と政治改革をめざして挙兵  
朝鮮政府は清に援軍を求める

日本も朝鮮に出兵  
豊島沖海戦・黄海海戦  
兵を多くと  
手はあげが  
けなく! 近代の軍隊を整えた日本軍の勝利  
一言、いつてから行く!

3 下関条約と三国干渉  
(1) 下関条約(1894) 下関 → 山口県(?)

- ① 清は(朝鮮)の独立を承認 → 自分おのしむ!
  - ② (台湾)・(遼東半島)などを日本に譲る
  - ③ 賠償金2億圓の支払い(当時の日本の国家予算の約3倍!)
- (2) 三国干渉(1895) → ほとんど軍費をいっせいで  
① (ロシア)・(フランス)・(ドイツ)は日本に対し遼東半島の返還を勧告  
② 還付金を得ることを条件に遼東半島を清に返還  
⇒ 国民の間にはロシヤへの不満が噴き出る



日本をCLUBに誘っているこの国は?  
イギリス → 何か根拠が...  
「1897年の日本(ピゴー) → 日清戦争=勝った後」



東アジアでの日本とロシアの対立

(教科書 p.158-159 資料集 p.159-161)

○日露戦争の原因を東アジアの情勢から説明できる。

ねらい

1 日清戦争後の中国

(1) 帝国主義諸国の中国侵略

パイを切り分けている国はどこ? →

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

(2) ( ) (1899~1900)

義和団を中心とする人々が、帝国主義諸国の侵略に反対し、外国勢力の排斥運動をおこし、外国公使館を取り囲んだ。

清政府 ⇒ 支援

諸外国 ⇒ 8カ国の連合軍が出兵し鎮圧



2 日露戦争

(1) 日露戦争のころの国際情勢

栗を焼くのはどこの国?

- ・日本は朝鮮をめぐり対立
- ・イギリスは南下を警戒

1902 ( )

「火中の栗」(1903年)



(2) 国内の意見

戦争に賛成：多くの新聞はロシアとの開戦を主張、国民の支持を得る

戦争に反対：少数派  
 社会主義者の立場から ( )  
 キリスト教徒の立場から ( )  
 女性の立場から ( )

君死にたまふことなけれ (『明星』1904年)

あゝおとうとよ、君を泣く  
 君死にたまふことなけれ  
 未だ生まれし君なれば  
 親のなさはまさりしも  
 親は刃をにぎらせて  
 人を殺せとをしへしや  
 人を殺して死ねよとて  
 二十四までをそだてしや  
 君死にたまふことなけれ  
 すめらみことは戦ひに  
 おほみずから出でまきね  
 かたみに人の血を流し  
 獣の道で死ねよとは  
 死ぬるを人のほまれとは  
 おほみころのふかければ  
 もとよりいかで思われむ

あゝおとうとよ戦ひに  
 君死にたまふことなけれ  
 すきにし秋を夕みに  
 おくれたまへる母きみは  
 なげきの中にいたましく  
 わが子を召され、家を守り  
 安しときける大御代も  
 母のしら髪はまさりぬる  
 君死にたまふことなけれ  
 暖簾のかけに伏して泣く  
 あえかにわかき新妻を  
 君わするるや、思へるや  
 十月も添はで別れたる  
 少女ころを思ひみよ  
 この世ひとりの君ならで  
 ああまた誰をたのむべき  
 君死にたまふことなけれ



(3) 戦争の経過

① 宣戦布告 [1904.2]

- ・陸軍：満州を中心に激しい戦闘
- ・海軍： ( ) で勝利(ロシアのバルチック艦隊は全滅)

② 戦争終結への動き

- ・日本の事情 ⇒ 兵器・弾薬・将校・兵士・戦費のすべてが欠乏
- ・ロシアの事情 ⇒ 皇帝の専制政治に反対する革命運動が起こる

2年生社会科ワークシート No.53 11月7日(水)

2年1組14番3班 名前  
**ポーツマス条約と戦後の国際関係** (教科書p.158-159 資料集p.159-161)

ねらい ○ポーツマス条約後の国内外の反応を資料から説明できる。

- 1 日露戦争の終結
- (1) (ポーツマス) 条約 (1905) アメリカの仲介
- (2) 政府への不満
- 「講和反対、戦争継続」を求め、全国各地で講和反対集会が開かれる
- 東京では警察などが襲撃される＝(日ヶ谷焼き場) 事件
- なぜ、人々はポーツマス条約に反対したのか？右の資料をつかって説明しなさい。

条約では賠償金かそれなからた → 借金を返してしるのか、生活がよくなるかもいらないかもいまい。戦争死者も多すぎて、働かなくていい(賠償金がほしい)

- (3) 満州経営 ⇒ アメリカは不服
- ① (前滿州株式会社) の経営 長春-旅順間
- ② 鉄道の守備兵として軍隊を置く
- 2 日露戦争に対する世界の反応
- ベルツ「今や日本は一等国として認められた。…東アジアのできごとは、もはや部分的な意味をもつものではなく、われわれにとつての関心事である。」
- ネルー「日本の勝利にアジアの人々が感激した。…アジア人のアジアの叫びが起こった。しかし日本の勝利は、帝国主義に一国を加えただけだった。その苦い結果を最初になめたのは朝鮮だった。」
- トルコ：ロシアの南下に苦しんでいたため、日本の勝利を喜んだ。子どもにも東郷の名をつける者もいた。

資料1 ポーツマス条約

- ① ロシアは(朝鮮)における日本の優越権を認める
- ② ロシアは(樺太)の南半分を日本にゆずる
- ③ ロシアは清から借りていた旅順・大連、ロシアが満州に建設していた鉄道の一部や放牧地を日本にゆずる
- \*日本は(賠償金)を求めたが、得られなかった

資料2 国の歳出に占める軍事費の移り変わり



7割、8割が軍事費(日露戦争) 約80%を借金でまかなった。

資料4 日清戦争と日露戦争の比較

	戦費	兵力	戦死者	病人	負傷者
日清戦争	約2億円	24万1000人	1万3000人	不明	不明
日露戦争	約17億円	108万9000人	8万4000人	25万人以上	約13万人

戦費が4.5倍  
 戦死者は6.7倍も増え、一家族で何人も死ぬという人もあった。

2年生社会科7ワークシート No.54 (11月8日(木))

2年3組3番 名前



国民と戦争

(教科書 p.156-159 資料集 p.157-161)

ねらい

○戦争は国民の意識をどう変えたかを考えることができる

0 政府はあっても国民がない日本

福沢諭吉『文明之概略』(1875年)

(戦国時代の合戦は) 武士どうしの戦いであり、人民には関係なかった。…情勢だけで、昨日は味方の兵糧を運んだのに、今日は敵の兵糧を運ぶということもあった。人民はただ支配者が変わるのをながめていただけなのである。…現代においても、日本はまだこの状況にある。もし外国と戦争が起こったにして、実際に武器をとって戦わないにしても、戦争の勝敗を心配している人と、ただ戦争をながめていて人の数を比べてみたら、今の日本にはどちらの人が多いか、簡単に予想がつくだろう。私が「日本には政府があっても国民がない」というのは、この意味である。

1 伝えられた戦争 新聞、雑誌、演劇、兵士たちの手紙など

資料1 日清戦争のころの銀座 (岡本綺堂「四十年前」)

そのころの銀座は新聞街で、大通りだけでも読売、新報、自由、東京日日、中央、毎日の諸新聞社がある。…あらゆる新聞社が銀座界隈に集まっていたので、その各社から号外売りが鈴を鳴らして駆け出すと、待ち受けていた人たちが飛びついて買う。まるで、けんかのような騒ぎだ。各社の前にははりだしをながめている人達も黒潮のように渦巻いているので、ほとんど往来止めの姿。最初のうちは冷静に構えていた人たちも、開戦と共に大嵐がふきまきだしたように騒ぎはじめた。



資料2 有名な画家も従軍した (浅井忠)



資料3 絵入りの新聞が流行



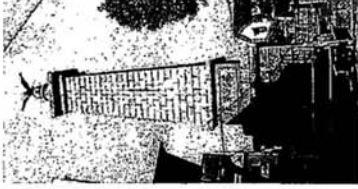
資料4 日露戦争の惨状記

兵士たちは手紙や日記で戦争の様子を伝えた。

2 記憶に残された戦争 日清戦争や日露戦争では多くの戦死者や傷病者が出た。



資料5 宮城県青葉公園 昭忠碑



資料7 広島市 平和の塔 (鷹の記念碑)

「もともとは日清戦争で戦った人たちがもたらしたものだ」といえる

日清戦争や日露戦争は人々の意識をどのように変えたのだろうか。

福沢諭吉の頃は戦争をしないと想像できなかったが、日清戦争と日露戦争の時には、とて政府を応援している。戦争をやることには反対しない！

2年生社会科ワークシート No.54 1月15日(火)

2年 2組 28番 4班 名前

国民と戦争

(教科書 p.156-159 資料集 p.157-161)

ねらい ○戦争は国民の意識をどう変えたかを考える

0 明治時代はじめの人々の意識 日本の人々は、戦国時代と変わらぬ思い…(リ)

資料1 福沢諭吉『文明之概略』(1875年) 諭吉が言っていたことは何だろうか？

(戦国時代の合戦は) 武士どうしの戦いであり、人民には関係なかった。…情勢しだいで、昨日は味方の兵糧を運んだのに、今日は敵の兵糧を運ぶということもあつた。人民はただ支配者が変わるのをながめていただけなのである。…現代においても、日本はまだこの状況にある。もし外国と戦争が起こったとして、実際に武器をとって戦わないうにしても、戦争の勝敗を心配している人と、ただ戦争をながめていいる人の数を比べてみたら、今の日本にはどちらの人が多いか、簡単に予想がつくだろう。私が「日本には政府があつても国民がない」というのは、この意味である。

1 伝えられる戦争 新聞、雑誌、演劇、兵士たちの手紙

資料2 日清戦争のころの銀座 (岡本綺堂「四十年前」)

そのころの銀座は新聞街で、大通りだけでも読売、新報、自由、東京日日、中央、毎日の諸新聞社がある。…あらゆる新聞社が銀座界隈に集まっていたので、その各社から見外売りが鈴を鳴らして駆け出すと、待ち受けていた人たちが飛びついて買つ。まるで、けんかのような騒ぎだ。各社の前ののはりだしをながめている人達も黒潮のように渦巻いているので、ほとんど往來止めの姿。最初のうちは冷静に構えていた人たちも、開戦と共に大騒ぎがふきだしたように騒ぎはじめた。



資料3 有名な画家も従軍した 洗井忠「清国・金州城の戦い」

1 ささまざまなメディアが伝えた戦争を、人々はどうに受け止めたのだろうか？

冷戦は状態から徐々にさめ始めた。9月(の)の人の叫びが命令され、不安も大きくなった。といった。



資料4 新聞報道 (「日清戦争絵報」)



資料5 日露戦争の体験記

兵士たちは手紙や日記で戦争の様子を伝えた。

2 記憶に残される戦争

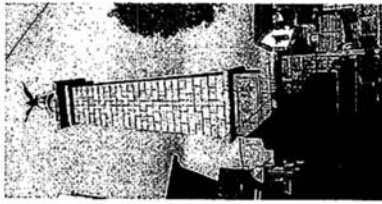


資料6 和歌山市 平和の塔 征清記念標碑 (1895年)

2 戦争の記念碑は、見る人の気持ちや考え方にどのような影響を与えたのだろうか？

単に戦争を知らない人にとり、戦争のことは知らず、ファンズにならぬ、いいことがもたらぬ、いいこといふ人にとり、つらいことかもしらぬ。

→日本の歴史もたどる



資料7 広島市 平和の塔 (日清戦争凱旋碑) (1896年)

資料8 仙台市 昭憲碑 (1902年) 日本が朝鮮を併呑したことを記念した

3 日清戦争や日露戦争は、論議の時代の人々の意識をどのように変えただろうか？

「日本が月勝つたために、自分たちも一員として力かしようと考えはじめ、自分たちの国は月勝つ」といふ言ひで日本全(国)が団結したと思ふ。

( 国)のために自分の生活を犠牲にしなければならぬ!

### 第3章 公民的分野における「思考・判断・表現」の実践・評価と改善

#### —小単元「ルミナリエ存続問題について考えよう」を事例として—

##### 1. はじめに一問題の所在—

本研究は、筆者が開発、実践した公民的分野小単元「ルミナリエ存続問題について考えよう」を事例として取り上げ、「思考・判断・表現」という評価の観点に着目して中学校社会科の授業改善についての方策を検討していくことを目的としている。

昨今、学校現場では評価のあり方を具体化できていないことが問題視されている。換言すれば、評価の方法やあり方を明らかにすることが教師に求められているということであろう。学校現場で、評価を実施していくといった場合、その対象として生徒と授業そのものが考えられる。第一に、生徒をどのように評価していくのかという点に関しては、学校現場が違えば生徒の実態は異なるため、生徒をよりよく評価するための効果的な方法については、現場での実践や研究を積み重ねていくしかないといえる。第二に、授業をどのように評価し、改善していくのかという点に関しては、学校現場で働く教師はどちらかといえば授業を実践することに重きを置くため、実践した授業を評価し改善する方法について模索したり、次回の授業をよりよいものに変革していく作業を行ったりしていくことについてはおろそかにされてきた傾向があるのではないだろうか。生徒の実態を把握しつつ、実践した授業を自ら評価、改善し、よりよい授業を練り上げていく力こそが社会科の教師に求められるべき力であろう。ではどのようにすれば、授業をよりよいものに改善しうることができるのだろうか。そのカギとなるのが、「思考・判断・表現」であるといえよう。

本研究では、2013年10月に実践した公民的分野小単元「ルミナリエ存続問題について考えよう」の概要を示し、社会科における「思考・判断・表現」に着目し、授業を改善するための視点として捉え、その改善方法を探っていきたい。

##### 2. 「思考・判断・表現」の捉え方

ここでは、本研究における「思考・判断・表現」をどのように捉えるのかという点について整理していくことにする。以下の表は、原田智仁の論を参考に「思考・判断・表現」の定義を示したものである<sup>1)</sup>。

##### 【授業改善の視点「思考・判断・表現」の捉え方】

	意味
①思考	漠然とすることではなく、問いを立てて探究することを意味する。
②判断	問いに対して結論・決断を下していくことを意味する。
③表現	思考＝探究の過程や結果を口頭や文章で説明することを意味する。

①の「思考」について、思考するとは「漠然とすることではなく、問いを立てて探究することを意味する。」と原田は述べる。ここでは、思考＝探究という意味で扱われていることから、思考と探究とは関係が深い言葉であるといえよう。探究とは、「唯一の答えが定まっていない課題に対して考察を深める思考活動」のことをいう。つまり、思考を行うことは、探究を行うことであり、課題について考察を深めていくことである。考察を深め

るための方法としては、社会事象を批判的に吟味したり多面的・多角的に捉えたりしていくことが考えられる。

②の「判断」について、判断するとは問いに対して一定の結論・決断を下すこと、つまり意思決定を行うことである。意思決定を行うとは、既存の知識や習得した学習内容に基づいて自分の意見を述べることである。よりよい意思決定を行っていくためには、基盤となる既存の知識や学習内容がより質の高いものでなければならない。質の高い知識を習得するための方法としては、思考＝探究させる活動を行っていくことが考えられよう。

③の「表現」について、表現するとは思考（＝探究）の過程や結果を、口頭や文章で説明することである。教師は、生徒自身が文章等で説明したものについて評価を行っていくことになる。筆者自身は、日々の授業の中で、「テーマに対する自分の意見を学習内容をふまえて文章で説明せよ。」という指示を行うが、自分の意見を他者にわかりやすく記述できる生徒が少ないのが現状である。よって、表現のさせ方についても、何らかの手立てや工夫が必要であるといえる。

以上のことをふまえて、2012年度に実践した単元を示し、その単元を「思考・判断・表現」を視点として評価、改善するとどのような単元になるのかについて具体的に示していくことにする。

### 3. 開発単元の概要

#### (1) 2012年度の実践の概要と成果

本節では、2012年10月24日(火)と26日(金)に勤務校の5クラスの3年生の生徒を対象として実践した単元の概要と成果を示す。この単元では、地域の条例や事業についての学習を通して、地方自治の考え方や仕組みについて捉えさせた後、神戸独自の事業であるルミナリエの存続問題について考察させることをねらいとした。ここでは、主に第2次の授業について説明を行っていく。この時点では、社会科の公民的分野の学習を始めて約半年ほどで抽象度が高い語句が多いため、語句の暗記に躍起になっている生徒が目についた。そこで、単元を構成していく際に、知識の理解を最終的な目標にするのではなく、身近にある社会事象を取り上げ、それについて自ら評価（意思決定）する場面を設定した。

【単元】 地方自治と住民の政治参加（帝国書院：中学校社会科公民的分野pp.64～65）

#### 【目標】

- ・自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方と、その考え方に基づく地方公共団体の政治の仕組みについて意欲的に追究している。（関心・意欲・態度）
- ・地方公共団体における課題（ルミナリエ存続問題）について、多面的・多角的に考察し習得した知識を活用して評価し、自身の考えを表現することができる。（思考・判断・表現）
- ・地方公共団体の政治の仕組みや課題に関する資料を読み取り、まとめることができる。（技能）
- ・地方自治は、住民参加によってものごとを決定していく住民自治と条例の制定を行う団体自治が基本原則であり、ものごとの決定は、首長と議会の二つの機関を中心に行

われることについて理解することができる。(知識・理解)

**【指導計画】** (全4時間)

第1次 市民の要求を実現するためには、どのような方法があるのだろうか? 【2時間】

第1時 身近で行われている政治

第2時 市民の要求を叶えるためには? -地方公共団体の政治の仕組み-

第2次 ルミナリエ存続問題について考えよう・・・・・・・・・・・・ 【2時間】 (本時)

第1時 地方分権って何?

第2時 ルミナリエは存続すべき? 廃止すべき?

**【実践した単元における評価規準】**

観点1 (関心・意欲)	観点2 (社会的事象についての思考・判断・表現)	観点3 (資料活用・技能)	観点4 (社会的事象についての知識理解)
自分たちが住む地域の政治について関心を持ち、意欲的に自分たちができることを提案し、地域住民のひとりとして地方の政治のあり方を考えようとしている。 <b>【指導の工夫】</b> 導入部で、リズムメモリーを実施し、グループの全ての生徒が学習内容を発言する場面を設定する。	ルミナリエ存続問題及び解決に向けての方策を、対立と合意の視点から考察して根拠の伴う自分たちなりの意見を表現できる。 <b>【学習進度が遅れている生徒に対する手立て】</b> (グループで話し合いを行い、確認を行わせる。自分の意見と他者の意見を比較させる場面を設定する。)	地域の課題や問題を調査・分析し考えたことや提言をわかりやすく表現できる。  <b>【学習進度が遅れている生徒に対する手立て】</b> (資料についてグループで話し合う場面を設定する。)	地方財政の仕組みや課題について書き表すことができる。  <b>【学習進度が遅れている生徒に対する手立て】</b> (グループでワークシートのどの部分の学習を行っているのか、確認を行う場面を設定する。)

(国立教育政策研究所教育課程研究センター『平成24年版観点別学習状況の評価規準と判定基準中学校社会』図書文化、2011年を参考に筆者作成)

### 【実践した単元の概要】

時数	主な発問	主な学習内容
第一時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルミナリエ開催の目的は何か？</li> <li>○地方分権とは何か？ 地方分権一括法が施行されることで国と地方公共団体の間で何が変わったのか？</li> <li>○なぜ、私たちは税金を払っているのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルミナリエは、阪神淡路大震災の犠牲者の慰霊の意を示すため、後世に伝えていくために行われるようになった神戸独自の事業であり、神戸市などからルミナリエの費用の約30%が提供されている。</li> <li>○地方公共団体へ権限やお金を国から移すことで、独自の事業を行いやすくすることを地方分権といい、地方分権一括法の施行によって地方分権化が進んだ。</li> <li>○税金が市民に課されているのは、地方自治体が公共サービスを提供するためである。公共サービスは、多くの人が利用し、生活の質を保障するものである。自主財源（地方税）と依存財源（地方交付税・国家支出金）には違いがある。</li> </ul>
第二時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○もし、地方の財政が悪化したらどのような何が無くなるだろうか？</li> <li>○神戸市はどのような分野に最も多くの税金を使っているか？</li> <li>○ルミナリエへの補助金を増やすべきか、減らすべきか、そのままにするべきか理由をふくめて答えよ。</li> <li>○今後、ルミナリエを存続すべきか？ 廃止すべきか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○税金で行われている公共サービスが受けられなくなる。</li> <li>○神戸市の歳入と歳出のグラフを見て…どのように税金が徴収されているか。公共サービスの中では福祉の充実の費用の割合が高く、神戸市は少子高齢化の問題に力を入れている。</li> </ul> <p>→観点2の評価ポイント</p>

### 【観点2の判定基準】

評価方法	A	B	C
ワークシートの記述内容	ルミナリエを存続していくためには、税金をどこに多く配分していくのかという点で、対立が生まれてくることに気づきルミナリエの在り方についての改善策についてもふれている。 →ルミナリエの存続危機についての主張の根拠が「対立と合意」に基づいている。	ルミナリエを存続していくためには、対立が生まれてくることに気づいている。 →ルミナリエの存続危機についての主張の根拠が、「対立」に基づくものになっている。	ルミナリエを存続、もしくは廃止という表現にとどまっている。 →主張の根拠が示されていない。



## 【生徒の主な意見】

ルミナリエ存続すべき	どちらともいえない	ルミナリエ廃止すべき
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震でなくなった人や被害を受けた人の心をなぐさめられるものだと思うから。もし費用がかかりすぎているのだったら、もう少し暗くしたり工夫して行えばいいと思います。また、歳入を増やして、地方財政で無駄がないかを考えて、無駄なところはお金を少なくして必要なところにお金をかけたらいいと思う。(A)</li> <li>・はじめはお金もすぐかかるし、そのお金を福祉問題の方に使った方がよいと思ったけど、いろんな意見を聞いていくうちに、もともとは震災の犠牲者のためにはじまったものだからルミナリエは神戸のためにもあり続けた方がいいと思います。でも、イベントのようなふうにするのではなく、電球の数を減らしたりと静かにするべきだと思います。(A)</li> <li>・もともとの目的は慰霊の意を示すことなので、規模を小さくして続けたらよいと思うからです。(B)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今神戸市は少子高齢化問題をかかえていてその方にお金を使って問題解決に力をそそげばよいと思うけど、ルミナリエの方も震災での犠牲者の方々への慰霊の意を示し、次世代に語り継ぐのだから存続するために、何日も電力を使用せずあまりお金をかけないようにするべきだと思います。犠牲者のことを思えば、お祭りのように派手にしなくてもよいと思います。(A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルミナリエは、当初の目的と違ってにぎやかになりすぎている。ルミナリエは人を勇気づけるのに大切だと思うけど、公共サービスにお金をまわす方がたくさんの人の生活を助けることになると思うから。(A)</li> <li>・やっぱり少子高齢化問題にもっと力を入れるために、ルミナリエは廃止した方がいいと思うから。(B)</li> </ul>

実践した単元の成果としては、生徒の意見をふまえて考えてみると、次の点を挙げることができる。それは、ルミナリエの存続問題について考察させることを通して、税金という限りある資源をどのように配分していくのかという「効率」の視点を習得させることができたという点である。現在社会において、対立が続いている問題を合意の状態にして解決を目指すためには、資源をどのように配分していくのか、もしくはコストをいかに削減していくのかという「効率」の視点からものごとを捉えていくことは非常に重要であるといえよう。しかし、この単元は課題を挙げることもできる。次節では、この課題とその改善のための方向性について検討していくことにする。

## 4. 授業改善の手順

### (1) 実践の結果と課題

実践した単元の課題については、以下の三点を挙げるができる。

- ①ルミナリエという社会事象に関する考察が不十分な学習になっていた。
- ②ルミナリエ存続問題に関して、感情に基づく意思決定を行った生徒が多かった。
- ③ルミナリエ存続問題について自己の意見を表現する場面が、生徒にとって表現しにくいものになっていた。

これらの課題に関して、評価した主な生徒の意見に基づいて検討する。以下が実践した単元において評価した生徒の主な意見である。

#### 【生徒の主な意見】

Aの意見（ルミナリエ存続派）

「はじめはお金もすごくかかるし、そのお金を福祉問題の方に使った方がよいと思ったけど、いろんな意見を聞いていくうちに、もともとは震災の犠牲者のためにはじまったものだからルミナリエは神戸のためにもあり続けた方がよいと思います。でも、イベントのようなふうにするのではなく、電球の数を減らしたりと静かにするべきだと思います。」

Bの意見（ルミナリエ廃止派）

「ルミナリエは、当初の目的と違ってにぎやかになりすぎている。ルミナリエは人を勇気づけるのに大切だと思うけど、公共サービスにお金をまわす方がたくさんの人の生活を助けることになると思うから。」

Cの意見（ルミナリエ廃止派）

「やっぱり少子高齢化問題にもっと力を入れるために、ルミナリエは廃止した方がよいと思うから。」

①に関して、Bの意見の下線部にみられるように生徒は「たくさんの人の生活を助けるサービス＝公共サービス」、「ルミナリエ＝公共性を有するものではない」という捉え方をしていることがわかる。税金が使用されているものは、「公共性」という性質を持っている事業やサービスとして捉えることができよう<sup>2)</sup>。つまり、ルミナリエという事象を「公共性を有する事業・サービス」と捉えて、授業を行うことができなくなかったため生徒にルミナリエを考察させていくことが不十分になってしまったことが第一の課題といえる。

②に関して、Aの「そのお金を福祉問題の方に使った方がよいと思ったけど、・・・もともと震災の犠牲者のためにはじまったものだから・・・あり続けた方がよい」やCの「やっぱり少子高齢化問題にもっと力を入れるために・・・廃止した方がよい」などの意見から、大半の生徒は、学習内容よりも自己の感情に基づいて意思決定を行っていると考えられる。このような結果になっている理由は、ルミナリエについての考察が不十分なためであるといえる。

③に関して、以下の資料1は、2012年度の実践で使用したワークシートの一部である。これは、最終的に生徒がルミナリエを今後も存続させるかどうかを意思決定したものである。このワークシートは、自分が存続派なのか廃止派なのかを判断させ、そのように判断した理由を記入させることを要求するものになっている。このワークシートの構成では、存続派よりの意思決定が読み取れるが、その「理由」として、「慰霊の意を示すことなので規模を小さくして続ければよい」とあり、意思決定の根拠は「慰霊の意を示す」という感情に訴えかけるものとなっている。結果として感情に基づく意見に留まっているという点で表現のさせ方に課題があるといえよう。

【資料1】

④Q. 神戸市民であるあなたは、ルミナリエを今後も存続させようと思いますか、廃止させようと思いますか。自分の考えの近い部分に○印をつけそのように判断した理由について説明しなさい。

存続 ←————— (○) —————→ 廃止

【理由】  
 もとからの目的はい霊の意を示すことなので、  
 規模を小さくして続けたいよって思うからです

(2) 教材の捉え直し

実践した単元の課題を克服していくために、最も重要なのは、ルミナリエ存続問題について、「思考・判断・表現」を行うことを通して、「公共性」に関する見方・考え方を育んでいくことである。よりよいものにしていくということである。そのために、ルミナリエを「公共性を有する事業やサービス」として捉え直し、ルミナリエ開催までの経緯や目的、ルミナリエに関係するさまざまな団体などの取り組み、ルミナリエ実施による社会への影響という三つの視点からルミナリエの分析を行っていく<sup>3)</sup>。以下の表1は、ルミナリエに関する社会の仕組みを示したものである。

【表1】ルミナリエに関する社会の仕組み

ルミナリエ開催までの過程	ルミナリエ開催に伴う各組織の動き	ルミナリエ実施による社会への影響
神戸市議会（予算決定） ↓ ルミナリエ組織委員会（開催目的の検討・開催の決定）	市民サポーターによる協力 ・募金活動、清掃活動、誘導・警備 企業による協力 ・協賛金の提供やハートフルデーの設置	①経済効果の創出 毎年約300億円の消費が神戸地域で生まれることにより神戸の経済が活性化。 ②市民の防災意識の向上 市民サポーターなどの支援者の増加により、震災を語り継ぐ市民が増加するとともに、市民の防災意識を高める。

表1の内容を踏まえて、学習教材としてルミナリエを捉え直すことにより、以下の三点を教材の視点として設定することが可能になる。

- ①ルミナリエの開催の目的について考察することを通して、ルミナリエを通して社会事象を多角的に捉えさせることができる点である。ルミナリエの予算決定は神戸市議会が決

定され、ルミナリエ組織委員会で開催が決定される。ルミナリエ組織委員会の会長は、神戸市長の矢田立郎氏、神戸商工会議所の大橋忠晴氏の両氏である。商工会議所は、地域の経済を発展させる組織である。この組織のトップがルミナリエ組織委員会の会長になっている理由や1年限定で開催される予定だったルミナリエが継続的に開催されている理由について考えさせることで、「ルミナリエ＝犠牲者追悼行事orデートスポット」という見方をゆさぶることができる。つまり、ルミナリエは、神戸の冬の集客観光促進事業の柱となっており、神戸地域への集客と経済波及効果を生み出すために行われている。また、平成23年度には、東日本大震災などの災害によって被災した地域との「絆」と「交流」を深めることが目的の一つに加わっている。

- ②ルミナリエ開催に伴う各支援団体の取り組みを考察し、ルミナリエ開催によるメリットやデメリットを分析していくことを通して、社会事象を多角的に捉えさせることができる点である。ルミナリエを継続して開催するためにはルミナリエ開催によるメリットだけでなく、デメリットを克服していく取り組みを考える必要がある。その取り組みとしては、市民サポーターによる募金活動の実施や身体にハンディキャップのある人々のためのハートフルデーの設置がある。このような取り組みから、次世代へと震災のことを語り継いでいくことによって生まれる「次世代の防災意識の向上＝現代だけではなく次世代への社会的利益の創出、普及＝効率」という視点や「全ての人々がルミナリエという機会に参加することができる＝公正」という視pointsの習得も期待できよう。
- ③ルミナリエ開催に伴う社会への影響を考察させることを通して、「公共性」に関する知識を成長させることができる点である。ルミナリエ開催によって喜ぶ人と喜ばない人について、また、ルミナリエにお金を払わなければ参加できなくなった場合のメリットやデメリットを授業の中で考察させることを通して、「公共性を有する事業・サービス＝利益を出すことができないもの」という知識を、「公共性を有する事業・サービス＝全ての人々が利用でき、それによって生み出された利益は、一部の人だけのものではなく未来の世代を含めた社会全体へと配分されるものである」という知識へ成長させることができると考える。この知識（見方・考え方）は、公共性を有する事象のあり方について考える際に、指標になるものであるといえる。この知識に基づいて、実際に神戸市でその存続が議論されている施設について考察させる場面を設定する。

### （3）改善に向けた方向性

単元を改善していくための方向性として、「思考・判断・表現」に着目して検討すると次の三点を挙げることができる。

- ①ルミナリエを税金が利用されている「公共性を有する事業・サービス」として捉え直し、この概念についての探究させる学習過程、到達目標を設定する。（「思考」の視点に基づく）
- ②ルミナリエ問題に関する意思決定をさせること自体を目的にするのではなく、意思決定を手段として、他の事象について考えるための見方・考え方を育むことを目的とした。（「判断」の視点に基づく）
- ③評価のあり方（表現のさせ方）を改善する。（「表現」の視点に基づく）

①に関して、税金が使用されているものは、「公共性」という性質を持っている事業やサービスとして捉えることができよう。ルミナリエという「公共事業」の考察を通して、ルミナリエは、社会にどのような利益をもたらしているのかを明らかにしていく。このことによって、公共事業や公共サービスに関する理論を習得していくことになる。つまり、ルミナリエを通して、税金が何に利用されるべきかという判断基準（見方・考え方）を育んでいくことになり、生徒が持つ「公共性」の社会認識を形成していくことにつながるのである。

②に関して、意思決定させることを最終目的にするのではなく社会認識を育むための手段として捉えることである。意思決定を手段とした際には、ルミナリエ開催の目的について理解していくことを通して、ルミナリエの多面性を学び、さまざまな立場の人々がどのようにルミナリエについて考えているのかを多角的に分析していく学習過程を設定していくことが重要である。このように、多面的多角的にルミナリエという地域に存在する社会事象について理解していくことで、自分とは反する主張を想定した意思決定を可能する。つまり、「判断」を目的とするのではなく、あくまでも「公共性」についての社会認識を育むための「手段」として意思決定を捉えていく必要がある。

③に関して、生徒が意思決定を行っていく際に、その根拠を自己の感情に基づくものではなく習得した知識に基づかせるためには、自己の思考・判断した過程を表現させてから意思決定を行っていくことが重要である。つまり、多面的・多角的にルミナリエを分析し、「公共性」という概念に対する見方・考え方を成長させることができたかを確認していくことがよりよい意思決定をしているかどうかを評価する判断規準となる。そのために、「Ⅰさまざまな人々の立場で利益を考えることができているか、Ⅱ自分と反する主張を想定した意見を考えることができているか。」という二つの評価規準を設定した。これにより、単純に感情に基づく意見を書かせるのではなく、段階的に自分の意見を習得した知識に基づいて表現できるようになると考えられる。

以上のことを踏まえて、2012年度に実践した単元を「思考・判断・表現」を視点として開発し直すことにした。

## 5. 修正した単元の概要

社会科は、内容教科である。よって、到達目標は、生徒の知的成長を促すために日常生活では習得し難い質の高い知識を設定していく必要がある。開発単元のねらいとして設定した到達目標となる概念的知識は、以下のようになる。

### 【到達目標】

私たちが支払う税金は、公共事業や公共サービスに使われる。税金が使われる公共事業や公共サービスは、民意が反映されているものであり、全ての人が同じように利用できるものでなければならず、それがもたらす利益は、現代の特定の一部の人に対してではなく、次世代もふまえた社会全体に配分されるものでなければならない。

この知識に基づいて、税金が使われている施設やサービスのあり方を考察し、地域にある公共性を有する事業やサービスの存続の是非について意思決定していく。本単元の位置

づけと概要，評価規準と観点2の判定基準については以下に示すとおりである。

本単元は，最初に示した「思考・判断・表現」の定義を原理として，学習が進められる。つまり，第一段階（第一時に相当する）で税金が利用されている事業やサービスはどのようなものを理解し，第二段階（第二時・第三時に相当する）でルミナリエ開催による社会への影響について利益に着目して分析する。そして第三段階（第四時に相当する）でこれまで習得した知識に基づいて公共事業や公共サービスの是非について意思決定するという展開になる。表2は改善前と改善後の違いを示したものである。この表2に基づいて，改善後の授業について説明していく。

【表2】改善前と改善後の単元の概要

	改善前	改善後
第一時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルミナリエ開催の目的は何か？</li> <li>○地方分権とは何か？ 地方分権一括法が施行されることで国と地方公共団体の間で何が変わったのか？</li> <li>○なぜ，私たちは税金を払っているのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルミナリエ開催の目的は何か？</li> <li>○地方分権とは何か？ 地方分権一括法が施行されることで国と地方公共団体の間で何が変わったのか？</li> <li>○なぜ，私たちは税金を払っているのか？</li> </ul>
第二時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○もし，地方の財政が悪化したらどのような何がなくなるだろうか？</li> <li>○神戸市はどのような分野に最も多くの税金を使っているか？</li> <li>○これまでの学習をふまえて，ルミナリエを存続させるべきか，廃止するべきか考えを記入してみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○もし，地方の財政が悪化したらどのような何がなくなるだろうか？</li> <li>○神戸市はどのような分野に最も多くの税金を使っているか？</li> <li>○税金が使われているものの共通点は何か？</li> <li>○なぜ，一部の人がしかいかにないのにルミナリエに多額の税金が使用されているのだろうか？</li> </ul>
第三時		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルミナリエ存続についてどのように考えるか？</li> <li>○ルミナリエが行われることによって，喜ぶ人はどのような人？ その理由も考えよう。</li> <li>○ルミナリエが行われることによって，困る人はどのような人？ その理由も考えよう。</li> <li>○お金を払った人しかルミナリエを見ることができなかつたら，どのようなメリットやデメリットが考えられる？</li> <li>○なぜ，ルミナリエに多額の税金が使用されているのだろうか？</li> <li>○ルミナリエに対して批判する人たちが納得させ，継続して開催していくためにはどうすればいいだろうか？</li> </ul>
第四時		<ul style="list-style-type: none"> <li>○税金が使用されている施設の中で，最も重要だと思う施設ベスト3を選び，その理由も考えよう。</li> <li>○税金を使用して様々な事業やサービスを行うには，どのようなことに注意すべきだろうか？ それによってもたらされる利益に着目して記入しよう。</li> <li>○現在，神戸市が税金を使って運営している施設を維持していくことで問題になっているものがある。この施設は必要か，不要か，そのように判断した理由をこの施設がもたらす利益に着目して記入しよう。</li> </ul>

(表中の網掛けの部分は，修正し改善した部分を示す)

第一時では、神戸ルミナリエという「公共事業」には税金が利用されていることを「地方分権」、「地方財政」と関連付けて学習し、本単元のテーマである「なぜ、一部の人がしかいないのに、ルミナリエに税金が利用されているのか」を確認していく。ここでは、税金を払う理由について考察させ、社会一般にある「公共事業」や「公共サービス」がどのようなものなのか、それにみられる共通点について検討していく。この部分は、改善前の授業と同じである。

第二時と第三時では、「地域の当事者」＝「神戸市民」としてルミナリエを存続していくためにはどうすればいいのかという問いについて、ルミナリエ開催によって喜ぶ人、困る人がどのような立場の人か、それぞれの理由について考察していくことで、ルミナリエによってもたらされる利益を明らかにしていく。ここでのポイントは、ルミナリエには、一部の人がしかいないのに、なぜ税金が使用されているのか、という第一時で設定したテーマに対する思考を深めていくことである。そのために、展開部では震災の犠牲者の慰霊だけがルミナリエ開催の目的ではなく、神戸の産業復興や東日本大震災の復興支援もその目的として設定されているという多面性があること、ルミナリエによってもたらされる社会的利益や想定される批判や問題、それらを克服するための工夫、ルミナリエ完全民営化による影響について考えさせることにした。このような学習活動を通して、さまざまな立場の人々の利益について考察できる。終結部では、実際に存在しているルミナリエへの批判について紹介した後、神戸市民の立場で継続開催のためにはどうすればいいのかという問いに対して、他者の批判的な意見を想定して意思決定を行っていく。

第四時では、ルミナリエ以外の税金が利用されている事業や施設、サービスが生み出す社会的利益を分析させ、税金が利用される公共事業や公共サービスのあり方について考察させていく。このことを通して、税金が利用されるべきものはどのようなものなのか、それを判断する際の基準を形成していく。ここでのポイントは、社会に存在しているルミナリエ以外の公共事業や公共サービスがもたらす利益がどのようなものかを具体的に明らかにしていくことである。そのために、街づくりを行い、多様に存在する公共施設の中でも必ず必要な公共施設をグループで考察させ、その理由について考えていく活動を行う。さらに、税金をその公共施設や公共サービスに使用するかどうかを決定していく際には、どのような点に注意すべきかを考えさせることで、それによってどのような社会的利益がもたらされ、社会にどのような影響があるのかを具体的に検討していった。終結部では、神戸ルミナリエ以外の公共施設であるフルーツフラワーパークという生徒にとって馴染みがある施設や神戸市営地下鉄という身近な地域に存在している公共事業のあり方について、習得した見方・考え方（判断基準）に基づいて必要か不要かを意思決定させる学習を行った。以下の資料2は、実際に評価を行ったワークシートの一部である。

## 【資料2】

B. 市営地下鉄海岸線の存続についてあなたの意見を記入しよう。その際、①考えられる反論や批判についても記入すること、②市営地下鉄海岸線によってもたらされる利益はどのようなものかを明らかにして、反論や批判をいう人を納得させるような意見を記入すること。

私は、市営地下鉄海岸線を「 継続 」した方がいいと思う。

①考えられる反論や批判としては、  
350億近い赤字、沿線人口の伸び悩みやJRとの競争など、赤字体質から脱却すの困難化  
また、以上のことによる住民の文藝が有りうると思われる  
がある。

②しかし、私は、  
この市営地下鉄の直接的な利益ではなく、その周りの店の利益上昇や、旧市街地の少子化もし、エリアには4万3千人の利用者の利便性など、間接的な利益があるため、必要ではないかと思う。



この資料2では、これまでの学習をふまえて税金が利用されている公共事業としての市営地下鉄を存続していくか、廃止させるかを考えさせるものである。まず、資料を読み、継続か廃止かを意思決定する。次に、自分の意見とは異なる意見を考えさせ、①の部分に記入させる。そして、②の部分に、想定した自分とは異なる意見をいう人を納得させる意見を記入させる。つまり、これまでの自分が意思決定した内容を単純に記入させるのではなく、自分の意見に対する反論や批判的な意見を想定させ、それらを包摂する論を段階的に記入させていくのである。このことによって、生徒はどのように自分の考えを表現していけばより説得力を持った意見を作り出せることができるのか、その表現の仕方を学ぶことができるといえよう。



**【本単元の位置付け】**

第1次 市民の要求を実現するためには、どのような方法があるのだろうか？【4時間】

第1時 身近で行われている政治

第2時 市民の要求を叶えるためには？－地方公共団体の政治の仕組み－

第2次 税金が利用されているものについて考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・【4時間】

(本研究の内容)

第1時 なぜ、一部の人しかいかにないのにルミナリエに多額の税金が使われているのだろうか？

第2時 ルミナリエを存続するためにはどうすればいいのだろうか？

第3時 街づくりを通して、税金が使われているものについて考えよう

**【本単元の評価規準】**

観点1 (関心・意欲)	観点2 (社会的事象についての思考・判断・表現)	観点3 (資料活用・技能)	観点4 (社会的事象についての知識理解)
自分たちが住む地域の政治について関心を持ち、意欲的に自分たちができることを提案し、地域住民のひとりとして地方財政のあり方を考えようとしている。 【指導の工夫】 導入部で、リズムメモリーを実施し、グループの全ての生徒が学習内容を発言する場面を設定する。	公共事業や公共サービスについて、効率と公正の視点をふまえて表現できる。 地域にある公共施設や公共サービスの存続の是非について、根拠を明らかにして自分の意見を表現できる。 【学習進度が遅れている生徒に対する手立て】 (グループで話し合いを行い、確認を行わせる。自分の意見と他者の意見を比較させる場面を設定する。)	地域の課題や問題を調査・分析し考えた表現をするための資料を適切に選択することができる。  【学習進度が遅れている生徒に対する手立て】 (資料についてグループで話し合う場面を設定する。)	地方財政の仕組みや課題について書き表すことができる。 公共事業や公共サービスとはどのようなものかについて書き表すことができる。  【学習進度が遅れている生徒に対する手立て】 (グループでワークシートの中のどの部分の学習を行っているのか、確認を行う場面を設定する。)

**【観点2の判定基準】**

評価方法	A	B	C
ワークシートの記述内容	フルーツフラワーパークは、必要・不必要という自分の主張の反対の主張に対して言及されており、主張の根拠に、フルーツフラワーパークによってもたらされる利益が示されている。 →税金が利用される事業やサービスによってもたらされる利益を複数の視点(様々な人々の立場)から表現することができ、反対の意見についても言及することができる。	フルーツフラワーパークは、必要・不必要という主張の根拠にフルーツフラワーパークによってもたらされる利益が示されている。 →税金が利用される事業やサービスによってもたらされる利益を表現することができる。	→主張の根拠に、もたらされる利益が示されていない。もしくは示されていても感情的なものである。または根拠が示されていない。

【生徒の主な意見】

不必要	必要
<p>○もうからないし、人気がないから (C)</p> <p>○だれの得になるのかわからないので、もっと他のことに税金を使えばいいと思う。(C)</p> <p>○利益がなく、神戸牛やワインをつくる場所は、他にもたくさんあるし、たくさんの方が利用したいと思わないから。税金を借りてかえす見込みもないし、税金を無駄使いした一つの施設となっているから。(B)</p>	<p>○確かに市議員の再就職の場所になってしまっている上に赤字にもなっているが、この施設が与える経済効果は大きいし、市民にはこれを楽しみにしている人も多いからである。(A)</p> <p>○フルーツフラワーパークは、住民にとって楽しく遊べる場所だからです。春夏秋はわかりませんが、フルーツフラワーパークはイルミネーションやBBQのできる場所、さるのショー、仮面ライダーなどのショーなど子供から大人までが楽しく遊べる場所だからです。県外から来た人のためにホテルもあるから、もしホテルをしめたら北区で泊まる場所がなかったらやばいのであった方がいい。(B)</p> <p>○金がないからつぶすべきだ、税金のむだだと思ったが、大切なのは自分たちに利益になるかだ。実際にこのパークは役所以上のスピードで市民のニーズに答えている。つまり、役所より市民のためにがんばっているからだ。記事の悪いところにだまされてはいけない。(A)</p>

【2013年度に実践した単元の教授書】

第一時「なぜ一部の人がしかいかにないのに、ルミナリエに税金が使われているのだろうか？」  
(一時間で実施)

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい・獲得させたい知識
第一段階	・前時の復習を行います。	T：発問する S：答える		・地方自治は、地方公共団体によって、行われる住民自治と団体自治の原則に基づいて首長の直接選挙や条例の制定が行われる。
	・神戸の自慢できるイベントは何か？	T：発問する S：答える	①	・ルミナリエ，神戸まつり，神戸マラソンなど。
	・神戸ルミナリエは、いつなぜ始まったのだろうか？	T：発問する S：答える		・ルミナリエは、1995年におこった阪神淡路大震災の犠牲者の慰霊を示すため、このことを後世に伝えていくために行われるようになった神戸独自のイベント（事業）である。
	・ルミナリエを行っていくためには、開催費用がかかるが、そのお金はどこから出ているのだろうか？	T：発問する S：答える	②	・資料によれば、50%以上が企業からの協賛金、約30%が地方公共団体からの補助金（税金）で行われている。ルミナリエの警備費が年々上がっていることからその存続に対して、疑問の声がある。
	・ルミナリエにいったことがある人はいますか？	T：発問する S：答える		・多様な意見。
	・税金はどんなものに使われるべきなのだろうか？	T：発問する S：答える		・多様な意見。
	○いかにない人が多いのに、ルミナリエに税金を使う必要があるのだろうか？	T：発問する S：答える		・みんなが利用するもの。
○本時から神戸ルミナリエについて考えていこう。	T：発問する S：考える		・多様な意見。	
	・「地方分権」が今日の授業では最初のポイントです。地方分権の意味を確認しましょう。	T：発問する S：答える	③	・地方分権とは、国の方針に従って地方公共団体が政治を行う中央集権から、国と地方公共団体が対等な関係で仕事を分担して政治を行うことのことをいう。つまり、国と地方の仕事を見直し、地方公共団体に権限やお金を移していこうとする働きのこと。

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい・獲得させたい知識
第一段階 (続き①)	・地方分権一括法が施行されることによってどのようなことが変わったのかを確認しよう。	T：発問する S：答える	④	・地方分権が進むことで、地方公共団体独自のイベント（事業）が行うことができるようになる。資料集より、国から地方に押し付けていた事務の廃止、権限を移す、地方公共団体が独自に新しい税を簡単につくれるようになった。例えば、東京都のワンルームマンション税などがある。
	・次のポイントは、私たちが生活する上で必ず払う税金についてです。なぜ、税金を払わないければならないのだろうか？	T：発問する S：答える	⑤	・税金によって、警察やごみの回収などの「公共サービス」を提供しているため。地方独自に事業を行っていくための費用をまかなうためである。税金などの収入によって、市民に公共サービスを提供していく働きのことを地方財政という。財政改革の代表例が市町村合併である。地方公共団体の支出が歳出、収入が歳入である。歳入は自主財源と依存財源に分かれている。自主財源は地方税などで独自に課税することができる税金である。また、依存財源は、地方交付税交付金（使い方自由）や国庫支出金（使い方が指定）などで、地方交付税は、都道府県の地方税収入の格差を少なくするために給付されている。
	・神戸市の一般会計歳出と歳入の資料を確認しよう。	T：発問する S：答える	⑥	
	・もし、財政が苦しくなったら様々な公共サービスが提供されなくなる可能性がある。どのようなものが提供されなくなるのだろうか？	T：発問する S：答える		・成人式の廃止、公務員がいなくなる。出産の助成がなくなる。選挙投票会場の利用ができなくなる。
	・地方公共団体の政治をよりよくするために、税金の使い方を確認する制度を何というか？	T：発問する S：答える	⑤	・オンブズマン制度。税金の使い方を考えていくことが、市民の生活を向上させていくためには必要である。
	・神戸市は、何に多くの税金を使っているか確認しよう。	T：発問する S：答える	⑦	・福祉の充実37.5%で第一位、市債の返済14.3%第二位、教育・文化の振興8.7%第三位、産業の振興8.4%第四位。

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい・獲得させたい知識
第一段階 (続き②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の充実に力を入れることで、神戸市はどのような問題を解決しようとしているのか？</li> <li>○税金が使われているものの共通点は何だろうか？</li> <li>○なぜ、一部の人しかいかにないのにルミナリエに税金が使用されているのだろうか。みんなにどんないいこと(利益)があるのかという視点で考えてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉を充実させることは、少子高齢化の問題を解決していくことにつながる。</li> <li>・みんなが役立つもの。これがないと生活が困るもの。市民をサポートするもの。みんなにいいことがあるもの。</li> <li>・亡くなった方への慰霊だけではなく、次世代への語りつぎとなるから。震災のことを忘れないでいられる。=次の震災へのそなえができる。だから、次の震災の被害をおさえられたり、スムーズな復興につながったりしている。</li> </ul>

第二時「ルミナリエ存続問題について考えよう」(二時間で実施)

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい・獲得させたい知識
第二段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時は、ルミナリエに税金が使われている理由について考えました。</li> <li>○ルミナリエはこれからも存続するべきだろうか？</li> <li>・ルミナリエが行われることによって、喜ぶ人たちはどのような人たちだろうか？その理由についても考えよう。</li> <li>・ルミナリエ組織委員会の小池さんへのインタビュー結果を見てみましょう。(インタビュー①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：説明する S：理解する</li> </ul>	⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルミナリエは、犠牲者の慰霊のためや、震災のことを忘れないようにするため、震災のそなえにつながるから行われている。このようないいことがあるから税金が利用されている。</li> <li>・さまざまな答え。</li> <li>・見に行く人(きれいだから。), ルミナリエ近くの人(客が多く来る。もうかる。店やホテルが有名になる。県外の人がお土産を買ったりする), 被災者の人や遺族(忘れずにいることがうれしい, 慰め), ルミナリエの組み立てやLED会社(もうかる, 莫大なお金が入る)。</li> <li>・ルミナリエの目的は, ①犠牲者の慰霊②神戸の産業復興③東日本大震災の被災地の復興支援という三つある。ルミナリエには毎年約300億円の経済効果がある。</li> </ul>

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい・獲得させたい知識
第二段階 (続き)	・逆にルミナリエが行われることによって困る人たちはどのような人たちか？ また、その理由について考えよう。	T：発問する S：答える	⑦	・会社員（電車や高速道路が混雑する）、近くの住民（音や光が迷惑、ごみ）、いけない人（何でお金を払わなきゃいけないの、いく人だけ税金を払えばいいだけだろ、その分子育てに使うべきではないか）
	・このような困る人たちを納得させるために、ルミナリエはどのような工夫がなれているのだろうか？ 小池さんに聞いてみよう。（インタビュー②）	T：説明する S：理解する		・市民の安全の確保（クリスマスの日に行わない）、障がい者たちが優先的にみられる日（ハートフルデーの設定）、ボランティアが誘導や掃除を行う。
	・もし、お金を払った人しかルミナリエを見ることができなかったら、どのようなメリットとデメリットが出てくると考えられるだろうか？	T：発問する S：答える		【メリット】 ・人が少なくなるので、混雑しない。ごみも減る。 ・ルミナリエ分の税金を子育て支援や耐震工事、保育所の増加などの他のことにまわせる。 【デメリット】 ・お金を払ってまでいこうと思わないという人が来なくなるので、お金は足りなくなる。 ・震災のことが忘れられていくかも。 ・お金が動かないので、経済効果は期待できない。
	・なぜ、ルミナリエに多額の税金が使われているのだろうか？	T：発問する S：考える		・ルミナリエには、「大きな経済効果があり多額のお金が市に入ってくる。歳入が増加する。震災（阪神淡路大震災・東日本大震災も含めた）の慰霊」という特徴があるから。
	・ルミナリエを廃止した方がいいという批判的な意見もあります。どうすればこれからも批判する人たちを納得させ、継続して開催していくことができるのだろうか。神戸市民の立場であなたの考えを記入しよう。	T：発問する S：答える		⑧ ・「税金の有効な使い道ではない」という理由で廃止した方がいいという意見がある。けれど、ボランティアや募金などでお金の支出を減らして税金の割合を減らす。震災を風化させない。防災意識の部分がわかりにくいので、はっきりと伝えられるような企画を行う。イメージキャラクターの募集。同時に被災地の商品も販売する。

第三時「街づくりを通して税金が使われるものについて考えよう！」（一時間で実施）

	発問	教授・学習活動	資料	生徒から引き出したい・獲得させたい知識
第三段階	<p>・今日は、街づくりを行います。ワークシートの指示に従って、税金が利用されている施設などを作り、街を完成させてください。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>		
	<p>・税金が使用されている施設の中で、最も重要だと思う施設ベスト3を答えよ。また、そのようにそれが重要だと判断した理由について、その施設が生み出す「利益」に着目して考えてみよう。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>		<p>・学校（将来を担う子どもを育てるから、子どもが教育を受ければよい未来を作ればそれが利益になる。）、市役所・町役場（ないと社会がまわらないから。他の重要な税金を使う施設をとりまとめているから。市民や区民の存在意義を認めているから。）、病院（健康な人間＝労働者が生み出されるから。命が守られるから。）、ごみ処理場（街をきれいにするから。）、警察署（治安維持のため。）</p>
	<p>○税金を使用することを決定していく時には、どのようなこと（事業やサービス）に注意すべきなのだろうか？税金が使用される事業やサービスによってもたらされる利益に着目して記入しよう。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>		<p>・みんな（住民）の未来に役立つ利益があること（持続可能な社会!？）、安全・健康・快適・命を守る・未来を守る・経済活動の活性化・本当に必要であること・無駄がないこと</p>
<p>◎現在、神戸市が税金を使って運営している施設や事業を維持していくことで問題になっているものがある。資料①を読んで、この施設や事業が必要か、不要かを判断しそのように判断した理由をこの施設がもたらす利益に着目して記入しなさい。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	⑨	<p>【主な生徒の意見】</p> <p>・この施設は「必要ない」と考える。なぜならば、楽しい施設だけど市が運営する必要がない。むだだから。他に楽しい施設はいっぱいある。あまり、もうかっていないので、経済活動の面でも意味がない。そのお金があれば「命を守る・健康・安全」の部分でもっと利益をあげる事業ができるのではないか。（子育て支援や老人ホーム、保育所の増加、医療費無償化など）</p>	

## 【資料】

- ①神戸ルミナリエや神戸マラソンなどの写真
- ②ルミナリエの費用の内訳に関して、[www.tktaku.com/luminarie/aboutatuminariet.html](http://www.tktaku.com/luminarie/aboutatuminariet.html)を参考にした。（2014年7月18日確認）
- ③『新しい公民』p.78, 浜島書店. 地方分権についてのイラストと説明文
- ④兵庫県租税教育推進連絡協議会『平成24年度版わたしたちの生活と税』p.2を参照する。
- ⑤神戸市HP, 神戸市中学校社会科研究部『わたしたちの神戸』を参照させる。
- ⑥兵庫県租税教育推進連絡協議会『平成24年度版わたしたちの生活と税』p.2, 『新しい公民』浜島書店,2012年, p.81, p.113, 浜島書店。
- ⑦神戸ルミナリエ組織委員会『2011年ルミナリエ事業報告書』2011年を基に作成したスライド。
- ⑧神戸ルミナリエについての意見については、神戸市新聞のHPを参考にした。  
神戸ルミナリエ組織委員会『2011年ルミナリエ事業報告書』2011年, p.14にある「来場者データ」を参照する。
- ⑨朝日新聞朝刊2013年10月6日の「神戸市政」の記事, 朝日新聞朝刊2013年10月8日の「神戸市政」の記事より抜粋。

## 6. 本研究の成果

本研究の成果は、「思考・判断・表現」に着目して学校現場における授業の実践と評価、改善についての論を展開したことである。この研究を通して明らかになったことについて、特に以下の二点を挙げることができる。

- ①意思決定を行うこと自体を「目的」とするのではなく、「手段」として「公共性」に関する見方・考え方を育む学習の原理と方法を明らかにしたこと。
- ②単元を通して習得した知識を評価するためのモデルを明らかにしたこと。

①に関して、ルミナリエを存続させるかどうかを「思考・判断・表現」させ、意思決定させることを目的とした学習から、ルミナリエについての意思決定を通して「公共性」のあり方を「思考・判断・表現」させる学習に改善した。改善を行っていくために、学習の原理として、「公共性を有する事象の理解」, 「公共性を有する事象の分析」, 「公共性を有する事象についての意思決定」という三つの段階を設定した。具体的な学習方法として、ルミナリエを多面的・多角的に考察し、ルミナリエがもたらす利益を明らかにすることで、「公共性」を有するものについて意思決定していく活動を行った。これにより、税金は何に使用されるべきなのかという「公共性」に関する見方・考え方を育む学習になっているといえる。つまり、これまでの意思決定を目的とした学習＝「目的としての判断」から意思決定を手段として概念について理解を深めていく学習＝「手段としての判断」に転換しているといえよう。

②に関して、感情に基づく意思決定ではなく、習得した知識に基づいて意思決定を行うことができるような評価モデルを明らかにした。習得した知識に基づいて意思決定をさせるためには、これまでの「思考・判断」の過程を整理させる必要がある。つまり、税金が



利用されているものは、誰にとってどのような利益があるのか不利益があるのかという利益の多様性を明らかにした上で、意思決定させていく必要がある。また、単純に文章で自由に説明させるのではなく、「思考・判断」の過程の段階性を意識して説明させるという「表現のさせ方」を習得させる方法について明らかにすることができたといえよう。

今後は、今回明らかにした評価に関する論理や方法を学校現場において活用することで、吟味・検証し、よりよい教科指導と評価のあり方について考え続けていきたい。

## 註

- 1) 「思考・判断・表現」の定義については、公益財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ53『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』2012年、p.10を参考にした。
- 2) 「公共性」については、池野範男『公共性の射程』日本社会科教育学会「社会科教育研究」NO.92, pp.9 - 20, 2004 桑原敏典『社会科における公共性の扱いと授業構成論の類型』日本社会科教育学会「社会科教育研究」NO.92, pp.95 - 106, 2004を参考にした。特に桑原は社会科教育論における「公共性」について、二つの立場があると主張する。第一の立場は、公共性を認識の対象とし、科学的な社会認識の形成を核として、公共性をめぐる社会的問題についてより合理的な判断や行動ができる市民の育成を目指すものである。この立場を客観主義的社会科授業構成論とする。第二の立場は、公共性を認識、感情、意志など全てを含む精神のあり方として捉え、市民社会への参加による行動や意思決定を通して子どもの公共性意識を形成し、その中で社会的事象に対する認識を深めていこうとするものである。
- 3) ルミナリエについての調査・分析については、2013年1月に財団法人神戸国際観光コンベンション協会観光部推進課長の小池聡氏にインタビューを依頼して行った。

## 【参考文献】

- ・森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、1978年
- ・同上「社会的なものの見方・考え方の拡大・深化・体系化」広島大学附属小学校教育研究会『学校教育』第1000号、2000年、pp.36～39
- ・社会系教科教育学会編『社会系教科教育研究のアプローチ授業実践のフロムとフォー』学事出版、2010年
- ・桑原敏典「中等法関連教育の教材開発（Ⅲ）—「対立と合意、効率と構成」の習得の場合—」第23回社会系教科教育学会研究発表大会自由研究発表資料
- ・桑原敏典『中学校新教育課程社会科の指導計画作成と授業づくり』明治図書、2009年
- ・前著『小学校社会科改善への提言』日本文教出版、2004年
- ・岩田一彦・米田豊編『中学校社会科「新教材」授業設計プラン新旧比較で授業はこう変わる』明治図書、2009年
- ・岩野清美・山口康平「中学生の「社会参画」「公正」に対する認識の分析—公民的分野「地方自治」の授業実践をとおして—」第23回社会系教科教育学会研究発表大会自由研究発表資料
- ・河原和之『100万人が受けた「中学公民」ウソ・ホント？授業』明治図書、2012年

- ・北尾倫彦監修『平成24年度観点別学習状況の評価規準と判定基準 中学校社会科』図書文化, 2011年
- ・三木義一『日本の税金』岩波新書, 2012年

(井上 昌善)

3. 地方財政

Q①. なぜ、このような税金が課されるのだろうか？考えてみましょう。

→ G 公民サービス ( ) を提供するため。(資料①)

地方公共団体が、税金などの収入によって地域の住民に公民サービスを提供するはたらきを地方財政という。

\* 地方公共団体の収入が (歳入) で、支出が (歳出) という。(資料②)

→ 歳入は、自主財源と交付金に分かれている。

A. 自主財源 (資料集 P68)

\* 地方税 (独自に課税を行うことができる税) 【例えば】住民税など

B. 依存財源 (資料集 P81)

\* 国から支給される地方交付金 (地方自治体、地方公共団体の収入の多くを占める) がある。

\* 歳入が歳入を上回ると借金 (地方債) を発行することになり、財政改革が必要となる。

→ その代表的なもの、G 市町村 ( ) である。

→ 作品の教員になる、市町村 ( ) である。

4. 税金が使われるサービスの共通点は？

\* 北海道庁は、財政が苦しくなり破たんすることになった。(資料集 P81)

Q②. 地方財政が破たんすると様々な公民サービスが行われなくなる可能性がある。どのようなことが行われなくなるのだろうか？考えてみましょう。

警察・消防、ゴミ処理、成人式、祭りなどのイベント

\* 地方公共団体の政治をよりよくするためにオンブズマン制度が定められている。

Q③. 神戸市は、以下のものに多くの税金が使われている。税金が使われているものの共通点は何か？

第一位... 福祉の充実 37.5% 第二位... 教育・文化の振興 8.7% 第三位... 産業の振興 8.4%

(ヒント) 例えば、出費の額にかかる補助金がかかると自己負担がたつたらどのような問題が起こるだろうか？個人と社会の立場で考えてみよう。

みんなが役立つもの。それが「生活が困る」。市民の生活をサポートするもの。将来に役立つ。みんなに役立つ。

Q④. 一部の人がかかれないのに、なぜルミナリエに税金が使われているのだろうか？

→ これは良いことあるの？

→ 震災のとき忘れたいものは、次の震災への「準備」になる。

→ 「震災の被害を減らす」ための「準備」。

3年 組 香

名前

【本時のテーマ】

なぜ一部の人がかかれないルミナリエに税金が使われているのか？

【本時のテーマに対する意見】

震災の被害を減らすための準備が神戸市民が震災を体験した人々にあふれる。

1. ルミナリエの現状

\* 神戸市独自で行われている事業として、毎年12月に行われている「神戸ルミナリエ」がある。「神戸ルミナリエ」は、1995年1月17日に起こった阪神淡路大震災で犠牲になった方々への慰霊の意を示し、世代に受け継ぐことを目的として開催されている事業である。

\* 下の円グラフから、地方自治体 (兵庫県と神戸市) がルミナリエに提供している資金の割合は、約 (30%) であることがわかる。

\* ルミナリエは、G 警備費 (コスト) のために単純の準備と書かれている！！

税金 ↑

5億円以上かかる!!

地方分権-一括法 → 地方分権-一括法 → 地方分権-一括法

地方分権とは、国と地方の仕事を使い、地方公共団体に仕事を任せ、お金を渡して行うこと。 (資料集 P78)

地方分権が進むことで、ルミナリエのような地方自治で様々な事業を行うことができるようになる。

\* 2000年に (地方分権一括法) が施行された。

\* 地方分権一括法が施行されることによって、どのようなことが変わったのか確認しよう。(資料集 P78)

\* 地方公共団体によっては、様々な形で税金が課されている。

例えば...

東京都港区は、ワンルームマンション税が課されている。(2004年から実施) 1部屋につき建築主から80万円を徴収するもの。

→ 入れ替わりの激しい世帯を減らし、定住性の高い世帯を増やすことで、住民同士の結びつきを増やすことを目的としている。マナーの悪い学生を追い出すことも目的の一つである。

行く人への税金を  
払えばいいの？  
無駄にならない？  
収入が上がるには？  
税金を減らすには？

困る人たちは納得させるために、ルミニリエ関係に当たったのよりな工夫がされているのだから  
かみゆきさんに聞いてみよう！インクビュー② ポラリエの「経済」や「産業」を  
市の安全を確保 障害者への「優先的」な見直しを（作る）  
②Q. もし、お金を払ったとしてもルミニリエを見ることが（参加すること）がでかくなかったら、どのよう  
なメリットやデメリットが出てくると考えられるのだろうか？

デメリット	メリット
・人が「行く」の「混雑」は、 「お金の」を「払って」行く「足らな」いという 人が「歩か」なく「なる」ので、お金の「足らな」いという ・ルミニリエの「分の」税金を「子育」て「文庫」や 「児童」工事「費」を「前倒」し「する」ことで、 「お金の」負担が「減る」こと、 「お金の」負担が「減る」こと、 「お金の」負担が「減る」こと、	・人が「行く」の「混雑」は、 「お金の」を「払って」行く「足らな」いという 人が「歩か」なく「なる」ので、お金の「足らな」いという ・ルミニリエの「分の」税金を「子育」て「文庫」や 「児童」工事「費」を「前倒」し「する」ことで、 「お金の」負担が「減る」こと、 「お金の」負担が「減る」こと、 「お金の」負担が「減る」こと、

②Q. なぜ、ルミニリエに多額の税金が使用されているのだろうか？

ルミニリエには、(言葉が) 市に「入る」(収入が) 増える  
大きな「経済効果」があり「多額の」税金が「かかる」  
「震災」(阪神淡路・東日本も含む)の「ため」、  
「震災」(阪神淡路・東日本も含む)の「ため」、  
「震災」(阪神淡路・東日本も含む)の「ため」、

②Q. 実際にルミニリエを廃止した方がいいという批判的な意見もありますが、どうすればこれから  
批判する人たちの心を折らせ、継続して開催していくことができるのだろうか、神戸市長の立場であら  
たの考えを記入しよう。

ルミニリエは「税金の有効な使道ではない」という理由で廃止  
した方がいいという意見もある。けれど、ルミニリエが  
のために  
・ポラリエや「お金の」割合を「減らす」  
・「お金の」割合を「減らす」  
・「お金の」割合を「減らす」

ルミニリエは「税金の有効な使道ではない」という理由で廃止  
した方がいいという意見もある。けれど、ルミニリエが  
のために  
・ポラリエや「お金の」割合を「減らす」  
・「お金の」割合を「減らす」  
・「お金の」割合を「減らす」



【社会科授業用プリント NO24】  
【本時のテーマ】  
3年 組 番  
名前

ルミニリエ 持続問題について考えよう！

【本時のテーマに対する意見】  
「ルミニリエは必要？」  
「ルミニリエは必要？」  
「ルミニリエは必要？」  
「ルミニリエは必要？」

理由	理由
見に行く人 客が多くなる → もつかる	見に行く人 客が多くなる → もつかる
被災者の人への遺族 お金の負担が大きい → 必要	被災者の人への遺族 お金の負担が大きい → 必要
ルミニリエの「経済効果」 LEDの会社(基幹) → 必要	ルミニリエの「経済効果」 LEDの会社(基幹) → 必要

ルミニリエのことを「お金の」に「関係」がある  
ルミニリエのことを「お金の」に「関係」がある  
ルミニリエのことを「お金の」に「関係」がある

②Q. ルミニリエが行われることによって、困る人たちはどのような人たちがいるだろうか？また、その理由  
を考えたみよう。

困る人	理由
会社員など	電車や高速道路が混雑する
近隣の住民	音や光が迷惑
いかい人	何とお金がかかるのか

「神市議会」  
「市民」  
「議員」

【社会科授業準備用プリント】

3年 組 番	
名前	

【本時のテーマ】

「住むところを通して税金が使われるものについて考えてみよう！」

①Q. 税金が使用されている施設の中で、最も重要だと思う施設ベスト3を答えよ。また、そのように判断した理由を、これらの施設がらみだす利益を明らかにして答えよ。

- 1位 ( 学校 ) ( 教育を学ばせる )
- 理由 ( 子育てを助けてくれる。子供が育つ。子供が成長できる。子供が健康になる。 ) ( 税金を付ける )
- 2位 ( 市役所・町役場 ) ( 税金を付ける )
- 理由 ( 市の社会が回らないから。他の重要な施設もよりよくできているから。 )
- 3位 ( 病院 ) ( 税金を付ける )
- 理由 ( 健康な人間 = 労働者が住みやすくなるから。命が守れるから。 ) ( 命が守れるから。 ) ( 命が守れるから。 )
- ゴミ処理場 → 町もキレイに 警察署 → 治安維持
- ②Q. 税金を使用して様々な事業やサービスを行うには、どのようなこと（事業やサービス）に注意するべきなのだろうか？税金が使用される事業やサービスによってたらされる利益に着目して記入しよう。


★好まば ( 住民 ) の未来に役立つ利益があること。 ( 持続可能な社会 )

安全・健康・快適・快楽・命を守る・未来を守る・経済活動の活性化・本心に必要とあること。 ( 命が守れる )

③Q. 現在、神戸市が税金を使って運営している施設を維持していくことで問題になっているものがある。資料①の記事を読んで、この施設が必要か、不要かを判断し、そのように判断した理由をこの施設がもたらす利益に着目して記入しなさい。

私は、この施設は「必要ない」と考える。

なぜならば、新しい施設は市が運営する必要はないから。民間でいい。他に別の施設はいいから。命を守る・健康・安全の部分を、子育て支援や老人ホーム、医療の増加。医療費無償化など。命を守る・健康・安全の部分を、子育て支援や老人ホーム、医療の増加。医療費無償化など。



【資料①】 神戸市が運営している「市民団体」

### 外郭団体に再就職している市OB

**356人**

神戸市が運営している外郭団体に再就職している市OBは、昨年11月末時点で356人です。これは、昨年11月末時点で、神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

市OBが再就職している外郭団体の数は、昨年11月末時点で、神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

## 乱立・赤字 報酬は非公開

### 数字で見る 神戸市政

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

神戸市が運営している外郭団体の数に占める割合が約1割に達しています。

期日新聞 2013年 4月 22日 刊

3年 組 番  
名前

【社会科小テスト】

- ①Q. 以下の文中の ( ) に入る語句を答えよ。
- 知事や市町村長など地方公共団体の長を ( 首長 ) という。
  - 地方公共団体が地域の自治のためにつくる法合を ( 条例 ) という。
  - 地方公共団体の一年間の収入のことを ( 歳入 ) という。
  - 住民自身が直接政治的な意思決定を行うしくみを ( 直接民主制 ) という。
  - 地方公共団体が、税金などの収入によって地域住民に公共サービスを提供するはたらきを ( 福祉 ) という。

②Q. 資料の新聞記事には、税金が利用されている公共事業 (公共サービス) についての内容が記載されている。この資料をよく読み、各問に答えよ。

A. 市営地下鉄海岸線があることにより困窮者たちが、困る人たちはどのような人たちか? その理由もふくめて以下の表に記入しよう。

	困る人たち	理由
困る人たち	旧市街地の住民 流出し若年層の人が増えて少子化の恐れがある 地下鉄海岸線建設で個人雇用がある 犯罪の多い高齢者の多い下層階級が増え、若者が減る 利用者 JRの利用者 JRの人達 二エタワンの住民 若者の流出、高齢者の少子化	
困る人たち		

B. 市営地下鉄海岸線の存続についてあなたの意見を記入しよう。その際、①考えられる反論や批判についても記入すること、②市営地下鉄海岸線によってもたらされる利益はどのようなものかを明らかにして、反論や批判をいう人を納得させるような意見を記入すること。

A

私は、市営地下鉄海岸線を「継続」した方がいいと思う。

①考えられる反論や批判としては、350億円近い赤字、若年人口の伸び悩みやJRとの競争など、赤字償還が難しいという国交省化、以上を考えると住民の更新が有利になると考えられるがある。

②しかし、私は、二の市営地下鉄の直接的な利益ではなく、その周りの住人の利便向上や、旧市街地の少子化防止、それに若年人口の利便性の向上、間接的な利益があるため、必要ではあるかと思う。



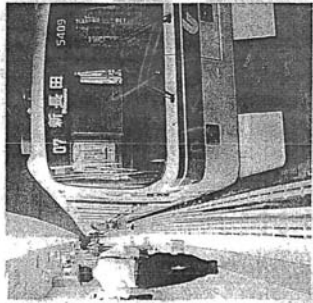
【資料】

地下鉄海岸線の累積赤字額

890億円

数字で見る 神戸市政

神戸市を建てる本宗地帯は、約三宮中谷町から兵庫区東甲田まで、約10キロメートルを東西に、約7.9キロメートルを南北に、約201年7月開業以来、乗客が伸び続けている。1日の乗客数は、開業当初の約13万人の約1.5倍に増えた。開業当初の乗客の約1.5倍に増えた。開業当初の乗客の約1.5倍に増えた。開業当初の乗客の約1.5倍に増えた。



乗客が伸び続けている神戸市中央区、地下鉄海岸線

乗客、予測のわずからず割

海岸線が建設された当初は、通常の乗客とかなり違っていた。インテリゲンチヤムは、ただただ乗客の増加を喜ぶのではなく、乗客の増加がもたらす影響について、人口も増加が予測された。神戸市は、郊外の出立地帯に、約21キロメートルを東西に、約7.9キロメートルを南北に、約201年7月開業以来、乗客が伸び続けている。1日の乗客数は、開業当初の約13万人の約1.5倍に増えた。開業当初の乗客の約1.5倍に増えた。開業当初の乗客の約1.5倍に増えた。

1977年、開業の西神戸・山手線は、開業当初に比べて、乗客が増え、開業当初の08年度よりも、乗客の増加が予測された。今年も、乗客が増え、開業当初の08年度よりも、乗客の増加が予測された。今年も、乗客が増え、開業当初の08年度よりも、乗客の増加が予測された。今年も、乗客が増え、開業当初の08年度よりも、乗客の増加が予測された。

## 第Ⅲ部 社会科における

### 「思考・判断・表現」の評価問題の開発と論理

## 第1章 高校入試問題に見る「思考・判断・表現」の評価の論理

### —評価問題が授業改善に示唆するもの—

#### 1. はじめに一問題の所在—

筆者は、第1部第3章において、「指導と評価の一体化」の観点から、同じ評価問題であっても授業との関係で授業再現問題となったり、思考力を問う問題となったりすることを示した。つまり、授業から見ていくと、たとえ評価問題そのものが「思考・判断・表現」の評価を実現するものであったとしても、授業で取り上げた事例と同様の事例による問題では「指導と評価の一体化」において授業展開の再現・再生にしかならないということ、「思考・判断・表現」の評価の実現を図るには、授業で扱った事例とは異なる他の事例に理論的知識を活用することが必要であるということ、を示した。

そこで、本章では、授業から評価問題を見ていくのではなく、評価問題から授業を展望していくこととする。すなわち、「思考・判断・表現」の評価問題そのものの検討からどのような授業が望まれるのか、を見ていく。具体的には、高校入試問題を取り上げ<sup>1)</sup>、その中から「思考・判断・表現」を評価すると思われる評価問題を事例として、その「解答展開」を示す。これによって解答で期待される知識を明確にして、「思考・判断・表現」の評価問題の論理を明らかにしていく。そして、そこから思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善の示唆を得たい。

尚、「思考・判断・表現」を問う評価問題を見ていくにあたって、事実に思考・判断・表現にかかわる「探究学習による『思考・判断・表現』を問う評価問題」と、価値的な思考・判断・表現にかかわる「意思決定学習による『思考・判断・表現』を問う評価問題」とに分けて論じていくこととする。

#### 2. 探究学習による「思考・判断・表現」を問う評価問題とその類型

##### (1) 思考力を問う評価問題と類型

まず、「思考・判断・表現」の評価の論理について述べるにあたって、「思考・判断・表現」についての基本的な考え方を示しておきたい。原田智仁は、「思考力・判断力」について、次のように定義している。

一般的に、思考とは考えることであり、判断とは考えた結果としてある断定を下すことである。そして、考える能力を思考力、断定する能力を判断力ととらえることができる。したがって、広義に解釈すれば、思考力・判断力はともに思考力であり、狭義に解釈すれば、思考の過程にかかわる能力が思考力、思考の結果にかかわる能力が判断力になる。

(財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ44『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』(研究代表原田智仁), 2008年, p.8より)

この章では、原田の定義に倣い、要素主義的に思考、判断を狭義に解釈するのではなく広義にとらえ、それらの能力も広く思考力とすることとする。そして思考の過程や結果を言葉や文字など記号的に表すことを表現とし、その能力を表現力とする。

このように、「思考・判断・表現」を広く思考とその表現ととらえた場合、社会科におけ



る思考をどのようにとらえるかが重要になってくる。社会科における思考について、森分孝治は、事実的思考と理論的思考の二つに分けられると次のように述べている<sup>2)</sup>。

社会科における思考は、①特定の事象の理解・説明をめざす事実的思考と、②特定の事象を手段として一般的理論を発見し、それをを用いて他の事象をも理解し説明していく理論的思考とに分けられる。

(森分孝治「社会科における思考力育成の基本原則—形式主義・活動主義的偏向の克服のために—」  
『社会科研究』第47号、1997年、p.4より)

「思考・判断・表現」の評価問題も、この社会科における思考の類型に従うと、大きく二つに分けることができる。一つは事実的思考に対応した事実的思考評価問題、もう一つは理論的思考に対応した理論的思考評価問題である。後者の理論的思考評価問題は、さらに、提示されたり読み取ったりした事実から理論的知識そのもの（理論、概念など）を問うものと、理論的知識を活用して提示された資料などを読み取るものに分けることができる。もちろん、これらは問題によって両方が複合的に組み合わせられることもある。これらの関係をこれから述べる事例とともに表にまとめると、次の表1のようにまとめることができる。

以下、これらに従って具体的に評価問題とその特質について見ていこう。

表1 探究学習における思考力評価問題の類型

	事実的思考評価問題	理論的思考評価問題	
		事実→理論	理論→事実
評価問題事例	T県 <sup>2</sup> 5	I県 <sup>3</sup> (3)	A県 <sup>6</sup> (4) イ
	H県 <sup>4</sup> 4	S県 <sup>6</sup> 3	

(筆者作成)

## (2) 事実的思考評価問題1—T県の高校入試問題を事例として—

### ア T県の高校入試問題の実際—事実的思考評価問題例—

ここでは、事実的思考評価問題の事例として、T県の公立高校入試問題を取り上げ、事実的思考評価問題の特質について見ていく。取り上げるT県の問題は、以下のものである。

H24年 T県<sup>2</sup> 5

下線部⑥ (←宅配便) に関して、明日香さんたちは宅配便の取扱個数の推移を調べ、図3にグラフにまとめたところ、取扱個数が増えていることがわかった。そこで明日香さんは、取扱個数が増えた理由をいくつか考えることにし、図4をもとに仮説Iにまとめた。また、先生から提示された図5をもとに他の理由を仮説IIにまとめることにした。

仮説Ⅱの□に入る文を、「配達」の語を用いて簡潔に書きなさい。

【仮説Ⅰ】

高速道路が発達したことで、自動車の貨物輸送量が増えた。宅配便の業者はトラックで、より広い地域に速く配達できるようになり、取り扱い個数が増えた。

【仮説Ⅱ】

図3  
(億個)



図4  
輸送量(1985年=100%)

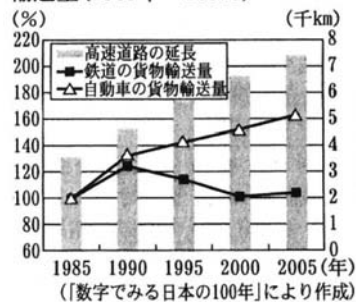
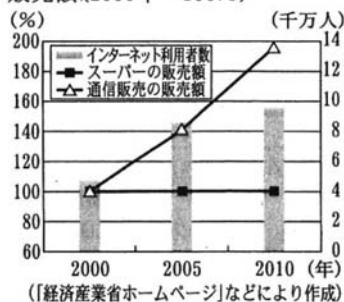


図5  
販売額(2000年=100%)



(※下線部筆者加筆)

(解答例) インターネットが普及したことで、通信販売の利用が増えた。宅配便の業者は通信販売の商品を配達するので、取扱個数が増えた。

イ T県の高校入試問題の解答展開

この問題の解答までの流れを、解答過程と、獲得されるあるいは解答が期待される知識に分けて整理してみると、次のようになる(以下、このように解答までの流れを、授業展開に倣って「解答展開」と呼ぶこととする)。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
導入 (問題の把握)	<p>①「下線部⑥(→宅配便)に関して、明日香さんたちは宅配便の取扱個数の推移を調べ、図3にグラフにまとめたところ、取扱個数が増えていることがわかった。」</p> <p>②図3を見る。</p> <p>③「そこで明日香さんは、取扱個数が増えた理由をいくつか考えることにし、図4をもとに仮説Ⅰにまとめた。」</p> <p>④図4を見る。</p>	<p>①宅配便の取扱個数が増えている。</p> <p>②①の確認</p> <p>③なぜ、宅配便の取扱個数が増えたのか、について考える問題。(問い(題意)の理解Ⅰ)</p> <p>④- 1 「高速道路の延長」が増えている。 - 2 「鉄道の貨物輸送量」が減っている。 - 3 「自動車の貨物輸送量」が増えている。</p>

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
導入 (問題の把握) (続き)	⑤なぜ、「高速道路の延長」が増加すると「自動車の貨物輸送量」が増加するか？ ⑥仮説Ⅰを読む。 ⑦「また、先生から提示された図5をもとに他の理由を仮説Ⅱにまとめることにした。仮説Ⅱの□に入る文を、『配達』の語を用いて簡潔に書きなさい。」	⑤高速道路を利用してトラックなどによって貨物を輸送するので、高速道路の延長は自動車の貨物輸送量を増加させる。 ⑥「高速道路が発達したことで、自動車の貨物輸送量が増えた。宅配便の業者はトラックで、より広い地域に速く配達できるようになり、取扱個数が増えた。」 ⑦なぜ、宅配便の取扱個数が増えたのか、について、仮説Ⅰの考察の方法を参考に、図5をもとに仮説Ⅱにまとめる問題。 (問い(題意)の理解Ⅱと解答の指示の理解)
展開Ⅰ	⑧図5を見る。 ⑨なぜ、「インターネットの利用者数」が増加すると「通信販売の販売額」が増加するか？ ⑩なぜ、「通信販売の販売額」が増加すると宅配便の取扱個数が増えるのか？	⑧-1「インターネットの利用者数」が増えている。-2「スーパーの販売額」に変化はあまり見られない。-3「通信販売の販売額」が増えている。 ⑨インターネットの利用によって手軽に通信販売を利用することが可能となるので、通信販売の販売額が増えた。 ⑩通信販売の商品は宅配便によって配達されるので、「通信販売の販売額」が増加すると宅配便の取扱個数が増える。
展開Ⅱ	⑪(なぜ、宅配便の取扱個数が増えたのか。)推測する。	⑪インターネットの利用者数が増えてもスーパーの販売額は変化していないが、通信販売の販売額は増加しているので、インターネットを利用した通信販売による商品の宅配の増加が宅配便の取扱個数を増加させているのではないか。
終結	⑫簡潔に解答(推測)を書く。	⑫インターネットが普及したことで、通信販売の利用が増えた。宅配便の業者は通信販売の商品を配達するので、取り扱い個数が増えた。

(筆者が解答過程を想定して作成。)

## ウ 解答に必要なとされる知識

先に示した解答展開をもとに、解答のためにどのような知識が必要とされるかをみていこう。解答展開に示した①～⑫を事実的知識と理論的知識に分けたものが、以下のものである。※印は、問題そのものからは読み取れない、解答者があらかじめ学習の成果として習得している知識として求められているものである。そして◎印が、最終的に解答として求められる知識である。

<p>①事実的知識(宅配便の取扱個数が増加している。)</p> <p>② — (グラフ(図3)による①の確認)</p> <p>③ — (問い(題意)についての国語的理解)</p> <p>④-1 事実的知識(「高速道路の延長」が増えている。 -2 事実的知識(「鉄道の貨物輸送量」が減っている。) -3 事実的知識(「自動車の貨物輸送量」が増えている。)</p> <p>※⑤理論的知識(高速道路の延長は自動車の貨物輸送量を増加させる。)</p> <p>⑥理論的知識(高速道路が発達したことで、自動車の貨物輸送量が増えた。宅配便の業者はトラックでより広い地域に速く配達できるようになり、取扱個数が増えた。)【説明的知識】</p> <p>⑦ — (問い(題意)についての国語的理解)</p> <p>⑧-1 事実的知識(「インターネットの利用者数」が増えている。 -2 事実的知識(「スーパーの販売額」に変化はあまり見られない。)</p>
---

- － 3 事実的知識（「通信販売の販売額」が増えている。）
- ※⑨理論的知識（インターネットの普及は「通信販売の販売額」を増加させる。）
- ※⑩理論的知識（「通信販売の販売額」の増加は宅配便の取扱個数を増加させる。）
- ⑪理論的知識（インターネットを利用した通信販売による商品の宅配が増加したので宅配便の取扱個数を増加させている。）【説明的知識】
- ◎⑫ — （⑪の表現…国語的表現力）→インターネットが普及したことで、通信販売の利用が増えた。  
 宅配便の業者は通信販売の商品を配達するので、取り扱い個数が増えた。

## エ T県の高校入試問題の事実的思考評価問題としての特質

この問題は、まず、図3にみられる事実の原因について、図4をもとに仮説を立てる方法を表現の仕方もあわせて例示する。その例示された図4と仮説Iを参考にして解き方を習得・活用して、別の資料である図5をもとに、図3の事実との因果関係について考察させ、仮説を立てさせ、表現させる問題となっている。

この問題は、仮説I、仮説IIの全体を通して見ると、「交通通信手段の発達が発物輸送量を変化させる」という、より一般性の高い、普遍的な理論的知識（【概念的知識】）にかかわる問題となっていることがわかる。しかし、問われているのは、その普遍的な理論的知識ではない。あくまでも、仮説Iでは図3と図4で、仮説IIでは図3と図5で読み取られた事象間の因果関係を説明させることを求めた問題となっている。具体的には、仮説Iでは④－1～3の事実的知識をもとに事象間の因果関係から⑤の理論的知識を読み取らせ、さらにそこから①との因果関係を説明する⑥の理論的知識へと積み上げさせる。同様に、仮説IIでは⑧－1～3の事実的知識をもとに事象間の因果関係から⑨、⑩の理論的知識を読み取らせ、さらにそこから①との因果関係を説明する⑪（⑫）の理論的知識へと積み上げさせるものとなっている。その過程は、あくまでも事実の因果関係の説明を求めるものであって、そこで活用される理論的知識は資料（事実）の読み取りの中に埋め込まれており、明確ではない。つまり、事象間の因果関係の考察において、理論的知識は他の事象に応用可能な一般性の高い普遍的な理論的知識（【概念的知識】）としては位置付けられていない。それは、最終的な解答として求められている理論的知識（説明的知識）においても同様である。すなわち、本問題での理論的知識は、事実と理論とが未分離な説明的スケッチ<sup>3)</sup>の状態となっている。このように、本問題は特定の事象の理解・説明をめざす事実的思考を問う問題と言え、事象間の因果関係を考察させる事実的思考評価問題と言えらる。

### （3）事実的思考評価問題2—H県の高校入試問題を事例として—

#### ア H県の高校入試問題の実際

ここでは、もう一つの事実的思考評価問題の事例として、H県の公立高校入試問題を取り上げ、事実的思考評価問題の特質について見ていく。取り上げるH県の問題は、以下のものである。

H24年 H県<sup>4)</sup> 4

下線部④（←経済成長）に関して、右上の表Iはインドネシアの原油の生産業、輸出量、生産量に占める輸出量の割合を示し、表IIはインドネシアの国内総生産に占め

る第2次産業の割合を示しています。インドネシアの原油の生産量に占める輸出量の割合が、表Ⅰに示すように変化したのはなぜだと考えられますか。その主な理由を、表Ⅱをもとに、簡潔に書きなさい。

表Ⅰ

年	生産量 (万t)	輸出量 (万t)	生産量に占める 輸出量の割合 (%)
1970	4,260	2,992	70.2
2000	6,897	3,037	44.0

(世界国勢図会 1990/91年版, 2003/04年版による。)

表Ⅱ

年	国内総生産量に占める 第2次産業の割合 (%)
1970	17.0
2000	45.0

(世界国勢図会 1990/91年版, 2008/09年版による。)

(※下線部筆者加筆)

(解答例) 国内の産業の工業化が進み、輸出していた原油を国内で消費するようになったため。

## イ H県の高校入試問題の解答展開

この問題の解答展開として、解答過程と、獲得されるあるいは解答が期待される知識に分けて整理してみると、次のようになる。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
導入 (問題把握)	<p>①「表Ⅰはインドネシアの原油の生産量、輸出量、生産量に占める輸出量の割合を示し、表Ⅱはインドネシアの国内総生産に占める第2次産業の割合を示しています。」</p> <p>②「インドネシアの原油の生産量に占める輸出量の割合が、表Ⅰに示すように変化した」→表Ⅰをみる。</p> <p>③「変化したのはなぜだと考えられますか。その主な理由を、表Ⅱをもとに、簡潔に書きなさい。」</p>	<p>①表Ⅰはインドネシアの原油の生産量、輸出量、生産量に占める輸出量の割合である。表Ⅱはインドネシアの国内総生産に占める第2次産業の割合である。(表Ⅰ、表Ⅱの意味)</p> <p>②生産量に占める輸出量の割合が減っている。(問い(題意)の理解Ⅰ: 70.2→44.0)</p> <p>③表Ⅱを使って生産量に占める輸出量の割合が減っている理由を考えて、書く問題。(問い(題意)の理解Ⅱと解答方法の理解)</p>
展開Ⅰ	<p>④表Ⅰの生産量と輸出量を見る。</p> <p>⑤もう一度、生産量に占める輸出量の割合を見る。</p> <p>⑥表Ⅰが意味することは、何だろうか? (表Ⅰの読み取り)</p>	<p>④生産量、輸出量ともに増えている。</p> <p>⑤輸出量の割合は減っている。</p> <p>⑥原油の生産量も輸出量も増えているのに、なぜ、生産量に占める輸出量の割合が減っているのだろうか? &lt;隠された問いの発見&gt;</p>

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
展開Ⅱ	⑦表Ⅱを見る。 ⑧第2次産業は、何の産業か？ ⑨第2次産業の割合が増えるということは、どういふことだろうか？（表Ⅱの読み取り）	⑦第2次産業の割合が増えている。 ⑧第2次産業は鉱工業である。 ⑨第2次産業の割合が増えるということは、国内の工業化が進んだということである。
展開Ⅲ	⑩原油の生産量も輸出量も増えているのに、なぜ、生産量に占める輸出量の割合が減っているのだろうか？	⑩たくさん原油を生産し、たくさん輸出をしているけれど、国内の工業化が進んで国内で消費する原油の量が増えたから、輸出に回せる量が減り、生産量に占める輸出量の割合が減ったのではないか。（仮説）
終結	⑪簡潔に解答（仮説）を書く。	⑪国内の産業の工業化が進み、輸出していた原油を国内で消費するようになったため。

（筆者が解答過程を想定して作成。）

### ウ 解答に必要とされる知識

先に示した解答展開をもとに、解答のためにどのような知識が必要とされるかをみていこう。解答展開に示した①～⑪を事実的知識と理論的知識に分けたものが、以下のものである。※印は、問題そのものからは読み取れない、解答者があらかじめ学習の成果として習得している知識として求められているものである。そして◎印が、最終的に解答として求められる知識である。

①	—	（表の意味の国語的理解）
②	事実的知識	（生産量に占める輸出量の割合が減っている（70.2→44.0）。）
③	—	（問い（題意）についての国語的理解Ⅱと解答方法の理解）
④	事実的知識	（生産量も、輸出量も増えている。）
⑤	事実的知識	（生産量に占める輸出量の割合は減っている。）
⑥	<隠された問いの発見>	（原油の生産量も輸出量も増えているのに、なぜ、生産量に占める輸出量の割合が減っているのだろうか？）
⑦	事実的知識	（第2次産業の割合が増えている。）
※⑧	事実的知識	（第2次産業は鉱工業である。）
※⑨	理論的知識	（工業化が進むと第2次産業の割合が増える。）
※⑩	理論的知識	（⑩-1工業化は原油の消費量を増大させる。） （⑩-2必要な資源はできるだけ国内でまかなおうとする。）
		↓
		（⑩工業化の進展は国内における原油の消費を増大させ、原油の生産量に占める輸出量の割合を減少させている。）【説明的知識】
◎⑪	—	（⑩の表現…国語的表現力）→「国内の産業の工業化が進み、輸出していた原油を国内で消費するようになったため。」

### エ Ⅱ県の高校入試問題の理論的思考評価問題としての特質

この問題は、リード文で「インドネシアの原油の生産量に占める輸出量の割合が、表Ⅰに示すように変化したのはなぜだと考えられますか」と問われるものの、まずその「変化」は何か、表Ⅰを読み解くことが求められる。その過程で本問題に隠された真の問い（「原油の生産量も輸出量も増えているのに、なぜ、生産量に占める輸出量の割合が減っているのだろうか？」という複文型の問い）の発見が求められる。そして、その問いに対する仮説を、表Ⅱを基に解答として表現するものとなっている。つまり、表Ⅰの事実を結果として位置付け、「なぜ」と問い、表Ⅱの事実を原因にかかわる事実として因果関係で説明させる問題となっている。その原因と結果の事実を結びつけ、説明を与える知識が、習得され

ていると期待される事実に知識（⑧）と理論的知識（⑨，⑩-1，⑩-2）である。表Ⅰ，表Ⅱに示された事実（④，⑤，⑦）と，これらの知識によって解答である理論的知識（説明的知識）（⑩）を導き出すことが期待されているのである。ただし，解答の過程で活用される理論的知識は事実の読み取りの中に埋め込まれており，事実と理論の区別は明確ではない。求められる解答も同様であり，説明的スケッチとなっている。

このように，本問題は，与えられた資料（事実）に対して「なぜ」と問い，資料に基づいて理論的知識を活用して因果関係によって事実に対する説明（仮説）を与えようとする。すなわち，本問題は特定の事象の理解・説明をめざす事実に思考を問う問題と言え，事象間の因果関係を考察させる事実に思考評価問題と言える。


#### （４）事実の読み取りから理論的知識を問う理論的思考評価問題

##### — I 県の高校入試問題を事例として —


##### ア I 県の高校入試問題の実際

ここでは，理論的思考評価問題の中でも，事実の読み取りから理論的知識を問う理論的思考評価問題の事例として，I 県の公立高校入試問題を取り上げ，理論的思考評価問題の特質について見ていく。取り上げる I 県の問題は，以下のものである。


H24年 I 県<sup>3</sup>（3）

図1 


〈ミーさんは，最初，1杯の価格を60円にしたが，友だちから「高い」と言われ，価格の変更を考えた。〉

図2 

〈ミーさんは，レモネードをたくさん作るためにジョニーさんを雇った。一方，ジョニーさんは賃金が安く不満だった。〉

図3 

〈ジョニーさんは自分で店をひらくことにした。二人は，客が自分の店に買いに来るように競い合った。〉

図4 

〈結局，二人は，共同でレモネードを売ることになった。〉

（レイズ・アームストロング「レモンをお金にかえる法」から作成）

二つの店の関係が，図3から図4へ変化した場合，消費者にとって不利益になる問題が発生することが考えられます。その問題の発生を防ぐために定められたわが国の法律を何といいますか。ことばで書きなさい。

（解答例） 独占禁止法

## イ I 県の高校入試問題の解答展開

この問題の解答展開として、解答過程と、獲得されるあるいは解答が期待される知識に分けて整理してみると、次のようになる。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
問題把握	①「二つの店の関係が、図3から図4へ変化した場合、消費者にとって不利益になる問題が発生することが考えられます。」 ②「その問題の発生を防ぐために定められたわが国の法律を何といいますか。ことばで書きなさい。」	①図3から図4へ変化した場合、消費者にとって不利益になる問題が発生することが考えられる。(問い(題意)の理解Ⅰ) ②①の問題の発生を防ぐために定められたわが国の法律名を答える問題。(問い(題意)の理解Ⅱと解答方法の理解)
展開Ⅰ	③図1を見て、読み解く。 ④図2を見て、読み解く。 ⑤図3を見て、読み解く。 ⑥図4を見て、読み解く。	③「ミーさんは、最初、1杯の価格を60円にしたが、友だちから『高い』と言われ、価格の変更を考えた。」→ <u>均衡価格に比べて商品の価格が高い経済状況の理解。</u> ④「ミーさんは、レモネードをたくさん作るためにジョニーさんを雇った。一方、ジョニーさんは賃金が安く不満だった。」→ <u>労働者を安く雇い、大量生産によって価格を下げる経営戦略を行ったことと、その結果労働者の低賃金への不満が発生していること</u> の理解。 ⑤「ジョニーさんは自分で店を開くことにした。二人は、客が自分の店に買いに来るように競い合った。」→ <u>ライバル企業の進出によって低価格を競う価格競争が激しくなったこと</u> の理解。 ⑥「結局、二人は、共同でレモネードを売ることにした。」→ <u>過度な価格競争は互いの利益を低下させるので、競争を避けるため、企業同士の合併が行われること</u> の理解。
展開Ⅱ	⑦図3から図4へ変化した場合、消費者にとって不利益になる問題とは、いったいどんな問題か？ ⑧独占によって発生する問題を防ぐわが国の法律は何か？	⑦⑤と⑥から、 <u>市場の競争がなくなり、独占市場となること</u> によって引き起こされる問題(例えば、 <u>独占価格、品質の低下</u> など)。 → <u>独占市場の問題</u> ⑧ <u>独占禁止法</u>
終結	⑨解答(法律名)を書く。	⑨「 <u>独占禁止法</u> 」と書く。

(筆者が解答過程を想定して作成。)

## ウ 解答に必要なとされる知識

先に示した解答展開をもとに、解答のためにどのような知識が必要とされるかをみていこう。解答展開に示した①～⑨を事実的知識と理論的知識に分けたものが、以下のものである。※印は、問題そのものからは読み取れない、解答者があらかじめ学習の成果として習得している知識として求められているものである。そして◎印が、最終的に解答として求められる知識である。



- ① ー (問い(題意)についての国語的理解Ⅰ)
- ② ー (問い(題意)についての国語的理解Ⅱと解答方法の理解)
- ③理論的知識(均衡価格より商品が高いと消費者の不満が起こる。)
- ④理論的知識(人を安く雇い大量生産をすれば、価格を下げるができる。しかし、安い賃金は次第に労働者の不満を生む。)
- ⑤理論的知識(新たな企業の進出は低価格競争を生む。)
- ⑥理論的知識(低価格競争の激化は企業同士の合併を促し、独占市場を生み出す。)
- ※⑦理論的知識(独占市場は、価格の高止まり(独占市場)や品質の低下などの消費者にとって不利益となる問題を引き起こす。)
- ※⑧事実的知識(独占による消費者の不利益を防ぐ法律は、「独占禁止法」である。)
- ◎⑨ ー (⑧の表現…国語的表現力)→「独占禁止法」

## エ I 県の高校入試問題の理論的思考評価問題としての特質

この問題は、図1から図4までのレモネード販売についての物語を読ませ、それぞれどのような経済的な状況であるか一般化させ(解答展開の③～⑥下線部分)、それら一般化されたそれぞれの知識をもとに、独占市場において消費者が受ける不利益の一般的傾向性(⑦)を想起させる。そしてそれを防ぐための法律名(⑧)を求め、解答させる問題となっている。つまり、図1から図4の事例(事実)をもとに一般化させることによって下位の理論的知識を求めさせ、それら下位の理論的知識を積み上げて上位の理論的知識(独占市場は、価格の高止まり(独占市場)や品質の低下などの消費者にとって不利益となる問題を引き起こす。)を求めさせるものとなっている。直接的な解答は、独占による消費者を防ぐ法律である「独占禁止法」という事実的知識を求めるものとなっているが、その解答の決め手となる知識は、事実の読み取りから理論的知識を問うものとなっている。しかも、その理論的知識は、事例から離れ、他の事例においても応用可能な、より一般性の高い知識となっている。すなわち、本問題は、事実の読み取りから他の事実にも説明(応用)可能な理論的知識を問う理論的思考評価問題と言える。

### (5) 理論的知識から事実の読み取りを問う理論的思考評価問題

#### ーA県の高校入試問題を事例としてー

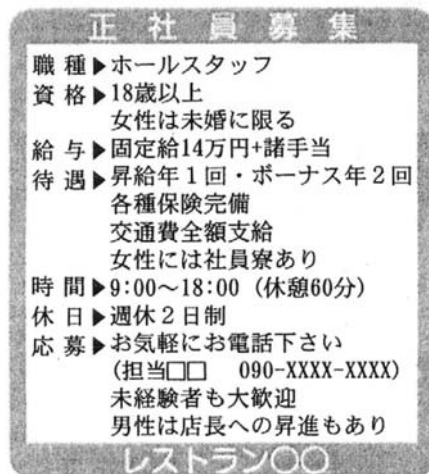
#### ア A県の高校入試問題の実際

ここでは、理論的思考評価問題の中でも、理論的知識から事実の読み取りを問う理論的思考評価問題の事例として、A県の公立高校入試問題を取り上げ、理論的思考評価問題の特質について見ていく。取り上げるA県の問題は、以下のものである。

H24年 A県⑥(4)イ

資料2は、あるレストランが、正社員を募集するために作成した広告の原稿である。この中には、雇用の男女平等をめざして制定された男女雇用機会均等法に違反している内容が、いくつか含まれている。違反している内容を二つそのまま抜き出して書きなさい。

資料2



(解答例) 女性は未婚に限る, 女性には社員寮あり, 男性は店長への昇進もあり (3項目の中から2つ答えて正解)

### イ A県の高校入試問題の解答展開

この問題の解答展開として、解答過程と、獲得されるあるいは解答が期待される知識に分けて整理してみると、次のようになる。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
導入 (問題把握)	<p>①「資料2は、あるレストランが、正社員を募集するために作成した広告の原稿である。」</p> <p>②「この中には、雇用の男女平等をめざして制定された男女雇用機会均等法に違反している内容が、いくつか含まれている。」</p> <p>③「違反している内容を二つそのまま抜き出して書きなさい。」</p>	<p>①資料2は、正社員を募集するために作成した広告の原稿である。(問い(題意)の理解I)</p> <p>②広告の内容には、雇用の男女平等をめざして制定された男女雇用機会均等法に違反している内容が、いくつか含まれている。(問い(題意)の理解II)</p> <p>③違反している内容を二つそのまま抜き出す。(解答方法の理解)</p>
展開	<p>④雇用の男女平等とは、いったいどういうことか?</p> <p>⑤広告の内容に、雇用条件において性別によって差別されているものはないか?</p>	<p>④雇用の男女平等とは、いかなる雇用条件においても性別によって差別されないことである。</p> <p>⑤- 1「女性は未婚に限る」は、女性だけ就労の機会が制限されている。</p> <p>- 2「女性には社員寮あり」は、女性だけ優遇されている。</p> <p>- 3「男性は店長への昇進もあり」は、女性の昇進の機会を制限している。</p>
終結	<p>⑥解答を抜き出して書く。</p>	<p>⑥「女性は未婚に限る」、「女性には社員寮あり」、「男性は店長への昇進もあり」のうち、二つ選んで書く。</p>

(筆者が解答過程を想定して作成。)

## ウ 解答に必要とされる知識

先に示した解答展開をもとに、解答のためにどのような知識が必要とされるかをみていこう。解答展開に示した①～⑥を事実的知識と理論的知識に分けたものが、以下のものである。※印は、問題そのものからは読み取れない、解答者があらかじめ学習の成果として習得している知識として求められているものである。そして◎印が、最終的に解答として求められる知識である。

①	—	(問い(題意)についての国語的理解Ⅰ)
②	—	(問い(題意)についての国語的理解Ⅱ)
③	—	(解答方法の指示の理解)
※④	—	理論的知識(雇用の男女平等とは、雇用における男女の均等な機会と待遇の確保がなされた状態である。)
⑤	—	1 事実的知識(「女性は未婚に限る」は、女性だけ就労の機会が制限されている。)
	—	2 事実的知識(「女性には社員寮あり」は、女性だけ優遇されている。)
	—	3 事実的知識(「男性は店長への昇進もあり」は、女性の昇進の機会を制限している。)
◎⑥	—	(⑤の表現…国語的表現力)→「女性は未婚に限る」、「女性には社員寮あり」、「男性は店長への昇進もあり」のうち、二つ選んで書く。

## エ A県の高校入試問題の理論的思考評価問題としての特質

この問題は、リード文において男女雇用機会均等法のねらいが述べられ(②)、男女の雇用機会の均等とは何か、理論的知識を習得し、理解しているかが求められる(④)。そして、その理論的知識(雇用の男女平等とは、雇用における男女の均等な機会と待遇の確保がなされた状態である。)を活用して、資料を読み取って理論的知識に該当する(雇用の男女平等に反する)事実(⑤)を抜き出し、答えるものとなっている。つまり、本問題は、理論的知識をもとに説明できる事実を読み取らせる理論的思考力評価問題と言える。

### (6) 事実から理論的知識を発見し、活用して事実を読み解く理論的思考評価問題

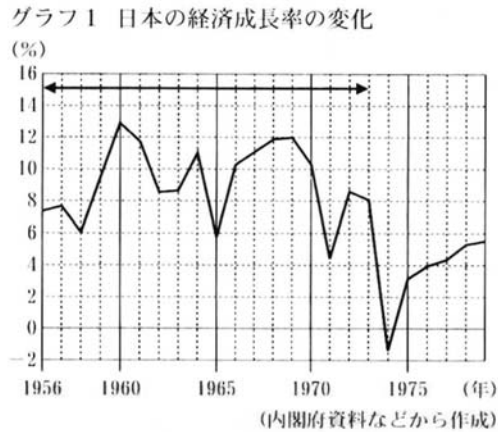
#### —S県の高校入試問題を事例として—

#### ア S県の高校入試問題の実際

ここでは、理論的思考評価問題の中でも、事実から理論的知識を発見し、その理論的知識を活用して事実を読み解き、解答させる理論的思考評価問題の事例として、S県の公立高校入試問題を取り上げ、理論的思考評価問題の特質について見ていく。取り上げるS県の問題は、以下のものである。

H24年 S県<sup>6</sup> 問3

次のグラフ1は、1956年から1979年までの、日本の経済成長率の変化を示したものです。グラフ1中の $\longleftrightarrow$ で示した時期における日本の様子について述べた文として正しいものを、ア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。



- ア 発行部数が100万部をこえる新聞があらわれ、ラジオ放送も始まり全国に普及した。
- イ 白黒テレビが広まり、ついでカラーテレビが普及していった。
- ウ 企業がもつ余った資金が、株式や土地に投資され、株式や土地の価格が大幅に上昇する「バブル経済」がおこった。
- エ 東海道新幹線が開通した。
- オ 渡良瀬川流域で、公害問題が発生し、田中正造がこの問題解決に取り組んだ。

(解答例) イ・エ

イ S県の高校入試問題の解答展開

この問題の解答展開として、解答過程と、獲得されるあるいは解答が期待される知識に分けて整理してみると、次のようになる<sup>4)</sup>。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
導入 (問題把握)	①「次のグラフ1は、1956年から1979年までの、日本の経済成長率の変化を示したものです。」 ②「グラフ1中の $\longleftrightarrow$ で示した時期における日本の様子について述べた文として正しいものを、ア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい」	①グラフ1は、1956年から1979年までの、日本の経済成長率の変化を示したものである。 (問い(題意)の理解I) ② $\longleftrightarrow$ の時期における日本の様子について正しい文を選び、記号で答える問題。(問い(題意)の理解IIと解答方法の理解)
展開 I	③グラフ1を見て、 $\longleftrightarrow$ の時期を確認する。 ④グラフ1(日本の経済成長率の変化)の1956年～1973年の時期を読み解く。	③ $\longleftrightarrow$ の時期は、1956年～1973年である。 ④経済成長率は、ほぼ6%～13%で推移しており、高い成長率を示しており、日本の高度経済成長期と言える。

	解答過程	獲得・解答が期待される知識
展開Ⅱ	⑤日本の高度経済成長期の社会は、いったいどんな社会だったか？  ⑥⑤に該当するものは、ア～オのうちどれか？	⑤日本の高度経済成長期の社会は、経済発展に伴う所得の向上、「新三種の神器」と呼ばれる3C（クーラー、カラーテレビ、自動車）の普及、新幹線や高速道路など交通手段の発達、女性の社会進出など、大きな変化のあった社会であった。 ⑥該当するのは、 - 1 イ「白黒テレビが広まり、ついでカラーテレビが普及していった。」 - 2 エ「東海道新幹線が開通した。」
終結	⑦解答を記号で書く。	⑦イ、エと書く。

(筆者が解答過程を想定して作成。)

### ウ 解答に必要とされる知識

先に示した解答展開をもとに、解答のためにどのような知識が必要とされるかをみていこう。解答展開に示した①～⑦を事実的知識と理論的知識に分けたものが、以下のものである。※印は、問題そのものからは読み取れない、解答者があらかじめ学習の成果として習得している知識として求められているものである。そして◎印が、最終的に解答として

① — (問い(題意)についての国語的理解Ⅰ)
② — (問い(題意)についての国語的理解Ⅱと解答方法の指示の理解)
③事実的知識 (←→の時期は、1956年～1973年である。)
④事実的知識 (1956年～1973年は、経済成長率がほぼ6%～13%で推移しており、高い成長率を示しており、高度経済成長期である。)
※⑤理論的知識 (日本の高度経済成長期の社会は、経済発展に伴う所得の向上、「新三種の神器」と呼ばれる3C(クーラー、カラーテレビ、自動車)の普及、新幹線や高速道路など交通手段の発達、女性の社会進出など、大きな変化のあった社会であった。)
⑥- 1 事実的知識 (白黒テレビが広まり、ついでカラーテレビが普及していった。)
- 2 事実的知識 (東海道新幹線が開通した。)
◎⑦ — (⑥の解答) →イ、エと書く。

### エ S県の高校入試問題の理論的思考評価問題としての特質

この問題は、グラフの←→が示している時期(③)が日本の高度経済成長期であることを読み解き(④)、日本の高度経済成長期の社会(⑤)を理論的知識として活用し、ア～オの事実を検討して記号で答える(⑥)という評価問題となっている。本問題は、理論的知識を発見させ、それを具体的な事実に応用させている。つまり理論的知識の応用・検証作業として選択肢を用意している。このように、本問題は、事実から理論的知識を発見し、活用して事実を読み解く理論的思考評価問題の事例と言える。

## 3. 意思決定学習による「思考・判断・表現」を問う評価問題とその類型

### (1) 意思決定学習による「思考・判断・表現」を問う評価問題の類型

意思決定に関する評価問題は、意思決定がどのような知識に基づいてなされているかによって、その質の違いを類型化することができる。つまり、事実的知識のみに基づいて意思決定されているか(事実的知識意思決定型)、理論的知識に基づいて意思決定されているか(理論的知識意思決定型)、事実的知識・理論的知識に基づいて意思決定されているか

(合理的意思決定型)である。これらを踏まえて、意思決定に関する評価問題の類型を表にし、後述する公立高校社会科入試問題の事例を位置付けると、表2のようになる。

表2 意思決定に関する評価問題の類型

根拠となる知識 \ 類型(事例)	事実に知識意思決定型 (H24Mg県[5] 5)	理論的知識意思決定型 (H24T県[6] (3) ②, H24Mg県[3] (2))	合理的意思決定型 (H24Mz県[3] 2(5))
価値的知識	◎*	◎	◎
理論的知識		○	○
事実に知識	○*		○

※ ○が問題から得られる知識(情報)、◎が求められる知識(解答)。

(筆者作成。)

## (2) 事実に知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題例

### —Mg県の高校入試問題を事例として—

#### ア Mg県の高校入試問題の実際

事実に知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題(事実に知識意思決定型)例として、Mg県の公立高校入試問題を取り上げ、その特質について見ていく。取り上げるMg県の問題は、以下のものである。

H24年 Mg県[5] 5

下線部⑤(←「多くの移民を受け入れている」)について、ゆりさんは、現在のカナダの状況に関して調べ、次の資料を作成しました。このような国では、どんな社会を築いていくことが望ましいと考えられるか、資料をもとに、簡潔に述べなさい。

資料 現在のカナダの状況

- 国内に200以上の民族が存在している。
- 国民の約20%が、カナダ以外の国で生まれた人々である。
- 人種や宗教などの多様性をカナダ社会の基本的な特徴とみなすと、法律で示している。
- 新聞・雑誌などは40か国語以上で発行されている。

(「外務省ホームページ」などより作成)

(※下線部筆者加筆)

(解答例) 文化の異なる多様な民族が、お互いに尊重し合って生活していく社会。

#### イ Mg県の高校入試問題の意思決定評価問題としての特質

この問題は、資料を通してカナダの多文化社会としての事実が複数提示される。具体的には、多民族であること、大多数が移民であること、人種や宗教が多様であり、法律にも

示されていること、使用されている言語が多様であること、という多様性を示す複数の事実が提示される。解答者は、これらの多様性を示す複数の事実によってカナダの社会が多様な民族によって成り立っている社会（多文化社会）であることを理解・確信し、多様な民族を尊重すべきであると、解答者が考える望ましい社会を述べる問題となっている。

この問題の意思決定評価問題の特質は、リード文で「考えられますか」と述べられているが、「資料をもとに」提示された事実に基づいて「どんな社会が望ましいと考えられるか」と問われると、多文化、多民族を尊重する方向以外の他の選択肢を選ぶことは許されない（仮に解答例に反する解答をしたなら不正解にされるだろう）というところにある。つまり、提示される事実と解答する価値が一体化した、「事実と決断の一元論」になっているところに、この問題の意思決定評価問題としての特質がある。このように、本問題は、事實的知識に基づいて「どのような社会にすべきか」という価値的知識を問う、事實的知識意思決定型の意思決定評価問題であると言える。

### （3）理論的知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題例

#### 一T県とMg県の高校入試問題を事例として一

#### ア T県とMg県の高校入試問題の実際

次に、理論的知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題（理論的知識意思決定型）例として、T県とMg県の公立高校入試問題を取り上げ、その特質について見ていく。取り上げるT県、Mg県の問題は、以下のものである。

H24年 T県<sup>6</sup>（3）②

図の世論の形成については、国民が接する情報に影響されるといわれる。情報を受け取る際に国民が注意すべきことについて説明しなさい。

（解答例） 情報をうのみにせず自分自身で考え判断する。  
（または、）知る権利が保障されるよう見守る。

H24年 Mg県<sup>33</sup>（2）

私たちは、情報社会に生きています。情報社会においては、簡単に大量の情報を得ることができますが、その情報を活用していく上で、どのようなことに気をつけなければならないか、簡潔に述べなさい。

（解答例） 大量の情報の中から、必要な情報を主体的に判断し、選択して活用していくこと。

#### イ T県とMg県の高校入試問題の意思決定評価問題としての特質

T県の問題は、問題文の中で「世論の形成については、国民が接する情報に影響される」ということを述べることで、世論形成の一般的傾向性を、理論的知識として解答者に理解・確信させる。解答者はその与えられた理論的知識に従って「情報を受け取る際に注意

すべきこと」，すなわち注意事項を事例的に解答する問題となっている。

Mg県の問題も，問題文の中で「情報社会においては，簡単に大量の情報を得ることができます」という情報化社会についての一般的な傾向性を，理論的知識として解答者に理解・確信させる。そして解答者はその与えられた理論的知識に従って「情報を活用していく上で」「気をつけなければならないこと」，すなわち注意事項を事例的に解答する問題となっている。

両問題とも，問題文によって理論的知識が解答者に揺るぎない絶対のものとして与えられ，その理論的知識に従って「どのように注意すべきか（気をつけねばならないか）」と価値的な行動指針を注意事項として求める問題となっている。つまり，両問題は，理論的知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題（理論的知識意思決定型）であると言える。

#### （４）事実的知識・理論的知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題例

##### 一Mz県の高校入試問題を事例として一

##### ア Mz県の高校入試問題の実際

次に，事実的知識・理論的知識に基づいて価値的知識を問う意思決定評価問題（合理的意思決定型）例として，Mz県の公立高校入試問題を取り上げ，その特質について見ていく。取り上げるMz県の問題は，以下のものである。

H24年 Mz県<sup>3</sup> 2(5)

智子さんは，近年，食料品などの買い物が困難な状況におかれている人々（買い物弱者）が，高齢の方を中心に数多くいることを知りました。そこで，その現状や内容などを調べて次のようにまとめました。まとめの□に入る，あなたが考える方法を書きなさい。

##### 智子さんのまとめ（一部）

○現代～高齢化や人口減少などの影響を受けて，買い物をするための店が身近な場所から撤退したり，閉店したりしたので，不便や苦勞を感じている人が増えている。

##### ◎買い物での不便や苦勞

- ・スーパーマーケットや店が遠い。
- ・バスの便が少なく，バス停まで遠い。
- ・自動車の運転への不安，運転ができない。

##### ◎不便や苦勞の解消方法

- ・身近な場所に，新たに出店してもらう。
- ・□。

（解答例） 商店への無料送迎サービスをしてもらう。



## イ Mz県の高校入試問題の意思決定評価問題としての特質

この問題は、まず問題文によって、近年買い物弱者が高齢の方を中心に数多くいるという事実的知識が与えられる。そして資料によって、その具体的な現状と内容が提示される。この資料は構造化されている。まず最上段に、高齢化や人口減少の進む現代の社会と買い物弱者が増えることの因果関係が、「高齢化や人口減少などの影響を受けて、買い物をするための店が身近な場所から撤退したり、閉店したりしたので、不便や苦勞を感じている人が増えている。」と示される。これは、問題文には示されていないが「なぜ、近年買い物弱者が増えるのか？」という問いの解答として機能しており、現代における買い物弱者増加の一般的傾向性（理論的知識）として示される。そしてその理論的知識の下位に、具体的な「買い物での不便や苦勞」が示され、問題文にはない「なぜ、買い物をするための店が身近な場所から撤退したり、閉店したりしたら困るのか？」という問いに説明を与えている。この「買い物での不便や苦勞」に示された複数の事実によって先に提示された理論的知識は仮説として位置付けられ、かつ検証される。そしてさらに右下に「不便や苦勞の解消方法」の例が一つ示され、このような買い物弱者増加の原因の仮説・検証に基づいて、「どうすべきか」その課題の解決方法を未来予測して提案させるものとなっている。

以上のように、この問題は、下の図1に示す、原田智仁が述べる意思決定学習における活用力の育成の過程とほぼ合致する<sup>5)</sup>。問題文で情報を提供し、買い物弱者増加という論点をつかませる(①)。そしてその論点を資料を基に理論的知識と事実的知識によって仮説・検証の過程を踏まえて分析させ(②)、その分析をもとに未来予測させ、解決策を提案(意思決定)させる(③・④)ものとなっている。

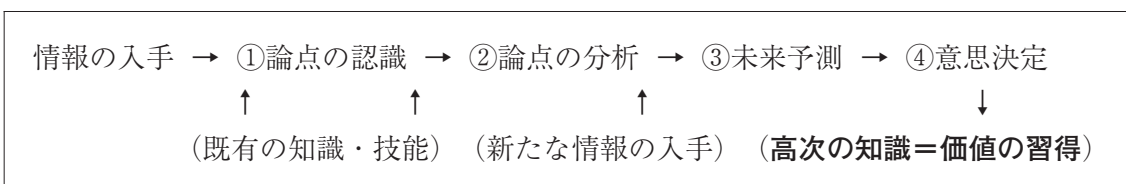


図1 意思決定学習の過程と活用力

- ①入手した情報から論点を認識する能力＝論点認識のための活用力
- ②既存の知識・技能を用いて論点を分析する能力＝論点分析のための活用力
- ③新たな情報を用いて未来予測する能力＝未来予測のための活用力
- ④未来予測に基づいて主体的に意思決定する能力＝意思決定のための活用力

(公益財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ53『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』(代表 原田智仁), p. 11, 2012年による。)

このように、本問題は、事実的知識・理論的知識に基づいて価値的知識を問う合理的意思決定型の意思決定評価問題であると言える。

#### 4. おわりに

一高校入試問題における「思考・判断・表現」の評価問題が授業改善に示唆するもの一

以上のように、探究学習と意思決定学習に分けて「思考・判断・表現」を問う評価問題の論理を検討してきたが、それらの問題の解答展開は、いずれも授業展開と酷似している。つまり、評価問題は授業そのものを想定していると言える。それは、想定するあるいは求める授業として示唆を与えるものと言えるだろう。

探究学習による「思考・判断・表現」の評価問題でいえば、T県、H県とも、資料から事実を読み取らせ、「なぜ」という問いを設定させて探究させ、因果関係によって事実を説明させる事実的思考評価問題となっていた。さらにT県の場合は資料の読み取りから仮説の立て方を、H県の場合は相反するような二つの事実から問いの発見を、解答者に求めていた。まさに探究学習による事実の分析・説明の過程を踏まえた評価問題となっていた。つまり、事実的思考評価問題としての特質を持つ両評価問題は、思考・判断・表現を問うとともに、われわれに探究学習による授業の必要性を示唆していると言える。

一方、意思決定学習による「思考・判断・表現」の評価問題では、Mz県の評価問題が意思決定学習の活用力育成の過程に沿った合理的意思決定型の意思決定評価問題であることがわかった。それは、「思考・判断・表現」の「指導と評価の一体化」の姿を示唆していると言えよう。

#### 註

- 1) 本章で取り上げる高校入試問題は、本研究開始時に入手可能で最新であった平成24年の各都道府県の高校入試問題を事例として取り上げる。
- 2) 社会科における思考について、本稿では森分孝治のものに従って論じていくが、原田智仁も「事実的思考」と「理論的思考」という語を用いて論じている。原田の場合は、社会科の思考を、①事実的思考、②理論的思考、③価値的思考、④批判的思考の四つに分け、「事実的思考」については、「事実的思考とは、特定の社会諸事象について記述し、判断する思考であり、事実判断と言い換えることもできる。」と述べ、「理論的思考」については、「理論的思考とは、社会諸事象を関連付けて説明する思考であり、推論（推論的思考）と言い換えることもできる。」と述べている。つまり、事象の記述か、説明かで両者は区分されている。（財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ44『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』（研究代表原田智仁）、2008年、pp.8-12を参照。）
- 3) 説明的スケッチについては、森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、1978年を参照。
- 4) ただし、この評価問題は、問題構成の論理とは離れて、選択肢の事象それぞれが現れる年代を記憶していれば解答可能な問題とも言える。
- 5) 公益財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ53『社会科の「活用する力」の育成と評価に関する研究』（代表 原田智仁）、p. 11、2012年を参照。

（中本 和彦）

## 第2章 学習評価方略とテスト問題作成の論理

### —社会問題を対象とした小論文を事例に一—

#### 1. 問題の所在

本章では、社会問題を対象としたテスト問題作成の論理を明らかにする。これまでのテスト問題作成に関する研究では、想定する能力の一部に着目したテスト問題と学力全体を念頭に置いたテスト問題が作成されていた。これらの研究成果を総合的に捉え、より実用的なテスト問題試案を提案するのが本章の目的である。

ここでは、社会科における「思考・判断・表現」の評価を取り上げるが、その定義は様々である。そこで、当該能力そのものの定義は、平成22年の公益財団法人日本教材文化研究財団の報告書<sup>1)</sup>に依拠し、「思考・判断・表現」の学力の枠組みとテスト問題の対応関係しめす。最終的に、「小論文」の形式を採るテストを事例として、生徒の「思考・判断・表現」の過程を段階的に捉えるテスト問題試案を提示する。

#### 2. 小論文における「思考・判断・表現」の定義

##### (1) 先行研究の整理

「思考・判断・表現」の評価に関連するものとして、平成22年の報告書では、「習得」や「活用」を取り上げていた。そこでは、「習得」を学力の概念、「探究」を学習（学習方法）の概念であるとしている。

つまり、「習得」は、学力の概念から定義を引用すれば、以下のように示すことができる。

- 習得型学力・・・情報を処理して正解を導く学力
- 活用型学力・・・情報を編集して納得解を導く学力

次に、「活用」は、学習方法の概念として、

- 受容学習・・・教師主導の講義型学習
- 探究学習・・・生徒主体の調べ学習や問題解決的学習

となる。これらを踏まえると、社会科授業を次頁の表1のように4つに類型化できる。この表1に示した社会科授業では、共通した生徒の思考過程を見ることができる。

表1 「習得・活用・探究」論に基づく社会科授業の4類型

学習\学力	習得型学力	活用型学力
受容学習	1. 習得型学力を受容学習により達成する授業 (情報を処理して正解を導く力を教師主導の講義型学習によって達成する)	2. 活用型学力を受容学習により達成する授業 (情報を編集して納得解を導く力を教師主導の講義型学習によって達成する)
探究学習	3. 習得型学力を探究学習により達成する授業 (情報を処理して正解を導く力を生徒主体の調べ学習や問題解決的学習によって達成する)	4. 活用型学力を探究学習により達成する授業 (情報を編集して納得解を導く力を生徒主体の調べ学習や問題解決的学習によって達成する)

(公益財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ50『児童・生徒の習得活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』平成22年9月, p.10より抜粋)

この思考過程の全体を「思考・判断・表現」の学力として捉え、それを評価するためのテスト問題思案を提案する。では、対象となる思考過程はどのように捉えることができるだろうか。

### 3. 小論文の形式と定義との関係

以下の図1は、「習得」「活用」の先行研究から導いた思考過程を図示したものである。図1は、生徒の思考過程を、3つの段階(前提、結論、推論)からとらえている。つまり、客観的なデータに裏付けられた1つもしくは複数の事実を把握する段階(①)とそこから導かれる「結論」を形成する段階(②)。そして、「事実」と「結論」をつなげる「推論」の段階(③)である。

この思考過程を表1に対応させ、詳しく見ていこう。

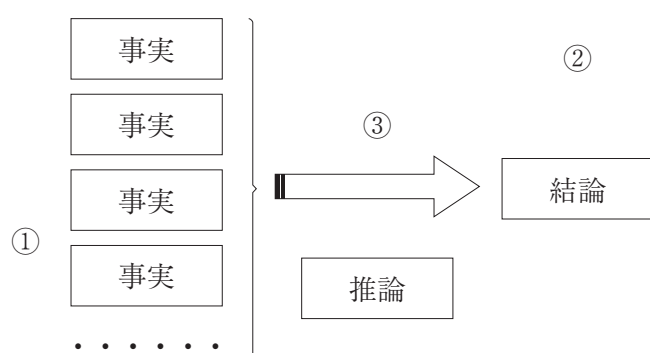


図1 生徒の思考過程

まず、各類型における学習方法に着目する。受容学習では、教師が提示する資料(事実)を処理し、読み取ることを通して何らかの教育内容(結論)を獲得するという学習方法が採られている。一方、探究学習では、教師が提示する、もしくは生徒が収集した資料(事実)を編集(選択)し、何らかの教育内容(結論)を形成するという学習方法が採られて

いるといえる。よって、図1に基づけば、両者の違いは、「事実」を提示する主体が教師であるか、生徒であるかの違いと考えることができる。

次に、最終的に生徒に求められる教育内容をどう判断（評価）するのかという点に着目すれば、習得型学力の場合、獲得すべき教育内容（結論）が想定されている。一方、活用型学力の場合、最終的な教育内容（結論）は、生徒や教師の納得の有無がその妥当性の判断（評価）の基準となる。テスト問題には、このような学習方法と教育内容のとらえ方を生徒の思考過程及び教師の判断（評価）過程に組み込む必要がある。

以下、表2は、以上の分析を踏まえ、「思考・判断・表現」として社会科授業で想定している生徒の思考過程をまとめたものである。

表2 「思考・判断・表現」と評価対象となる生徒の思考過程

育成される学力 生徒の思考過程		習得型学力		活用型学力	
		受容学習	探究学習	受容学習	探究学習
③	① 情報を編集する(選択)		○		○
	情報を処理する(読み取り)	○		○	
	② 正解を導く	○	○		
	納得解を導く			○	○
テスト問題		I	II	III	IV

表2では、横軸に社会科授業の4類型（習得型学力を受容学習により達成する授業、習得型学力を探究学習により達成する授業、活用型学力を受容学習により達成する授業、活用型学力を探究学習により達成する授業）をそれぞれ位置付けた。縦軸には、生徒の思考過程を位置付けた。生徒の思考過程については、図1の①の段階である客観的なデータに裏付けられた1つもしくは複数の事実を把握する段階を学習方法に合わせて「情報を編集する段階」「情報を処理する段階」の2つに分けた。次に、図1の②の段階である「結論」を形成する段階を教育内容の判断基準に合わせ「正解を導く」「納得解を導く」の2つに分けた。さらに、図1の③の段階である「事実」と「結論」をつなげる段階については、①と②の2つに関わるため、表の左に位置付けた。では、表2に基づいて作成したテスト問題I～IVを具体的に見ていこう。

#### 4. テスト問題の具体

##### (1) テスト問題の構成

日本の社会保障を事例とした小論文のテスト問題I～IVを作成した。それぞれの問題は、テスト問題I、IIIは5つの図表、テスト問題II、IVは9つの図表<sup>2)</sup>とリード文、そして、発問で構成されている。9つの図表（本書p.158～161）は、以下のような内容となっている。まず、図表1～5は、日本社会の現状についての理解の根拠となる事実が挙げられている。例えば、「40代の老後の生活費への不安が高い理由として、まず挙げられるのが、社会の少子高齢化の進行である（図表1…p.158）。社会の中堅として働く40代にとって、自らの老後を支える世代の減少を意味する。このような40代に対し、貯蓄格差は大きいも

のの（図表4…p.160）、十分な所得と貯蓄を持つ世帯が多い（図表2…p.159）。高齢者夫婦世帯と高齢者単独世帯の増加（図表3…p.159）も、十分な所得と貯蓄を背景に、成長した子どもと同居せず、老夫婦または単独で生活する傾向の現れと考えられる。それに対し、40代の人々は、さらに進む少子高齢化による将来の年金給付の引き下げなどに対する懸念から老後の生活費への不安も強くなっているといえる」というような解釈の根拠となる事実である。一方、図表6～9は、「現状についての理解」を前提としたとき、そのような現状を「肯定」する側が用いる事実（図表6,7…p.161）、「否定」する側が用いる事実（図表8,9…p.161）が読み取れる図表である。

図表1～5は正解となる解釈を導くためのものであり、図表6～9は正解となる「現状についての理解」を前提とし、多様な意見を引き出すための選択肢として設定している。

表3 図表から読み取れる事実と対応する解釈

図表	読み取れる事実（想定している回答）	対応する解釈		
		現状についての理解	現状肯定	現状否定
1	少子高齢化が進んでいる	○		
2	高齢者夫婦世帯では、300万円以上の年収と750万円以上の貯蓄のある世帯が多い	○		
3	高齢者のみの世帯が増加している	○		
4	高齢者の世帯における貯蓄格差は大きい	○		
5	40代はほかの世代に比べ、老後の生活費への不安が強い	○		
6	夫の家事・育児への参加の意識は年々高くなった			○
7	家庭と職業の両立に対する意識は年々高くなっている			○
8	「子どもをもたなくてもよい」と考える20～39歳までの女性の割合は高い		○	
9	日本人の生活に対する満足感が高い割合を維持している		○	

次項の表4は、テスト問題で示されているリード文、問いと表2で示した思考過程との対応関係を示したものである。表4にあるように、問1では、図表の読み取りがきちんと出来ているかを評価し、問2では、結論（図表5…p.160もしくは自らの意見）に対応する事実を選んでいるかを評価するための問題として設定している。

表4 テスト問題における問い・リード文と思考過程の関係—日本社会保障を事例に—

		テスト問題Ⅰ	テスト問題Ⅱ	テスト問題Ⅲ	テスト問題Ⅳ
③ 問い ・リード文		図表1～5は、現在の日本社会についての調査結果から抜粋したものです。	問1. 図表1～9は、現在の日本社会についての調査結果からの抜粋です。	問1. 図表1～5は、現在の日本社会についての調査結果からの抜粋したものです。	問1. 図表1～9は、現在の日本社会についての調査結果からの抜粋です。
① 情報を	編集する		図表1～9からどのようなことが読み取れますか？図表から読み取れることとして適切な選択肢を記号で示しなさい。(選択肢)		図表1～9からどのようなことが読み取れますか？図表から読み取れることとして適切な選択肢を記号で示しなさい。(選択肢)
			問2. なぜ、図表5のような結果が出てきたと考えますか？ (1)図表1～4, 6～9から読み取ったことから、その原因を示すものとして適切なものを4つ選択しなさい。		問2. 今後の日本社会はどのような社会に向かうべきであると考えますか？ (1)図表1～9から読み取ったことから、自らの主張を支える事実を読みとれるものを選択しなさい。
	処理する	それぞれ、現在の日本社会のどのような事実が読み取れますか？図表ごとに箇条書きにして、説明しなさい。		図表1～5からどのような事実が読み取れますか？図表ごとに箇条書きにして、説明しなさい。	
②	正解を導く	問2. なぜ、図表5のような結果が出てきたと考えますか？図表1～4から読み取ったことから、その原因について説明しなさい。	(2) (1)で選択した図表を踏まえ、「なぜ、図表5のような結果が出てきたのか？」について説明を完成させなさい。		
	納得解を導く			問2. 今後の日本社会はどのような社会に向かうべきであると考えますか？問1で得られた結果をすべて用いてあなたの意見を具体的に述べなさい。	(2) (1)で選択した図表を踏まえ、「今後の日本社会はどのような社会に向かうべきであるか？」について説明を完成させなさい。

## (2) テスト問題の評価法

以上のテスト問題はどのように評価できるだろうか。以下は、大学生を対象に実施した<sup>3)</sup>ものから、見ていこう。

### ア テスト問題 I

この問題の評価規準・基準は以下のように設定した。

問 1. 図表 1～5 の表題を踏まえ、日本社会についての事実を読み取ることができている。(模範解答に書かれたもの以外でも、図表 1～5 から読み取ることができるものであれば可)

解答例；

- 図表 1 20歳未満の人口割合の減少が進み、逆に80歳以上の人口割合が増加している。
- 図表 2 高齢者夫婦世帯では、300万以上の年収と750万円以上の貯蓄のある世帯が多い。
- 図表 3 高齢者を含む他の親族世帯の割合の減少が進み、高齢者夫婦世帯と高齢者単独世帯が増加している。
- 図表 4 年齢層の高い世帯ほど貯蓄格差が大きくなる。また、夫婦 2 人のみの世帯の方が 2 人以上世帯より貯蓄格差が大きい。
- 図表 5 老後の生活費への不安が強いのは、40代である。また、1986年の調査時より、1998年の調査時の方が、どの世代も不安が強い。

問 2. 採点の観点とは以下。

- ①図表 5 から読み取れる事実を記述している。
- ②図表 5 を結果とし、その原因として図表 1～4 から読み取れる事実を位置づけている。
- ③図表 5 から読み取れる事実とその原因をつなぐ考察が的確に述べられている。
- ④文章として成り立っている。

例えば、問 2 では、次のような回答が標準的であるといえる。

②少子高齢化が進み、自分たちに年金が需給されるのかという不安と同時に、40代は子が10代～20代前半である家庭が多く、教育費が最も高くなるので、②なかなか貯蓄ができない。さらに子は将来、②自分たちとは別の家庭を持ち、別居する傾向が現代にはある。よって、①40代に老後の生活の不安が最も高くなる。

図表 5 の「40代に老後の生活の不安が高くなる」の原因を、図表 1、図表 4、図表 3 から読み取れた事実に基づき論述している。また、これらがまとまっていることから、③、④の観点でも評価することができる論述といえる。



## イ テスト問題Ⅱ

この問題の評価規準・基準は以下のように設定した。

問1. 客観テストのため、適切なものが選べていれば可。

問2. (1) 図表1～4が選択できていれば可。

(2) 採点の観点は以下。

①図表5から読み取れる事実を記述している。

②図表5を結果とし、その原因として図表1～4から読み取れる事実を位置付けている。

③図表5から読み取れる事実とその原因をつなぐ考察が的確に述べられている。

④文章として成り立っている。

この問題の問1は選択問題<sup>4)</sup>であるため、省略する。また、想定する標準回答は、評価問題Ⅰと同様のため省略する。テスト問題Ⅱについては、概ね、図表1～4を選択しているものが多かったが、想定していなかった図表を選択したもの(図表7, 8)も見られた。その場合は、次のような記述となっていた<sup>5)</sup>。

②現代の日本では、少子高齢化が進み、高齢者を支える基盤となるべき若い人の割合が減少してきている。その背景としては、女性の社会進出が勧められ、いわゆる晩婚化が起り、一人あたりの子どもの産む人数・合計特殊出生率が低下しているということが挙げられる。育児休暇の制度も整えられてきてはいるが、その利用率というのは未だ低い。会社側が育児休暇に対してあまり良いイメージを持っていないのではないかと考えられる。こうしたこともあってか、今勤めている職場で働き続けたいから、その障害となる存在の子どもというものは不要であるという考えが多くなっているのではないかと考える。また、そうした女性の社会進出が進むところは家庭と仕事を両立させるという女性が増えるということで、出産・育児も減ってしまう。こうしたことから若者の割合が減少してしまい、高齢者の収入の上での大きな存在である年金の給付も年金を支払うべき若者がいないので、減額されていってしまうこととなる。年金額が少なくても自分の子どもたちと生活を共にしていれば、大した不安というものがないかもしれないが、②子どもがいない、もしくは別居しているという高齢者(夫婦)のみの世帯が多く、そうした①生活のスタイルというのも図表5のような結果が示された要因なのではないかと考える。

この回答では、図表1から読み取れる少子高齢化と図表3から読み取れる高齢者のみの世帯の増加の背景に、図表7の「家庭と職業の両立に対する意識は年々高くなっている」ことがあり、それが、図表5の結果につながっているという論述となっている。このように、図表1～4以外が選択されていても、それらの事実を補足するかたちで図表6～9を用いた回答も「情報を選択する」、「正解を導く」ものとして評価することができる。

### ウ テスト問題Ⅲ

この問題の評価規準・基準は以下のように設定した。

問1. (略)

問2. 採点の観点としては以下。

- ①「今後の日本社会」の具体が記述されている。
- ②①の根拠として、図表1～5から読み取れる事実が位置付けられている。
- ③①と図表1～5から読み取れる事実をつなぐ考察が的確に述べられている。
- ④文章として成り立っている。

問1の解答例はテスト問題Iと同じため、省略する。問2では、以下に示すように、図表1～5から読み取れる事実を列挙し、最後に「今後の日本社会」の具体を示しているものが多かった。

②日本は少子高齢化を向かえると共に②家族形態は高齢者夫婦・単独世帯、高齢者を含む核家族が過半数を占めるようになった。②老後の生活に対し、不安を感じる人が増え、30～50代の過半数は不安を感じている。②高齢者夫婦世帯で年収が300～400万世帯から貯蓄額が増えており、貯蓄格差が大きくなっている。①高齢者の経済格差は大きくなると考えられる。

これは、発問の中に「すべて用いて」という文言があったためと言える。しかし、この問題は、「納得解を導く」思考を求めている。納得解とは、生徒自身の考えを論じるということである。どのような考えが出てきたか、観点①に着目して整理したものが以下である。

若者が減少しているため、若者1人が抱える高齢者数が高いという現状を打開するため、その負担を軽くするような支援が必要である。また、核家族も増えていて、夫婦2人のみと2人以上世帯の格差もあるので家族がいる世帯の支援ができる社会を目指すべきである。

日本は年々高齢者人口が増加しており、高齢者夫婦世帯・単独世帯も増加している。また、老後の生活費への不安は高まっている。なので、高齢者への福祉サービスなどの充実をはかるべきである。年収と貯蓄額の関係については年収に応じて税率を変えて、年収の低い世帯への再分配が必要である。年齢層別の貯蓄格差については、子どもの教育費を国が補償するなどして40代の格差を埋めていく必要がある。

少子高齢化が進んでいることにより、生産年齢人口も減少した。また、核家族化が進み、高齢者のみの世帯が増加している。経済格差も大きく老後の不安を感じる人も多い。老後の生活を支えるのはそれまでの貯蓄と社会保障によるところが大きい。社会が高齢者を支えるようになってきているため、社会保障を充実させることが大切だと考える。そのためには少子化を改善し、生産年齢人口を増やしたり、国の政策や企業によって所得を増やしたりすることが必要である。このようにして、老後の経済的不安を解消し、ゆとりある生活ができる社会に向かうべきであると考える。

下線部にあるように、目指すべき社会（「・・・支援ができる社会を目指すべきである」「・・・ゆとりある生活ができる社会に向かうべきであると考える」）を示しているものと、具体的な政策を述べているものが見られる。現在、日本が直面している少子高齢化の現状は、日本を含め他国においても解決策の見えない問題である。そのため、図表1～5を「全て用いて」と限定しても、多様な対策を許容し、生徒が「納得解を導く」余地を残した問題となったと言える。

## エ テスト問題Ⅳ

この問題の評価規準・基準は以下のように設定した。

問1. (略)
問2. (1) 自らの主張の根拠となる適切な図表が選択できていれば可。 (2) 採点の観点以下。
①「今後の日本社会」の具体が記述されている。
②①の根拠として、選択された図表から読み取れる事実が位置付けられている。
③より多くの図表を用いて論じられている(注)
④①と選択された図表から読み取れる事実をつなぐ考察が的確に述べられている。
⑤文章として成り立っている。
(注)標準回答としては、図表1～5の選択を想定している。そのため、5つ選択してあれば、一定の学力に達していると判断する。

問1の解答例はテスト問題Ⅱと同じため、省略する。問2については、テスト問題Ⅲと同様、図表から読み取れる事実を列挙し、最後に「今後の日本社会」の具体を示しているものが多かった。では、観点①、②、③に着目し、図表1～9のどれを選択し、「今後の日本社会」についてどのような構想を示したものかを見ていこう。

回答	選択した図表
図表5では、どの世代も98年には約半数の人が将来の老後に対する不安を考えている人がいる。なので、子どもを持つことを特に重要だと考えていないのではないかと考えた。将来の保証がきちんとなされているのであれば、少子高齢化も少し止められるのではないかと考えた。	5
年々高齢者が増加しており、高齢社会になりつつある。さらに子どもの人数も年々減少しており、高齢社会が進んでいる。高齢社会が進んでいるため、子どもが減少しているため、この先不安な中間層の人が貯蓄をあまりしない人が増えている。以上のことから若い人に対して、子どもを育てやすい環境をつくるように制度を変えていく必要がある。また、高齢者に対する医療制度も見直す必要がある。	1, 2, 3, 4
年々、男性の家事・育児への参加の意識が高くなっていたり、家庭と職業の両立に対する意識は年々高くなってきているが、その一方で「子どもをもたなくてもいい」という女性の割合は高く、実際に少子高齢化が進んでいるので、 <u>もっと女性が子どもを産みやすいと思える社会に向かうべきであると思う</u>	1, 6, 7, 8

下線部にあるように、「将来の保証がきちんとなされているのであれば、少子高齢化も少し止められるのではないかと考えた」、「若い人に対して、子どもを育てやすい環境をつ

くるように制度を変えていく必要がある。また、高齢者に対する医療制度も見直す必要がある」ように、目指すべき社会や具体的な政策を述べているものがある。また、「もっと女性が子どもを産みやすいと思える社会に向かうべきであると思う」のように、目指すべき社会像を示しているものも見られる。

テスト問題Ⅲと同様、日本が直面している少子高齢化の現状は、日本を含め他国においても解決策の見えない問題である。そのため、図表1～5を「全て用いて」と限定しても、多様な対策を許容し、生徒が「納得解を導く」余地を残した問題となった。

### (3) テスト問題の成果と課題

以上、生徒の思考過程を理論的に導き出し、それに対応したテスト問題Ⅰ～Ⅳを開発し、大学生の回答結果から、評価法について考察した。これにより、理論と実践をつなげる考察ができたといえる。しかし、これらの開発・実践を通して以下のような点が明らかとなった。一つは、全体の傾向として、問1が選択肢であるほうが、問2の文章がしっかりしていた点である。図表からの読み取りは、状況によっては多様な事実が引き出せる。事実が確定しないため、「正解を導く」、「納得解を導く」段階へとつなげにくかったのではないだろうか。「思考・判断・表現」だけを見るのであれば、事実をある程度確定させるといった配慮が必要なのではないか。二つは、図表1～9の選択である。ただ、取り上げた社会問題に沿った図表ではなく、表3のような構造を意識しなければ、生徒が「納得解を導く」を導くことは難しい。社会問題の構造をどう捉え、図表に代表される事実の選択の論理を明らかにする必要があるだろう。

## 5. 今後の課題

先行研究における学力の定義を参考に同じ事例を用いた4つのテスト問題を提示し、また、実際にテスト問題の回答を評価し、それらの問題に対する回答の傾向と評価法を示すことができた。同じ事例で、想定する思考過程が異なる問題を作成したことにより、学力に対応した評価の違いを明確にできたのではないだろうか。

社会問題に対して論述させる際は、生徒の思考過程とテスト問題の構造の対応を意識する必要があるといえよう。

### <註および参考文献>

- ・公益財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ50『児童・生徒の習得活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』平成22年9月。

### <テスト問題作成に関する参考文献・資料>

- ・佐藤博樹・武石恵美子『男性の育児休暇』中公新書、2004年。
- ・NHK放送文化研究所編『現代日本人の意識構造〔第六版〕』NHKBooks、2004年。
- ・白波瀬佐和子『少子高齢社会のみえない格差—ジェンダー・世代・階層のゆくえ—』東京大学出版会、2005年。
- ・三浦展『下流社会—新たな階層集団の出現—』光文社新書221、2005年。
- ・日本経済新聞社編『少子化に挑む—「脱・人口減少」への最後の選択—』日本経済新聞

社，2005年。

- ・日本経済新聞社編『未知なる家族—The Family and Beyond—』日本経済新聞社，2005年。
- ・湯沢雍彦『データで読む家族問題』日本放送出版協会，2005年。
- ・盛山和夫『年金問題の正しい考え方』中公新書，2007年。
- ・湯沢雍彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』日本放送出版協会，2008年。

- 1) 公益財団法人日本教材文化研究財団調査研究シリーズ50『児童・生徒の習得活用型学力を育成する社会科学習指導方法と評価に関する研究』平成22年9月。
- 2) (平成10年版「国民生活白書」及びNHK放送文化研究所編『現代日本人の意識構造』NHKBooks，2006年) からそれぞれ抜き出した。図表の具体については本書p. 158～161に示した。
- 3) 鳴門教育大学，愛媛大学の学生に依頼し，実施した。
- 4) 選択肢は以下のとおりである。なお，\*は正答である。

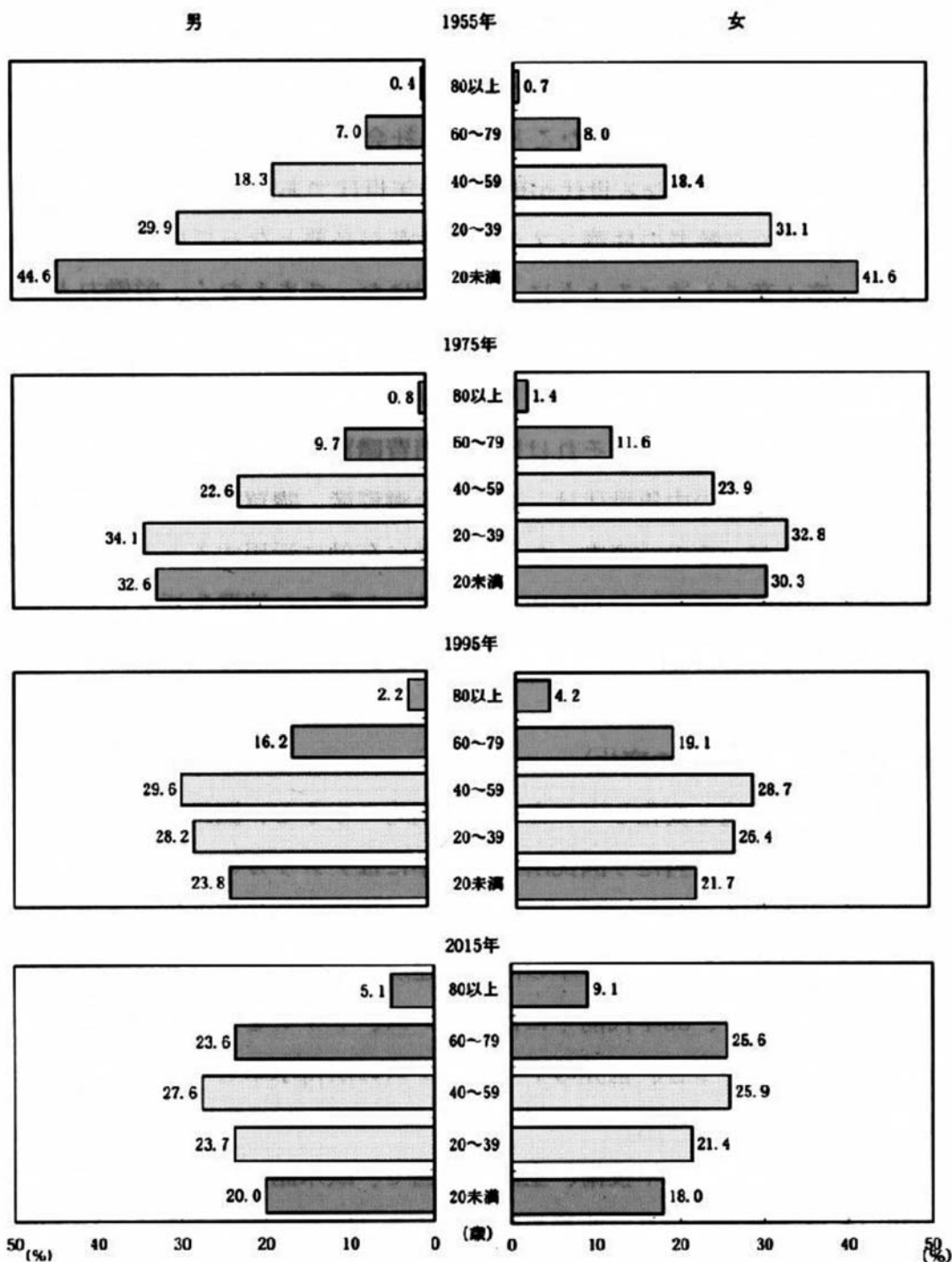
図表 1	ア. 少子高齢化が進んでいる。* イ. 2015年には高齢者が大多数を占める社会になる。 ウ. 女性が子どもを産まない社会になってきている。
図表 2	ア. 高齢者夫婦世帯の5割は3000万円以上の貯蓄がある。 イ. 500～600万円の年収で3000万円以上の貯蓄を持つ高齢者夫婦世帯の割合が最も高い。 ウ. 高齢者夫婦世帯では，300万以上の年収と750万円以上の貯蓄のある世帯が多い。*
図表 3	ア. 高齢者のみの世帯が増加している。* イ. 自分の子どもの同居が減少している。 ウ. 老老介護が増えている。
図表 4	ア. 高齢者の世帯における貯蓄格差は大きい。* イ. 若い世代ほど貯蓄をしない傾向がある。 ウ. 夫婦2人のみの世帯の方が貯蓄が高い。
図表 5	ア. 40代は他の世代に比べ，老後の生活費への不安が強い。* イ. 老後の生活費への不安は，年々高まっている。 ウ. 20代は老後に対する意識が低い。
図表 6	ア. 夫の家事・育児への参加の意識は年々高まっている。* イ. 家庭科の男女必修化により夫の家事・育児への意識が高くなった。 ウ. 家事・育児は女性より男性が向いている。
図表 7	ア. 家庭と職業の両立に対する意識は年々高まっている。* イ. 家事・育児は女性より男性の方が向いている。 ウ. 家庭と職業が両立しやすい社会に変化している。
図表 8	ア. 子どもをもつことは女性にとって不利な社会である。 イ. 「子どもをもたなくてもよい」と考える20～39歳までの女性の割合は高い。* ウ. 男性は「子どもをもつこと」に対する意識が低い。
図表 9	ア. 生活全体についての満足感に対する意識は年々増加している。 イ. 日本人の生活に対する満足感が高い割合を維持している。* ウ. 日本は，不満を感じさせない社会である。

- 5) 文章中の誤字脱字については井上が訂正した。

(井上 奈穂)

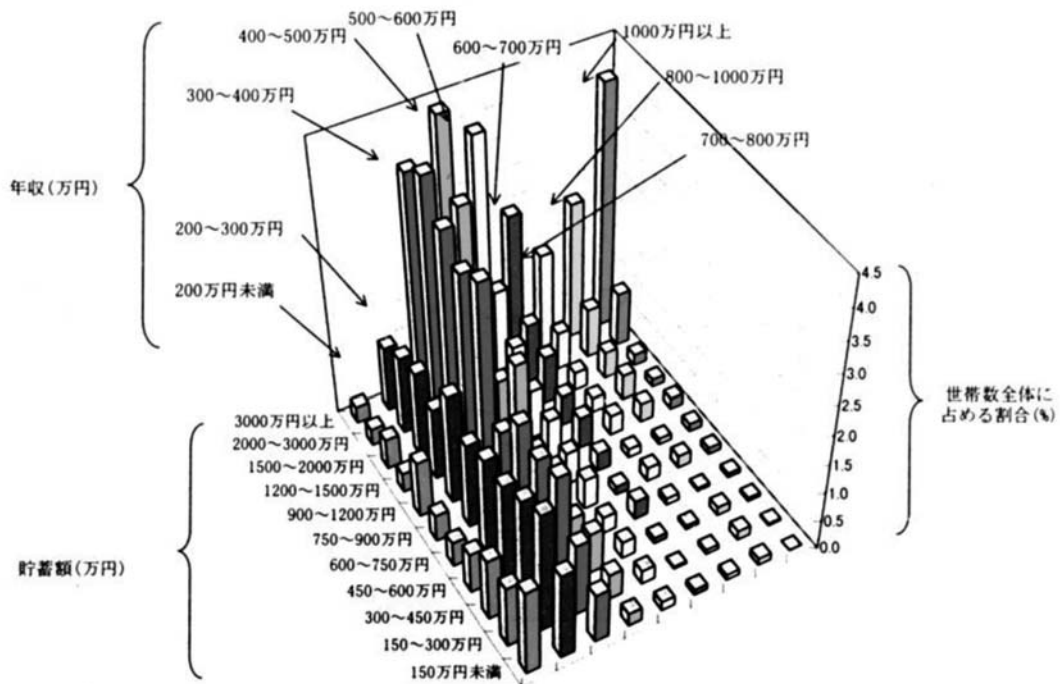
○評価問題試案 1～4 の図表一覧

図表 1. 変化する人口の年齢構成



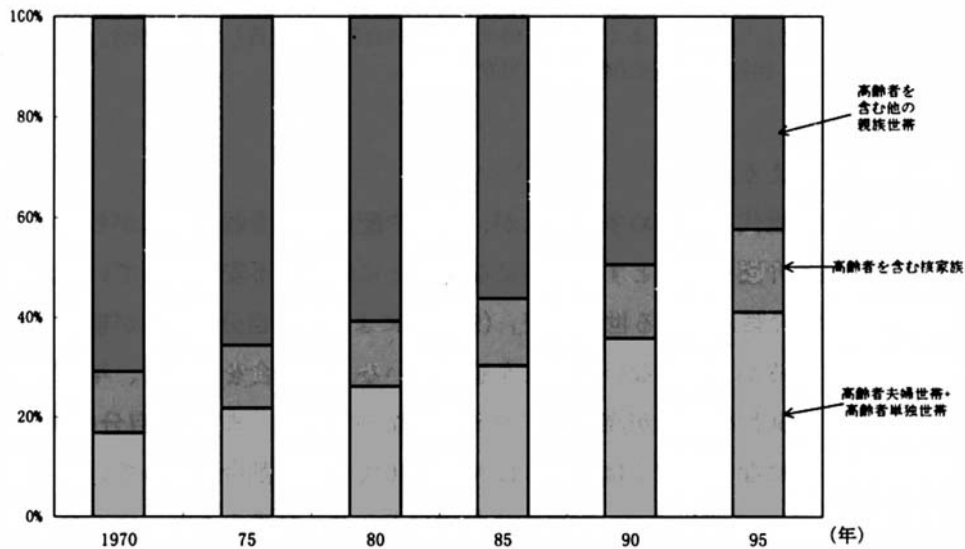
- (備考) 1. 総務庁「国勢調査」(1955年、75年、95年)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(97年1月推計)により作成。  
 2. 男女それぞれの人口に占める構成比である。

図表 2. 高齢者夫婦世帯の収入・貯蓄の分布



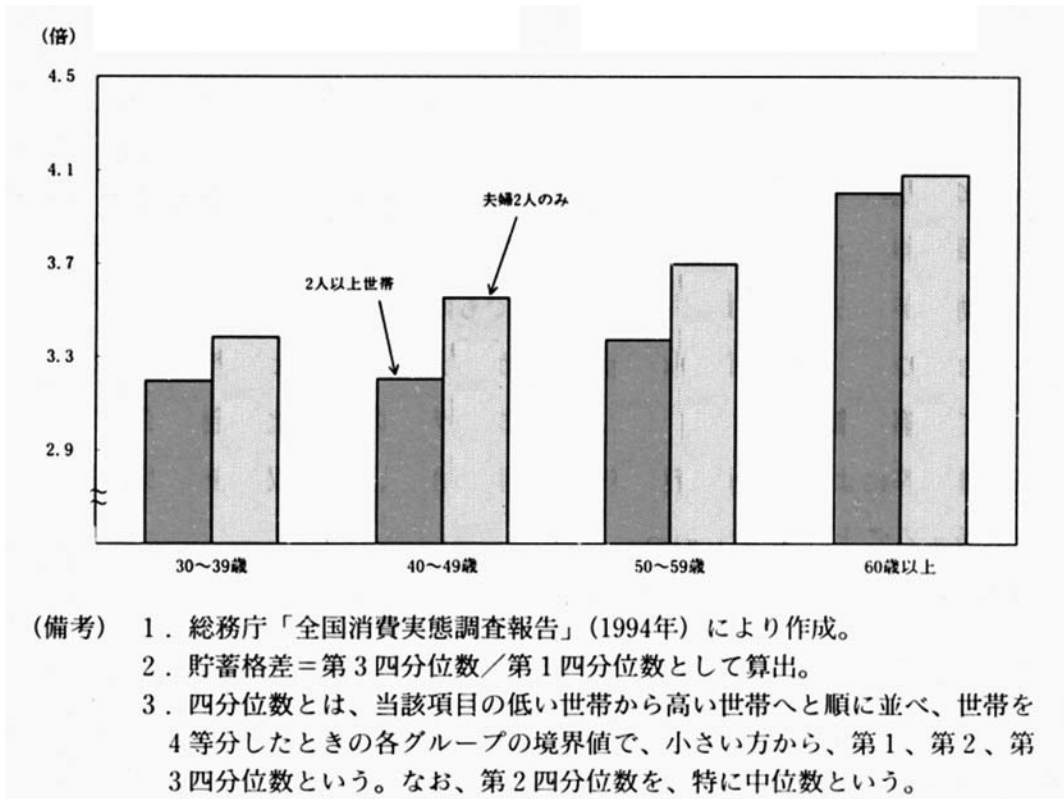
(備考) 総務庁「全国消費実態調査報告」(1994年)により作成。

図表 3. 家族形態の変化

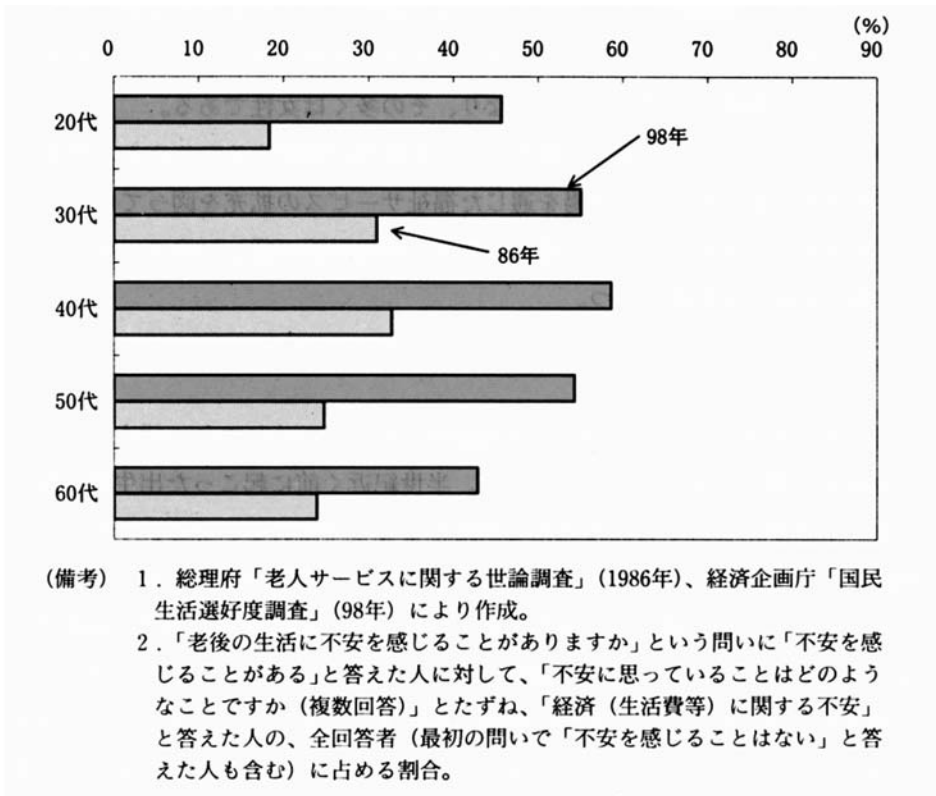


- (備考)
1. 総務庁「国勢調査」により作成。
  2. 「高齢者夫婦世帯」は、「高齢者(65歳以上)を含む核家族」世帯のうち、「夫婦のみ」世帯を集計したもの。
  3. 「高齢者を含む核家族」は「高齢者夫婦のみ」を除いた数値である。
  4. 高齢者単身世帯とは、65歳以上の者1人のみの一般世帯をいう。

図表 4. 年齢層別の貯蓄格差

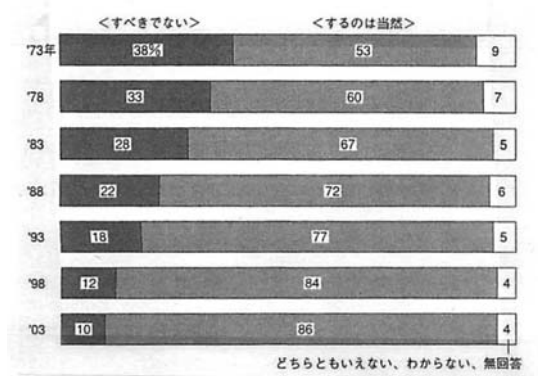


図表 5. 老後の生活費への不安

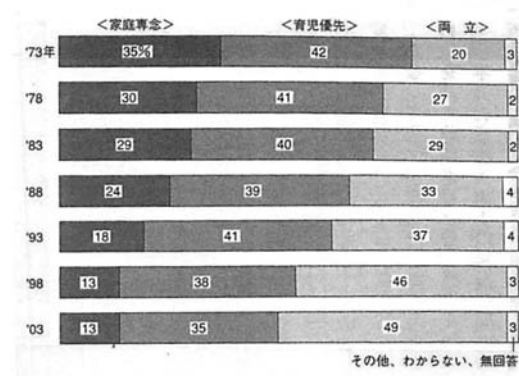




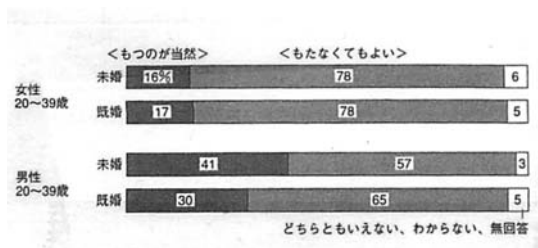
図表6. 夫の家事・育児



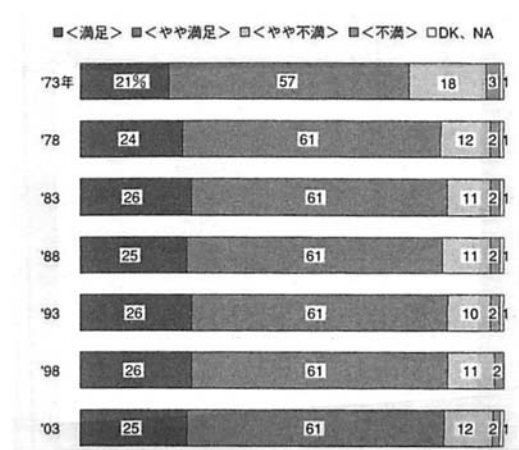
図表7. 家庭と職業



図表8. 子どもをもつこと（未婚・既婚別）



図表9. 生活全体について



【出典】

- ・ 図表1～5は、平成10年版『国民生活白書』（<http://www.caa.go.jp/seikatsu/whitepaper/index.html>）より抜粋。（2012年5月11日確認）
- ・ 図表6～9は、NHK放送文化研究所編『現代日本人の意識構造（第六版）』NHKBooks, 2004年より抜粋。

### 第3章 評価問題の解法のための直接的指導

#### 1. 評価問題解法のための思考スキル

##### — 高校生のための “Strategies for Test Preparation” を手がかりにして —

社会科の学習指導において、目標や指導に応じた評価問題の作成について関心が高まっている。他方、学習者は作成された問題をどのように解けばよいのかについては、評価の通知の際に解説がなされる程度で、解法の仕方について教示されることはあまりない。

本章では、米国における高等学校で、大学入学のための学力証明に使用される標準テスト

(SAT (Scholastic Assessment Test) 非営利法人である「College Board」が主催するテストやACT (The American College Testing Program)) の準備のために利用されている教材を分析し、生徒に評価問題解法のためにどのような具体的な技能を身に付けさせようとするのかについて紹介したい。取り上げる教材は、ホートン・ミフリン社から出されているStrategies for Test Preparation High School, McDougal Littell, A Houghton Mifflin Companyである。

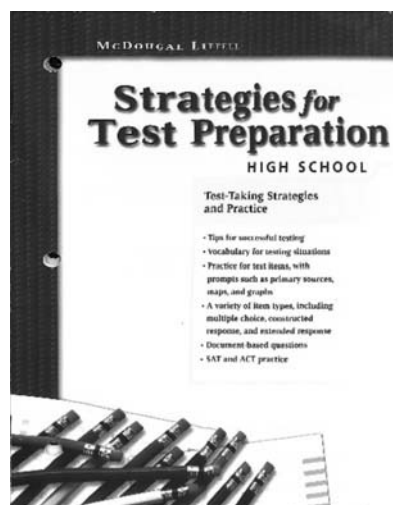


図1 表紙

内容はパート1～3で構成されており、

パート1は、日々の学習や定期的、入試等のテストの受け方と一般的な戦略、語彙確認

パート2は、各テストの受け方の方略と実際

パート3は、SAT1やACTのうち、とくに歴史や社会科学のテストを受ける際に利用されるものである。各テストの概要と、アメリカ史や世界史のサンプルテストが示される。

このうち、さまざまなテスト問題について示しているパート2を取り上げ、(1)多肢選択問題、(2)一次資料問題、(3)二次資料問題、(4)政治的な風刺画を用いた問題、(5)図表問題、(6)折れ線と棒グラフ問題、(7)年表問題、(8)構成的な問題 (Constructional Response)、(9)発展問題 (Extended Response)、(10)文書資料問題を以下、見ていくことにする。

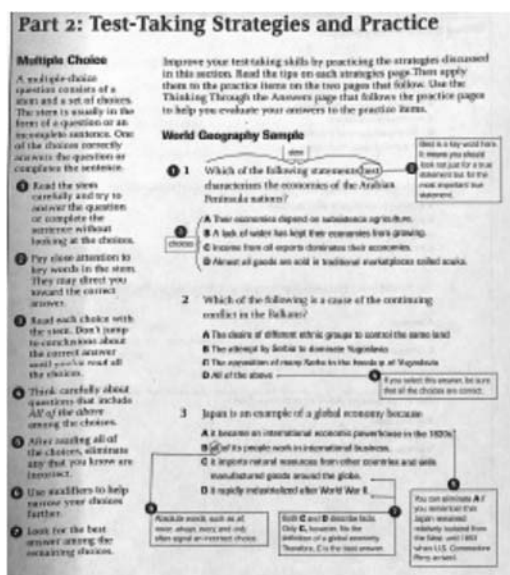


図2 パート2 本文

左側の白抜き番号が解法手順を示し、右側に問題文と解法のためのポイント番号が示される。紙幅のレイアウト上、問題文と解法手順を上下に分けて示す

例) 原文の本文中の示され方 リード文と設問で構成される。

<p>World Geography Sample</p> <p>1 Which of the following statements <u>best</u></p> <p>—②—</p> <p>characterizes the economies of the Arabian Peninsula nations ?</p> <p>A Their economies depend on subsistence agriculture.</p> <p>B A lack of water has kept their economies from growing.</p>	<p>Best is a key word here. It means you should look not just for a true statement but for the most important true statement.</p> <p>↓</p> <p>本文中に解法ポイントが示される</p>
---	---

### (1) 多肢選択問題

<p>問題文 世界地理例</p> <p>1 アラビアの石油産出国の経済を最も特徴づける文は次のどれか。</p> <p>A 経済は自給自足の農業に頼っている</p> <p>B 水不足が経済の成長を妨げている</p> <p>C 石油輸出の収入が経済を支配している</p> <p>D 商品のほとんどがsouks(スーク)という伝統的な市場で売られている</p> <p>2 バルカン半島の持続的な紛争の原因は次のどれか。</p> <p>A 同じ土地を支配したい異なる民族集団の要求</p> <p>B ユーゴスラビアを支配したいセルビアの試み</p> <p>C ユーゴスラビアを崩壊したい多くのセルビア人の抗争</p> <p>D 上記すべて</p> <p>3 日本はグローバル経済の事例である</p> <p>なぜなら、(選択肢から完成させる)</p>
--

解法手順は次のように示される。

<p>多肢選択問題は、問題文 (stemを問題文とした) と選択肢からなる。問題文はたいてい質問形式か不完全文の形式である。正しい選択肢を一つ選んで、質問に回答するか、文を完成させる。</p> <p>①問題文を注意深く読み、選択肢を見ないで、質問に答えるか文を完成させることを試してみる。</p> <p>②問題文のキーワードに細かく注意を払う。それらは正しい答えに導いてくれるかもしれない。</p> <p>③問題文の各選択肢を読む。すべての選択肢を読み終えるまで、正しい答えを結論づけてはいけない。</p> <p>④選択肢の中に「上記すべて」という言葉を含む質問は注意深く考える。</p> <p>⑤すべての選択肢を読んだ後、正しくないと分かっているものは除く。</p> <p>⑥より選択肢を絞るために修飾語、全部 (all) や、決してない (never) などを利用する。</p> <p>⑦残った選択肢から最も良い答えを探す。</p>
--

## (2) 一次資料

### 道徳的な統治者

- Book II, 3 君子<sup>いわ</sup>曰く。規則による人々の統治は、(chastisements) 懲罰によって秩序を保つことである。人々はあなたから逃げ、すべての自尊心を失わせる。道徳の力による統治は儀式によって秩序を保ち、自尊心を保たせ、あなたに調和をもたらす…
- Book XI, 23 君子<sup>いわ</sup>曰く。私が偉大な大臣と呼ぶものは、君主が道 (the Way) を踏み間違えることなく統治する間、君主にひたすらお仕えする者である。そしてこれが不可能になるとすぐ辞職する…
- Book XII, 6 君子<sup>いわ</sup>曰く。統治者自身が正しく立派であれば、命令をしなくてもすべてうまくいくであろう。しかし、もし統治者自身がそうでないならば、たとえ命令をしても従わないであろう。

- 1 これらの段落に共有される主な考えをもっとも表すものはどれか。
  - A 支配と規則によって生きるのは難しい
  - B 統治者は人々を支配する際、道徳的にふるまうべきである
  - C 統治者の長所は、彼が認める懲罰によって判断される
  - D 統治者はたとえ彼が何を言っても彼に従う人々を尊重すべきである
- 2 孔子からの忠告が最もふさわしいものは
  - A 労働者と家族
  - B 商人と町職人
  - C 支配者と忠告者
  - D 兵士と聖職者

解法手順は次のように示される。

一次資料は、観察者や参加者として歴史的な出来事の時にいた人々によって書かれたり、つくられたりしたものである。一次資料は日誌や日記、手紙、演説、新聞記事、自叙伝、遺言、証書、財政的な記録が含まれる。

- ①資料や著者について学習するため、情報源を見る。資料の情報が信頼できるか考察する。
- ②何について書かれたものなのかを理解するため資料をざっと読む。(この原典は、統治者と道徳的に行いというテーマに関連した演説3節である。)
- ③省略記号や囲みに注目する。例えば原典から離れた単語や文を示している。
- ④意欲的な読みをする。読みながら内容を自問自答する。
- ⑤難しく、不慣れな単語を理解するために文脈を手がかりにする。(文脈から、chastisementsの意味がpunishmentsとわかる。)
- ⑥資料を再度読む前に、質問をざっと見る。これは読みを焦点化し、答えを見つけやすくする。

### (3) 二次資料

#### 組織化されたロシアの犯罪

これはロシアの犯罪性の鍵となる特徴を際立たせている。：その勢力の広がり (pervasiveness) 「組織化された犯罪はたいてい小さな経済問題に関係している。しかし、ロシアにおいてはそれが主流である。」ロンドンの警備会社Toby Lattaに書き留められている。

政府の最高水準に達しているロシアの犯罪性は、実際しばしば識別不能である。そして、最も貧相な活動に影響を及ぼしている。コーヒーの瓶を買う？ ありそうでないが、あなたは組織化された犯罪に資金をあたえている。Nestleの愚痴によれば、ロシアで売られているコーヒーのほとんどが輸入税を完全に逃れて売られている。こじきに金をあたえる？ 彼は通りの自分の居場所のために地方のマフィアに払うだろう。工場を建設する？ それを進めるためにあなたは多くの官僚に金を払い、操業し続けるためにまた別の金を払うことになるだろう。ロシアにおいて、組織化された犯罪や腐敗はどこにでもあるのだ。

1 この文章の中心の考えは何か

- A ロシア経済は不景気である
- B ロシア政府は影響力がない
- C 組織化された犯罪がロシア経済のすべての領域を支配する
- D ロシアは崩壊の瀬戸際である

2 この文章から導かれる結論は次のどれか。

- A ロシアの中で事業を興そうとする人の誰もが最初にマフィアに金を払わなければならない
- B ロシア政府は、輸入税が払われないのでお金を損失する
- C ロシアマフィアが政府の中で動いている
- D 上記のすべて

解法手順は次のように示される。

二次資料は、場所、人々、文化や出来事の記述である。大抵、二次資料は直接、出来事に関係していなかったり、その場所に住んでいなかったりする人々が議論したことによってつくられたものである。二次資料として記述されたものの大部分の共通の型は、テキストブックや参考書、雑誌や新聞記事、自叙伝である。

- ① 文章の内容のあらましをつかむためにタイトルを読む。
- ② 資料をより理解するために原典を見る。(organizedの綴りが、その雑誌がおそらく大ブリテンからのものであることを示している。)
- ③ 主題文を探す。主要な考えが何かを自分自身に問うてみる。
- ④ 読むにつれて難しい言葉や不慣れな単語の意味を推測するために文脈を手がかりにする。Pervasivenessという語がbeing everywhere とほとんど同じ意味であることを理解するために、文章の中の犯罪の記述を利用する。
- ⑤ 文章についての質問を考えたり、それに答えたりすることによって意欲的に読む。
- ⑥ 文章を再度読む前に、見つけなければならない情報を確認するため質問をざっと読む。

#### (4) 政治的な風刺画

1 風刺画の中の機械のような鉤十字章が表しているものは

- A ナチドイツ軍
- B ソビエト連邦
- C ナポレオン帝国
- D ポーランド軍

巨大な卍（鉤十字章）の風刺画  
（イラスト）

2 風刺画家のメッセージを最もまとめている文は次のどれか

- A ドイツはポーランドを警戒しなければならない
- B ポーランドは内戦で危険である
- C ドイツとポーランドは軍の巨人である
- D ポーランドはドイツの次なる犠牲者である

風刺画に吹き出しで①～⑥の指示がつけられる。

NEXT（次は！）タイトル

- ① Polandというラベルは風刺画に書かれた題材の場所を示している。
- ② 1939年に出版されたという日付は、その風刺画が第二次世界大戦の始まりに関係しているかもしれないことを示唆している。
- ③ 風刺画家はswastika（鉤十字章）を使っている。これはドイツを代表するナチ軍の象徴である。
- ④ 鉤十字章はポーランドの土地を簡単に侵略することができる、大きな脅威の機械のように見える。
- ⑤ 風刺画家はポーランドがドイツ戦争の機会の次の犠牲になるだろうことを示唆している。

解法手順は次のように示される。

- ① 政治的風刺画は、政治的問題の観点を表現した絵画と言葉の組み合わせを使ったものである。それらはその時の考えを反映しているので有効な主な情報源である。
- ② 風刺画の主題を確認する。タイトルと見出しは時折主題内容の手がかりを与えてくれる。
- ③ 風刺画に表された出来事、場所、人々を確認するのに役立つようラベルを使う。
- ④ 人々、場所、出来事のさらなる情報のために、いつどこでその風刺画が出版されたのかに注目する。
- ⑤ その風刺画にある重要な象徴（何かを表している考えやイメージ）を確認する。
- ⑥ 風刺画に表れている観点を分析する。風刺画（身体的特徴の誇大表現）の使用はしばしば風刺画家が何を感じているのかを表している。
- ⑦ 風刺画家のメッセージを解釈する。

(5) 図表

世界の地理の例

①1995年、性別による南アジアの成人の識字能力の割合

② →

国	男性	女性	全体
バングラディシュ	49%	26%	38%
ブータン	56%	28%	42%
インド	66%	38%	52%
モルジブ	93%	93%	93%
ネパール	41%	14%	28%
スリランカ	93%	87%	90%
パキスタン	50%	24%	38%

↓

④表のデータに基づいて多くの国々では男性の方が女性より教育を受けていると結論づけるかもしれない。

③それぞれの国の男性と女性の識字能力の割合を対比・比較する。

- この地域の男性と女性の識字能力の割合は全体的にどのような傾向にありますか？
  - 男性と女性の割合は似ている
  - 男性の割合は全体的に女性の割合よりも高い
  - 女性の割合は全体的に男性の割合よりも高い
  - すべての国で男女とも割合は非常に低い
- これらの国の識字能力の割合についてあなたができる判断の一つは……である。
  - 女性の識字能力の割合が高くなると、全体の識字能力が高くなる
  - 識字能力の割合が高くなると、女性の識字能力に対する関心が低くなる
  - 山地国の識字能力の割合は島国の割合より高い
  - 全体の識字能力の割合が低いと、女性の識字能力の割合は高くなる

解法手順は次のように示される。

図表は視覚的に情報を表すものである。地理の教科書は一覧表、流れ作業図、ベン図、画像を含むいくつかの種類 of 図表を使用している。テストの中で通常よく見られる図表のタイプは一覧表であり、それは簡単に見るために縦と横に情報がまとめられている。

- 図表の大まかな主題を確認するためにタイトルを読む。
- 縦と横のラベルを読む。縦軸ラベルと横軸ラベルは、表の主題をより詳細に示してくれる。
- 縦と横の情報を対比・比較する。
- 表の情報から結論を書いてみる。その表はどんな傾向と様式を示しているかを自分で考える。
- 問いを読んでから、もう一度、表を見る。

## (6) 折れ線グラフと棒グラフ

世界史の例

- ① イギリスの製造品の輸出1669-1774
- ② 縦軸：額（1000ポンド）横軸：年代 ■総輸出額  
□大西洋沿岸国への輸出額（北アメリカ，西インド諸島，スペイン語圏アメリカ，西アフリカ）
- ③ 出典：R. デーヴィス「イギリスの国際貿易，1700-1774」 「経済史評論（1962）」  
学術的雑誌の統計は信頼度が高い傾向にある。
- ④ 総輸出額と大西洋沿岸国経済への輸出額の両方が時が経つにつれて増えたことに注目。
- ⑤ 北アメリカの植民地とカリブ海がイギリス製品にとって重要な市場であったことが一つの結論として挙げられる。
- ⑥ 1 総輸出額における大西洋沿岸国の経済への輸出額の割合の変化を正しく表している記述はどれか。  
A 輸出額は少なく始まり，少ないままであった  
B 輸出額は多く始まり，多いままであった  
C 時間の経過とともに増えた  
D 時間の経過とともに減った

- ① 多い負債を抱える国
- ② 縦軸：総負債（10億ドル）横軸：国（ベネズエラ，フィリピン，トルコ，インド，アルゼンチン，ロシア，メキシコ，ブラジル）
- ③ 出典：世界銀行「世界銀行のような主要機関の統計は信頼度が高い傾向にある。」
- ④ これらの国々に共通する経済の特徴について考える。
- ⑤ 2 どの国が一番負債が多いか。  
A ベネズエラ B ブラジル C メキシコ D ロシア

解法手順は次のように示される

グラフは視覚的に統計を示している。折れ線グラフは特に時間の推移を表すのに有効である。棒グラフは数や数のかたまりを比較するのを容易にする。

- ① タイトルを読み，グラフのおおまかな主題を確認する。
- ② グラフに表されている情報の縦軸と横軸のラベルを調べ，グラフが表している情報の種類を読み取る。総計の間隔とデータの間隔を書きとめる。これによりグラフをより効果的に読めるようになる。
- ③ 出典を見て，グラフの情報の信頼性を評価する。
- ④ グラフが年代ごとに情報を表している場合，その動向を探る。
- ⑤ 結論を書き，グラフの情報に基づいた推論をする。
- ⑥ 問いを注意深く読んだ後，グラフを再び見る。



## (7) 年表 (Time Line)

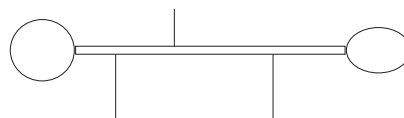
①公民権運動, 1940年 - 1960年

年表は空間を確保するために, しばしば略語を使う。

SCLCは, 南キリスト教指導者会議のことで重要な公民権運動団体である。

1 Jr. マーチン・ルーサー・キングの最初の重大な公民権活動はどれか。

- A 「私には夢がある」演説
- B SelmaからMontgomeryまでの行進
- C Montgomery バスのボイコット
- D SCLCの組織化



2 公民権運動の成功は, アフリカ系

アメリカ人による組織化された抵抗と…による行動の結果である。

- A 州立裁判所
- B 改造州政府
- C 連邦政府と議会
- D 連邦政府のすべての三部門

⑤一般化の一つ例「抵抗と公民権における推進を導いた政府の行動」

解法手順は次のように示される。

時間軸は, 発生した歴史事件を時間順で示すことが目的である。

言い換えれば, 時間軸はいつ, 何の出来事が発生したかを示す視覚的手法である。

- ① タイトルを読み, 時間軸の主題を見つける。
- ② 最初と最後を示す日付を書きとめ, 年代軸で示される歴史的期間を確認する。
- ③ 年代順に出来事を読んで, 出来事と出来事との間隔に注目する。
- ④ 出来事が他の出来事とどのようなつながりがあるかを書きとめる。特に原因 - 結果の因果関係をみる。
- ⑤ 時間軸に示された情報を一般化する。
- ⑥ 以上の質疑応答の方略から得た情報を利用する。

## (8) 構成された問題

世界地理の例

収容所を示した地図

- ① 日系アメリカ人の収容
- ② 構成された問題は資料の広い範囲を扱う。資料とは短い文や挿絵, 図, グラフ, 地図, 年譜, 広告, その他視覚的データを含んだものである。これは第二次世界大戦中の日系アメリカ人の強制収容所の場所を示した地図である。
- ③ 1 一か所以上強制収容所があるのはどの州ですか。  
④アーカンソー, アリゾナ, カリフォルニア
- 2 強制収容所が一番多く置かれているのはどこの地域ですか。  
サウスウエスト
- 3 何の出来事が日系アメリカ人を太平洋岸から追い出すことになったのか。  
日本の真珠湾攻撃

解法手順は次のように示される。

### 構成された問題

構成された問題は、様々な種類の資料に焦点を当てる。各資料にはひとつもしくはそれ以上の短い質疑応答が付随している。その質問の多くは答えを資料の中から直接見つけることができる。しかし、いくつかの質問は教科の知識や資料研究に注ぐ時間が必要となる。

- ① 質問の中にある主題を見つけるために資料の表題を読む。
- ② 注意深く資料を検討し気付いたことを書き取る。
- ③ 質問を読み、答えを見つけるためにもう一度資料を見る。
- ④ 注意深く答えを書く。指示がない限り、答えはまとまった文である必要はない。

## (9) 発展問題

### ①先進国と発展途上国における死因 (1993)

- ②表の情報をを用いて先進国と発展途上国の死因を示す棒グラフを作成しなさい。
- ③先進国や発展途上国の主な死因について表やグラフが何を表しているかを要約して、短い文章で書きなさい。その際データの説明をできるだけ入れなさい。

死因	先進国 (死亡率)	発展途上国 (死亡率)
感染症・寄生虫	1.2	41.5
呼吸器不全	7.8	5.0
癌	21.6	8.9
循環器不全	46.7	10.7
出産時	0	1.3
死産	0.7	7.9
事故	7.5	7.9
その他	14.5	16.8

- ④グラフや表にはタイトルやすべての項目を入れることを覚えておくこと。

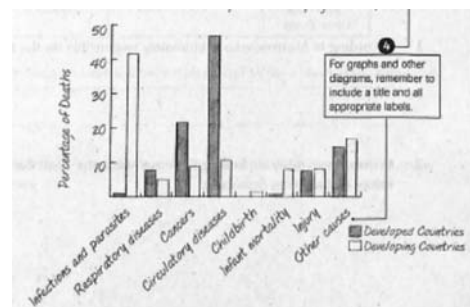
### ⑤メモ書き

#### I 主な死因

- A 伝染病や疫病 - 途上国
- B 循環系疾患 - 先進国

#### II 説明

- A 衛生設備と健康管理が悪い
- B 贅沢な食事、運動不足、喫煙



⑤ Outline

I Major causes of death	II Explanations
A Infections and parasites-poor	A Poor sanitation and health care
B Circulatory diseases-developed	B Rich diet, no exercise, smoking

解法手順は次のように示される

構成された問題と同じように、広がりのある問題は常に資料の一つの型（タイプ）に焦点が当てられる。しかしそれらはより複雑で、典型的な短い答えである。構成された問題より解答に時間がかかる。広がりのある問題の中には別の形で資料から情報を出すように求めるものもある。時には資料に含まれる情報に自分の地理や歴史の知識をあてはめることも要求される。

- ① 主題をつかむために資料のタイトルを読みなさい。
- ② 資料を分析しなさい。
- ③ それぞれの広がりのある問題を注意深く読みなさい。
- ④ もしその問題が図やグラフ・表を描くよう求めているなら、いらない紙にまず簡単なスケッチをしなさい。それから答案に描きなさい。
- ⑤ もしその問題が小論文を求めているなら、あなたの考えの概略をメモに書き留めなさい。そしてこのメモを使って答えを書きなさい。

## (10) 文章問題

導入

### ①歴史的背景

何百年もの間、モンゴル遊牧民は種族に分かれて住んでいた。時折、種族の間で戦っていた。1200年以前、新しいリーダーのジンギスカンがこれらの種族をまとめ、モンゴルを勢力国へと変えていった。

- ②課題 どのようにしてモンゴルが中央・東アジアの征服を成し遂げたか、また彼らの支配がヨーロッパ人にどんな影響を与えたかについて議論しなさい。

### PART 1 短答

それぞれの資料を注意深く見て、下の問いに答えなさい。

資料1 モンゴルの兵士の絵画（省略）

解法手順は次のように示される。

文書資料問題

資料をもとにした問題は、資料の多種多様な解釈や分析を必要とする。これらの資料にはしばしば短答問題がそえられている。主題を明確にして文章を書くために、資料からの情報やこれらの答えを使うとよい。

- ① その問題の意図をつかむために「歴史的背景」の部分を読みなさい。
- ② 課題の部分を読み、出来事を書き留めなさい。これは問いが何を求めているのかを正確に理解するのに役立つ。
- ③ それぞれの文書資料を分析しなさい。資料と問いのつながりを考えなさい。そして自分の考えを書きなさい。
- ④ 資料を読んで特別な問いに答えなさい。これらの問いが小論文の題材にどのように結びついているのかを考えなさい。

## 2. 文書記述の評価基準（ルーブリック）

全般	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 興味を起こさせる導入部分で題材を明確に述べている</li> <li>2 書き手の目的やゴールに触れている</li> <li>3 具体的な詳細（細部の描写）で考えを支えている</li> <li>4 聞き手（読み手）のために適切な言葉を使っている</li> </ul>
	形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 明確な導入，本文，結論を含んでいる</li> <li>6 論理的に考えを構成している</li> <li>7 適切な場面展開を用いて考えと考えとの関連を示している</li> <li>8 重要な段落をはっきりと示している</li> <li>9 様々な文の構造を含んでいる</li> </ul>
	文法 用法 技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 用法や文法でほんの2, 3小さなミスがある</li> <li>11 綴り，大文字の使用，句読点でほんの2, 3小さなミスがある</li> </ul>
説得力	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 導入部分で書き手の見解と論点をはっきりと示している</li> <li>2 事実と根拠で書き手の意見を支えている</li> <li>3 反対観点を述べている</li> <li>4 主張をまとめる強い説得力のある結論がある</li> </ul>
	形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 最も説得力のあるものからないものへ，または最も説得力のないものからあるものへと論理的に論点を構成している</li> <li>6 適切な場面展開を用いて考えと考えとの関連を示している</li> <li>7 重要な段落をはっきりと示している</li> <li>8 様々な文の構造を含んでいる</li> </ul>
	文法 用法 技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 用法（語法）や文法でほんの2, 3小さなミスがある</li> <li>10 綴り，大文字の使用，句読点でほんの2, 3小さなミスがある</li> </ul>
情報提供・レポート	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 興味を起こさせる導入部分で題材を明確に述べている</li> <li>2 書き手の目的やゴールに触れている</li> <li>3 具体的な詳細（細部の描写）で考えを支えている</li> <li>4 聞き手（読み手）のために適切な言葉を使っている</li> </ul>
	形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 明確な導入，本文，結論を含んでいる</li> <li>6 論理的に考えを構成している</li> <li>7 適切な場面展開を用いて考えと考えとの関連を示している</li> <li>8 重要な段落をはっきりと示している</li> <li>9 様々な文の構造を含んでいる</li> </ul>
	文法 用法 技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 用法や文法でほんの2, 3小さなミスがある</li> <li>11 綴り，大文字の使用，句読点でほんの2, 3小さなミスがある</li> </ul>

話し方	内容	1 興味深い導入で話に読者を引きつけている 2 はっきりとした背景を定めている 3 叙述や会話（問答）を使って現実的な特徴を与え，発展させている 4 特別な状況や出来事に焦点を当て，分析している 5 出来事を話すよりむしろ示している
	形式	6 回想場面で出来事を年代順に提示している 7 適切な場面展開を用いて考えと考えとの関連を示している 8 様々な文の構造を含んでいる
	文法 用法 技法	9 適切な句読点，段落，会話文 10 用法や文法でほんの2, 3小さなミスがある 11 綴り，大文字の使用，句読点でほんの2, 3小さなミスがある

### 3. 評価問題作成と解法の一致

知識・理解内容，情報や資料の活用技能，思考・判断し，その結果としての表現をどのように見取るのか。本章では，評価問題の解法手順から問題作成の筋道について言及しようとした。実際，対象とした教材の解法手順として示されたそれぞれの内容は，例えば，図表における解法手順，①タイトルを読み，グラフのおおまかな主題を確認する，②グラフに表されている情報の縦軸と横軸のラベルを調べ，グラフが表している情報の種類を読み取る。総計の間隔とデータの間隔を書きとめる，③出典を見てグラフの情報の信頼性を評価する，④グラフが年代ごとに情報を表している場合，その動向を探る，⑤結論を書き，グラフの情報に基づいた推論をする，⑥問いを注意深く読んだ後，グラフを再び見るなどは，すでに日本の初等段階における授業の中で，従来から指導されてきている技能が含まれていた。他方，読解に関する解法手順は，学習指導の中では触れずにやり過ぎてしまう細かな助言が含まれていた。例えば，一次資料と二次資料の厳密な区別を行い，文書資料に対する読解の技能がある。それは，①文章の内容のあらましをつかむために**タイトル**を読む，②資料をより理解するために**原典**を見る，③読むにつれて難しい言葉や**不慣れた単語の意味を推測**するために文脈を手がかりにする，④文章についての**質問を考えたりそれに答えたりすることによって意欲的に読む**，⑤文章を再度読む前に，見つけなければならない情報を確認するため，**質問をざっと読む**などである。①・②・⑤は受験テクニックとして，試験の直前に教師から伝えられるかもしれない。③・④は，日頃から文章を考えながら読む習慣が必要とされることを示している。それは，(10)文書問題にある，①その問題の意図をつかむために「**歴史的背景**」の部分を読みなさい，②課題の部分を読み，**出来事を書き留めなさい**。これは問いが何を求めているのかを正確に理解するのに役立つ，③それぞれの文書資料を分析しなさい，**資料と問いのつながり**を考えなさい，にも表れる。

最後に，文書記述の評価基準（ループリック）を示しているが，単純な選択・記述式の解答だけでなく，長い文章，エッセイやレポートを見取るための評価基準があらかじめ準備されることが重要であろう。また，基準を示すことによって，モデルとなる典型的な作品を具体的に示すことができ，学習者が自らの内容や作品の改善を図ることが可能となる。

（峯 明秀）

## 第4章 米英における歴史的思考の評価の論理と方法

### 1. スタンフォード歴史教育グループ (SHEG) の歴史的思考の評価

#### (1) Beyond the Bubbleの特質

米国における歴史的思考の評価について考察する上で注目すべきウェブサイトの一つに、“Beyond the Bubble” (beyondthebubble.stanford.edu) がある。スタンフォード大学のサム・ワインバーグ教授の指導するスタンフォード歴史教育グループ (SHEG) が開発した歴史的思考の評価HATs (History Assessments of Thinking) のためのウェブサイトである。ここでは事實的知識の記憶再生型のテストをバブルと見なし、それを越えた歴史的思考を問う評価問題の開発を目指している。具体的には以下の二つの特色を持つ。第一に、これは彼らの開発する「歴史家のように読解する」 (Reading like a historian) カリキュラムと一体化していることである。簡単に図示してみよう。

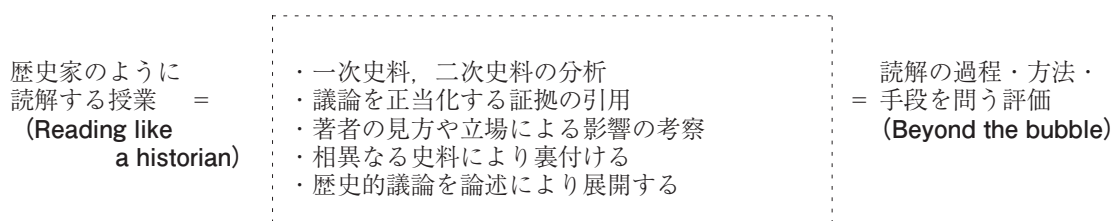


図1 Reading like a historianとBeyond the bubbleの関係

第二に、各州共通基礎スタンダード (Common Core State Standards) に対応することである。CCSSは数学と英語の二つのスタンダードからなるが、英語スタンダードの中に「リテラシーのスタンダード」が含まれており、第6-12学年のリーディング (読解力) に関するリテラシーとして、①歴史/社会科、②科学、技術科目の二つが位置付けられていることから、これへの対応を想定した評価を研究・開発しているわけである。なお、CCSSは2010年に成立し、現在全米で45州が採択して対応している。

(<http://www.corestandards.org/>を参照)

次に、Beyond the Bubbleの基本的な評価観は以下の通りである。

- ・良い評価は、内容に関する知識理解と歴史的思考のバランスがとれている。
- ・良い評価は、生徒に対し内容に関する知識の再生産ではなく、活用を求める。
- ・良い評価は、生徒に対し内容に関する思考・判断・より深い理解を求める。

また、具体的な評価開発のステップとして、次の7段階を挙げている。

- ①歴史的思考を定義することにより、「評価対象の範囲」を確定する。
- ②議会図書館のデジタルアーカイブから史料を選択し、歴史的知識を測る評価を構築する。
- ③評価の原型を定式化する。
- ④生徒の実験グループを集め、評価問題試案に回答させる。
- ⑤評価問題試案をやり終えた生徒に口頭でインタビュー。それは問題に解答する過程で生徒が用いた認知過程を跡付け、評価が歴史的思考と切り結ぶことを保証する。
- ⑥より大規模なサンプルで評価を実施する。
- ⑦そうした複数のテストサイクルに基づき評価問題の最終的改訂を行い、インタラクティブな採点のためのルーブリックを構築する。

## (2) 事例：歴史的出来事としての公民権運動 (Civil Rights Movement in Context)

### ア 目標

- 歴史的文脈：公民権運動の時代
- 歴史的スキル：背景的知識，歴史的な文脈への位置付け，時代区分
- 各州共通基礎スタンダード (CCSS) への対応
  1. 一次史料・二次史料の分析のために原文を証拠として引用するとともに，一定の部分の読解から得られた洞察を原文 (テキスト) 全体と結びつける。
  4. 著者がテキスト全体を通じてどのように鍵となる用語を使用し，その意味を洗練させているかを分析することを含め，テキストで使用される語や句の意味を定義する。
  5. 鍵となる文章や節がどのように全体に寄与するのかを含め，複雑な一次史料の細部にわたる構成を分析する。
  9. 多様な一次・二次史料からの情報を，史料間の矛盾に着目しながら，歴史の一貫した理解のために統合する。

### イ 問題

次の二つの手紙はいずれも全米黒人地位向上協会 (NAACP) のアーカイブの所蔵であるが，両者の書かれた時期には20年以上の隔りがある。二つの手紙を読み，どちらが最初に書かれたものか判断せよ。そして，その理由を手紙の文章と自身の歴史知識を用いて説明せよ。

- ◆手紙A：合衆国大統領夫人から全米黒人地位向上協会 (NAACP) の事務局長ウォルター・ホワイト宛てたもので，黒人に対するリンチの状況を述べている。

今日あなたの手紙を受け取る前に，私は大統領と中にいました……。彼は，難しいのは，連邦政府がリンチ状況で介入することは明らかに違憲であるということを書きました……。大統領は，リンチは州の教育の問題であり，よい市民を結集して，地域自身でそれを一掃するよう世論を形成すべき問題だと感じています。しかしながら，もしそれが北部人によって行われれば対抗的結果を招くでしょう……。私はそれを傍観し，なすに任せることによる恐ろしさを感じて深く悩みます……。あなたの次のステップは，上院のより多くの著名な議員に呼びかけることだと私は思います。

- ◆手紙B：公民権運動家デージー・ベイツから全米黒人地位向上協会 (NAACP) の事務局長ロイ・ウィルキンス宛てたもので，以前は白人のみであった学校の黒人児童の状況を記述している。

条件は，子どもにとって学校ではまだかなり荒っぽいものです……。子どもの扱いは蹴られたり唾をかけられたり，その他のいじめによって過去2週間に一層悪化しています。

私たちの訪問の結果，これらの攻撃に関与した白人生徒に対して強い措置がとられつつあります……。[合衆国大統領]はこの危機に非常に心を痛めていました……。彼は，生徒のリーダーに招待されるならば学校にやってくる，生徒達を前に意見を述べるという意欲を示しました……。先週の金曜日の13日に，私はワシントンに電話して，FBIの人員を学校に配置しうるかどうかが確かめるよう依頼されました。

## ウ 回答様式

手紙 \_\_\_\_\_ が最初に書かれたものと思われる。その理由は、

---

---

手紙 \_\_\_\_\_ は後に書かれたものと思われる。その理由は、

---

---

## エ 問題の解説

この評価は、2つの史料を文脈に当てはめ、年代順にそれらを配列する能力を測定する。史料Aは、エレノア・ローズベルトからNAACPの事務局長ウォルター・ホワイトに宛てた1936年の手紙である。史料Bは、アーカンソー州のNAACP代表デージー・ベイツから、事務局長ロイ・ウィルキンスに宛てた1957年の手紙である。

評価は、公民権運動に関する生徒の知識を問うているが、単なる事実と日付の記憶再生以上のものを引き出そうとする。生徒は、公民権運動がどのように展開したかについて広く理解しており、2つの文書を歴史的な文脈に位置付けるために積極的に歴史の情報を活用しうることが示さなければならない。

この問題で、正確に歴史的な文脈を理解する生徒は、文書B—それは最近人種差別待遇が廃止された学校での生徒の扱いについて議論する—の前に、文書A—それはリンチの問題に取り組む連邦政府の消極的姿勢に注目する—が恐らく書かれたことを理解するだろう。

## オ 評価の視点—インタラクティブ・ループリッカー—

### ○完全に熟達したレベル

- ・アフリカ系アメリカ人に向けられた暴力の性格の変化、ないしは政府の介入に対する連邦政府の態度の変化を認識している。
- ・手紙からの証拠に基づいて答えを正当化している。
- ・ブラウン対教育委員会裁判の日付や影響のような特定の歴史情報を組み込んでいる。

### ○やや抜きん出たレベル

- ・年代順に手紙を配列するものの、証拠の提示は最小限であり、説明も不完全に留まる。

### ○基礎レベル

- ・手紙の順序付けを誤っていたり、適切な説明ができていない。



## 2. ウィスコンシン歴史学会による歴史のリテラシーの指導と評価

ウィスコンシン歴史学会は、ウィスコンシン大学ホワイトウォーター校のニッキ・マンデル准教授と、同歴史学会学校教育部長の職にあったボビー・マローンが中心となって、初等から大学に至るまでの歴史教育を再考するプロジェクトを推進し、『歴史家のように思考する』と題するフレームワークを刊行した(Nikki Mandell & Bobbie Malone, Thinking Like a Historian: Rethinking History Instruction, Wisconsin Historical Society Press, 2007)。

これはウィスコンシン歴史学会の学校教育部門のウェブサイトにも掲載されているが(<http://www.wisconsinhistory.org/ThinkingLikeaHistorian/>)、そこに見られる歴史のリテラシーの指導と評価の論理を探ってみたい。

### (1) 歴史のリテラシーの概念と要素

ウィスコンシン歴史学会の考える歴史のリテラシー(=歴史家的な思考Thinking Like A Historian)は、歴史的過程(historical process)と歴史の探究のカテゴリー(historical categories of inquiry)からなる。前者は、歴史家が過去を研究するために用いる学問的なスキルや手続きを指し、後者は歴史家が過去を理解するために用いる概念的パターンを指すという。それぞれを整理すれば、以下のようになろう。

○歴史的過程 How do we know?		
・ 問い(過去について問いかける)	Questions	} 問い・証拠・解釈それぞれに、指導と評価のための4段階のルーブリック作成
・ 証拠(史料を集め証拠性を評価する)	Evidence	
・ 解釈(証拠を基に問いへの結論を導く)	Interpretation	
○歴史の探究のカテゴリー		
・ 因果関係	Cause and Effect	} 各カテゴリーごとに、指導と評価のための4段階のルーブリック作成
・ 変化と継続性	Change and Continuity	
・ 転換点	Turning Points	
・ 過去の活用	Using the Past	
・ 過去の人々の見方	Through Their Eyes	

歴史のリテラシーのこの二つの要素は、ウィスコンシン州の歴史スタンダードにも反映されているが、生徒の活用する歴史教科書等に明確に規定されるわけではない。そこで、いずれについても指導と評価のための4段階のルーブリック(日本の「評価基準」に該当)を作成して、各学校限場の教員が活用しやすい形で提供している。

### (2) 歴史のリテラシーの指導の論理

歴史のリテラシーの指導のためのカリキュラムは、以下の手順と方法で開発する。

1 コース・プラン: 歴史を大観するテーマ選択	Historical Themes (Big Picture)
↓	
2 ユニット・プラン: トピックと問いの設定	Unit Topic & Driving Questions
↓	
3 レッスン・プラン: 事象を捉える主要な歴史理解	Key Understandings (Little Picture)

まず、1のコース・プランとは、日本でいえば年間指導計画に該当しよう。ここでは、歴史を大きくとらえるテーマ（＝歴史の見方考え方ないし概念）を設定することが求められる。ちなみに、『歴史家のように思考する』フレームワークでは、「参加民主主義の成長」、「女性の役割」、「土地利用と環境への影響」、「米国史上の宗教」といったテーマが例示されている。

次に、2のユニット・プラン、すなわち単元指導計画の作成においては、単元の学習を代表・象徴するトピックの設定と、トピックを探究するための主要な問いの開発が求められる。例えば、「ジェンダーへの社会的態度は人々の行為や選択に影響する」との歴史的テーマを設定し、トピックに「革新主義の時代」を当てたとすれば、a) 女性や女性組織は革新主義時代の社会改革にどんな影響を与えたか、b) なぜ白人女性は1920年代に選挙権を獲得したのか、といった問いを設定して探究することが考えられる。

その上で、3のレッスン・プラン（授業計画）の作成においては、個々の歴史事象の理解を通して、生徒に小さな歴史像（Little Picture）を描かせることが重要であり、そのために、①主要な理解目標を設定し、②関連する授業内容（事実、観念＝歴史の見方、概念、技能、歴史のカテゴリー）を確定した上で、③先の歴史的過程（問い→証拠→解釈）を基本とする授業過程を組織することが求められる。

以上から、ウィスコンシン歴史学会による歴史的リテラシー指導の特色として、次のことが指摘できよう。つまり、歴史的思考の育成は指導技術やテスト問題の工夫だけに限定されない。むしろ、発想の転換（歴史教育とは何か、学習とは何か）が求められるということである。これは歴史的思考のみならず、地理的分野や公民的分野に関わる思考・判断の指導にもあてはまろう。

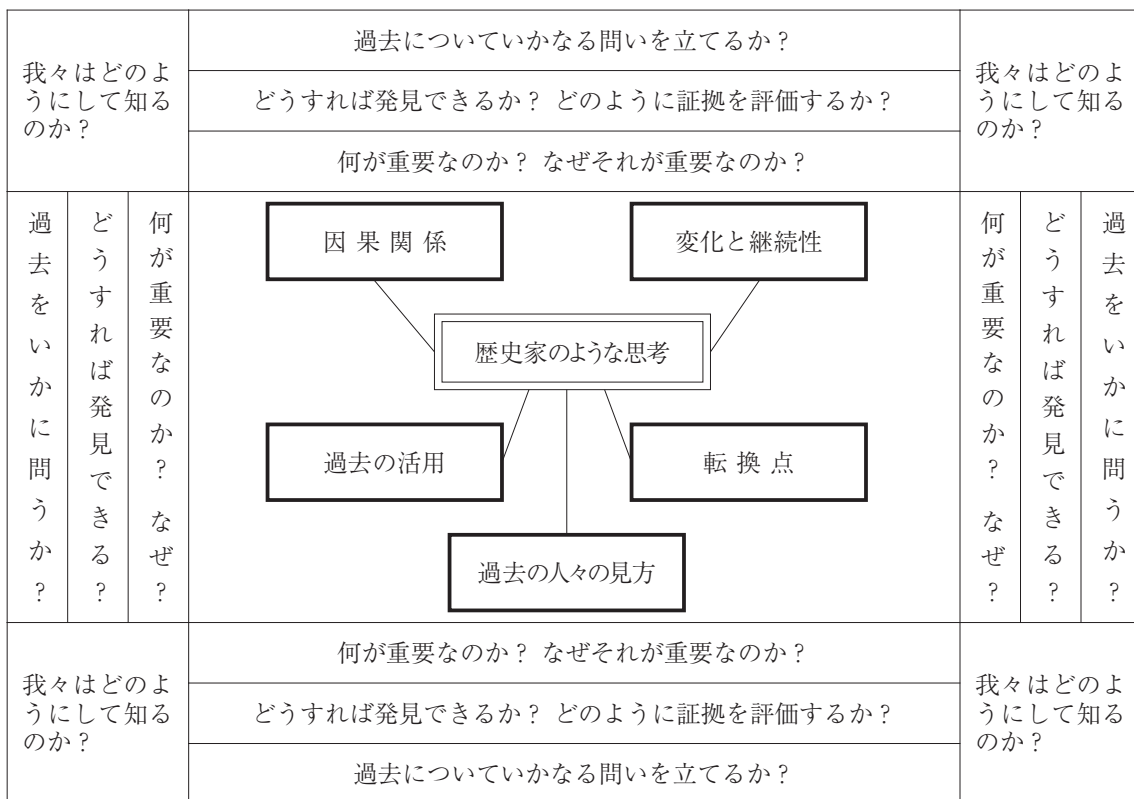


図2 歴史家のように思考するフレームワークの概要

### (3) 歴史的リテラシーの指導・評価事例

トピック「政府の政策と先住民の転住」（8学年）の場合－

ここではミドル・スクールの歴史的リテラシーの指導と評価の事例（一部）を紹介する。

#### ○歴史的テーマ（一部分）

- ・移動（移住）は文化の拡散を招く。
- ・合衆国の領土拡大は異なる集団に異なる方法で影響した。

#### ○探究のための問い

- ・なぜアメリカ先住民は彼らの故地から移動することを強いられたのか。  
（必要な歴史的探究のカテゴリー：因果関係、過去の人々の見方）
- ・強制転住の結果はどうか。  
（必要な歴史的探究のカテゴリー：因果関係、過去の人々の見方、転換点）

#### ○主要な理解目標

- ・政府に先住民転住政策を動機付けた政治的・経済的・社会的要因を理解する。
- ・先住民は転住がコミュニティの破壊、土地や資源の喪失を意味し、合衆国の理想を侵害するといった理由で転住政策に抵抗したことを理解する。

#### ○総括的評価（過去の人々の見方Through Their Eyesに関する評価）

授業終了後に、教師は次の短い指示文を提示。

「1830年代の米国の新聞編集者であると仮定しなさい。そして1830年の先住民転住法に関する自己の考えを示す1頁大の論説を書きなさい。」

#### ○2人の生徒の回答（論述）と教師のコメント例（抜粋）

##### ◆ダニエルの論述

「先住民は最初にここにいた。ただ単純に。彼らは平均的アメリカ人と同じように一生懸命働いた。彼らは1000年以上にわたりこの土地の自然と共に暮らしてきたが、ある日我々がやってきて彼らを追い払おうとしている。それは公正ではない。」

「1830年の先住民転住法は先住民を遠く離れた保留地に追いやることで、新たな文化を強制している。」

「我々は先住民が信ずるものに敬意を払いながら彼らと共に働くべきである。」

「先住民の方が最初にここにいたというのに、なぜ我々の社会に含めないのか。」

#### <教師の反省的コメント>

- ・移動の影響：先住民を故地から引き離せば文化の拡散が生じること、先住民はこの土地の自然に慣れ親しんできたのだから・・・、遠く離れた保留地に押し込められれば先住民の生活は永久に変わってしまうことを理解している。
- ・社会的動機：合衆国の政策立案者は、先住民は劣っているから、「新しい文化を強制する」ことによりヨーロッパ系アメリカ人のようになれば「暮らし向きも良くなる」だろうという社会的・文化的信念に動機付けられていたことを理解している。
- ・経済的動機：ヨーロッパ系アメリカ人は、先住民の土地の経済的資源を欲して、彼らを遠く離れた保留地に移動させようとするとの見方や、一緒に暮らして

土地を分け合う方が良いとの見方がある。

- ・ 問 題：公平さや多文化共生という21世紀的な観念を理由に移動に反対する現在主義。同時代の目から見た理解を反映する言葉や用語を用いていない。
- ・ 問 題：ここには具体的歴史事象や証拠がない。また、単一集団として先住民に言及している。

#### ◆アレクサンドラの論述

「我々は宗教の違いという理由によっても彼らを転住に追いやっている。アンドルー・ジャクソンは、先住民に政府はなく、宗教や文字もないと述べているが、それは誤りであることが証明された。ジャクソンは、先住民の信仰や慣習が我々と異なるから、彼らには何もないと述べている。先住民はキリスト教徒ではないし、文明観が我々と異なるから野蛮人だという。そうした誤った非難をもたらす正当な理由付けはどこにもない。この法律は実に不公平であって、道理をわきまえた定住者にとっては屈辱的である。この法律は両方の文明をより良くすること考えるように我々に伝えることで、我々の知性を問うているのだ。まあ、そうはならず、ただ我々を助けるだけだろう。それは我々に土地を与え、彼らから土地を取り上げるだろう。私はこの下劣な法律は不適切であり、我々の問題を解決することにはならないと思う。それは全く臆病者のやり方である。」

#### <教師の反省的コメント>

- ・ 移動の影響：これは先住民にとっての悪法だというのは一般的感覚だが、細部の記述がない。紛争で・・・我々の問題は解決しないというヒントを示している。
- ・ 文化の普及：先住民はヨーロッパ系アメリカ人とは異なる強い文化・信仰・慣習を持つことやキリスト教徒でないことが野蛮人を意味するという正当な根拠がないことを認識している。結論の表現は、一旦法律が制定されれば両民族の生活は永久に変わってしまうだろうことを示唆している。
- ・ 社会的動機：宗教の違いや教育レベルについては良く理解しているが、キリスト教と文字の違いについては誤っている。
- ・ 経済的動機：土地には価値があり、合衆国は経済的理由で土地を欲するから、我々に土地を与えるが先住民から取り上げることになり、我々だけの役に立つだろうと推測している。
- ・ 史料の活用：先住民は宗教、文字、政府を持たないと主張するジャクソンのような人々とその議論を確かめようと努力している。
- ・ 過去の人々の見方：「彼らは野蛮人だ」、「正当な理由付けはない」、「道理をわきまえた定住者」、「下劣な法律」といった2006年現在ではなく1830年代の語を使用しようと努めている。また、政策に反対するために我々の知性を問うなど、「真実（誠実）truthfulness」の観念を活用している。
- ・ 問 題：現在主義。政策に反対するために、公平、多文化性の重視といった21世紀的な観念を使用している。

### 3. 英国GCSEに見る歴史的思考の評価問題と採点基準

#### (1) GCSE「歴史」について

英国では、イングランド、ウェールズ、北アイルランドの3国においてGCSE (General Certificate of Secondary Education, 中等教育<義務教育>修了資格試験)が行われている。通常、キーステージ4の最終学年(11学年)の段階で、英語・数学・科学(生物・化学・物理)・人文(地理と歴史から1つを選択)・技芸(音楽・芸術・テクノロジーから1つを選択)・外国語・宗教の7科目+aで9~11科目を受験し、A~Gの7段階で評価される。なおA Levelテスト(正式にはGCE-Aレベル:General Certificate of Education, Advanced Level)とは大学入学のための試験であり、中等教育修了後の2年程の期間を過ごすシックスス・フォーム(6th Form)の2年目に多様な科目の中から3~5科目を選択して受験する。評価はA~Eの5段階でなされる。(佐貫浩『イギリスの教育改革と日本』高文研, 2007を参照)

現在、GCSEを担当する試験局には、AQA (Assessment and Qualifications Alliance), OCR (Oxford, Cambridge and RSA Examinations), Edexcel (教育系出版社), WJEC (Welsh Joint Education Committee), CCEA (Council for the Curriculum, Examinations & Assessment)の5つがある。受験はいずれかの試験局の提供する試験を受験することになる。

また、歴史のテスト問題には、①世界現代史(主に20世紀史)の問題、②英国社会経済の問題、③SHP(学校歴史プロジェクト)の問題(薬と公衆衛生, アメリカの西部開拓, 19世紀前半の大英帝国, エリザベス朝時代の英国, 20世紀前半のドイツなど、深く掘り下げたテーマ史)の3種類がある。

#### (2) 評価問題と採点基準

ここではEdexcelの2012年6月の試験問題の中から、歴史A(現代世界の形成)に着目し、特に単元1「戦争と平和:国際関係1900-1991」の3節「なぜ戦争が勃発したのか? 1929-39年の国際関係」に該当する問題とその採点基準を分析することにしよう。

問3 (a) 下の写真(省略)は1931年の満州における日本兵士を示したものである。

1931年に日本が満州に侵攻した理由を一つ記せ。(2点満点)

<採点基準>

0点 要領を得ない記述

1点 単純な言明

(例) 日本はもっと領土が欲しかった。奉天で事変が起こった。

2点 入念な言明:単純な言明に、それを支持する材料や説明を加えたもの。

(例) 日本は原料供給地や新たな市場となる領土を満州に求めた。

問3 (b) 次の(i)ないし(ii)のいずれかの問いに答えよ。

(i) イタリアのエチオピア侵入(1935-36)に対する国際連盟の関与の特徴を簡潔に記せ。(6点満点)

<採点基準>

0点 要領を得ない記述

1~3点 単純な言明

(例) イタリアに制裁が課せられた。

連盟はハイレ・セラシェが軍を集結させるのを容認した。

4～6点 入念な言明

(例) 連盟はイタリアにゴム・鉄などの輸出を禁ずる経済制裁を課した。

連盟は石油を禁輸にしなかったのでイタリアは戦争を継続できた。

(ii) ヴェルサイユ条約に関するヒトラーの政策(目的)の特徴を簡潔に記せ。

(6点満点)

<採点基準>

0点 要領を得ない記述

1～3点 単純な言明

(例) 彼は再軍備を求めた。

彼は全てドイツ人からなるドイツ国家を求めた。

4～6点 入念な言明

(例) ヒトラーは再軍備を求めたが、それは連盟とのヴェルサイユ条約の崩壊を意味した。彼はヴェルサイユ条約で禁止ないし制限された強大な陸軍と空・海軍の創設のほか、ラインラント返還を求めた。

問3(c) イギリスの宥和政策が1937年から39年のチェコスロバキア解体に至るドイツの拡大を防ぎ得なかった理由を説明せよ。(12点満点)

0点 要領を得ない記述

1～3点 因果関係に関する証拠や文脈的知識を欠いた単純で一般論的な言明

(例) ヒトラーは要求を限定していた。ヒトラーは協定を破棄した。

\* 1つの要因の説明1点, 2つの要因の説明2点, 3つ以上の要因の説明3点

4～9点 宥和政策を失敗させた原因について適切な文脈的知識を用いて説明

(例) チェンバレンはヒトラーの要求が限定的だと考えたため宥和政策は失敗した。ヴェルサイユ条約の過酷な部分を正常化すればヒトラーは要求を断念すると考えられていた。それゆえ、彼が再軍備を続けても何も行われず、また彼がオーストリアに進軍した時には、そこではドイツ語が話されており、先方から介入を求められたのだからという理由で合理的に見えた。

\* 1つの発展的議論4～5点, 2つの発展的議論6～7点, 3つ以上の発展的議論8～9点

10～12点 複数の要因を相互に関連付けたり重要度に差を付けたりしている説明

(例) 何よりもヒトラーの要求に道理があると考え過ぎたことに最大の原因があることは明らかである。彼は再軍備やオーストリアの併合を許され、ズデーテン地方、更にはチェコスロバキアを与えられた。しかし、戦争への恐怖、大量の死と混沌への恐怖の故に宥和政策は失敗した。

\* 諸要因を関連付けるか順位付ける10～11点, 関連付け順位付ける11～12点

### (3) 受験生の回答例

前記の試験問題について、実際の受験生はどのように回答し、試験官はどうか対応したの  
だろう。Edexcelの試験官報告(Examiners' Report June 2012 GCSE History 5 HA01 01,  
"Results Plus")から、一部の事例を挙げてみよう。

#### <問3 (a) >

この問題はとりわけよくできていた。ほとんどの受験生が日本の経済的苦しさ、帝国の  
デザイン、柳条湖事件、人口圧力などに言及できていた。

「日本は1929年の大恐慌以降、苦境に立たされていた。生糸と米以外に輸出物資はな  
く、日本経済の苦しさは一層深刻になった。当時、満州は石炭と鉄鉱石に恵まれてい  
たが、それはまさしく日本の必要とするものであった。」

☆試験官のコメント

明らかに発展的な解答であり、レベル2(2点)に該当する。

#### <問3 (b・i) >

この問題には非常によく答えていた。中には、ホーア・ラヴァル協定を連盟の弱点と捉  
えるものもあったが、その他の点では、連盟非加盟国との貿易やスエズ運河を閉鎖しない  
こと、さらにはムッソリーニをヒトラー側に追いやることへの恐怖が経済制裁の妨げとな  
ったというような強い記述が見られた。

「・・・国際連盟はイタリアへの経済制裁を課した。ところが、多くの国はこれに積  
極的に加わる気はなく、また最重要資源である石油は制裁から除外されていた。・・・」

☆試験官のコメント

ここには制裁に関する明確で鋭い視点が示されている。この引用文の後には、スエ  
ズ運河をめぐる争点についても論述されている。

#### <問3 (b・ii) >

これは概して良く答えられた問題で、多くの者が選択した。得点の高い受験生は、ヒト  
ラーの目的に関する主要なテーマを認識しており、それを根拠付ける証拠として条約の規  
定を破棄する事例を用いることができた。得点の最も低い受験生は、条約を破棄するた  
めにヒトラーが何を行ったかに関する簡潔で単純な説明をするに留まった。

「1919年のヴェルサイユ条約調印後の期間に、ヒトラーは条約を気にすることなくド  
イツの再建に乗り出そうとした。1934年の軍縮条約の後、ヒトラーは他国もドイツと  
同一レベルに軍縮することを求めた。他の国々がこれを拒絶すると、ヒトラーは連盟  
を脱退した。そして、ドイツは再軍備への道を進み、徴兵制の導入によりヴェルサイ  
ユ条約で10万人以下と制限されていた陸軍は55万人にまで増強された。」

☆試験官のコメント

再軍備に着目した解答の一部である。最初の一文を省いて論述することもできよう。

### <問3 (c) >

明確な証拠を欠く自らの主張からなるような混乱した解答が多く見られた。低レベル、ないし中レベルの解答は、チェンバレンが新たな戦争を望まなかったことや、ヴェルサイユ条約がドイツに余りに過酷であると見なされていたことなどの宥和政策の理由を認識し議論することはできていたが、他方で宥和政策が失敗した理由を説明するために、1937年から1939年3月までのドイツの拡張の事例を挙げなかった。チェンバレンが首相となり、宥和政策を公式に開始したのが1937年であることに言及する受験生はほとんどいなかった。多くの受験生は、ヒトラーがついに徴兵制を導入し、ラインラントに進駐したことを失敗の証拠として議論した。最も優れた解答は、ドイツのオーストリア併合とミュンヘン会談及びその後のチェコスロバキア解体とを結び付け、宥和政策がいかにこれらの行動を防ぎ得なかったかの説明に織り込んでいた。

「英国の政策がドイツの拡張を防止し得なかった最大の理由は、ミュンヘン会談にあった。ズデーテン地方の割譲要求が認められてから、ドイツ人は英仏がドイツの計画を邪魔することはないと確信し、さらにドイツ人を増長させることになった。会談において、ドイツ人は英仏の弱点を見出したので、英国に対して更なる要求をし続けることができた。」

☆試験官のコメント

ミュンヘン会談のアイデアをヒトラーの成功とその後の継続的な要求に発展させる一つの手がかりが示されている。

以上の紹介の中で、受験生の解答については筆記体で抜粋されていることから、判読しづらい文字が散見され、一部読解に誤りがあるかも知れないことを断っておきたい。

#### 4. 米英における歴史的思考の評価問題の示唆するもの

ここで紹介した米英の評価の方法は、日本の歴史的思考・判断・表現の育成と評価に何を示唆するのだろうか。最後に三つの私見を述べて、本章のまとめとしたい。

第一に、米英では日本のような通教科的な思考（一般的な思考）論ではなく、具体的な内容に即した歴史学的思考（歴史学的方法）を論じていることである。日本では歴史学の成果と言えばほとんどが内容的知見を指すが、米英では内容以上に方法を重視している。

第二に、指導と評価の一体化である。日本の中等教育でも、高校・大学入試を想定した指導と評価という意味では一体化しているが、教師の多くはそれを制度上やむを得ないことと捉えている。これに対し、米英では国内に議論はあるものの、歴史教育で育てるべき思考力を定義し、その育成に最適な内容（教材）を選択して指導と評価を行っている。

第三に、歴史的思考の評価においては論述（エッセー）テストを重視し、その評価基準を明示するだけでなく、具体的な生徒の解答も示して評価の視点や論述上の留意点を公開している。本気で生徒の思考力を育てようとするならば、思考させてみるしかない。また、それが育成されたかどうか評価する方法の確立が必要になる。翻って日本はどうだろうか。建前の思考・判断・表現ではなく、今まさに本気度が試されていると言えるのではないか。

（原田 智仁）



調査研究シリーズ 61

---

## 社会科における「思考・判断・表現」の 評価に関する研究

---

平成26年 9月30日発行

編集／公益財団法人 日本教材文化研究財団

発行人／新免 利也（専務理事）

発行所／公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町14番地 1

電話 03-5225-0255 FAX 03-5225-0256

<http://www.jfecr.or.jp>

---

表紙デザイン (株)エスファクトリー 竹内則晶／印刷 (株)天理時報社